

平成２８年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２９年度調査）の
報告案について

○ 公費負担医療に係るものを含む明細書の無料発行の実施状況調査

・ 報告書（案）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ 頁
・ NDBデータ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ １ ８ 頁
・ 調査票	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１ １ ９ 頁
・ 結果概要		※検－５－１と同様のため添付省略

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）

公費負担医療に係るものを含む
明細書の無料発行の実施状況調査報告書（案）

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	3
1. 目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査方法	3
4. 調査項目	4
5. 調査検討委員会	6
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 病院調査・一般診療所調査・歯科診療所調査・保険薬局調査の結果	8
(1) 施設の基本情報	9
①病院の基本情報	9
②一般診療所の基本情報	14
③歯科診療所の基本情報	17
④保険薬局の基本情報	19
⑤レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況	22
⑥レセプト請求方法	23
(2) 自己負担額のある患者への明細書の発行状況	24
①医療機関における自己負担額のある患者への明細書の発行状況	24
②自己負担額のある患者への明細書発行施設における明細書の発行状況	27
③自己負担額のある患者への明細書発行施設における発行体制・体制整備等（医療機関）	34
④自己負担額のある患者への明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等（医療機関）	40
(3) 自己負担額のない患者への明細書の発行状況	43
①自己負担額のない患者への明細書の発行状況	43
②自己負担額のない患者への明細書発行施設における明細書の発行状況	47
③自己負担額のない患者への明細書発行施設における発行体制・体制整備等	55
④自己負担額のない患者への明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等	64
3. 訪問看護ステーション調査の結果	68
(1) 事業所の基本情報	68
(2) 明細書の発行状況	71
(3) 明細書発行事業所における明細書の発行状況・体制等	71
①明細書発行事業所における明細書の発行状況	71
②明細書発行事業所における発行体制・体制整備等	75
③明細書発行事業所における明細書に関する利用者の反応等	79

(4) 全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所の状況.....	81
①全利用者に明細書の無料発行を行っていない理由.....	81
②全利用者への明細書無料発行体制の整備予定.....	82
4. 患者調査.....	83
(0) 記入者の属性.....	84
(1) 患者・利用者の属性等.....	84
①入院・外来受診した病院の規模（病院（入院）患者、病院（外来）患者）.....	84
②自己負担額の有無.....	85
③患者・利用者の性別.....	86
④患者・利用者の年齢.....	87
⑤受療期間等.....	89
(2) 調査日における明細書の受取状況等.....	90
①調査日における会計の方法.....	90
②会計時に明細書を受け取れることの認知状況.....	91
③明細書受け取りの希望状況.....	92
④明細書の受け取り状況.....	93
⑤明細書を受け取るための手数料の有無.....	96
⑥明細書の内容の確認状況.....	98
⑦明細書を受け取って良かったこと.....	99
(3) 明細書発行に関する今後の希望等.....	105
①明細書発行に関する今後の希望.....	105
②明細書発行を希望しない理由.....	106
③明細書が無料発行される制度の必要性.....	114
④自己負担額がない患者に対して明細書が無料発行される制度の必要性.....	115

I. 調査の概要

1. 目的

平成 28 年 4 月よりレセプトの電子請求を行っている保険医療機関及び保険薬局については、公費負担医療に係る給付により自己負担がない患者（全額公費負担の患者を除く。）から求めがあった場合は明細書の発行が義務づけられたことを踏まえ、保険医療機関、保険薬局及び訪問看護ステーションにおける明細書の発行状況、発行事務の現状、患者への影響等を調査するとともに、明細書発行に対する患者の意識について把握することを目的としている。

<主なねらい>

- ・ 明細書の発行実態（発行枚数、費用徴収の有無及びその金額、公費負担医療に係る給付により自己負担のない患者への発行実績等）の把握
- ・ 明細書発行の事務・費用負担の実態（患者からの照会件数、照会への対応体制確保の状況、設備整備に要する費用等）の把握
- ・ 患者の明細書の受領状況及び明細書発行に関する意識（患者における必要性等）の把握
- ・ 患者の明細書の活用状況及び明細書の内容に関する理解度の把握 / 等

2. 調査対象

本調査では、「施設調査」、「患者調査」の 2 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

①施設調査

- ・ 無作為に抽出した全国の病院 1,000 施設（400 床以上 500 施設、400 床未満 500 施設）、一般診療所 1,000 施設、歯科診療所 1,000 施設、保険薬局 500 施設、訪問看護ステーション 500 事業所の計 4,000 施設を調査対象とする。

②患者調査

- ・ 上記①の施設調査の対象施設において、調査期間中に入院、受診、院外処方せんを持って来局した患者又は訪問看護（医療保険）を 1 か月以上利用し、かつ調査期間中も利用のあった利用者を調査対象とする。1 施設・事業所につき自己負担額の有無別に 1 名ずつ計 2 名、病院については入院・外来それぞれについて自己負担額の有無別に 1 名ずつ計 4 名、合わせて最大 10,000 名を調査対象とする。

3. 調査方法

- ・ 「①施設調査」については、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 「②患者調査」については、施設調査の対象施設・事業所を通じて調査票を配布し、各

患者から、事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。

- ・ 調査実施時期は、平成 29 年 7 月 17 日～平成 29 年 9 月 22 日である。

4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

区分	主な調査項目
(1)施設調査（病院調査、一般診療所調査、歯科診療所調査、保険薬局調査）	○施設の概要 ・ 施設名、所在地、開設主体、施設種別、標榜診療科、DPC 対応の状況、許可病床数、1 日平均在院患者数、入院患者数・外来患者数、処方せんの受付回数、職員数等 ・ 医事会計システムの導入状況、レセプト請求方法 ○自己負担額のある患者に対する明細書の発行状況等 ・ 明細書発行の状況 ・ 明細書の無料発行を行っていない理由、今後の体制整備の予定、明細書の無料発行において困ること ・ 明細書発行体制等加算の届出状況、届出時期・算定回数 ・ 明細書発行における費用徴収の有無、徴収額・算出根拠 ・ 明細書発行件数 ・ 明細書の発行をしていない患者像、発行していない患者の割合 ・ 明細書発行のタイミング（頻度） ○自己負担額のある患者に対する明細書発行体制・体制整備等 ・ 明細書の作成・発行についての体制 ・ 患者からの問合せについての体制 ・ 明細書発行の開始年月日 ・ 明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと、初期費用額 ・ 明細書発行のための運用経費、体制整備における負担感等 ○自己負担額のある患者に対する明細書発行に関する患者の反応 ・ 患者からの問合せ状況、問合せ項目等 ○自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況等 ・ 明細書発行の状況 ・ 明細書の無料発行を行っていない理由、今後の体制整備の予定、明細書の無料発行において困ること ・ 明細書発行における費用徴収の有無、徴収額・算出根拠 ・ 明細書発行の周知方法 ・ 自己負担額のない患者数、このうち明細書発行患者数 ○自己負担額のない患者に対する明細書の発行体制・体制整備等

	・ 明細書の作成・発行についての体制 ・ 患者からの問合せについての体制 ・ 明細書発行の開始年月日 ・ 明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと、初期費用額 ・ 明細書発行のための運用経費、体制整備における負担感等 ○自己負担額のない患者に対しての明細書発行に関する患者の反応 ・ 患者からの問合せ状況、問合せ項目 ○明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等 ・ 明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等
(1)施設調査（訪問看護ステーション調査）	○事業所の概要 ・ 事業所名、所在地、開設者、併設状況、利用者数、全職員数 ・ 医事会計システムの導入状況、レセプト請求方法 ○明細書の発行状況等 ・ 明細書発行の状況 ・ 明細書の費用徴収の有無、徴収額・算出根拠 ・ 明細書を発行した利用者数 ・ 明細書発行のタイミング（頻度） ・ 自己負担額のない利用者に対して明細書の発行の有無、発行していない理由 ・ 自己負担額のない利用者数、このうち明細書発行利用者数 ・ 自己負担額のない利用者への明細書発行についての意見等 ○明細書の発行体制等 ・ 明細書の作成・発行についての体制・方法 ・ 利用者からの問合せについての体制 ・ 明細書発行の開始年月日 ・ 明細書の作成及び利用者からの照会のために行ったこと、初期費用額 ・ 明細書発行のための運用経費、体制整備における負担感等 ○明細書発行に関する利用者の反応 ・ 利用者からの問合せ状況、問合せ項目 ○全利用者に明細書を無料発行していない理由 ・ 全利用者に明細書を無料発行していない理由、今後の体制整備の予定、無料発行する場合に困ること ○明細書の無料発行についての意見・要望 ・ 明細書の無料発行についての意見・要望

(2)患者調査	○患者の属性 ・ 記入者と患者との関係 ・ 性別、年齢、自己負担額の有無、受療期間・受診回数等 ○調査日における明細書の受取状況等 ・ 会計方法、明細書の受取状況、明細書発行のための手数料の支払い状況、明細書の内容の確認状況、受け取って良かったこと等 ○明細書発行に関する今後の希望等 ・ 明細書の発行に関する希望、明細書発行を希望しない理由 ・ 全患者に明細書が無料発行される制度の必要性 ・ 自己負担額のない患者に明細書が無料発行される制度の必要性 ○明細書発行についての意見 ・ 明細書発行についての意見
---------	--

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

- | | |
|---------|---|
| 小野沢 真一 | 小野沢歯科医院 院長 |
| ○ 関 ふ佐子 | 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授 |
| 高砂 裕子 | 一般社団法人 全国訪問看護事業協会 常務理事 |
| 永田 泰造 | 公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事 |
| 永易 卓 | 社会医療法人若弘会 若草第一病院 理事・事務局長 |
| 西口 妙子 | 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
医事コンピュータ部会電子レセプト委員長 |
| 羽鳥 裕 | 公益社団法人 日本医師会 常任理事 |
| 松原 由美 | 早稲田大学人間科学学術院 准教授 |

Ⅱ．調査の結果

1．回収結果

病院調査の有効回答数は 494 件（有効回答率 49.4%）、一般診療所調査の有効回答数は 390 件（有効回答率 39.0%）、歯科診療所調査の有効回答数は 379 件（有効回答率 37.9%）、保険薬局調査の有効回答数は 264 件（有効回答率 52.8%）、訪問看護ステーション調査の有効回答数は 298 件（有効回答率 59.6%）であった。

病院（入院）患者調査の有効回答数は 435 件、病院（外来）患者調査の有効回答数は 561 件、一般診療所患者調査の有効回答数は 486 件、歯科診療所患者調査の有効回答数は 452 件、保険薬局患者調査の有効回答数は 321 件、訪問看護ステーション利用者調査の有効回答数は 268 件であった。

図表 1 回収の状況

	調査種別	①発送数	②有効回答数	③有効回答率 (②／①)
【施設調査】	病院調査	1,000	494	49.4%
	一般診療所調査	1,000	390	39.0%
	歯科診療所調査	1,000	379	37.9%
	保険薬局調査	500	264	52.8%
	訪問看護ステーション調査	500	298	59.6%
【患者調査】	病院（入院）患者調査	—	435	—
	病院（外来）患者調査	—	561	—
	一般診療所患者調査	—	486	—
	歯科診療所患者調査	—	452	—
	保険薬局患者調査	—	321	—
	訪問看護ステーション利用者調査	—	268	—

2. 病院調査・一般診療所調査・歯科診療所調査・保険薬局調査の結果

【調査対象等】

○病院調査

調査対象：全国の病院の中から無作為に抽出した 1,000 施設（400 床以上 500 施設、
400 床未満 500 施設）

回 答 数：494 施設

回 答 者：管理者

○一般診療所調査

調査対象：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設

回 答 数：390 施設

回 答 者：管理者

○歯科診療所調査

調査対象：全国の歯科診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設

回 答 数：379 施設

回 答 者：管理者

○保険薬局調査

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為に抽出した 500 施設

回 答 数：264 施設

回 答 者：管理者

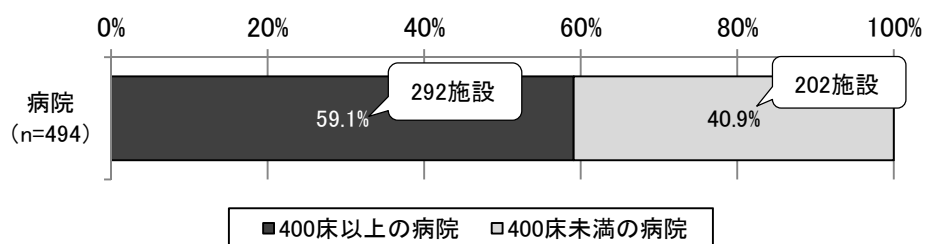
(1) 施設の基本情報

①病院の基本情報

病院調査では、調査対象に記載したとおり、400 床以上の病院 500 施設、400 床未満の病院 500 施設の 1,000 施設を対象施設とした。

本調査では、平成 29 年 6 月末時点の許可病床数を尋ねているが、その結果は以下のとおりである。本報告書では、病院調査については、平成 29 年 6 月末時点の許可病床数が 400 床以上の病院と 400 床未満の病院で分析を行った。

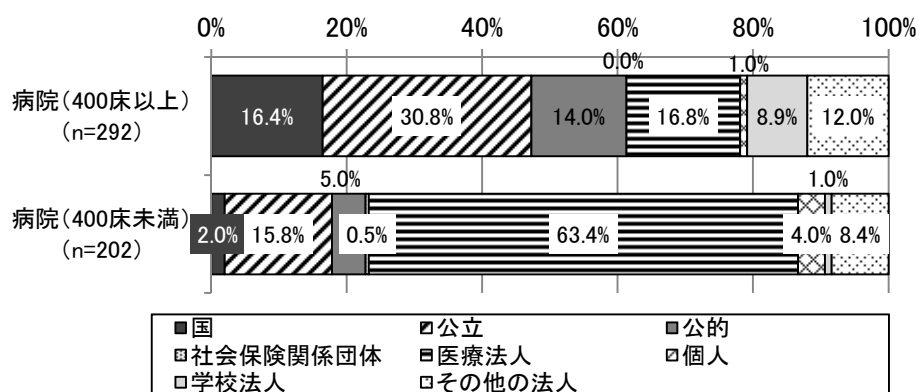
図表 2 許可病床数（400 床以上・400 床未満の別）



1) 開設者

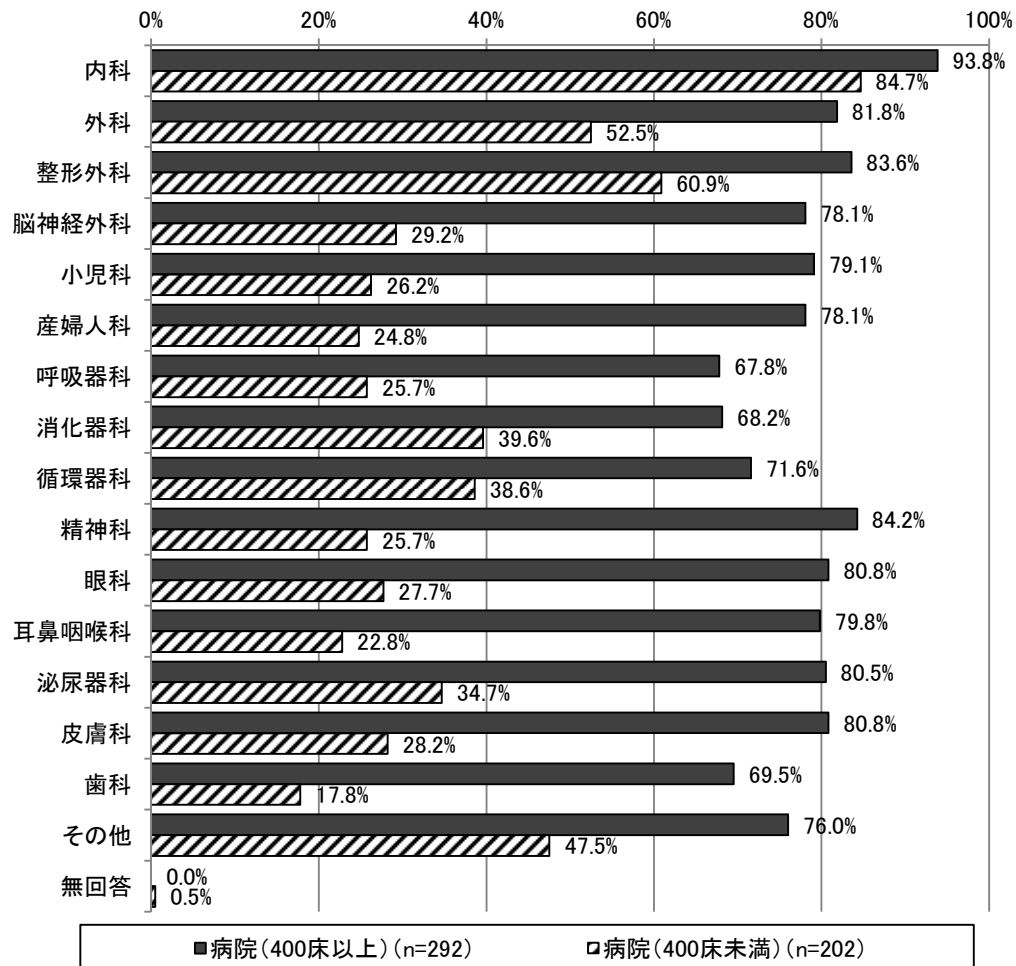
開設者の状況をみると、400 床以上の病院では「公立」、400 床未満の病院では「医療法人」が最も多かった。

図表 3 開設者



2) 標榜診療科

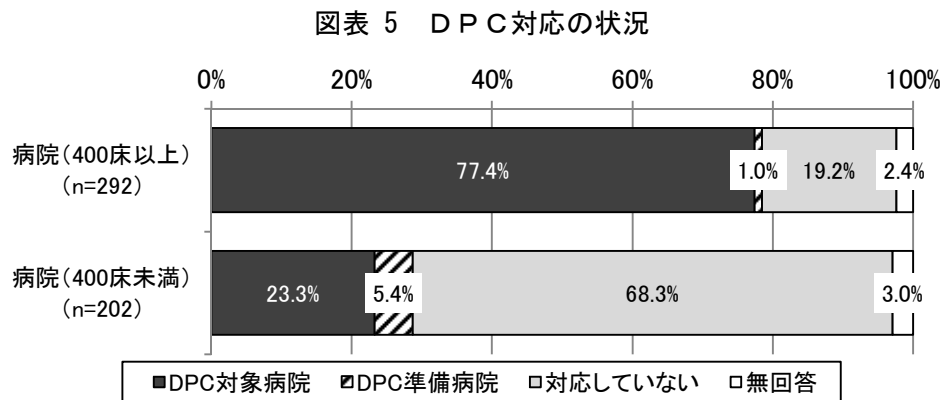
図表 4 標榜診療科（複数回答）



(注) 産婦人科には、婦人科・産科が含まれる。

3) D P C対応の状況

DPC 対応の状況をみると、「DPC 対象病院」は 400 床以上の病院では 77.4%、400 床未満の病院では 23.3%であった。



4) 許可病床数

許可病床数をみると、400 床以上の病院では平均 576.7 床、400 床未満の病院では平均 153.5 床であった。

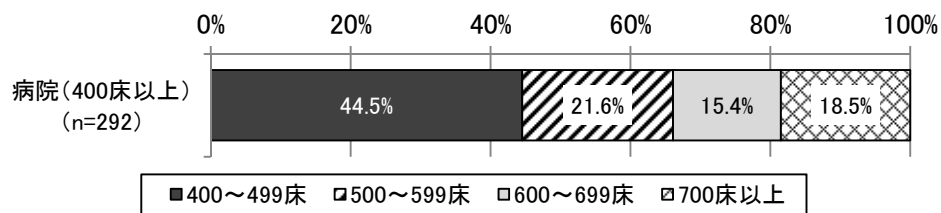
図表 6 許可病床数

(単位：床)

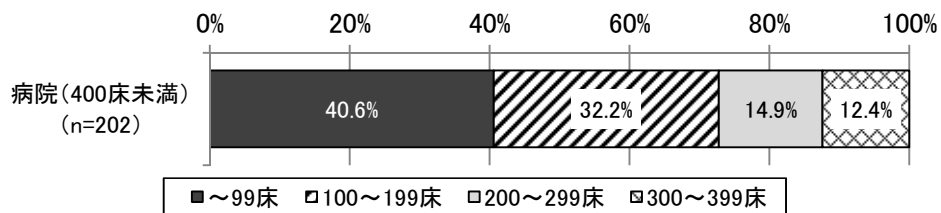
		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=292)	一般病床	471.0	265.1	480.0
	医療療養病床	17.1	74.7	0.0
	介護療養病床	2.4	17.3	0.0
	精神病床	82.0	157.8	0.0
	結核病床	2.6	10.2	0.0
	感染症病床	1.6	3.5	0.0
	合計	576.7	185.6	513.5
病院(400 床未満) (n=200)	一般病床	94.0	106.8	52.0
	医療療養病床	25.5	43.9	0.0
	介護療養病床	7.2	27.9	0.0
	精神病床	26.4	70.6	0.0
	結核病床	0.1	1.4	0.0
	感染症病床	0.2	1.0	0.0
	合計	153.5	101.9	135.5

(注) 全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

図表 7 許可病床数の分布（400 床以上の病院）



図表 8 許可病床数の分布（400 床未満の病院）



5) 1 日平均在院患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間の 1 日平均在院患者数をみると、400 床以上の病院では 1 施設当たり平均 465.0 人、400 床未満の病院では平均 121.4 人であった。

図表 9 1 日平均在院患者数（平成 29 年 6 月 1 か月間）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=263)	一般病床	380.5	224.1	394.3
	医療療養病床	14.2	69.8	0.0
	介護療養病床	1.4	9.4	0.0
	精神病床	68.3	139.8	0.0
	結核病床	0.5	2.7	0.0
	感染症病床	0.1	0.9	0.0
	合計	465.0	164.9	425.0
病院(400 床未満) (n=182)	一般病床	70.1	84.4	37.8
	医療療養病床	22.5	40.9	0.0
	介護療養病床	6.7	25.9	0.0
	精神病床	22.1	61.2	0.0
	結核病床	0.0	—	0.0
	感染症病床	0.0	0.1	0.0
	合計	121.4	85.7	102.5

（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

6) 外来延べ患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間の外来延べ患者数をみると、400 床以上の病院では、初診患者数が平均 1,859.4 人、再診延べ患者数が平均 19,048.6 人であった。400 床未満の病院では、初診患者数が平均 453.6 人、再診延べ患者数が平均 3,617.9 人であった。

図表 10 外来延べ患者数（平成 29 年 6 月 1 か月間）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=283)	初診患者数	1,859.4	1,359.6	1,839.0
	再診延べ患者数	19,048.6	13,191.6	18,155.0
病院(400 床未満) (n=190)	初診患者数	453.6	612.4	195.0
	再診延べ患者数	3,617.9	4,036.1	2,466.5

（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

7) 職員数

図表 11 職員数（平成 29 年 6 月末時点、常勤換算）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=272)	医師・歯科医師	177.9	189.3	120.8
	看護職員	531.8	273.5	505.5
	薬剤師	28.1	20.0	25.1
	事務職員	110.6	80.9	90.2
	その他職員	222.9	151.5	190.5
	合計	1,071.3	634.9	951.4
病院(400 床未満) (n=183)	医師・歯科医師	17.7	24.1	8.5
	看護職員	103.9	100.6	68.2
	薬剤師	5.0	5.6	3.0
	事務職員	27.4	44.4	14.0
	その他職員	64.0	54.3	45.0
	合計	218.1	203.8	141.8

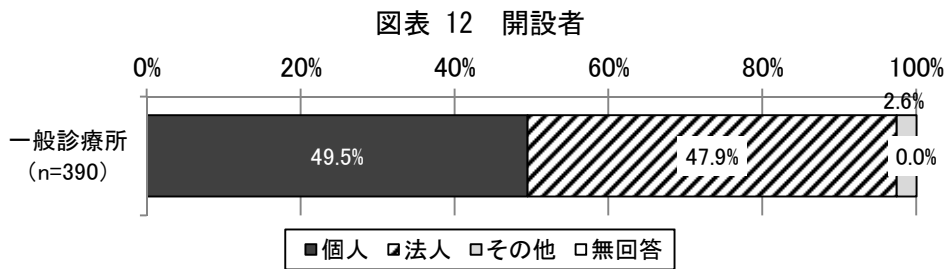
（注）・全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

・委託職員・派遣職員を含める。

②一般診療所の基本情報

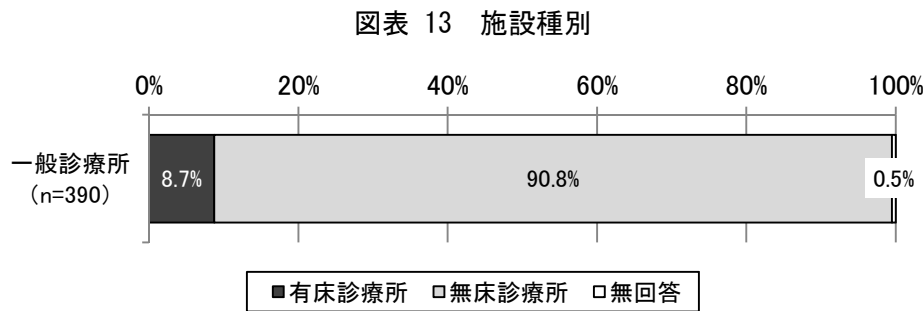
1) 開設者

開設者をみると、「個人」が49.5%、「法人」が47.9%であった。



2) 施設種別

施設の種別をみると、「有床診療所」が8.7%、「無床診療所」が90.8%であった。



3) 許可病床数（有床診療所）

有床診療所の許可病床数をみると、平均14.0床であった。

図表 14 許可病床数（有床診療所）

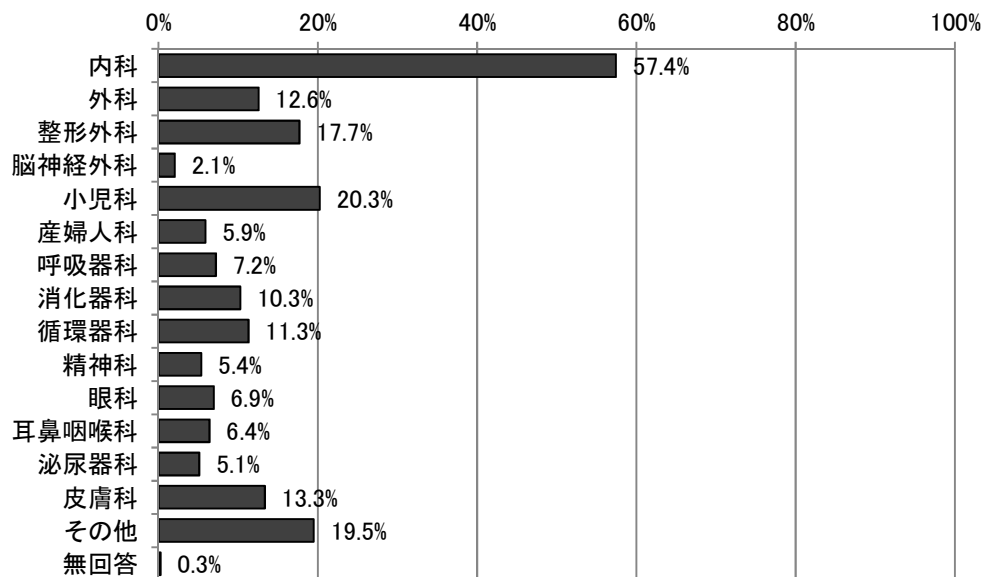
（単位：床）

件数(件)	平均値	標準偏差	中央値
32	14.0	5.7	15.5

（注）記入のあった施設を集計対象とした。

4) 標榜診療科

図表 15 標榜診療科（複数回答、n=390）



(注) 産婦人科には、婦人科・産科が含まれる。

5) 外来延べ患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間の外来延べ患者数をみると、初診患者数は平均 195.2 人、再診延べ患者数は平均 979.6 人であった。

図表 16 外来延べ患者数（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=357）

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	195.2	214.0	114.0
再診延べ患者数	979.6	863.8	798.0

(注) 初診患者数と再診延べ患者数の両方に記入のあった施設を集計対象とした。

6) 入院延べ患者数（有床診療所）

平成 29 年 6 月 1 か月間の入院延べ患者数をみると、平均 172.4 人であった。

図表 17 入院延べ患者数（平成 29 年 6 月 1 か月間、有床診療所、n=32）

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
入院延べ患者数	172.4	217.3	48.5

(注) 記入のあった施設を集計対象とした。

7) 職員数

図表 18 職員数（平成 29 年 6 月末時点、常勤換算、n=381）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.3	0.6	1.0
看護職員	3.0	3.4	2.1
薬剤師	0.1	0.2	0.0
事務職員	2.9	1.9	3.0
その他職員	1.9	4.3	0.0
合計	9.2	8.0	7.0

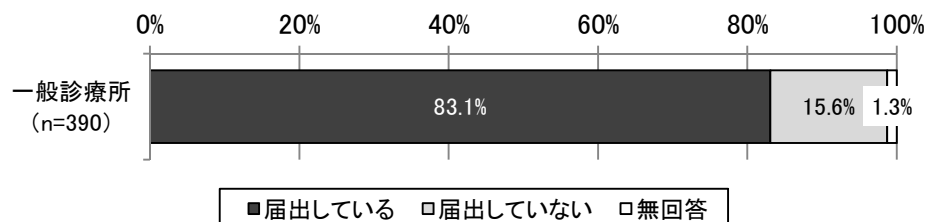
（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

8) 明細書発行体制等加算の届出状況

明細書発行体制等加算の届出状況をみると、「届出している」は 83.1%であった。

明細書発行体制等加算の届出をしている一般診療所に届出時期を尋ねたところ、「平成 24 年 3 月以前」が最も多かった。平成 29 年 6 月 1 か月間の明細書発行体制等加算の算定回数をみると、平均 914.9 回であり、算定割合は 85.8%であった。

図表 19 明細書発行体制等加算の届出状況



（注）平成 28 年 4 月より施設基準を満たしていれば届出は不要。

図表 20 明細書発行体制等加算の届出時期

（明細書発行体制等加算の届出をしている一般診療所、n=233）

（単位：施設）

届出時期	施設数
平成 24 年 3 月以前	179
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	10
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	16
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	15
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	13

（注）記入のあった施設を集計対象とした。

図表 21 明細書発行体制等加算の算定回数

(平成 29 年 6 月 1 か月間、明細書発行体制等加算の届出をしている一般診療所)

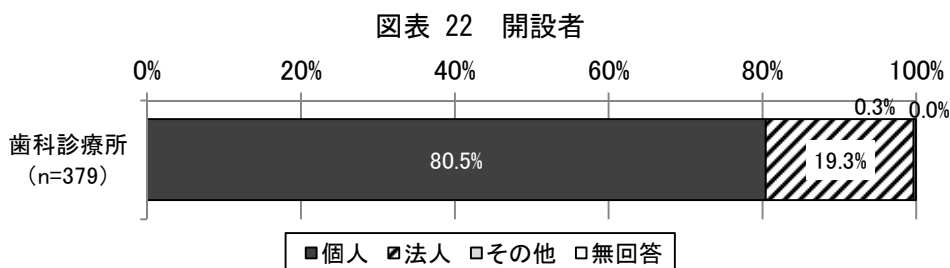
	再診延べ患者数(人)①			算定回数(回)②			算定割合 ②／①
	平均値	標準 偏差	中央値	平均値	標準 偏差	中央値	
一般診療所(n=117)	1,066.9	1,044.7	860.0	914.9	964.4	733.0	85.8%

(注) 明細書発行体制等加算の施設基準届出施設のうち、「再診延べ患者数」と「算定回数」の両方に回答のあった施設を集計対象とした。

③歯科診療所の基本情報

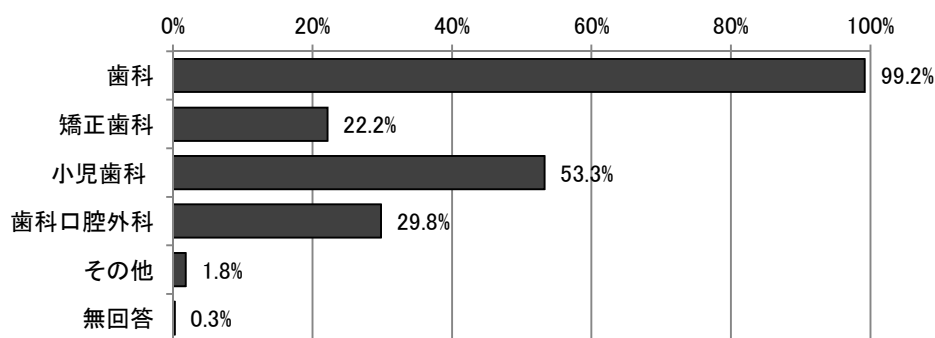
1) 開設者

開設者をみると、「個人」が 80.5%、「法人」が 19.3%であった。



2) 標榜診療科

図表 23 標榜診療科 (複数回答、n=379)



3) 外来延べ患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間の外来延べ患者数をみると、初診患者数は平均 77.6 人、再診延べ患者数は平均 380.5 人であった。

図表 24 外来延べ患者数（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=336）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	77.6	82.0	50.0
再診延べ患者数	380.5	362.7	300.0

（注）初診患者数と再診延べ患者数の両方に記入のあった施設を集計対象とした。

4) 職員数

図表 25 職員数（平成 29 年 6 月末時点、常勤換算、n=376）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.5	1.0	1.0
歯科衛生士	1.8	1.9	1.0
その他職員	2.2	1.7	2.0
合計	5.4	3.6	5.0

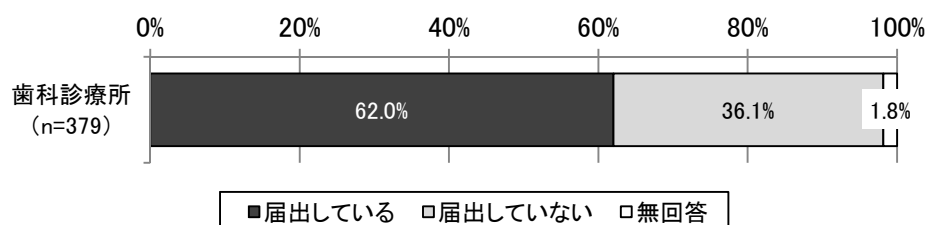
（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

5) 明細書発行体制等加算の届出状況

明細書発行体制等加算の届出状況をみると、「届出している」は 62.0%であった。

明細書発行体制等加算の届出をしている歯科診療所に届出時期を尋ねたところ、「平成 24 年 3 月以前」が最も多かった。平成 29 年 6 月 1 か月間の明細書発行体制等加算の算定回数をみると、平均 350.1 回であり、算定割合は 81.6%であった。

図表 26 明細書発行体制等加算の届出状況



（注）平成 28 年 4 月より施設基準を満たしていれば届出は不要。

図表 27 明細書発行体制等加算の届出時期
(明細書発行体制等加算の届出をしている歯科診療所、n=148)
(単位：施設)

届出時期	施設数
平成 24 年 3 月以前	52
平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	16
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	20
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	35
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	25

(注) 記入のあった施設を集計対象とした。

図表 28 明細書発行体制等加算の算定回数
(平成 29 年 6 月 1 か月間、明細書発行体制等加算の届出をしている歯科診療所)

	再診延べ患者数(人)①			算定回数(回)②			算定割合 ②／①
	平均値	標準 偏差	中央値	平均値	標準 偏差	中央値	
歯科診療所(n=87)	428.9	304.3	363.0	350.1	293.3	308.0	81.6%

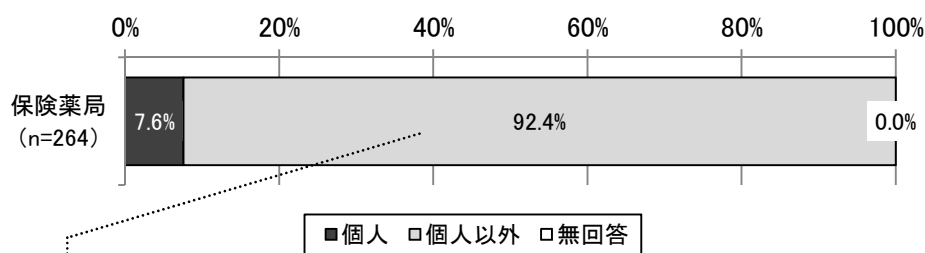
(注) 明細書発行体制等加算の施設基準届出施設のうち、「再診延べ患者数」と「算定回数」の両方に回答のあった施設を集計対象とした。

④保険薬局の基本情報

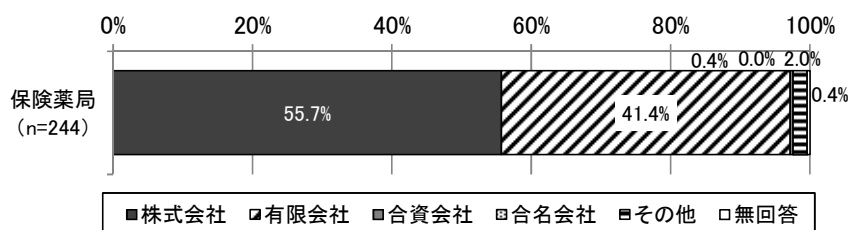
1) 組織形態

組織形態をみると、「個人」が 7.6%、「個人以外」が 92.4%あった。会社の形態としては、「株式会社」が 55.7%で最も多く、次いで「有限会社」が 41.4%であった。

図表 29 組織形態



図表 30 会社の形態

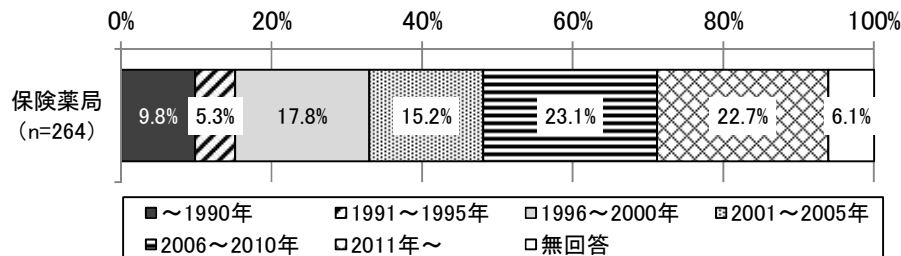


(注) 組織形態が「個人以外」の施設を集計対象とした。

2) 開局年

開局年をみると、「2006～2010年」が23.1%で最も多く、次いで「2011年～」が22.7%であった。

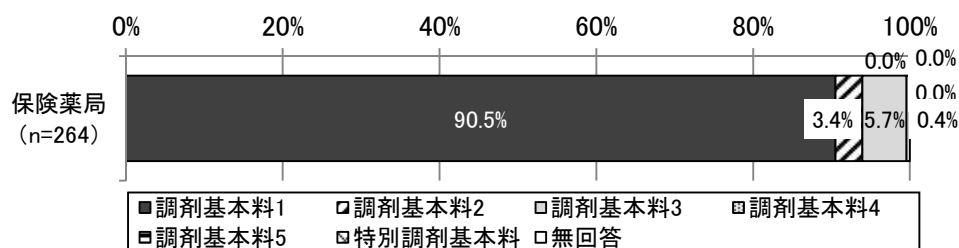
図表 31 開局年



3) 調剤基本料

調剤基本料をみると、「調剤基本料 1」が90.5%で最も多く、次いで「調剤基本料 3」が5.7%、「調剤基本料 2」が3.4%であった。

図表 32 調剤基本料の算定状況

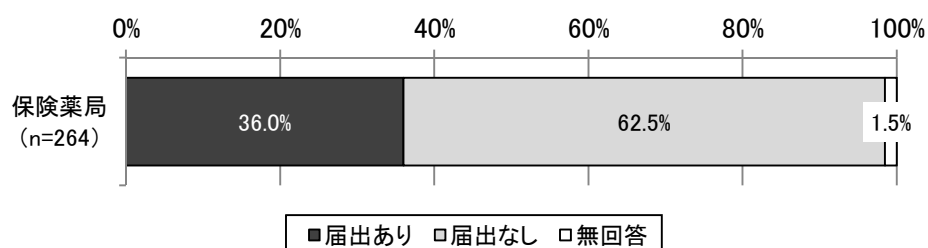


(注) 各調剤基本料には50/100減算を含める。

4) 基準調剤加算の届出の有無

基準調剤加算の届出の有無をみると、「届出あり」が36.0%、「届出なし」が62.5%であった。

図表 33 基準調剤加算の届出の有無



5) 処方せん受付回数

平成 29 年 6 月 1 か月間の処方せん受付回数をみると、平均 1,208.8 回であった。

図表 34 処方せん受付回数（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=252）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
処方せん受付回数	1,208.8	894.1	1,003.0

（注）記入のあった施設を集計対象とした。

6) 職員数

図表 35 職員数（平成 29 年 6 月末時点、常勤換算、n=259）

（単位：人）

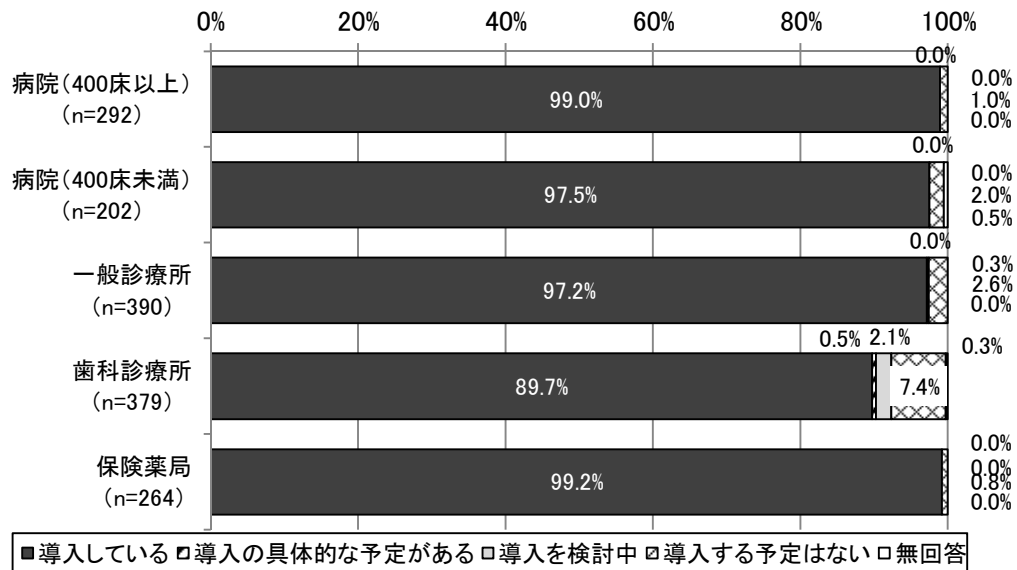
	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.7	1.7	2.0
事務職員	1.9	1.5	2.0
登録販売者	0.3	0.8	0.0
その他職員	0.2	1.1	0.0
合計	5.1	3.1	4.5

（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

⑤レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況

レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況をみると、「導入している」割合は、400床以上の病院では99.0%、400床未満の病院では97.5%、一般診療所では97.2%、歯科診療所では89.7%、保険薬局では99.2%であった。歯科診療所では「導入する予定はない」が7.4%であった。

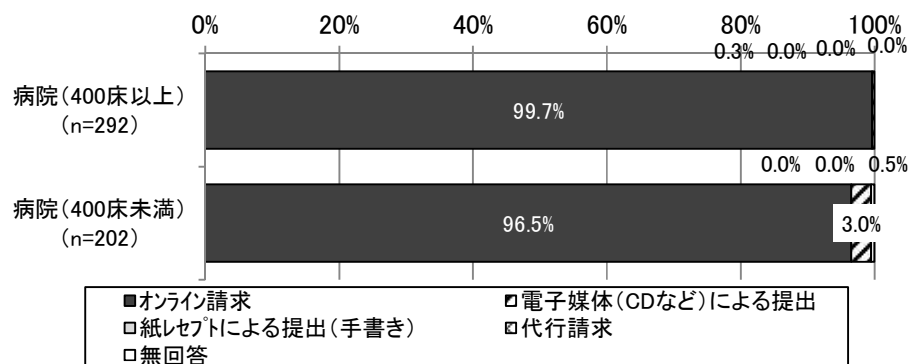
図表 36 レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況



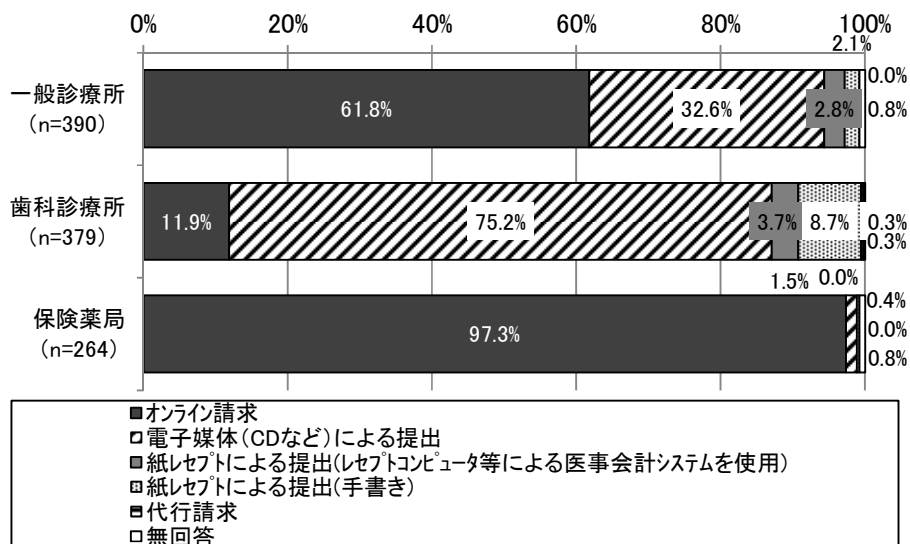
⑥レセプト請求方法

レセプトの請求方法をみると、400床以上の病院、400床未満の病院、保険薬局では「オンライン請求」（それぞれ 99.7%、96.5%、97.3%）が最も多かった。一般診療所では「オンライン請求」（61.8%）が最も多く、次いで「電子媒体（CD など）による提出」（32.6%）であった。歯科診療所では「電子媒体（CD など）による提出」（75.2%）が最も多く、次いで「オンライン請求」（11.9%）、「紙レセプトによる提出（手書き）」（8.7%）であった。

図表 37 レセプト請求方法（病院）



図表 38 レセプト請求方法（一般診療所、歯科診療所、保険薬局）



(2) 自己負担額のある患者への明細書の発行状況

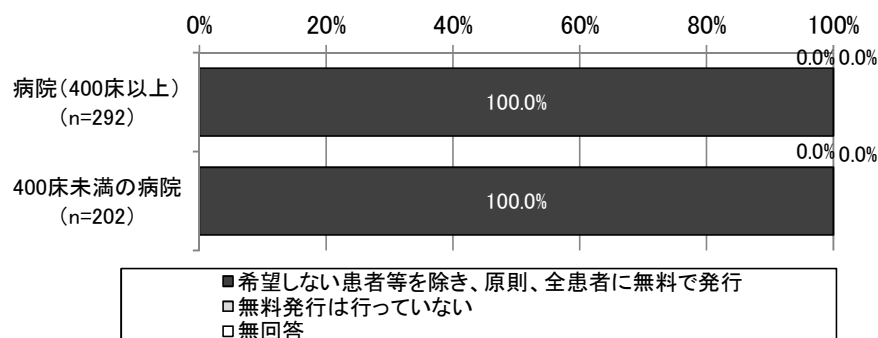
①医療機関における自己負担額のある患者への明細書の発行状況

1) 自己負担額のある患者への明細書の発行状況

【病院】

病院に、自己負担額のある患者への明細書の発行状況を尋ねたところ、400床以上の病院、400床未満の病院のいずれも「希望しない患者等を除き、原則、全患者に無料で発行」が100.0%であった。

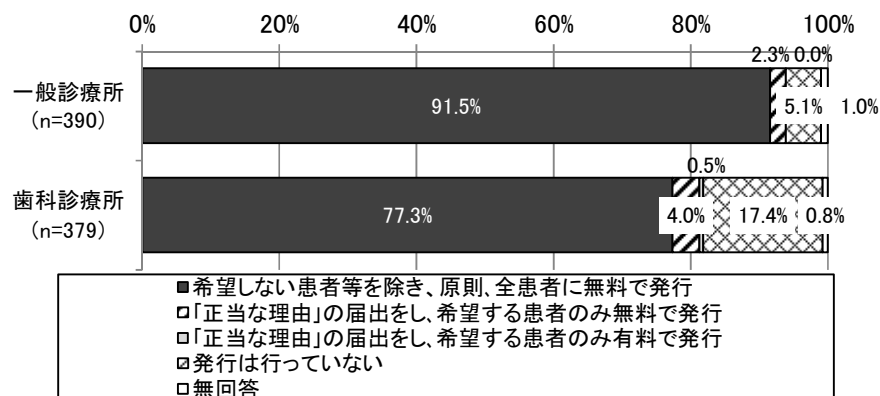
図表 39 病院における自己負担額がある患者への明細書の発行状況



【診療所】

一般診療所、歯科診療所に、自己負担額のある患者への明細書の発行状況を尋ねたところ、一般診療所、歯科診療所のいずれも「希望しない患者等を除き、原則、全患者に無料で発行」がそれぞれ 91.5%、77.3%で最も多く、次いで「発行は行っていない」（それぞれ 5.1%、17.4%）であった。

図表 40 診療所における自己負担額がある患者への明細書の発行状況

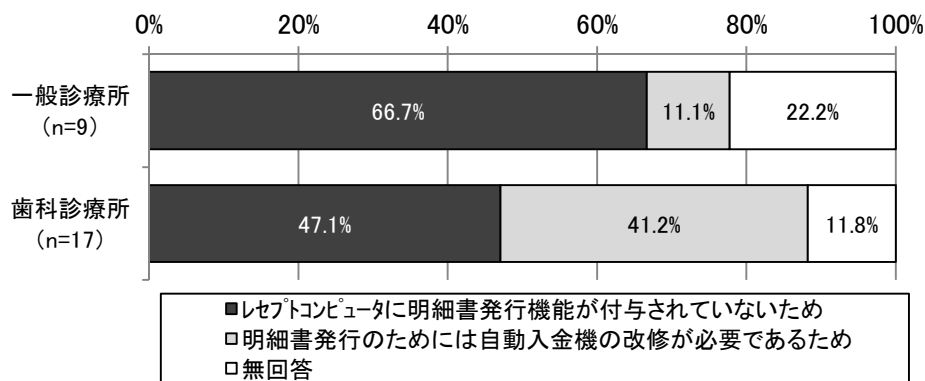


(注)「発行は行っていない」と回答した施設にその理由を尋ねたところ、「レセプト電子請求の義務付け対象外」等が挙げられた。

2) 自己負担額のある患者への明細書発行について「正当な理由」を届出し、全患者への明細書無料発行を行っていない施設の状況（診療所）

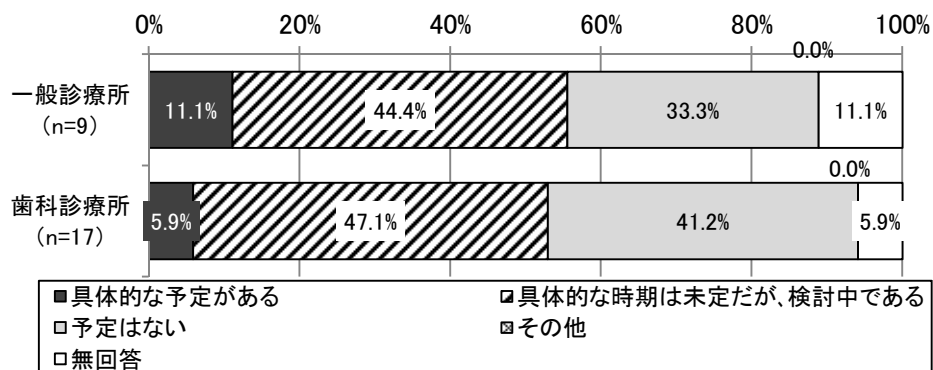
自己負担額のある患者への明細書発行について「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所に、該当する「正当な理由」を尋ねたところ、一般診療所では「レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため」が66.7%、「明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため」が11.1%であった。歯科診療所では「レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため」が47.1%、「明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため」が41.2%であった。

図表 41 自己負担額のある患者への明細書発行について、自施設が該当する「正当な理由」（「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所）



「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所に、自己負担額のある全患者への明細書無料発行体制の整備予定を尋ねたところ、一般診療所、歯科診療所のいずれも「具体的な時期は未定だが、検討中である」がそれぞれ44.4%、47.1%で最も多く、次いで「予定はない」（それぞれ33.3%、41.2%）であった。

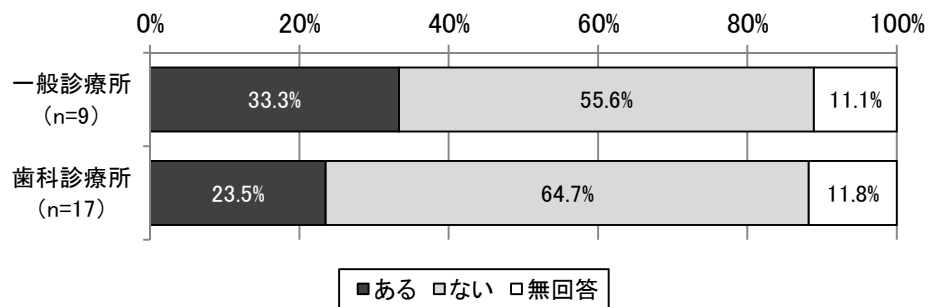
図表 42 自己負担額のある全患者への明細書無料発行体制の整備予定（「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所）



（注）具体的な予定があるとし発行予定時期を回答した診療所は、一般診療所では「平成 29 年 7 月頃」（1 施設）、歯科診療所では「平成 30 年 1 月頃」（1 施設）であった。

「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所に、自己負担額のある全患者への明細書無料発行体制で困ることの有無を尋ねたところ、一般診療所では33.3%、歯科診療所では23.5%が「ある」と回答した。

図表 43 自己負担額のある全患者への明細書無料発行で困ることの有無
(「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ無料又は有料で明細書を発行している診療所)



(注) 「自己負担額のある全患者に明細書を無料発行する場合に困ること」の具体的な内容として、以下が挙げられた。

- ・一般診療所：「手書きで作成となるため時間がない」、「トナーや紙のための経費の増加や設備投資の費用」、「発行体制の構築における人的・設備的負担」等
- ・歯科診療所：「設備投資」、「初診料・再診料が低く人が雇えない」、「経済的理由」等

②自己負担額のある患者への明細書発行施設における明細書の発行状況

以下の施設を明細書発行施設とした。

○病院

自己負担額がある患者への明細書の発行状況において「希望しない患者等を除き、原則、全患者に無料で発行」と回答した施設。

○一般診療所・歯科診療所

自己負担額がある患者への明細書の発行状況において、「希望しない患者等を除き、原則、全患者に発行している」又は「『正当な理由』の届出をし、希望する患者のみ有料で発行」又は「『正当な理由』の届出をし、希望する患者のみ無料で発行」と回答した施設。

○保険薬局

全施設。

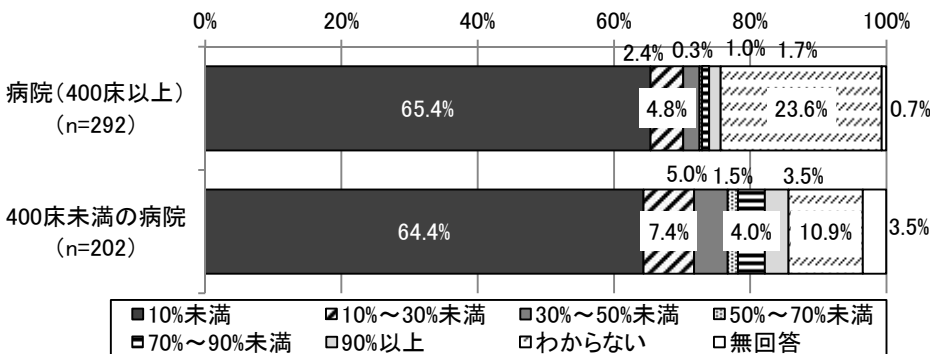
1) 自己負担額のある患者への明細書の発行状況

【病院】

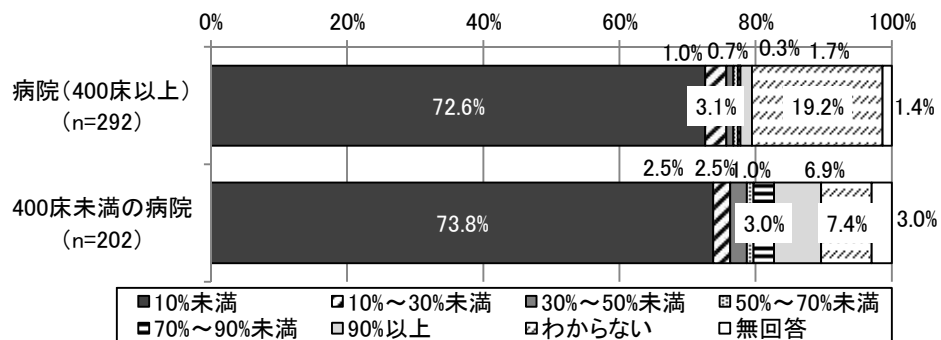
受診した自己負担額のある患者のうち、明細書を発行しなかった外来患者の割合をみると、400床以上の病院、400床未満の病院のいずれも「10%未満」が最も多く、6割を超えていた。明細書を発行しなかった入院患者の割合についても、400床以上の病院、400床未満の病院のいずれも「10%未満」が最も多く、7割を超えていた。

病院で明細書を発行していない患者をみると、400床以上の病院、400床未満の病院のいずれも「明細書の発行を希望しない患者」（それぞれ77.1%、81.7%）が最も多かった。

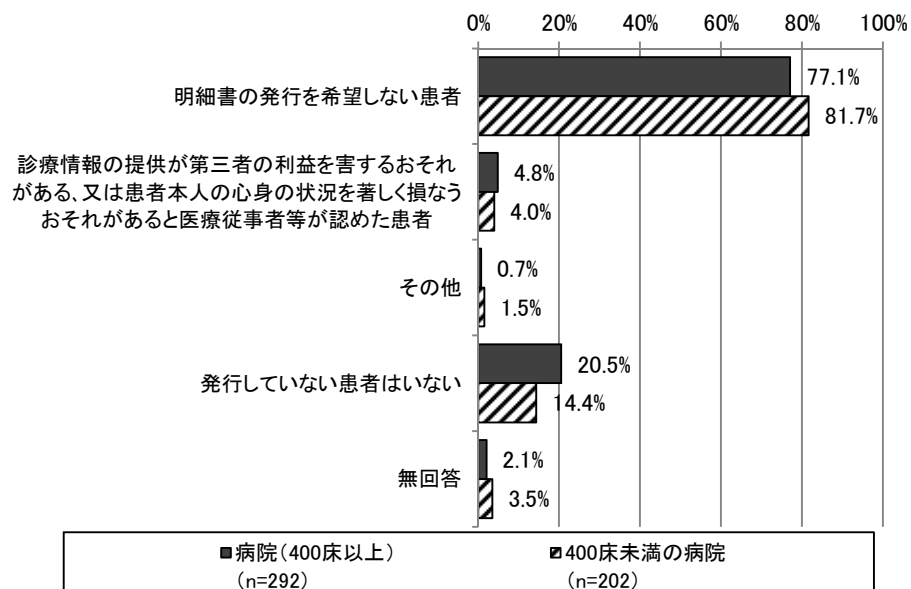
図表 44 受診した自己負担額のある患者のうち、明細書を発行しなかった外来患者の割合
(平成 29 年 6 月 1 か月間、病院)



図表 45 受診した自己負担額のある患者のうち、明細書を発行しなかった入院患者の割合
(平成 29 年 6 月 1 か月間、病院)



図表 46 病院で明細書を発行していない自己負担額のある患者（複数回答）



(注)「その他」の内容として、「交通事故など患者が窓口会計をしない場合（本人の希望があれば発行）」、「緩和ケア病棟入院患者は希望者のみ発行」、「職員」等が挙げられた。

【一般診療所】

平成 29 年 6 月 1 か月間の、一般診療所における明細書を発行した延べ外来患者数をみると、無料で発行した延べ外来患者数は平均 780.2 人、有料で発行した延べ外来患者数は平均 0.0 人であった。

図表 47 一般診療所における明細書を発行した延べ外来患者数（自己負担額のある患者）
（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=253）

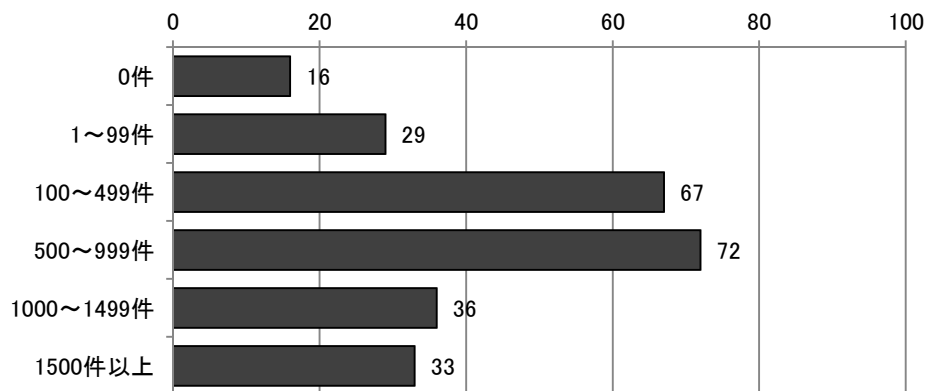
（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
無料で発行した延べ外来患者数	780.2	801.0	575.0
有料で発行した延べ外来患者数	0.0	-	0.0

（注）明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 48 一般診療所における明細書を無料で発行した延べ外来患者数の施設分布
（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=253）

（単位：施設）



（注）明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

平成 29 年 6 月 1 か月間の、有床診療所における明細書を発行した延べ入院患者数についてみると、無料で発行した延べ入院患者数は平均 12.9 人、有料で発行した延べ入院患者数は平均 0.0 人であった。

図表 49 有床診療所における明細書を発行した延べ入院患者数（自己負担額のある患者）
（平成 29 年 6 月 1 か月間、n=30）

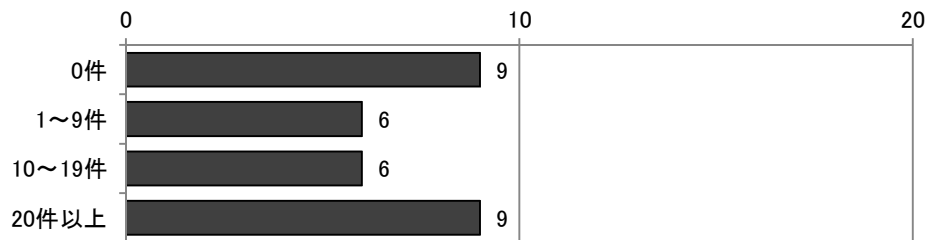
（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
無料で発行した延べ入院患者数	12.9	14.1	8.5
有料で発行した延べ入院患者数	0.0	-	0.0

（注）明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 50 有床診療所における明細書を無料で発行した延べ入院患者数の施設分布
(平成 29 年 6 月 1 か月間、n=30)

(単位：施設)



(注) 明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

【歯科診療所】

平成 29 年 6 月 1 か月間の、歯科診療所における明細書を発行した延べ患者数についてみると、無料で発行した延べ患者数は平均 344.7 件、有料で発行した延べ患者数は平均 0.0 件であった。

図表 51 歯科診療所における明細書を発行した延べ患者数（自己負担額のある患者）
(平成 29 年 6 月 1 か月間、n=194)

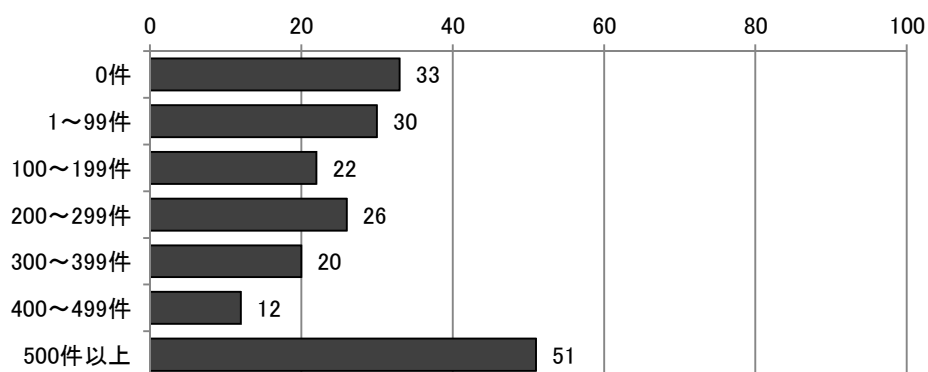
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
無料で発行した延べ患者数	344.7	419.2	234.5
有料で発行した延べ患者数	0.0	－	0.0

(注) 明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 52 歯科診療所における明細書を無料で発行した延べ患者数の施設分布
(平成 29 年 6 月 1 か月間、n=194)

(単位：施設)



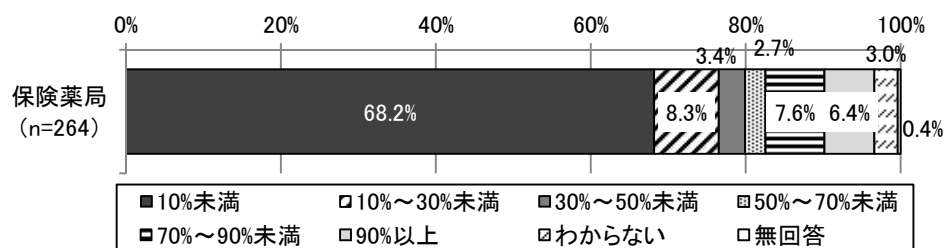
(注) 明細書発行患者数について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

【保険薬局】

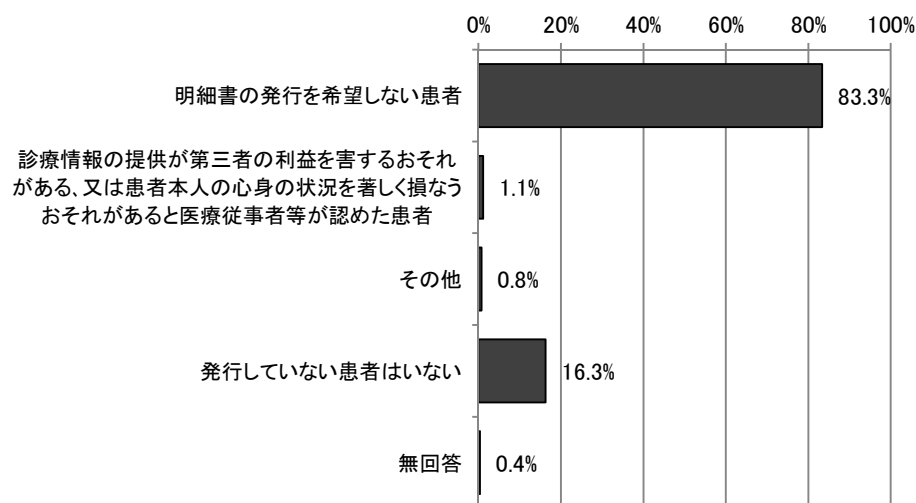
処方せんを受け付けた自己負担額のある患者のうち、明細書を発行しなかった患者の割合をみると、「10%未満」が 68.2%で最も多く、次いで「10%～30%未満」が 8.3%であった。

明細書を発行していない患者をみると、「明細書の発行を希望しない患者」が 83.3%で最も多かった。

図表 53 処方せんを受け付けた自己負担額のある患者のうち、
明細書を発行しなかった患者の割合
(平成 29 年 6 月 1 か月間、保険薬局)



図表 54 保険薬局で明細書を発行していない自己負担額のある患者（複数回答、n=264）



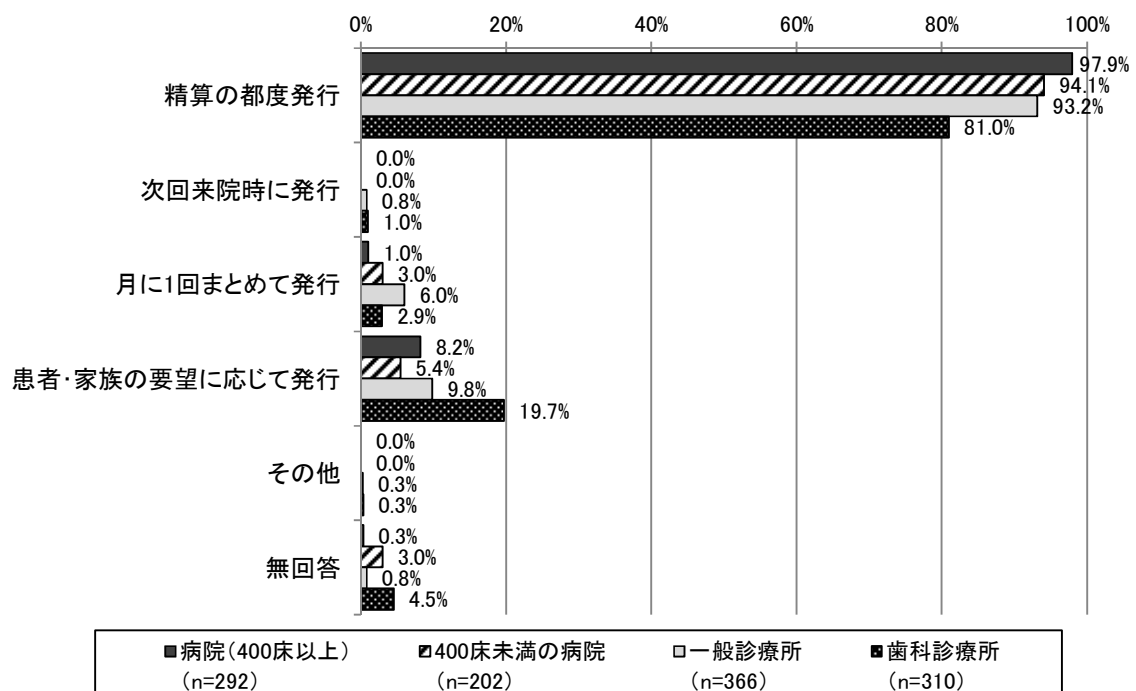
(注)「その他」の内容として、「施設入居者には発行していない」等が挙げられた。

2) 自己負担額のある患者への明細書発行のタイミング

【医療機関】

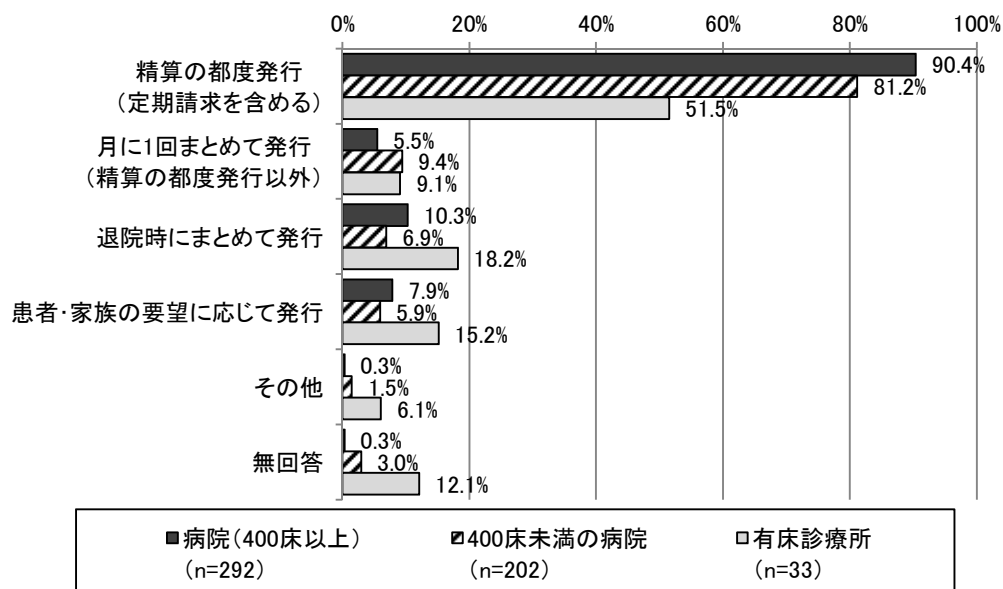
医療機関における自己負担額のある外来患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）についてみると、いずれの施設でも「精算の都度発行」（400床以上の病院 97.9%、400床未満の病院 94.1%、一般診療所 93.2%、歯科診療所 81.0%）が最も多かった。

図表 55 医療機関における自己負担額のある外来患者に対して
明細書を発行するタイミング（頻度）（複数回答）



医療機関における自己負担額のある入院患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）についてみると、いずれの施設でも「精算の都度発行」（400床以上の病院 90.4%、400床未満の病院 81.2%、有床診療所 51.5%）が最も多かった。

図表 56 医療機関における自己負担額のある入院患者に対して
明細書を発行するタイミング（頻度）（複数回答）

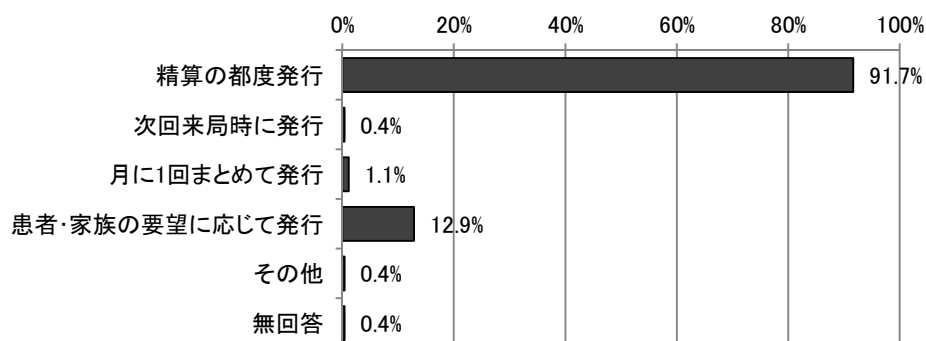


（注）「その他」の内容として、病院では「退院時に前回定期請求時点以降の分を渡している」が挙げられた。

【保険薬局】

保険薬局における自己負担額のある患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）をみると、「精算の都度発行」が91.7%で最も多く、次いで「患者・家族の要望に応じて発行」が12.9%であった。

図表 57 保険薬局における自己負担額のある患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）
（複数回答、n=264）



（注）「その他」の内容として、「新規の患者は全て発行、次回より要望の有無を確認」が挙げられた。

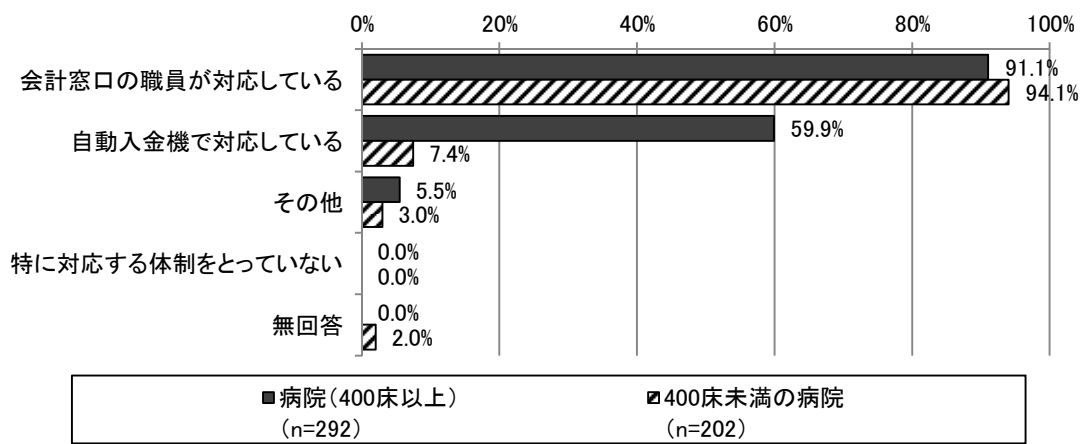
③自己負担額のある患者への明細書発行施設における発行体制・体制整備等（医療機関）

1）自己負担額のある患者への明細書の作成・発行体制（医療機関）

【病院】

病院における自己負担額がある患者への明細書の作成・発行体制をみると、400床以上の病院、400床未満の病院では「会計窓口の職員が対応している」がそれぞれ91.1%、94.1%で最も多かった。400床以上の病院では、次いで「自動入金機で対応している」（59.9%）が多かった。

図表 58 病院における自己負担額がある患者への明細書の作成・発行体制（複数回答）

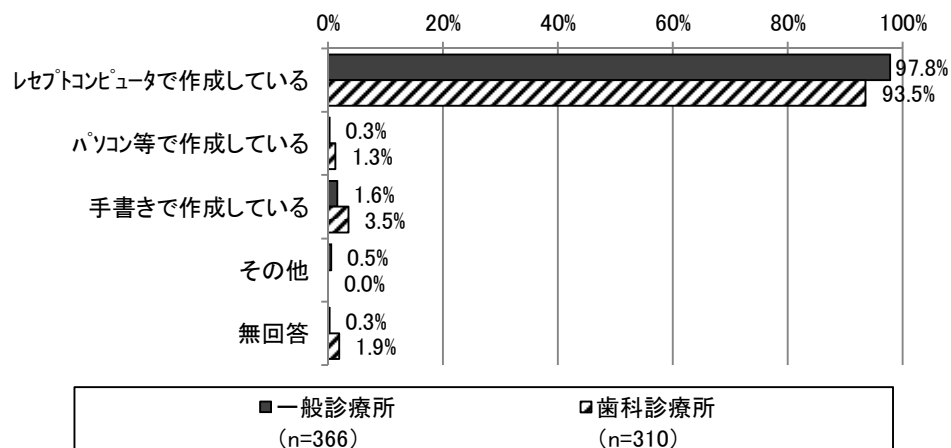


(注)「その他」の内容として、「医事課職員」、「会計のデータを入力する職員」、「入院は入院課職員、外来は会計職員が対応」、「事務職員」、「書類センター」、「請求書作成者」等が挙げられた。

【診療所】

診療所における自己負担額がある患者への明細書の作成・発行体制をみると、一般診療所、歯科診療所では「レセプトコンピュータで作成している」がそれぞれ97.8%、93.5%で最も多かった。

図表 59 診療所における自己負担額がある患者への明細書の作成・発行体制（複数回答）

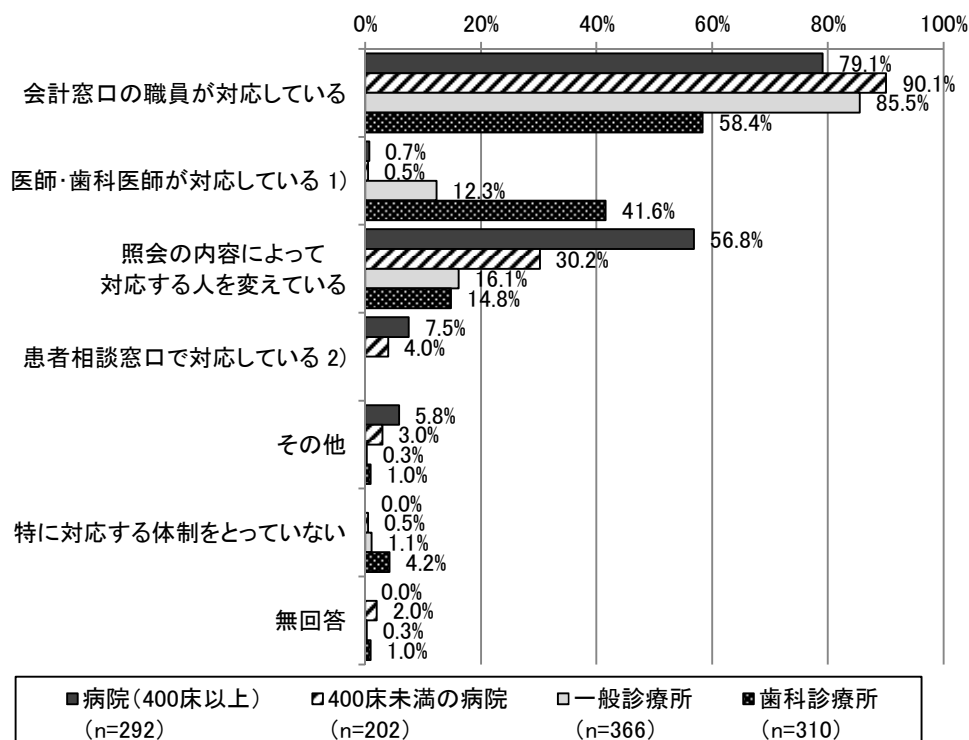


(注)「その他」の内容として、一般診療所では「精算機で発行」等が挙げられた。

2) 自己負担額のある患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制（医療機関）

医療機関における自己負担額がある患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、いずれの施設でも「会計窓口の職員が対応している」（400床以上の病院 79.1%、400床未満の病院 90.1%、一般診療所 85.5%、歯科診療所 58.4%）が最も多かった。

図表 60 自己負担額のある患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制
（複数回答）



（注） 1）一般診療所では「医師が対応している」、歯科診療所では「歯科医師が対応している」。

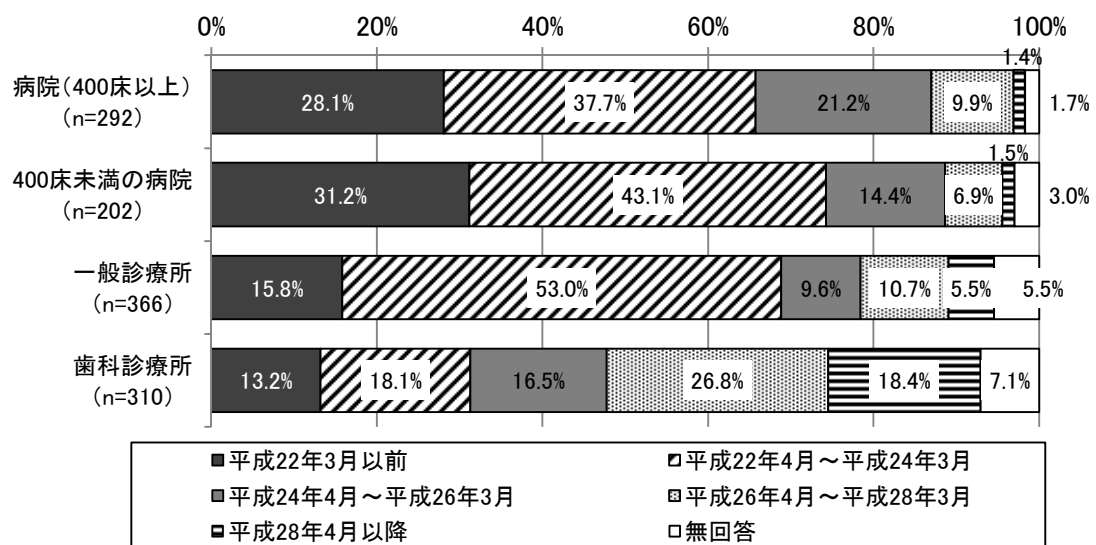
2）一般診療所・歯科診療所では本選択肢は設定していない。

・「その他」として、病院では「医事課職員」、「外来窓口職員」、「各外来・各病棟当事務員」、「算定担当者」、「事務職員全員」等、歯科診療所では「問い合わせがない」、「歯科医師のアドバイスを受けて職員が対応」等が挙げられた。

3) 自己負担額のある患者への明細書の発行開始時期（医療機関）

自己負担額のある患者への明細書の発行開始時期をみると、400 床以上の病院、400 床未満の病院、一般診療所では「平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月」（それぞれ 37.7%、43.1%、53.0%）が最も多かった。歯科診療所では「平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月」が 26.8%で最も多かった。

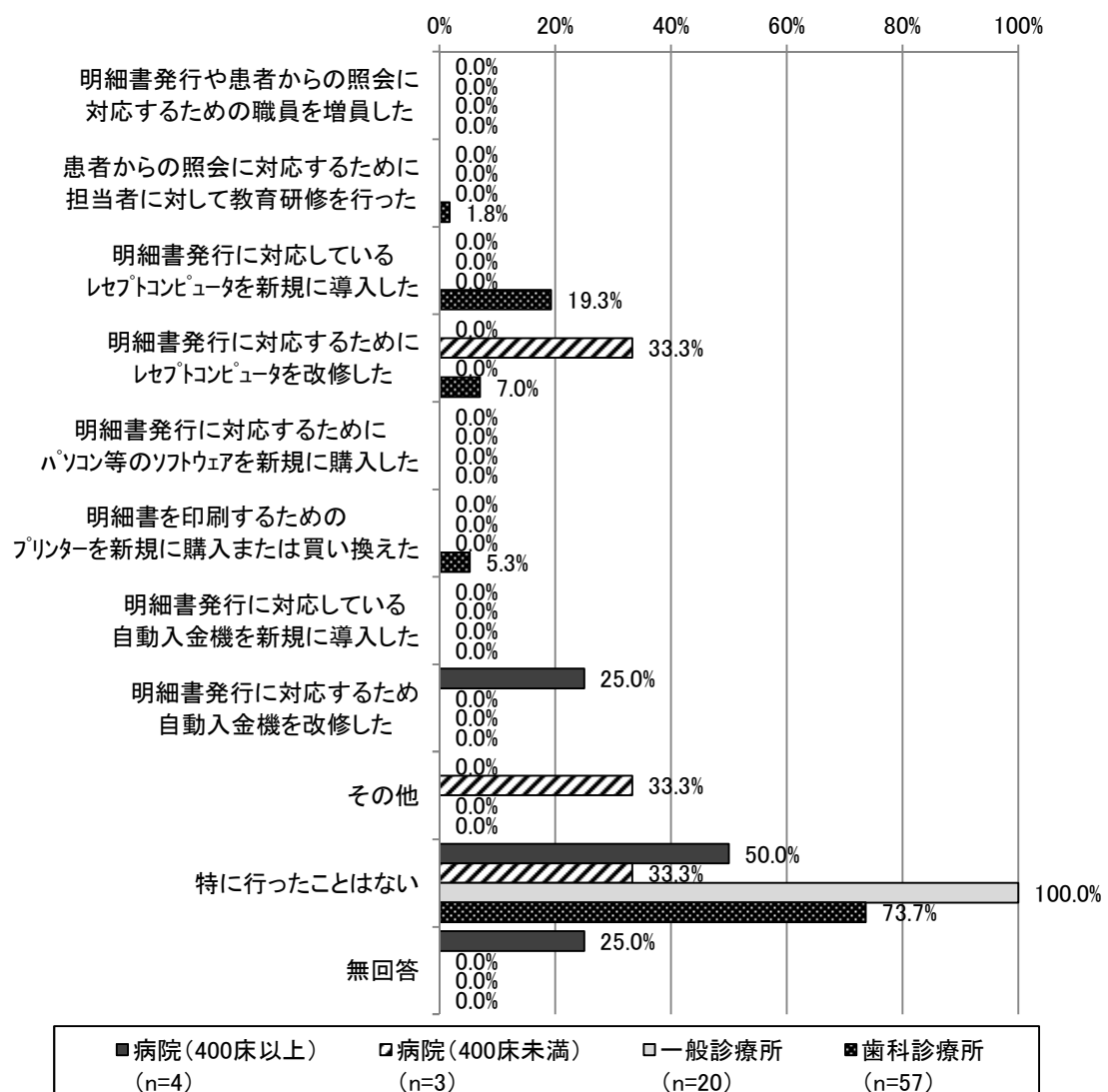
図表 61 自己負担額のある患者への明細書の発行開始時期



4) 自己負担額のある患者への明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと（医療機関）

自己負担額のある患者への明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設に、明細書の作成及び患者からの照会のために行ったことを尋ねたところ、400 床未満の病院では、「明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した」、「特に行ったことはない」、「その他」がそれぞれ 33.3%であった。それ以外の施設では、「特に行ったことはない」（400 床以上の病院 50.0%、一般診療所 100.0%、歯科診療所 73.7%）が最も多かった。

図表 62 自己負担額のある患者への明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと
（自己負担額のある患者への明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設、複数回答）



(注)「その他」の内容として、病院では「記載項目等の検討」が挙げられた。

自己負担額のある患者への明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）をみると、費用が発生した施設は歯科診療所の1施設で300.0万円であった。

図表 63 自己負担額のある患者への明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成28年4月以降の施設）

	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400床未満)	1	1	0	-	-	-
歯科診療所	7	6	1	300.0	-	300.0

(注)・記入があった施設を集計対象とした。

- ・総数は記入のあった施設数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった施設数である。
- ・400床以上の病院と一般診療所については記入がなかった。

自己負担額のある患者への明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）をみると、費用が発生した施設は歯科診療所の9施設で平均206.1万円であった。

図表 64 自己負担額のある患者への明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成28年4月以降の施設）

	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400床未満)	1	1	0	-	-	-
歯科診療所	11	2	9	206.1	73.5	200.0

(注)・記入があった施設を集計対象とした。

- ・総数は記入のあった施設数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった施設数である。
- ・400床以上の病院と一般診療所については記入がなかった。

5) 自己負担額のある患者への明細書発行のための運用経費（医療機関）

平成29年6月1か月間における自己負担額のある患者への明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）をみると、400床以上の病院では平均4.3万円、400床未満の病院では平均2.9万円、一般診療所では平均1.2万円、歯科診療所では平均0.8万円であった。

図表 65 自己負担額のある患者への明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
（平成29年6月1か月間）

（単位：万円）

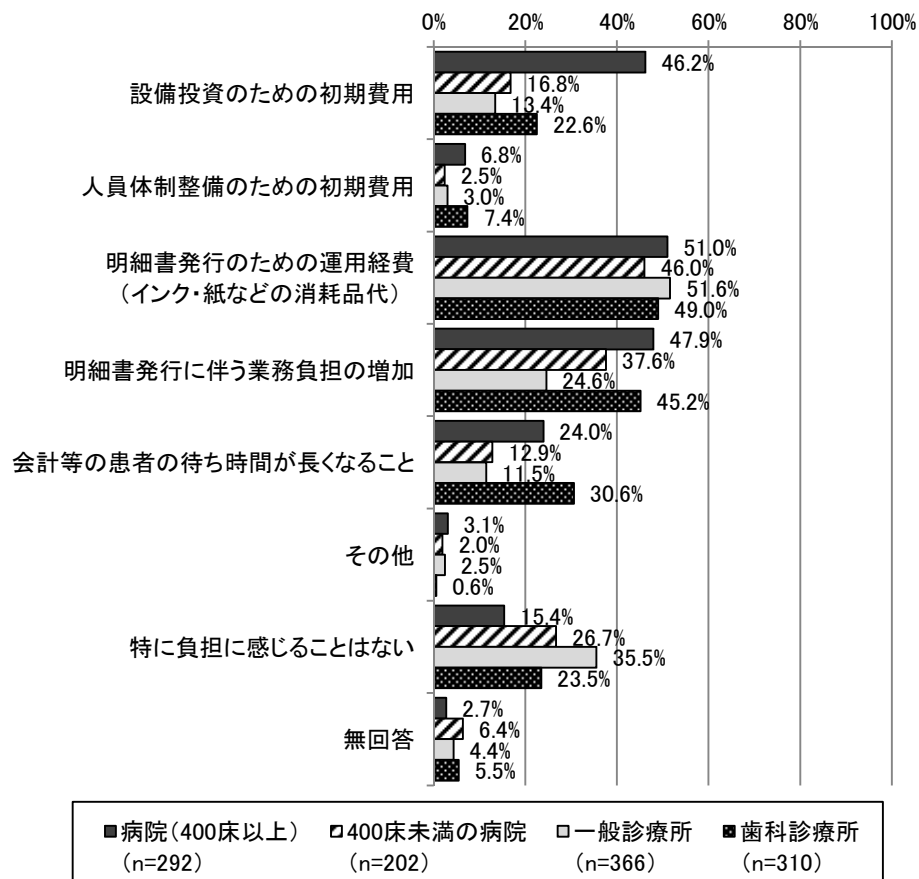
	件数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上)	41	4.3	4.9	2.0
病院(400床未満)	23	2.9	4.2	1.0
一般診療所	70	1.2	1.6	0.9
歯科診療所	80	0.8	1.3	0.4

(注) 記入のあった施設を集計対象とした。

6) 自己負担額のある患者への明細書発行体制の整備における負担（医療機関）

自己負担額のある患者への明細書発行体制の整備における負担をみると、いずれの施設でも「明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）」（400床以上の病院 51.0%、400床未満の病院 46.0%、一般診療所 51.6%、歯科診療所 49.0%）が最も多かった。

図表 66 自己負担額のある患者への明細書発行体制の整備における負担（複数回答）



(注) 「その他」として、以下の内容が挙げられた。

病院：「自動入金機の更新まで明細書発行機を設置」、「患者からの照会等のための院内の対応体制の整備」、「個人情報取り扱いのリスク」、「病名等の未告知患者への対応」等

一般診療所：「発行後患者に破棄されること」、「質問が増え受付が混雑する」、「処方せんと明細書が区別できず処方せんを紛失してしまう患者への対応」等

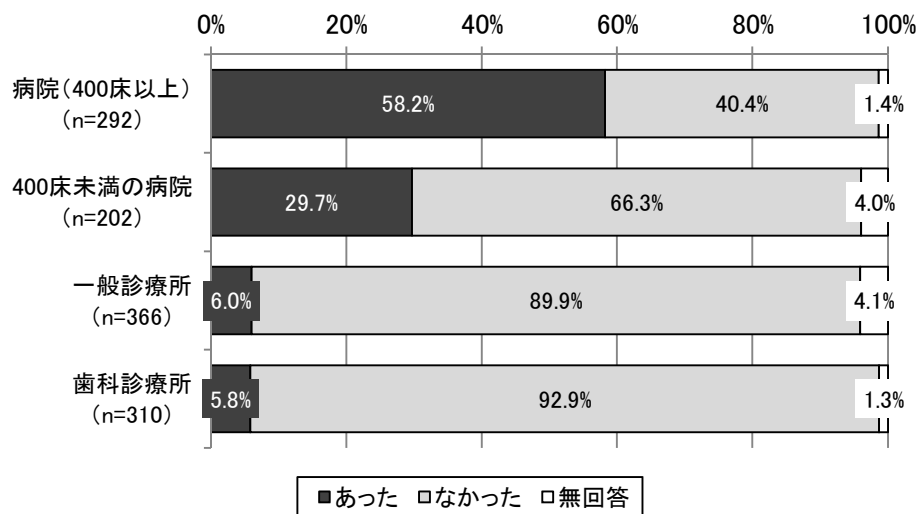
歯科診療所：「患者に不要と言われる」等

④自己負担額のある患者への明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等
（医療機関）

1）自己負担額のある患者からの明細書の内容に関する問合せの有無（医療機関）

平成 29 年 6 月 1 か月間における自己負担額のある患者からの明細書の内容に関する問合せの有無を尋ねたところ、問合せが「あった」のは、400 床以上の病院では 58.2%、400 床未満の病院では 29.7%、一般診療所では 6.0%、歯科診療所では 5.8%であった。

図表 67 自己負担額のある患者からの明細書の内容に関する問合せの有無
（平成 29 年 6 月 1 か月間）

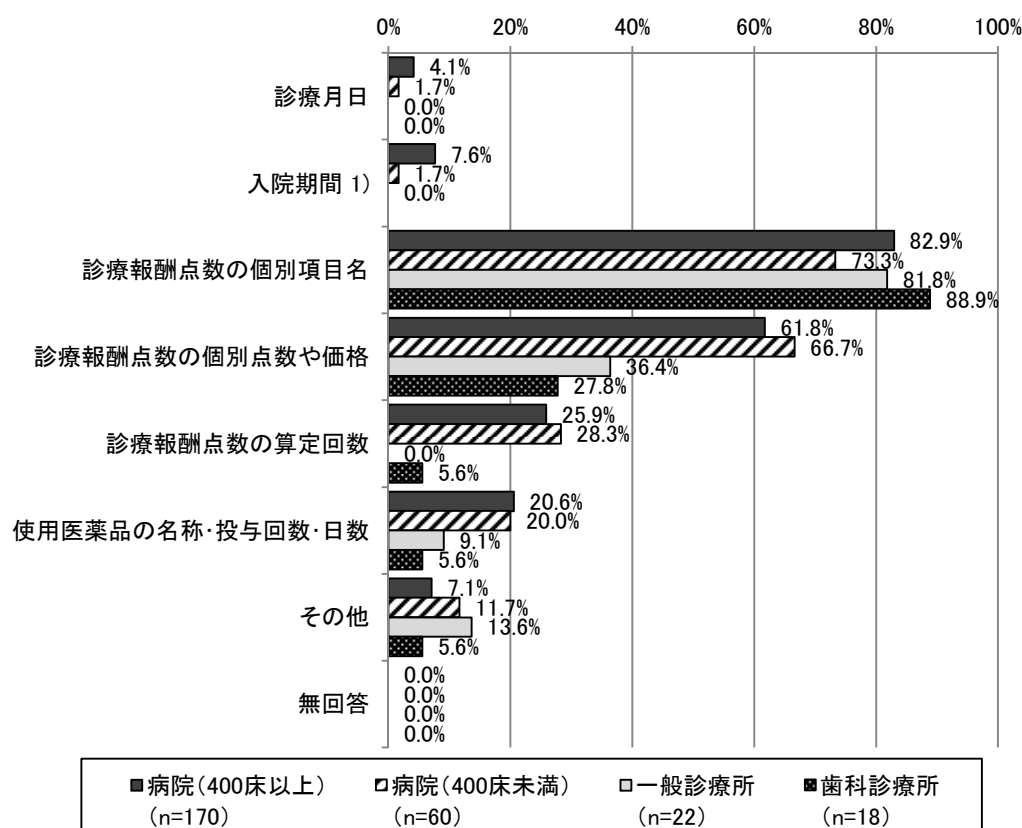


2) 自己負担額のある患者からの明細書に関する問合せ項目（医療機関）

問合せのあった施設に明細書に関する問合せ項目を尋ねたところ、いずれの施設でも「診療報酬点数の個別項目名」（400 床以上の病院 82.9%、400 床未満の病院 73.3%、一般診療所 81.8%、歯科診療所 88.9%）が最も多かった。

また、問合せが最も多い項目についても、いずれの施設でも「診療報酬点数の個別項目名」が最も多かった。

図表 68 医療機関における自己負担額のある患者からの明細書に関する問合せ項目
（平成 29 年 6 月 1 か月間、問合せのあった施設、複数回答）



（注） 1) 歯科診療所では本選択肢は設定していない。

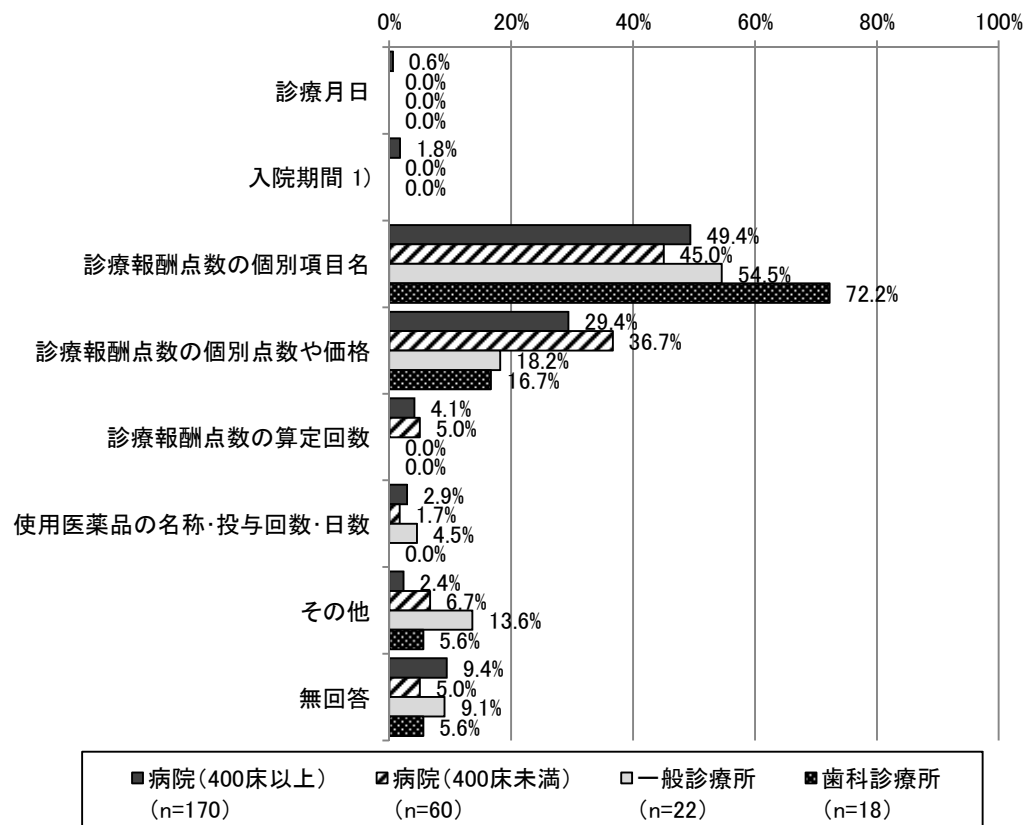
- ・「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。
- ・「その他」の内容として、以下の内容が挙げられた。

病院：「DPC について」、「自費内容・オムツ代等」、「手術の年月日」、「食事代」、「特定入院料に包括されている項目」、「明細書の見方」等

一般診療所：「再診時の時間外対応加算について」、「明細書の意味」等

歯科診療所：「見てもわからないため紙の無駄ではないかという指摘」等

図表 69 医療機関における自己負担額のある患者からの明細書に関する問合せが
最も多い項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、問合せのあった施設、単数回答)



(注) 1) 歯科診療所では本選択肢は設定していない。

・「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。

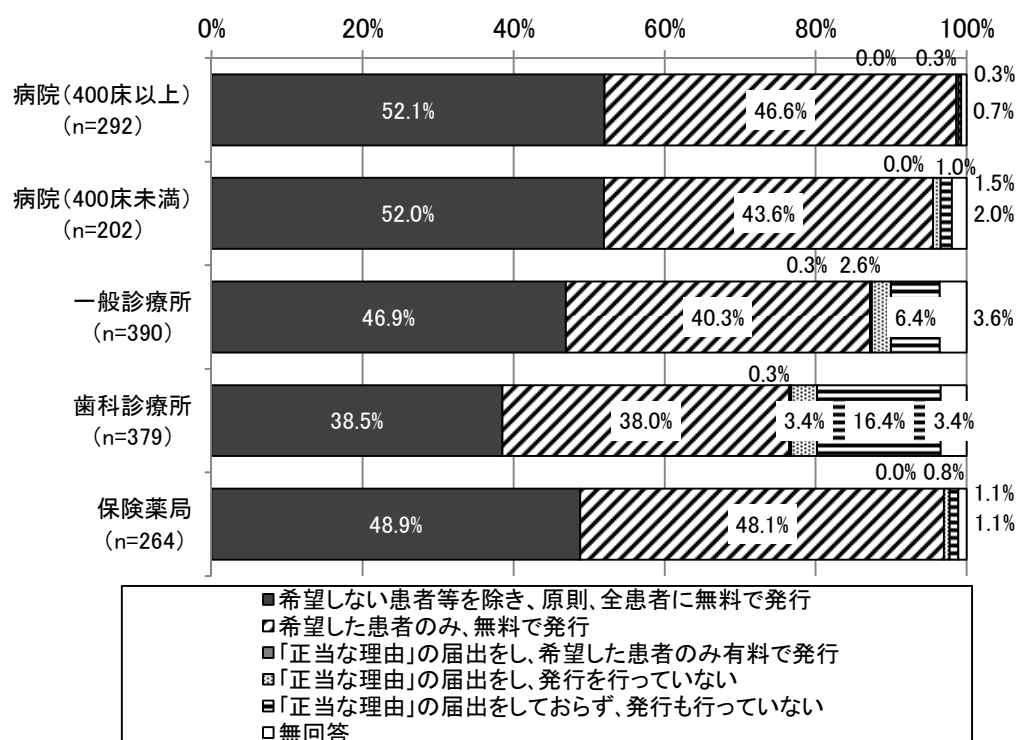
(3) 自己負担額のない患者への明細書の発行状況

①自己負担額のない患者への明細書の発行状況

1) 自己負担額のない患者への明細書の発行状況

自己負担額のない患者への明細書の発行状況を尋ねたところ、いずれの施設でも「希望しない患者等を除き、原則、全患者に無料で発行」が最も多く、次いで「希望した患者のみ、無料で発行」であった。一般診療所と歯科診療所では「『正当な理由』の届出をしておらず、発行も行っていない」がそれぞれ6.4%、16.4%であった。

図表 70 自己負担額のない患者への明細書の発行状況



- (注)・「『正当な理由』の届出をし、希望した患者のみ有料で発行」と回答した施設に、自己負担額のない患者への明細書発行にかかる1件当たりの徴収金額を尋ねたところ、歯科診療所1施設で800.0円であった。
- ・「『正当な理由』の届出をしておらず、発行も行っていない」と回答した施設にその理由を尋ねたところ、「レセプト電子請求の義務づけ対象外のため」、「患者が希望することがない」等が挙げられた。

2) 自己負担額のない患者への明細書発行について「正当な理由」を届出している施設の状況

自己負担額のない患者への明細書発行について「正当な理由」の届出をしている施設に、該当する「正当な理由」を尋ねたところ、一般診療所では「レセプトコンピュータに自己負担額がない患者への明細書発行機能が付与されていないため」が 45.5%であった。歯科診療所では「レセプトコンピュータに自己負担額がない患者への明細書発行機能が付与されていないため」と「自己負担額のない患者への明細書発行を行うためには自動入金機の改修が必要であるため」がそれぞれ 42.9%であった。

図表 71 自己負担額のない患者への明細書発行について、自施設が該当する「正当な理由」
（「正当な理由」の届出をしている施設）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	レセプトコンピュータに 自己負担額がない患者 への明細書発行機能が 付与されていないため	自己負担額のない患者 への明細書発行を行う ためには自動入金機の 改修が必要であるため	無回答
病院(400 床以上) (n=1)	1 100.0	0 0.0	0 0.0
病院(400 床未満) (n=2)	1 50.0	0 0.0	1 50.0
一般診療所 (n=11)	5 45.5	0 0.0	6 54.5
歯科診療所 (n=14)	6 42.9	6 42.9	2 14.3
保険薬局 (n=2)	2 100.0	0 0.0	0 0.0

「正当な理由」の届出をし、自己負担額のない患者に対して明細書の発行を行っていない施設に、明細書を発行していない理由を尋ねたところ、一般診療所と歯科診療所では「明細書の発行を希望する患者がいないため」がそれぞれ 60.0%、38.5%で最も多かった。

図表 72 自己負担額のない患者に対して明細書の発行をしていない理由
(「正当な理由」の届出をし、明細書の発行を行っていない施設、複数回答)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	処方がない場合、患者は受付・会計窓口 に寄らずに帰宅するため 1)	明細書の発行 に負担を感じるため	明細書の発行 を希望する患者がいないため	その他	無回答
病院(400床以上) (n=1)	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
病院(400床未満) (n=2)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
一般診療所 (n=10)	1 10.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	4 40.0
歯科診療所 (n=13)	1 7.7	3 23.1	5 38.5	1 7.7	6 46.2
保険薬局 (n=2)	－ －	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0

(注) 1) 保険薬局では本選択肢は設定していない。

・「その他」として、病院では「自己負担額のない患者は領収証の発行がないため」、歯科診療所では「レセコンがないため」が挙げられた。

「正当な理由」の届出をしている施設に、自己負担額のない患者に対する明細書無料発行体制の整備予定を尋ねたところ、一般診療所と歯科診療所では「予定はない」がそれぞれ 63.6%、42.9%で最も多かった。

図表 73 自己負担額のない患者に対する明細書無料発行体制の整備予定
(「正当な理由」の届出をしている施設)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	具体的な予定がある	具体的な時期は未定だが、検討中である	予定はない	その他	無回答
病院(400床以上) (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
病院(400床未満) (n=2)	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
一般診療所 (n=11)	0 0.0	1 9.1	7 63.6	0 0.0	3 27.3
歯科診療所 (n=14)	0 0.0	5 35.7	6 42.9	0 0.0	3 21.4
保険薬局 (n=2)	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0

「正当な理由」の届出をしている施設に、自己負担額のない患者に対する明細書無料発行で困ることの有無を尋ねたところ、一般診療所では「ある」が 0.0%、「ない」が 72.7%であった。歯科診療所では「ある」が 28.6%、「ない」が 42.9%であった。

図表 74 自己負担額のない患者に対する明細書無料発行で困ることの有無
(「正当な理由」の届出をしている施設)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	ある	ない	無回答
病院(400床以上) (n=1)	0 0.0	0 0.0	1 100.0
病院(400床未満) (n=2)	0 0.0	0 0.0	2 100.0
一般診療所 (n=11)	0 0.0	8 72.7	3 27.3
歯科診療所 (n=14)	4 28.6	6 42.9	4 28.6
保険薬局 (n=2)	0 0.0	1 50.0	1 50.0

(注)「自己負担額のない患者に対する明細書無料発行で困ること」の具体的な内容として、歯科診療所では「設備投資」、「費用・人員」等が挙げられた。

②自己負担額のない患者への明細書発行施設における明細書の発行状況

自己負担額のない患者への明細書発行施設は、自己負担額がない患者への明細書の発行状況において、「希望しない患者等を除き、原則、全患者に無料で発行」又は「希望した患者のみ、無料で発行」又は「『正当な理由』の届出をし、希望した患者のみ有料で発行」と回答した施設とした。

1) 自己負担額のない患者への明細書の発行状況

【病院】

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、病院における自己負担額のない外来患者への明細書の発行状況をみると、400 床以上の病院では、自己負担額のない延べ外来患者数は平均 1,269.8 人、このうち無料で発行した患者数は平均 586.7 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。400 床未満の病院では、自己負担額のない延べ外来患者数は平均 166.7 人、このうち無料で発行した患者数は平均 85.0 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。

図表 75 病院における自己負担額のない外来患者への明細書の発行状況

(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間)

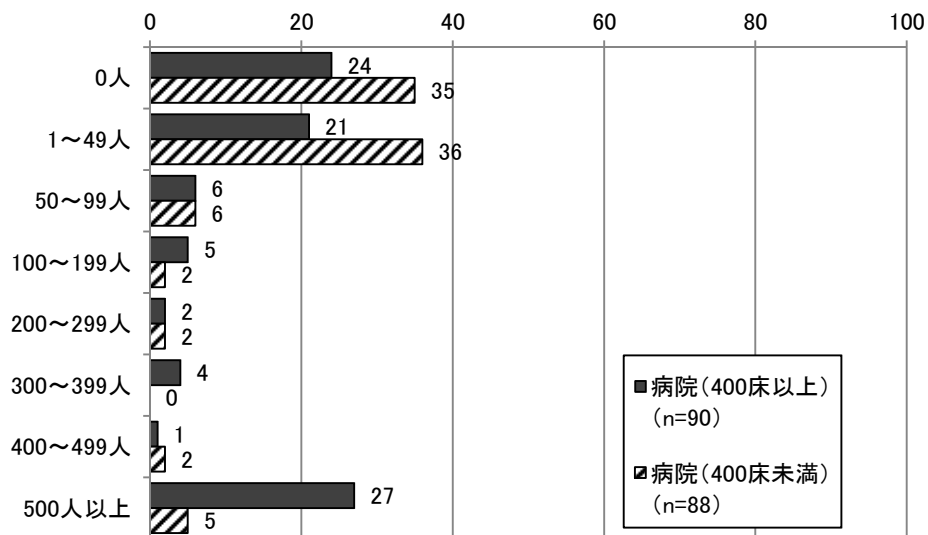
(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=90)	自己負担額のない延べ外来患者数	1,269.8	1,426.1	693.5
	うち、無料で発行した患者数	586.7	1,102.5	46.0
	うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0
病院(400 床未満) (n=88)	自己負担額のない延べ外来患者数	166.7	290.1	40.5
	うち、無料で発行した患者数	85.0	264.7	2.0
	うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0

(注) 自己負担額のない外来患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 76 病院における明細書を無料発行した延べ外来患者数
(自己負担額のない患者) の施設分布

(単位：施設)



(注) 自己負担額のない外来患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、病院における自己負担額のない入院患者への明細書の発行状況をみると、400 床以上の病院では、自己負担額のない延べ入院患者数は平均 34.4 人、このうち無料で発行した患者数は平均 22.5 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。400 床未満の病院では、自己負担額のない延べ入院患者数は平均 5.6 人、このうち無料で発行した患者数は平均 3.7 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。

図表 77 病院における自己負担額のない入院患者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間)

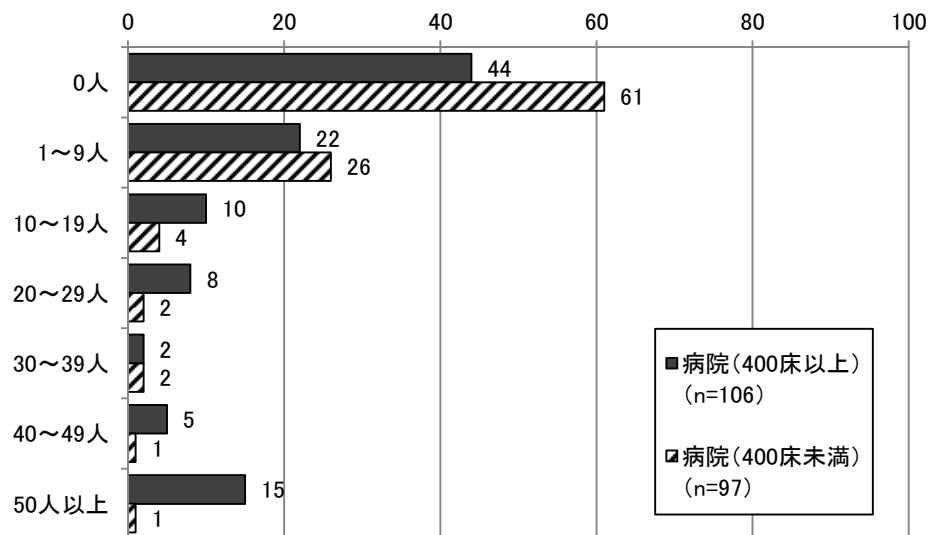
(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上) (n=106)	自己負担額のない延べ入院患者数	34.4	56.3	16.5
	うち、無料で発行した患者数	22.5	49.2	1.5
	うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0
病院(400 床未満) (n=97)	自己負担額のない延べ入院患者数	5.6	11.5	1.0
	うち、無料で発行した患者数	3.7	10.5	0.0
	うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0

(注) 自己負担額のない入院患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 78 病院における明細書を無料発行した延べ入院患者数
（自己負担額のない患者）の施設分布

（単位：施設）



（注）自己負担額のない入院患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

【一般診療所】

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、一般診療所における自己負担額のない外来患者への明細書の発行状況をみると、自己負担額のない延べ外来患者数は平均 72.8 人、このうち無料で発行した患者数は平均 34.0 人、有料で発行した患者数は平均 0.1 人であった。

図表 79 一般診療所における自己負担額のない外来患者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、n=225)

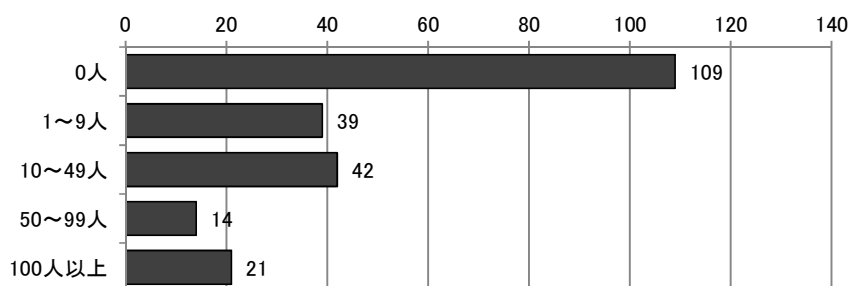
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
自己負担額のない延べ外来患者数	72.8	173.6	24.0
うち、無料で発行した患者数	34.0	118.1	1.0
うち、有料で発行した患者数	0.1	1.3	0.0

(注) 自己負担額のない外来患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 80 一般診療所における明細書を無料発行した延べ外来患者数
(自己負担額のない患者) の施設分布 (n=225)

(単位：施設)



(注) 自己負担額のない外来患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、有床診療所における自己負担額のない入院患者への明細書の発行状況をみると、自己負担額のない延べ入院患者数は平均 0.3 人、このうち無料で発行した患者数は平均 0.3 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。

図表 81 有床診療所における自己負担額のない入院患者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、n=30)

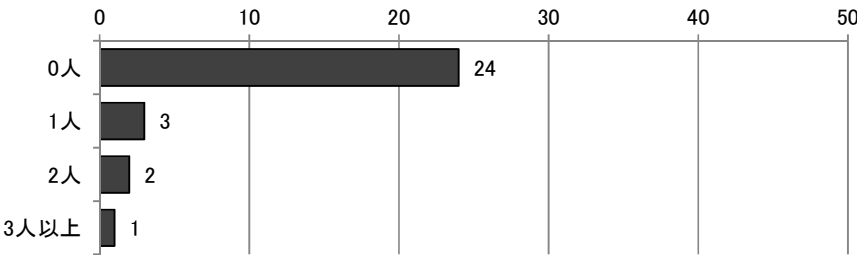
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
自己負担額のない延べ入院患者数	0.3	0.8	0.0
うち、無料で発行した患者数	0.3	0.8	0.0
うち、有料で発行した患者数	0.0	-	0.0

(注) 自己負担額のない入院患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 82 有床診療所における明細書を無料発行した延べ入院患者数
(自己負担額のない患者) の施設分布 (n=30)

(単位：施設)



(注) 自己負担額のない入院患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

【歯科診療所】

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、歯科診療所における自己負担額のない患者への明細書の発行状況をみると、自己負担額のない延べ患者数は平均 16.4 人、このうち無料で発行した患者数は平均 6.7 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。

図表 83 歯科診療所における自己負担額のない患者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、n=174)

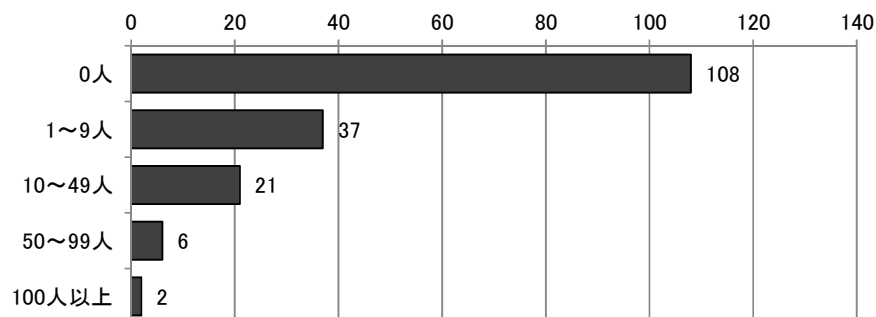
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
自己負担額のない延べ患者数	16.4	33.1	6.5
うち、無料で発行した患者数	6.7	16.8	0.0
うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0

(注) 自己負担額のない患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 84 歯科診療所における明細書を無料発行した延べ患者数
(自己負担額のない患者) の施設分布 (n=174)

(単位：施設)



(注) 自己負担額のない患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

【保険薬局】

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、保険薬局における自己負担額のない患者への明細書の発行状況をみると、自己負担額のない延べ患者数は平均 87.2 人、このうち無料で発行した患者数は平均 36.9 人、有料で発行した患者数は平均 0.0 人であった。

図表 85 保険薬局における自己負担額のない患者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、n=179)

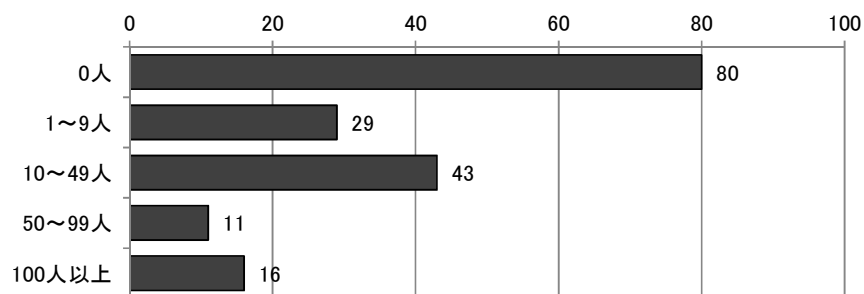
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
自己負担額のない延べ患者数	87.2	144.5	38.0
うち、無料で発行した患者数	36.9	115.2	1.0
うち、有料で発行した患者数	0.0	–	0.0

(注) 自己負担額のない患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

図表 86 保険薬局における明細書を無料発行した延べ患者数
(自己負担額のない患者) の施設分布 (n=179)

(単位：施設)

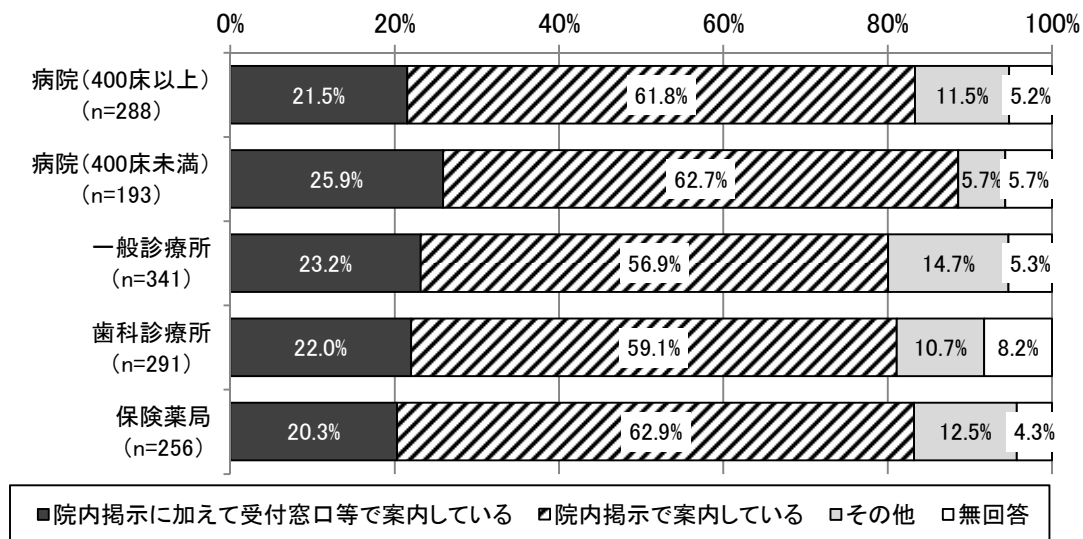


(注) 自己負担額のない患者への明細書発行状況について全項目で記入のあった施設を集計対象とした。

2) 自己負担額のない患者への明細書発行の周知方法

自己負担額のない患者への明細書発行の周知方法についてみると、いずれの施設でも「院内掲示で案内している」（400 床以上の病院 61.8%、400 床未満の病院 62.7%、一般診療所 56.9%、歯科診療所 59.1%、保険薬局 62.9%）が最も多かった。

図表 87 自己負担額のない患者への明細書発行の周知方法



(注) 「その他」として、以下の内容が挙げられた。

病院：「受付窓口で案内」、「会計窓口で案内」、「交付することが原則なので案内はしていない」、「希望しない旨の札を受付で渡してもらう」等

一般診療所：「受付窓口で案内」、「会計時に説明」、「問診票にチェック項目を作成」、「文章を配布」等

歯科診療所：「受付窓口で案内」、「口頭で案内」等

保険薬局：「初来局時に口頭で案内」、「窓口で案内」、「新規の医薬品調剤時に明細書があるかどうか確認」等

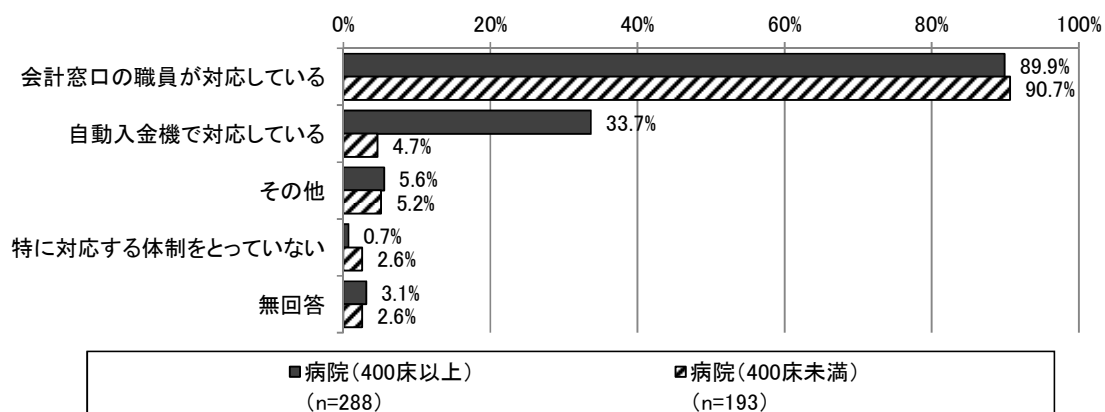
③自己負担額のない患者への明細書発行施設における発行体制・体制整備等

1) 自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制

【病院】

病院における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制をみると、「会計窓口の職員が対応している」（400 床以上の病院 89.9%、400 床未満の病院 90.7%）が最も多かった。400 床以上の病院では、次いで「自動入金機で対応している」（33.7%）であった。

図表 88 病院における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制（複数回答）

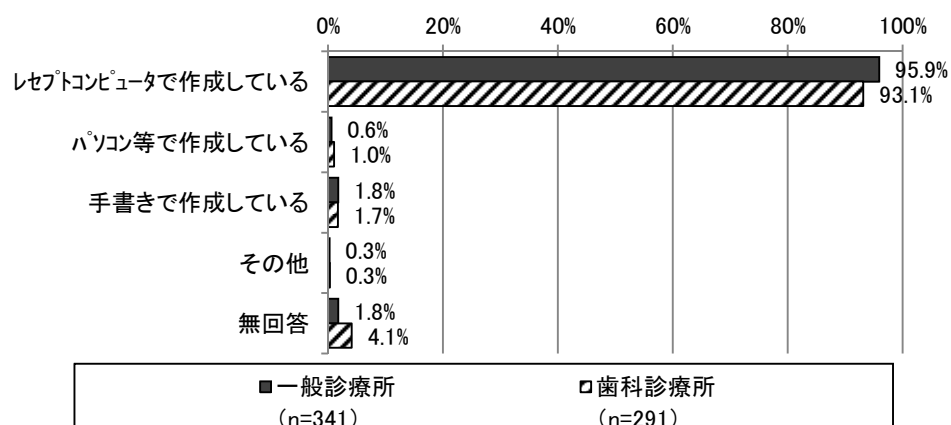


(注)「その他」の内容として、「医事課職員が対応」、「入院は入院担当職員、外来は外来担当職員が対応」、「書類センターで発行」、「退院時は病棟クラークが発行」等が挙げられた。

【診療所】

診療所における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制をみると、「レセプトコンピュータで作成している」（一般診療所 95.9%、歯科診療所 93.1%）が最も多かった。

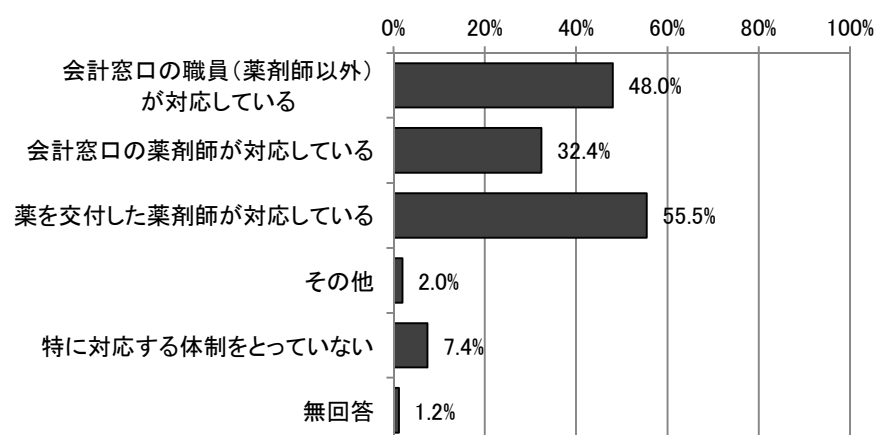
図表 89 診療所における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制（複数回答）



【保険薬局】

保険薬局における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制をみると、「薬を交付した薬剤師が対応している」が 55.5%で最も多く、次いで「会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している」（48.0%）であった。

図表 90 保険薬局における自己負担額のない患者への明細書の作成・発行体制
(複数回答、n=256)



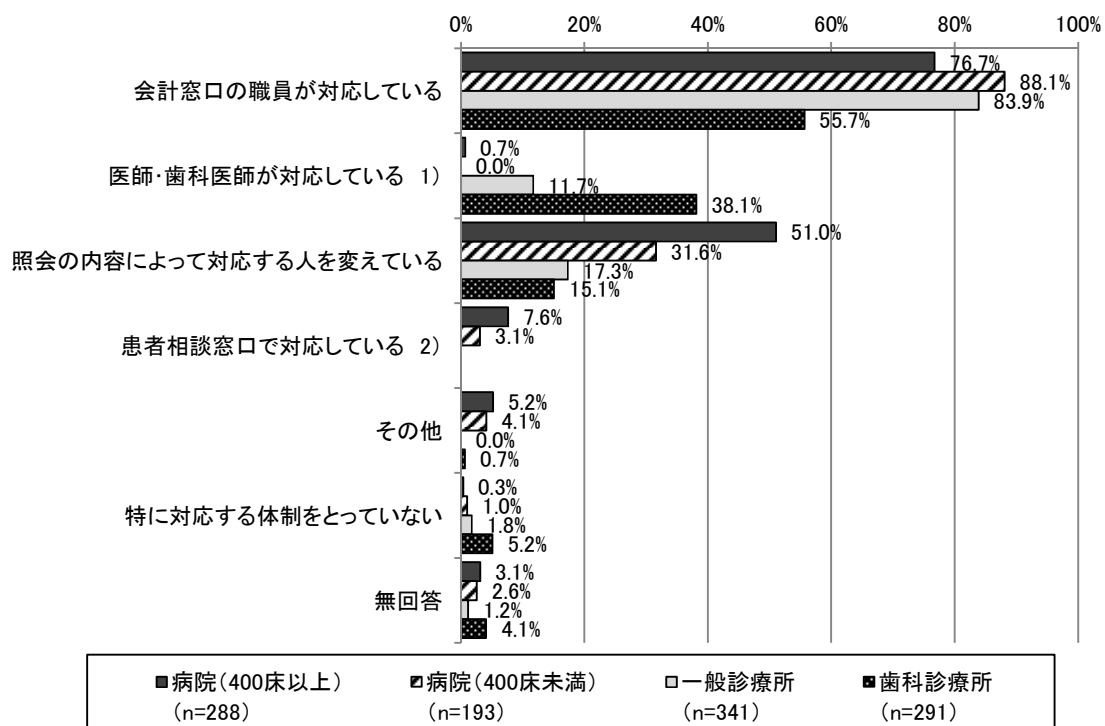
(注)「その他」の内容として、「問診で必要か聞いている」、「初回問診票で確認」等が挙げられた。

2) 自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制

【医療機関】

医療機関における自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、いずれの施設でも「会計窓口の職員が対応している」(400床以上の病院 76.7%、400床未満の病院 88.1%、一般診療所 83.9%、歯科診療所 55.7%) が最も多かった。

図表 91 医療機関における自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答）



(注) 1) 一般診療所では「医師が対応している」、歯科診療所では「歯科医師が対応している」。

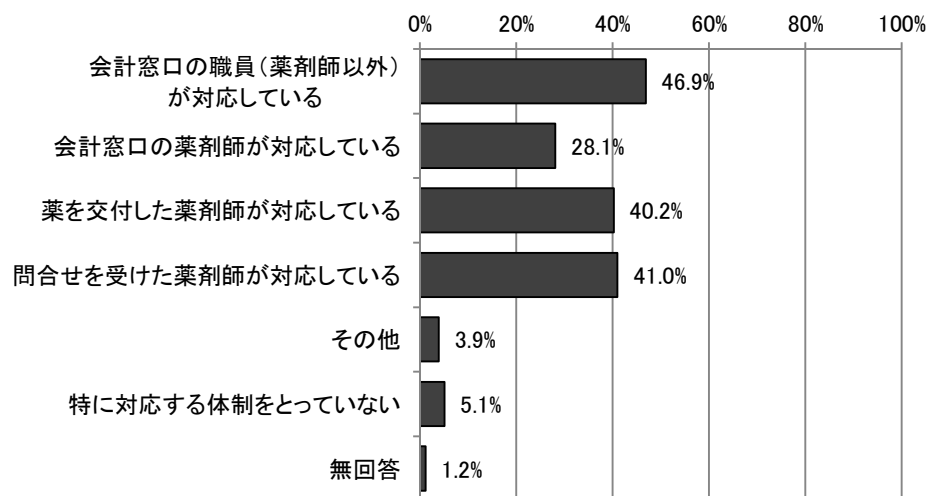
2) 一般診療所・歯科診療所では本選択肢は設定していない。

・「その他」として、病院では「医事課職員」、「計算担当」、「各外来・各病棟担当事務員」、「事務職全員」、「診療科受付事務」等、歯科診療所では「歯科医師のアドバイスを受けて職員が対応」等が挙げられた。

【保険薬局】

保険薬局における自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、「会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している」が46.9%で最も多く、次いで「問合せを受けた薬剤師が対応している」（41.0%）、「薬を交付した薬剤師が対応している」（40.2%）であった。

図表 92 保険薬局における自己負担額のない患者からの
明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答、n=256）

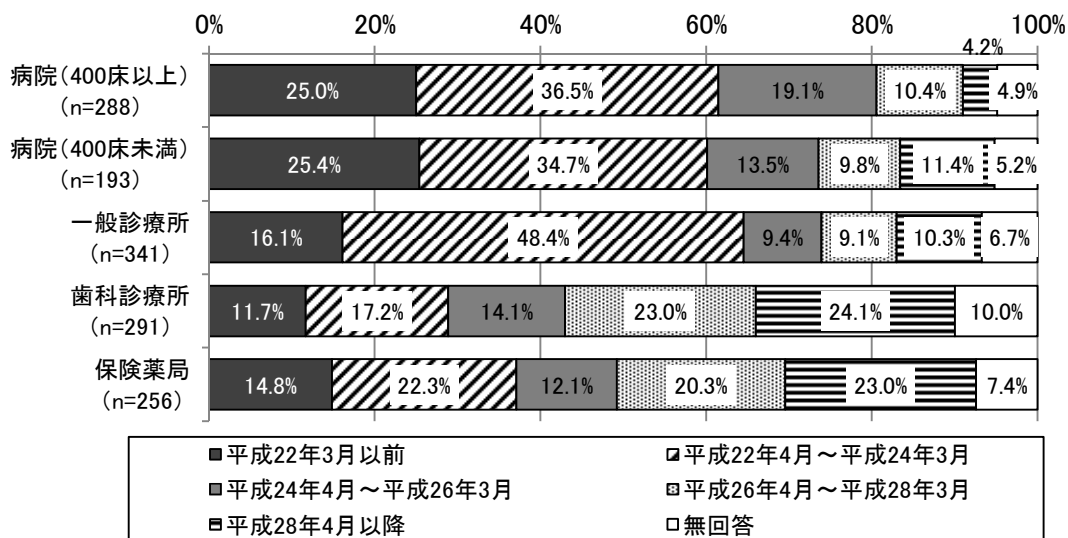


（注）「その他」として、「問合せがない」、「問合せを受けた職員が対応」等が挙げられた。

3) 自己負担額のない患者への明細書の発行開始時期

自己負担額のない患者への明細書の発行開始時期をみると、400 床以上の病院、400 床未満の病院、一般診療所では「平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月」（それぞれ 36.5%、34.7%、48.4%）が最も多かった。歯科診療所と保険薬局では「平成 28 年 4 月以降」（それぞれ 24.1%、23.0%）が最も多かった。

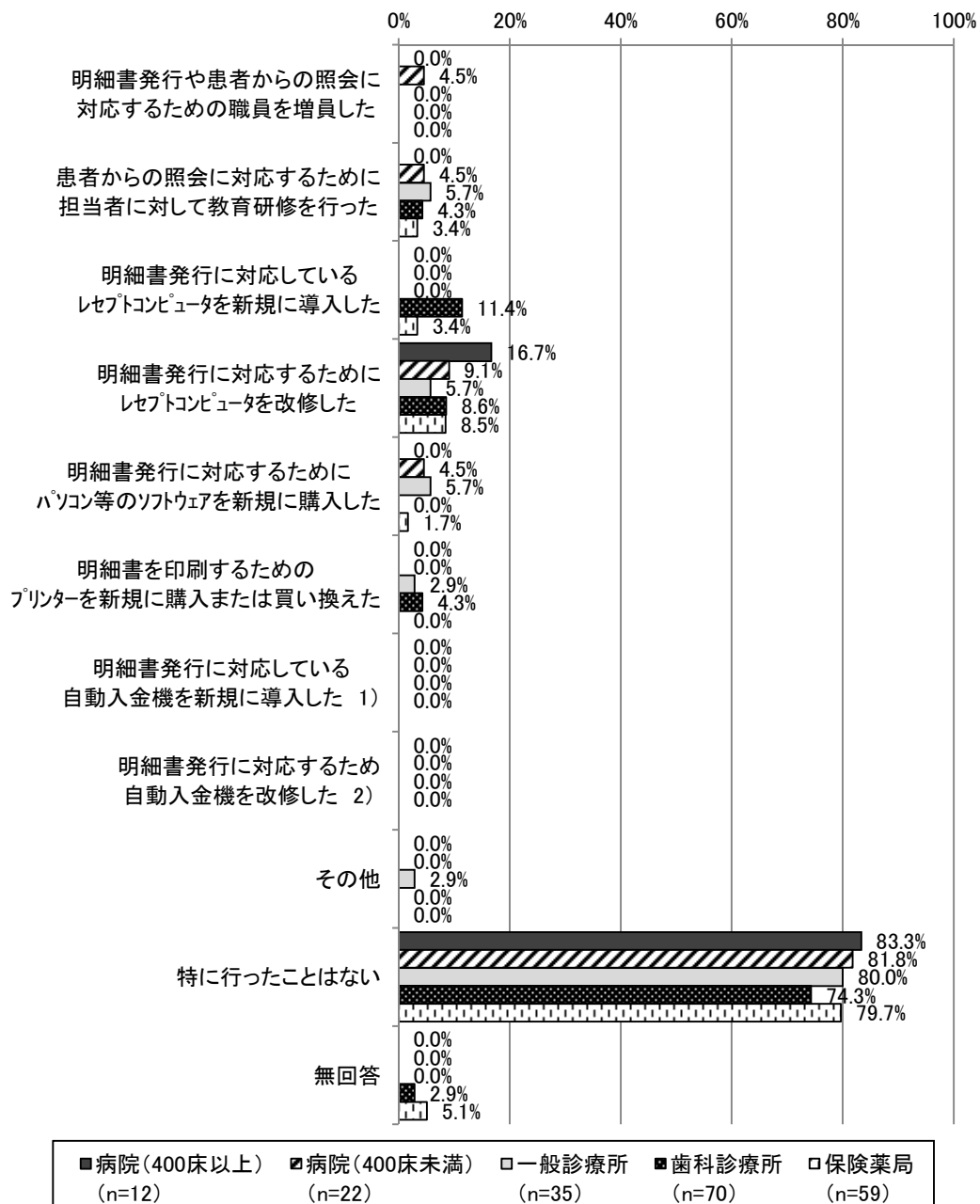
図表 93 自己負担額のない患者への明細書の発行開始時期



4) 自己負担額のない患者への明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと

自己負担額のない患者への明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設に、明細書の作成及び患者からの照会のために行ったことを尋ねたところ、いずれの施設でも「特に行ったことはない」が最も多く、7 割を超えていた。

図表 94 自己負担額のない患者への明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと
(自己負担額のない患者への明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設、複数回答)



(注) 1) 2) 保険薬局では本選択肢は設定していない。

- ・「対応するための職員を増員した」と回答した施設に、増員人数を尋ねたが記入がなかった。
- ・「その他」の内容として、一般診療所では「患者への案内」等が挙げられた。

自己負担額のない患者への明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）をみると、費用が発生した施設は、400 床未満の病院の 1 施設で 20.0 万円、歯科診療所の 1 施設で 300.0 万円、保険薬局の 1 施設で 1.0 万円であった。

図表 95 自己負担額のない患者への明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設）

	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床未満)	3	2	1	20.0	－	20.0
一般診療所	3	3	0	－	－	－
歯科診療所	9	8	1	300.0	－	300.0
保険薬局	8	7	1	1.0	－	1.0

(注)・記入があった施設を集計対象とした。

- ・総数は記入のあった施設数、「費用なし」は「0（万円）」と記入があった施設数である。
- ・400 床以上の病院については記入がなかった。

自己負担額のない患者への明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）をみると、費用が発生した施設は、歯科診療所の 7 施設で平均 212.4 万円、保険薬局の 2 施設で平均 84.0 万円であった。

図表 96 自己負担額のない患者への明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の施設）

	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床未満)	2	2	0	－	－	－
一般診療所	1	1	0	－	－	－
歯科診療所	9	2	7	212.4	97.8	225.0
保険薬局	6	4	2	84.0	93.3	84.0

(注)・記入があった施設を集計対象とした。

- ・総数は記入のあった施設数、「費用なし」は「0（万円）」と記入があった施設数である。
- ・400 床以上の病院については記入がなかった。

5) 自己負担額のない患者への明細書発行のための運用経費

平成 29 年 6 月 1 か月間における自己負担額のない患者への明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）をみると、400 床以上の病院では平均 0.7 万円、400 床未満の病院では平均 0.8 万円、一般診療所では平均 0.3 万円、歯科診療所では平均 0.2 万円、保険薬局では平均 0.2 万円であった。

図表 97 自己負担額のない患者への明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
（平成 29 年 6 月 1 か月間）

（単位：万円）

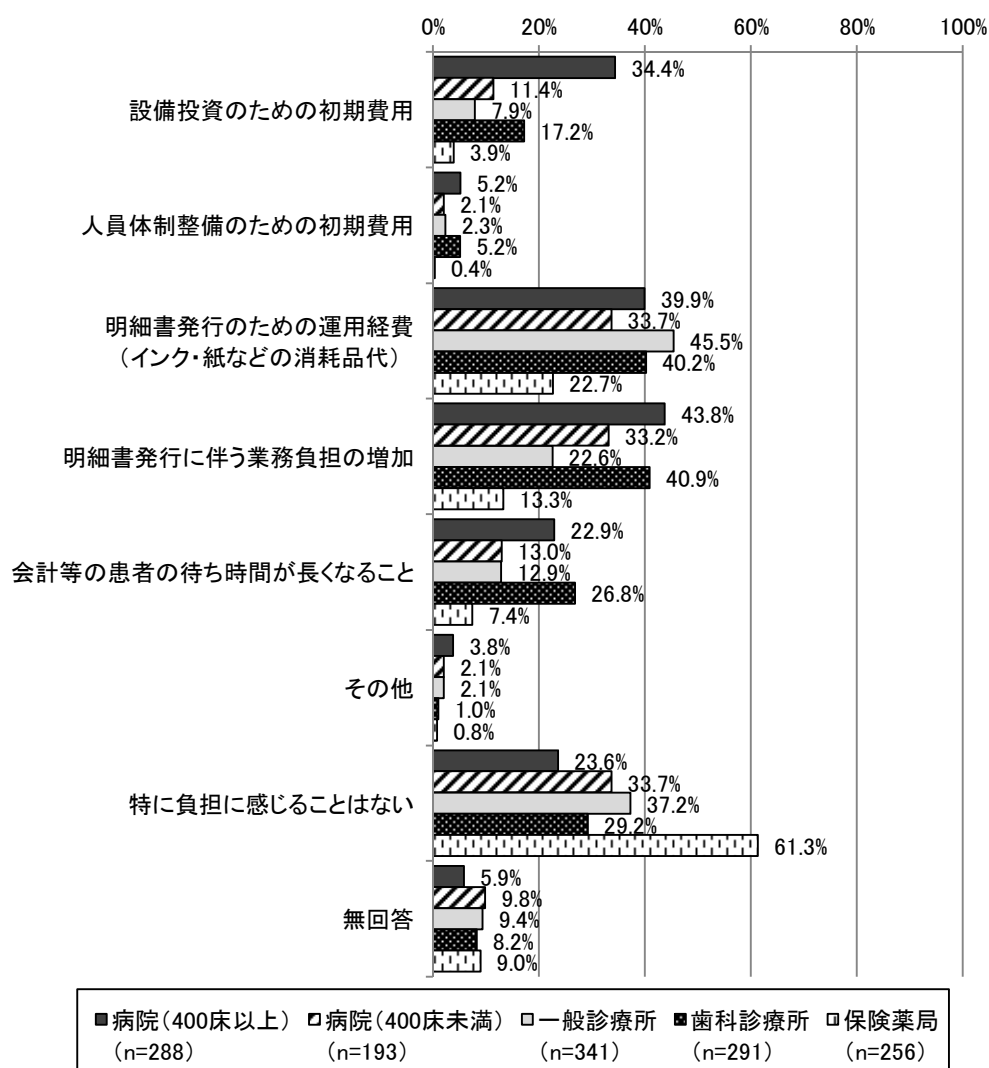
	件数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上)	27	0.7	0.8	0.7
病院(400 床未満)	22	0.8	2.1	0.0
一般診療所	67	0.3	0.7	0.0
歯科診療所	76	0.2	1.0	0.0
保険薬局	70	0.2	0.7	0.0

（注）記入のあった施設を集計対象とした。

6) 自己負担額のない患者への明細書発行体制の整備における負担

自己負担額のない患者への明細書発行体制の整備における負担をみると、400床以上の病院と歯科診療所では「明細書発行に伴う業務負担の増加」(それぞれ43.8%、40.9%)が最も多かった。400床未満の病院では「明細書発行のための運用経費(インク・紙などの消耗品代)」と「特に負担に感じることはない」がそれぞれ33.7%で最も多く、次いで「明細書発行に伴う業務負担の増加」(33.2%)であった。一般診療所では「明細書発行のための運用経費(インク・紙などの消耗品代)」が45.5%で最も多かった。保険薬局では「特に負担に感じることはない」が61.3%で最も多かった。

図表 98 自己負担額のない患者への明細書発行体制の整備における負担(複数回答)



(注)「その他」の内容として、以下の内容が挙げられた。

病院：「自動入金機の更新まで明細書発行機を設置」、「患者からの照会等のための院内の対応体制の整備」、「作成しても捨てる患者がいる」、「個人情報取り扱いのリスク」、「郵送料」等

一般診療所：「パソコンの設定」、「プリンターのメンテナンス」等

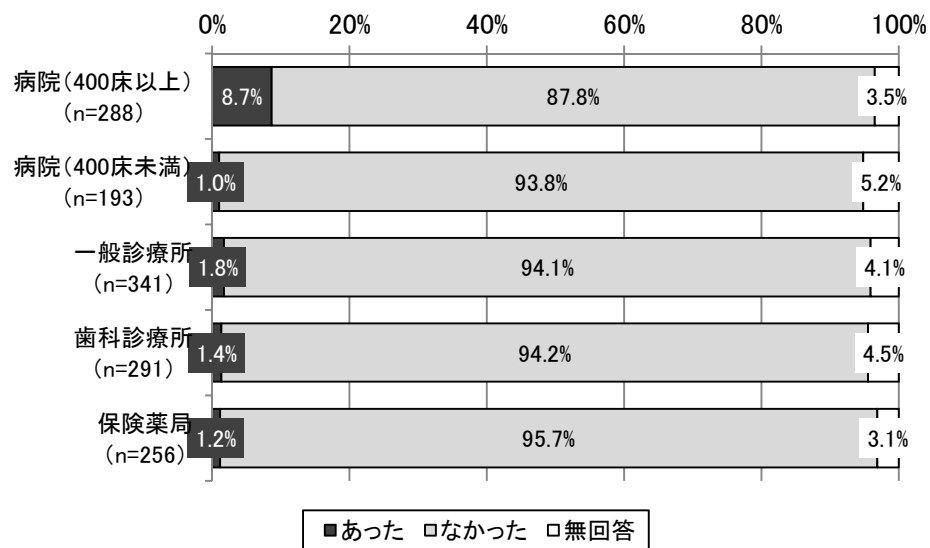
歯科診療所：「明細書を捨てる患者に対する精神的負担」等

④自己負担額のない患者への明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等

1) 自己負担額のない患者からの明細書に関する問合せの有無

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間ににおける自己負担額のない患者からの明細書の発行に関する問合せの有無を尋ねたところ、問合せが「あった」のは、400 床以上の病院では 8.7%、400 床未満の病院では 1.0%、一般診療所では 1.8%、歯科診療所では 1.4%、保険薬局では 1.2%であった。

図表 99 自己負担額のない患者からの明細書の発行に関する問合せの有無
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間)



(注) 平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の期間で、自己負担額のない患者からの明細書の発行（発行の可否や手数料等）についての問い合わせの有無について尋ねている。

図表 100 明細書の発行に関する問合せを受けた延べ患者数（自己負担額のない患者）
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、発行に関する問合せがあった施設)

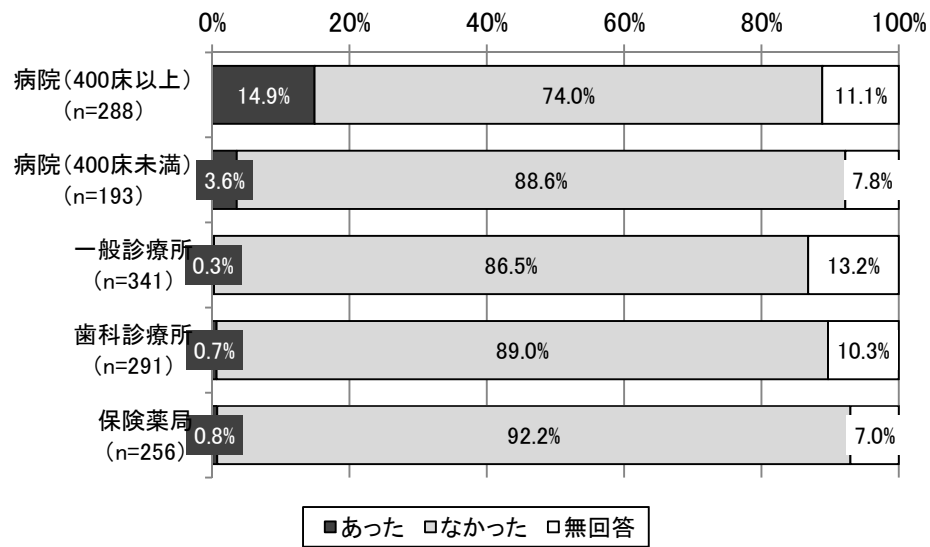
(単位：人)

	施設数(か所)	平均値	標準偏差	中央値
病院(400 床以上)	10	4.0	3.9	2.0
病院(400 床未満)	1	1.0	–	1.0
一般診療所	4	1.5	1.0	1.0
歯科診療所	2	1.5	0.7	1.5
保険薬局	2	2.0	1.4	2.0

(注) 記入のあった施設を集計対象とした。

平成 29 年 6 月 1 か月間における自己負担額のない患者からの明細書の内容に関する問合せの有無を尋ねたところ、問合せが「あった」のは、400 床以上の病院では 14.9%、400 床未満の病院では 3.6%、一般診療所では 0.3%、歯科診療所では 0.7%、保険薬局では 0.8%であった。

図表 101 自己負担額のない患者からの明細書の内容に関する問合せの有無
(平成 29 年 6 月 1 か月間)

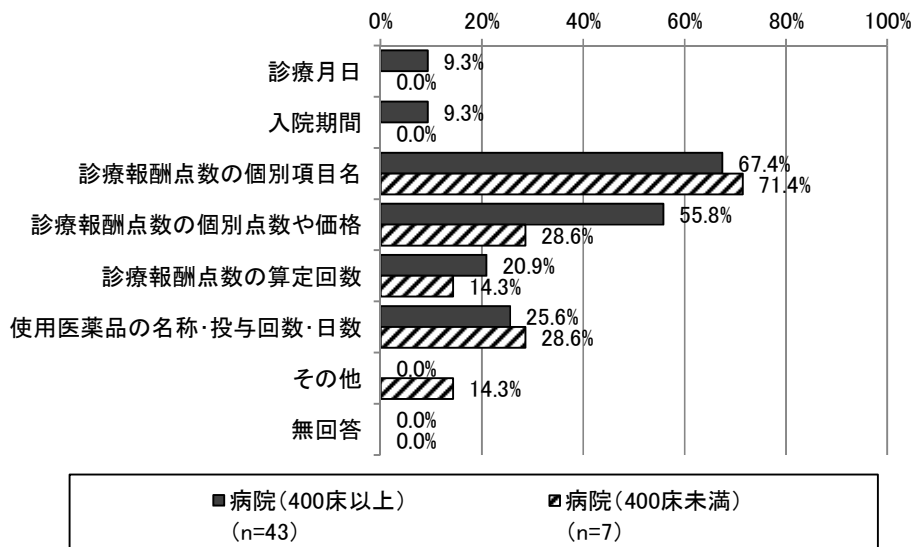


2) 自己負担額のない患者からの明細書に関する問合せ項目

【病院】

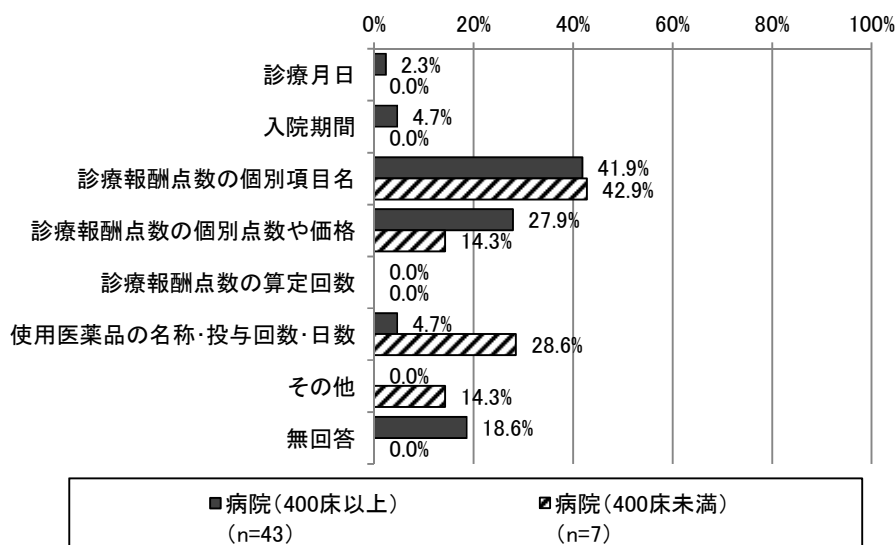
自己負担額のない患者からの明細書に関する問合せ項目を尋みると、400 床以上の病院、400 床未満の病院いずれも「診療報酬点数の個別項目名」（それぞれ 67.4%、71.4%）が最も多かった。また、問合せが最も多い項目についても、400 床以上の病院、400 床未満の病院いずれも「診療報酬点数の個別項目名」が最も多かった。

図表 102 病院における自己負担額のない患者からの明細書に関する問合せ項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、内容に関する問合せがあった施設、複数回答)



(注)「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。

図表 103 病院における自己負担額のない患者からの明細書に関する問合せが最も多い項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、内容に関する問合せがあった施設、単数回答)



(注)「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。

【一般診療所】

図表 104 一般診療所における自己負担額のない患者からの
明細書に関する問合せ項目、問合せが最も多い項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、内容に関する問合せがあった施設)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	診療月日	入院期間	診療報酬 点数の個 別項目名	診療報酬 点数の 個別点数 や価格	診療報酬 点数の 算定回数	使用医薬 品の名称・ 投与回数・ 日数	その他
問合せ項目 (複数回答、n=1)	0	0	0	0	0	0	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
問合せが最も多い項 目(単数回答、n=1)	0	0	0	0	0	0	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(注)・「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。

・「その他」の内容として、「発行の可否」が挙げられた。

【歯科診療所】

図表 105 歯科診療所における自己負担額のない患者からの
明細書に関する問合せ項目、問合せが最も多い項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、内容に関する問合せがあった施設)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	診療月日	診療報酬 点数の個 別項目名	診療報酬 点数の 個別点数 や価格	診療報酬 点数の 算定回数	使用医薬品 の名称・投与 回数・日数	その他
問合せ項目 (複数回答、n=2)	0	2	1	0	0	0
	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
問合せが最も多い項 目(単数回答、n=2)	0	2	0	0	0	0
	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注)「診療報酬点数の個別項目名」には処置・検査名を含める。

【保険薬局】

図表 106 保険薬局における自己負担額のない患者からの
明細書に関する問合せ項目、問合せが最も多い項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、内容に関する問合せがあった施設)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	調剤日	調剤 基本料	調剤料	薬学 管理料	薬剤料	その他
問合せ項目 (複数回答、n=2)	0	2	0	0	1	0
	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0
問合せが最も多い項目 (単数回答、n=2)	0	1	0	0	1	0
	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

(注)「調剤基本料」、「調剤料」、「薬剤管理料」には加算を含める。

3. 訪問看護ステーション調査の結果

【調査対象等】

○訪問看護ステーション調査

調査対象：全国の訪問看護ステーションの中から無作為に抽出した 500 事業所

回 答 数：298 事業所

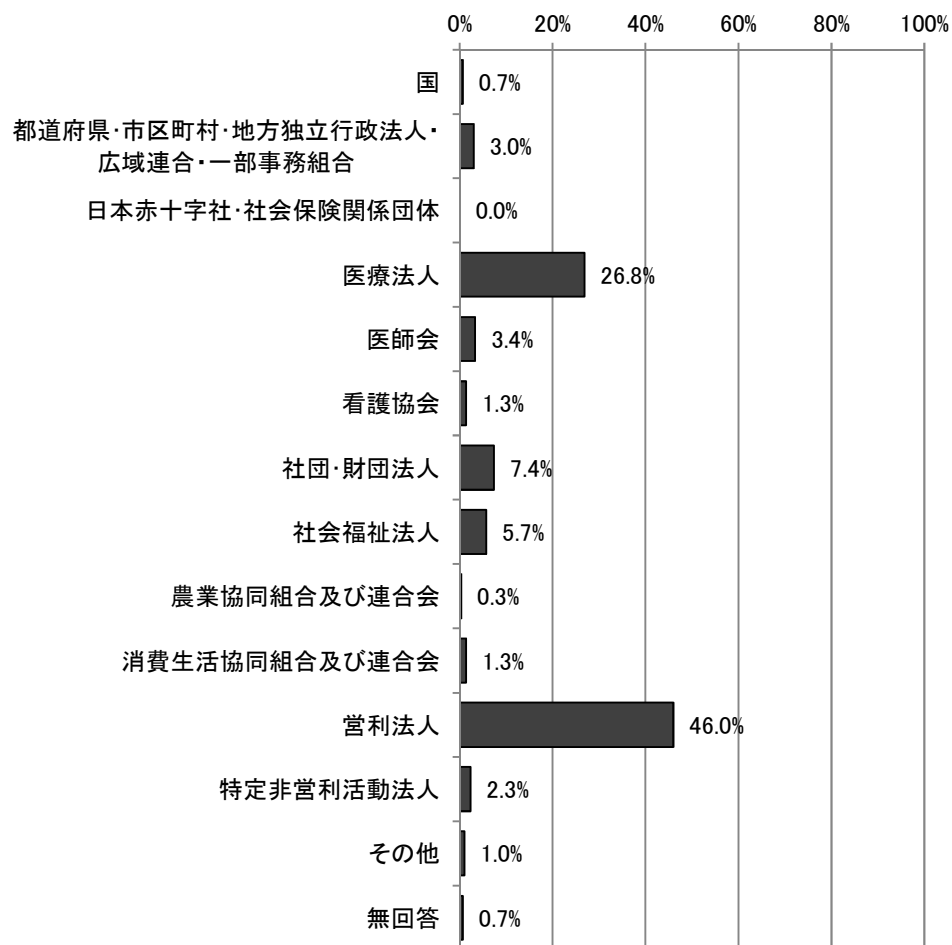
回 答 者：管理者

(1) 事業所の基本情報

①開設者

開設者をみると、「営利法人」が 46.0%で最も多く、次いで「医療法人」(26.8%)であった。

図表 107 開設者（単数回答、n=298）

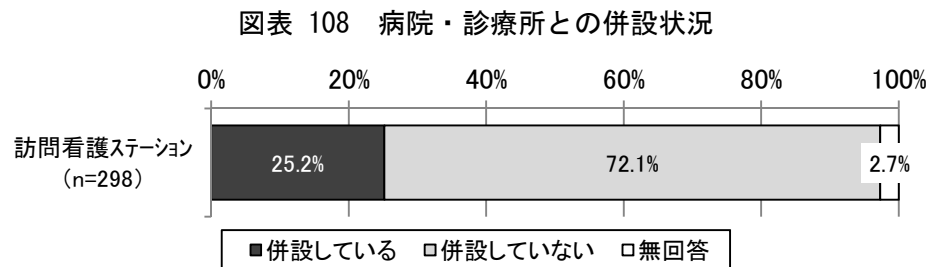


(注)・「社団・財団法人」には医師会と看護協会は含めない。

・「社会福祉法人」には社会福祉協議会を含める。

②病院・診療所との併設状況

病院・診療所との併設状況を見ると、「併設している」が 25.2%、「併設していない」が 72.1%であった。



③訪問看護の実利用者数（保険種別）

平成 29 年 6 月 1 か月間の訪問看護の実利用者数を保険種別にみると、医療保険の利用者数は平均 21.0 人、介護保険の利用者数は平均 50.5 人であった。

図表 109 訪問看護の実利用者数（保険種別、平成 29 年 6 月 1 か月間、n=286）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医療保険の利用者数	21.0	27.2	15.0
介護保険の利用者数	50.5	46.3	40.0

（注）医療保険と介護保険の両方の項目について記入のあった事業所を集計対象とした。

④職員数

図表 110 職員数（平成 29 年 6 月末時点、常勤換算、n=290）

（単位：人）

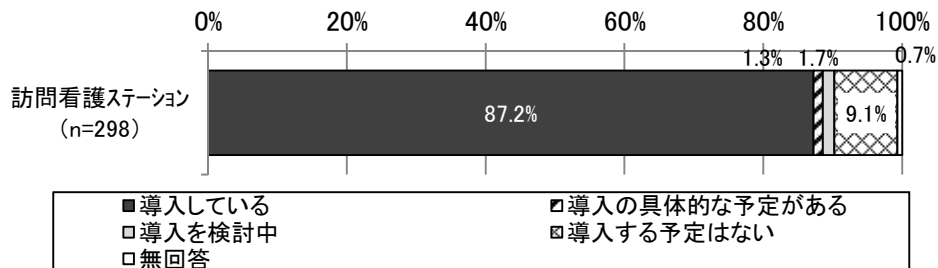
	平均値	標準偏差	中央値
看護職員	5.2	3.5	4.2
事務職員	0.6	0.6	0.5
その他職員	1.3	2.3	0.1
合計	7.1	4.9	5.8

（注）全ての項目に記入のあった事業所を集計対象とした。

⑤レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況

レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況をみると、「導入している」が87.2%で最も多く、次いで「導入する予定はない」が9.1%であった。

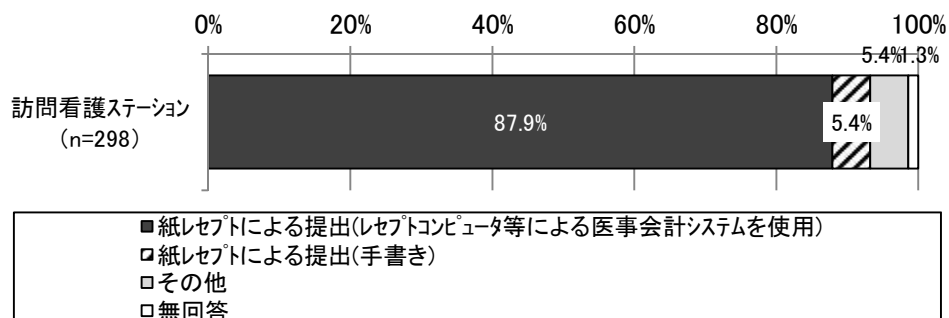
図表 111 レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況



⑥レセプト請求方法

レセプトの請求方法をみると、「紙レセプトによる提出（レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用）」が87.9%で最も多かった。

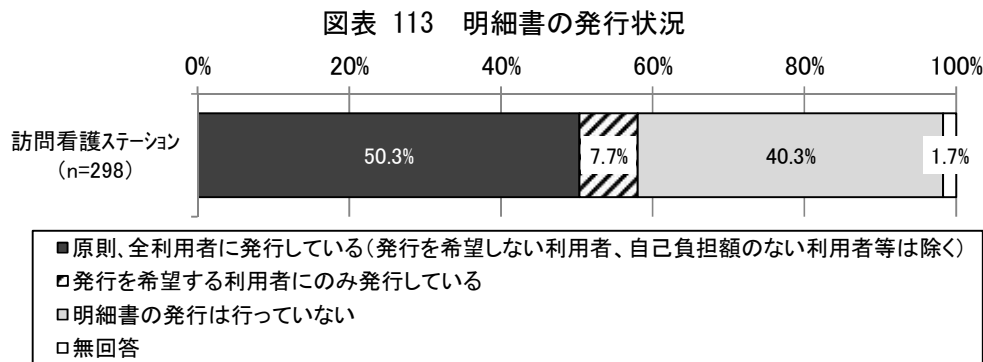
図表 112 レセプト請求方法（訪問看護ステーション）



(注)「その他」の内容として、「CD-R」、「エクセルによる請求書を提出」が挙げられた。

(2) 明細書の発行状況

明細書の発行状況をみると、「原則、全利用者に発行している（発行を希望しない利用者、自己負担額のない利用者等は除く）」が 50.3%で最も多く、次いで「明細書の発行は行っていない」が 40.3%であった。



(3) 明細書発行事業所における明細書の発行状況・体制等

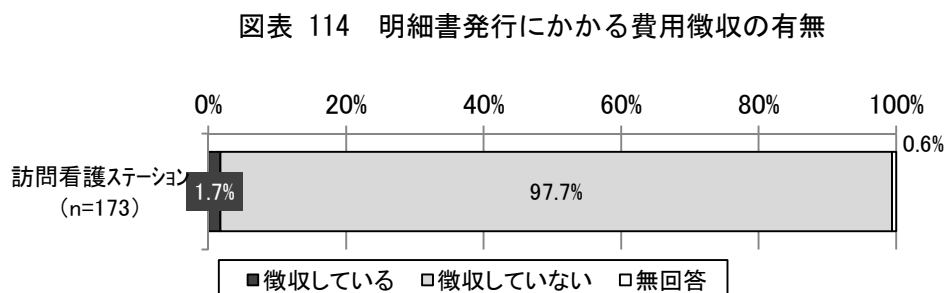
明細書発行事業所は、明細書の発行状況において「原則、全利用者に発行している（発行を希望しない利用者、自己負担額のない利用者等は除く）」又は「発行を希望する利用者にのみ発行している」と回答した事業所とした。

①明細書発行事業所における明細書の発行状況

1) 明細書の発行にかかる費用徴収の有無

明細書発行にかかる費用徴収の有無をみると、「徴収している」は 1.7%であった。

費用を徴収している事業所に明細書発行にかかる 1 件当たりの費用徴収額を尋ねたところ、50.0 円であった。



図表 115 明細書発行にかかる1件当たりの徴収金額
(費用を徴収している事業所)

(単位：円)

	平均値	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション(n=1)	50.0	-	50.0

(注)・記入のあった事業所を集計対象とした。

・算出根拠は「用紙、コピー等の費用として」であった。

2) 明細書の発行状況

平成 29 年 6 月 1 か月間の明細書を発行した利用者数についてみると、無料で発行した利用者数は平均 13.5 人、有料で発行した利用者数は平均 0.0 人であった。

図表 116 明細書を発行した利用者数(平成 29 年 6 月 1 か月間、n=135)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
無料で発行した利用者数	13.5	24.1	8.0
有料で発行した利用者数	0.0	-	0.0

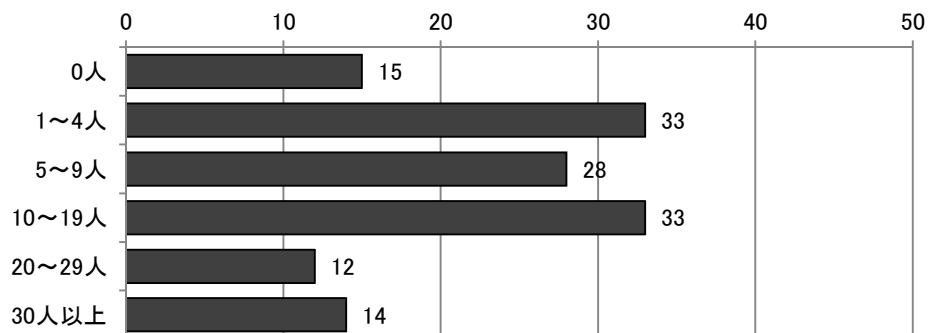
(注)・自己負担額のない利用者への発行も含める。

・明細書発行利用者数について全項目で記入のあった事業所を集計対象とした。

図表 117 明細書を発行した利用者数の事業所分布

(平成 29 年 6 月 1 か月間、n=135)

(単位：事業所)

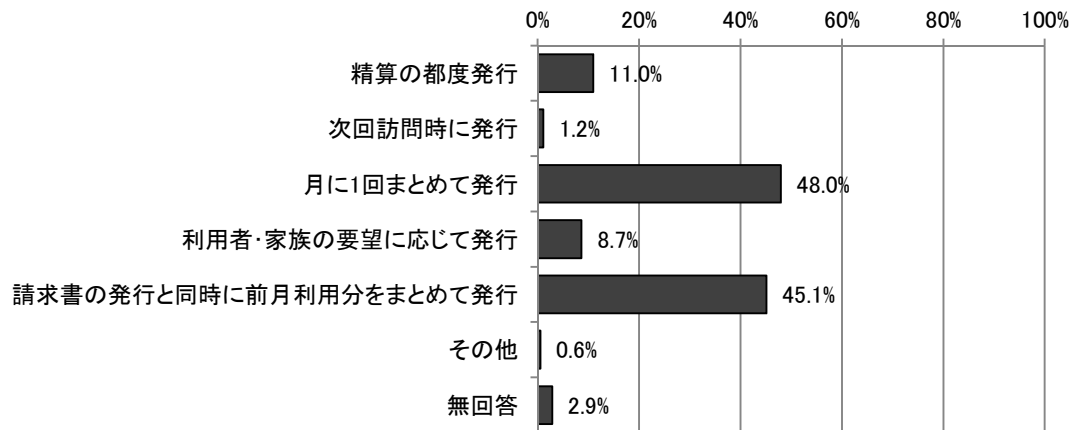


(注) 明細書発行利用者数について全項目で記入のあった事業所を集計対象とした。

3) 明細書発行のタイミング

明細書を発行するタイミング（頻度）をみると、「月に1回まとめて発行」が48.0%で最も多く、次いで「請求書の発行と同時に前月利用分をまとめて発行」（45.1%）であった。

図表 118 明細書を発行するタイミング（頻度）（複数回答、n=173）



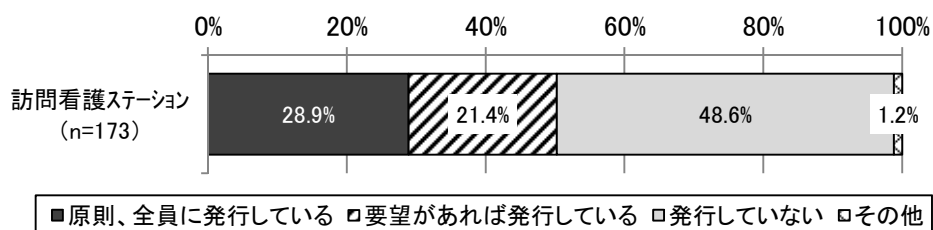
（注）「その他」の内容として、「発行月でまとめて訪問時にお渡し」が挙げられた。

4) 自己負担額のない利用者への明細書の発行状況

自己負担額のない利用者への明細書の発行状況をみると、「発行していない」が48.6%で最も多く、次いで「原則、全員に発行している」（28.9%）、「要望があれば発行している」（21.4%）であった。

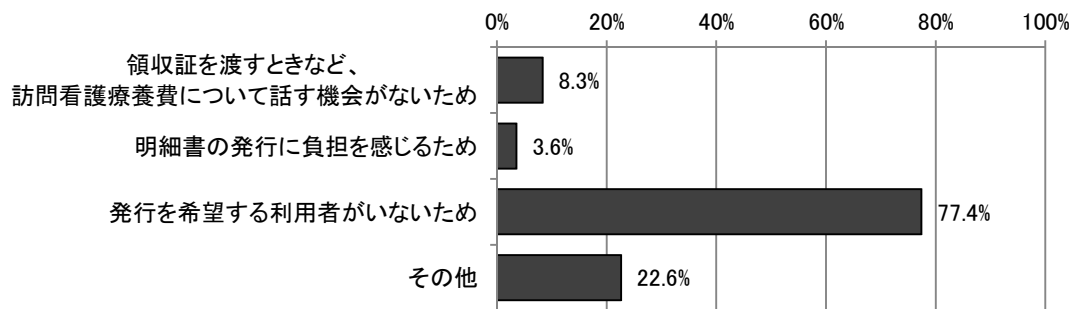
自己負担額のない利用者へ明細書を発行していない理由をみると、「発行を希望する利用者がいないため」が77.4%で最も多かった。

図表 119 自己負担額のない利用者への明細書の発行状況



（注）「その他」の内容として、「発行対象がいない」等が挙げられた。

図表 120 自己負担額のない利用者に明細書を発行していない理由
(自己負担額のない利用者に明細書を発行していない事業所、複数回答、n=84)



(注) 「その他」の内容として、「自己負担額がないとソフトで明細書が発行できない」、「システム上発行できない」等が挙げられた。

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間において、自己負担額のない利用者への明細書の発行状況をみると、自己負担額のない延べ利用者数は平均 8.9 人、このうち無料で発行した利用者数は平均 2.5 人、有料で発行した利用者数は平均 0.0 人であった。

図表 121 自己負担額のない利用者への明細書の発行状況
(平成 29 年 7 月 24 日～8 月 6 日の 2 週間、n=133)

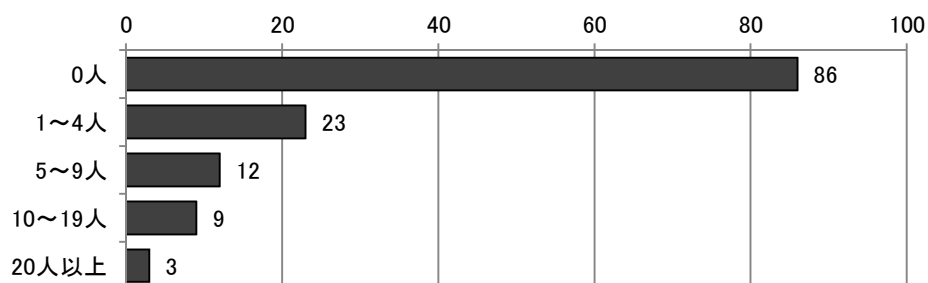
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
自己負担額のない延べ利用者数	8.9	13.9	5.0
うち、無料で発行した利用者数	2.5	5.1	0.0
うち、有料で発行した利用者数	0.0	–	0.0

(注) 自己負担額のない利用者への明細書発行について全項目で記入のあった事業所を集計対象とした。

図表 122 明細書を無料発行した利用者数（自己負担額のない利用者）の事業所分布
(n=133)

(単位：事業所)



(注) 自己負担額のない利用者への明細書発行状況について全項目で記入のあった事業所を集計対象とした。

図表 123 自己負担額のない利用者への明細書発行に関する意見（自由記述式）

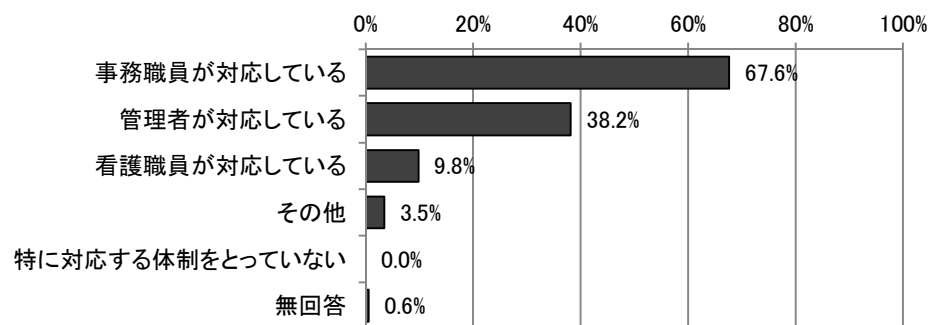
- ・ 利用者を利用金額を認識してもらう意味でも発行をした方が良い。
- ・ レセプトコンピュータで明細書が出せるようになれば発行する。
- ・ 事業者における任意での発行や、利用者からの求めに応じての発行で良い。
- ・ 現在発行しているが、本人が不要としていて発行の義務もないので発行をやめたいと考えている。
- ・ 使用しているソフトでは自己負担額がない場合、明細書が発行できない。
- ・ 発行は必要ないと思う。
- ・ 明細書を発行すると、費用を支払わなければならないのかと利用者が誤解する。
- ・ 利用者から邪魔になると言われる。
- ・ ソフトによっては領収証も発行が難しい場合があり、明細書の作成には時間的に負担がかかる。 /等

②明細書発行事業所における発行体制・体制整備等

1) 明細書の作成・発行体制

明細書の作成・発行体制をみると、「事務職員が対応している」が67.6%で最も多く、次いで「管理者が対応している」が38.2%であった。

図表 124 明細書の作成・発行体制（複数回答、n=173）

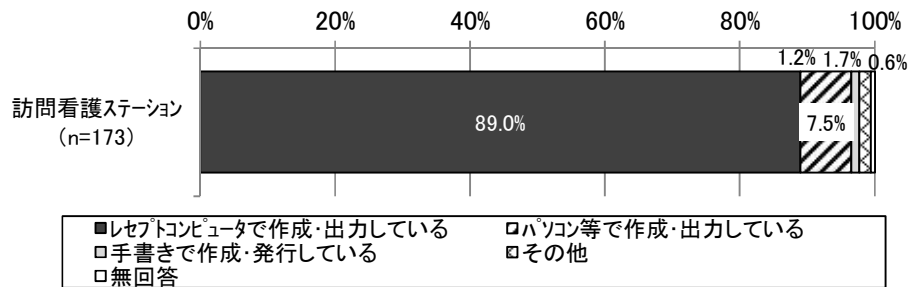


（注）「その他」の内容として、「併設している病院の事務スタッフ」、「理学療法士」、「本部がまとめて対応」等が挙げられた。

2) 明細書の作成・発行方法

明細書の作成・発行方法をみると、「レセプトコンピュータで作成・出力している」が 89.0%で最も多かった。

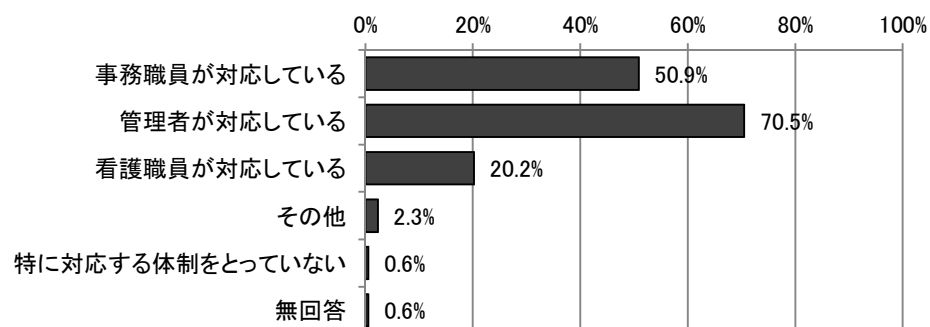
図表 125 明細書の作成・発行方法



3) 明細書の内容等の問合せに対する対応体制

明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、「管理者が対応している」が 70.5%で最も多く、次いで「事務職員が対応している」が 50.9%であった。

図表 126 明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答、n=173）

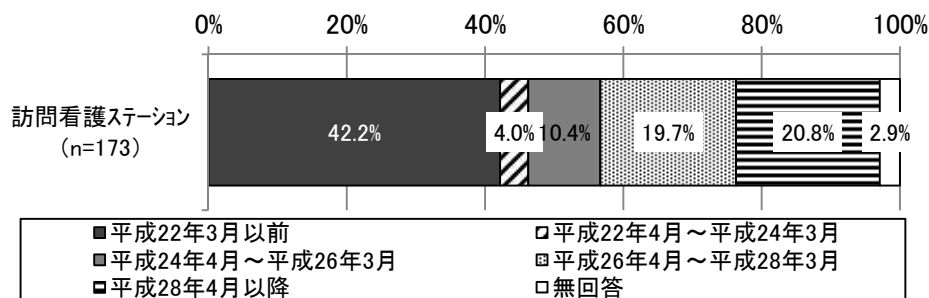


(注)「その他」の内容として、「ケアマネジャー」、「利用者の担当職員」、「併設の病院スタッフに依頼」等が挙げられた。

4) 明細書の発行開始時期

明細書の発行開始時期についてみると、「平成 22 年 3 月以前」が 42.2%で最も多く、次いで「平成 28 年 4 月以降」が 20.8%であった。

図表 127 明細書の発行開始時期

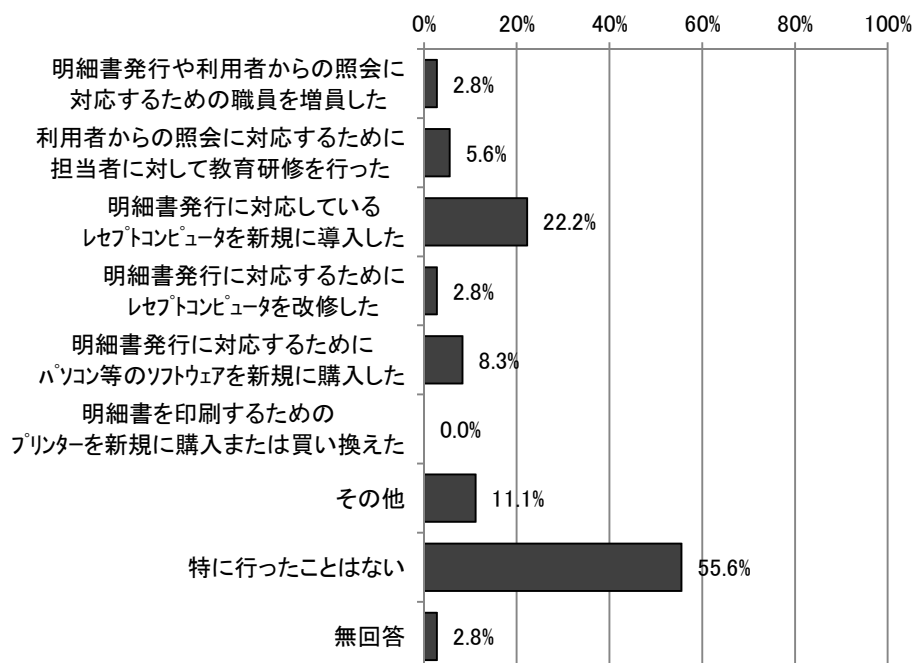


5) 明細書の作成及び利用者からの照会のために行ったこと

明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の事業所に、明細書の作成及び利用者からの照会のために行ったことを尋ねたところ、「特に行ったことはない」が 55.6%で最も多かった。

図表 128 明細書の作成及び利用者からの照会のために行ったこと

(明細書の発行開始時期が平成 28 年 4 月以降の事業所、複数回答、n=36)



(注) 「対応するための職員を増員した」と回答した事業所に増員人数を尋ねたところ、「1 人」(1 件)であった。

明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）をみると、費用が発生した事業所は2事業所で平均40.0万円であった。

図表 129 明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成28年4月以降の事業所）

	事業所数(か所)			費用ありの事業所における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	11	9	2	40.0	14.1	40.0

(注)・記入があった事業所を集計対象とした。

・総数は記入のあった事業所数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった事業所数である。

明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）をみると、費用が発生した事業所は9事業所で平均150.7万円であった。

図表 130 明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成28年4月以降の事業所）

	事業所数(か所)			費用ありの事業所における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	12	3	9	150.7	132.0	162.0

(注)・記入があった事業所を集計対象とした。

・総数は記入のあった事業所数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった事業所数である。

6) 明細書発行のための運用経費

平成29年6月1か月間における明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）をみると、平均0.3万円であった。

図表 131 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
（平成29年6月1か月間）

（単位：万円）

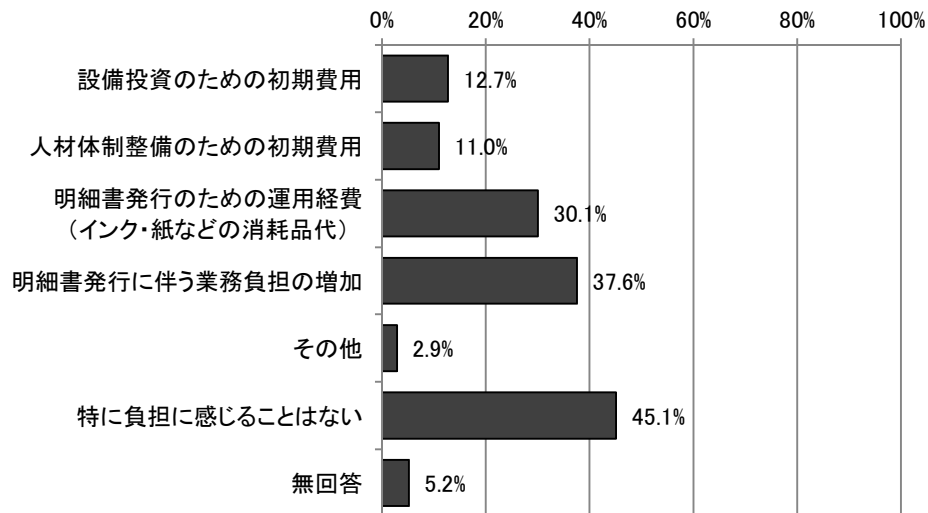
	件数(件)	平均値	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	33	0.3	0.5	0.0

(注) 記入のあった事業所を集計対象とした。

7) 明細書発行体制の整備における負担

明細書発行体制の整備における負担をみると、「特に負担に感じることはない」が45.1%で最も多く、次いで「明細書発行に伴う業務負担の増加」が37.6%であった。

図表 132 明細書発行体制の整備における負担（複数回答、n=173）



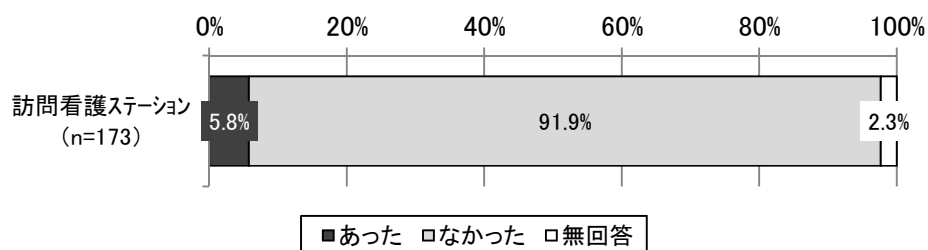
(注)「その他」として、「訪問が終了した場合の訪問先に届ける手段」、「控えを保管する書庫の限界」、「システム変更」、「利用者への説明」等が挙げられた。

③明細書発行事業所における明細書に関する利用者の反応等

1) 明細書の内容に関する問合せの有無

平成29年6月1か月間における明細書の内容に関する問合せの有無を尋ねたところ、問合せが「あった」のは5.8%であった。

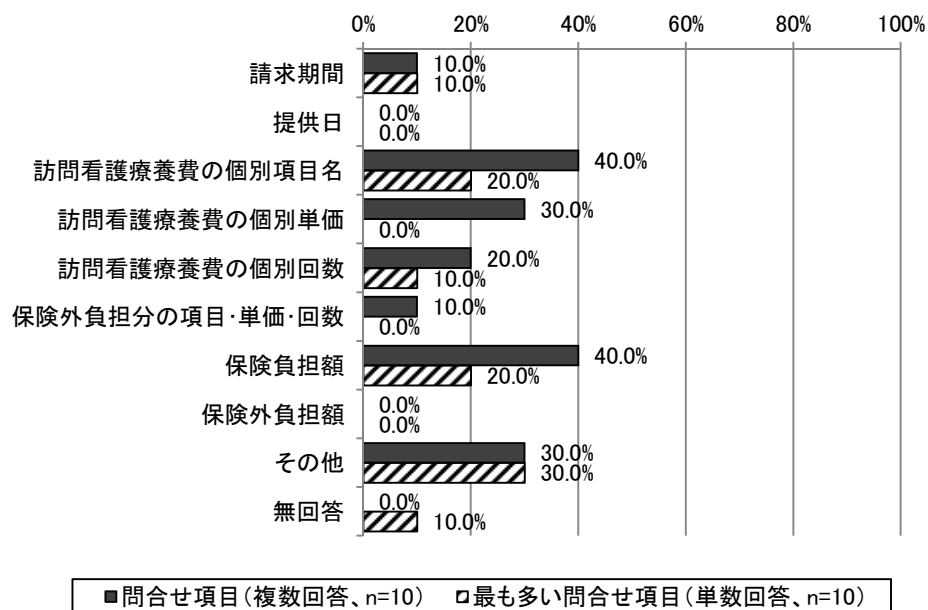
図表 133 明細書の内容に関する問合せの有無（平成29年6月1か月間）



2) 明細書に関する問合せ項目

問合せのあった事業所に明細書に関する問合せ項目を尋ねたところ、「訪問看護療養費の個別項目名」と「保険負担額」がそれぞれ 40.0%で最も多かった。

図表 134 明細書に関する問合せ項目、最も多い問合せ項目
(平成 29 年 6 月 1 か月間、問合せのあった事業所)



(注)「その他」の内容として、「支払方法の確認」、「医療費控除について」等が挙げられた。

(4) 全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所の状況

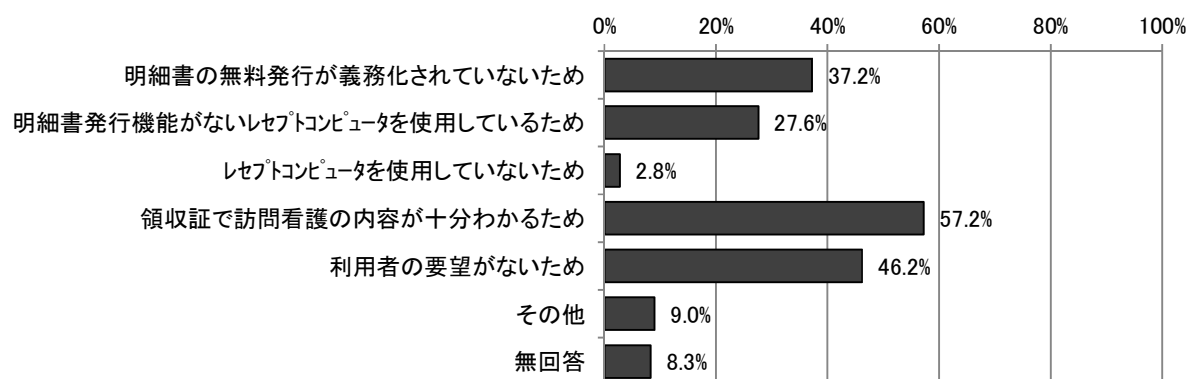
以下の事業所を全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所とした。

- 明細書の発行状況において「発行を希望する利用者によりのみ発行している」又は「明細書の発行は行っていない」と回答した事業所
- 明細書の発行状況において「原則、全利用者に発行している（発行を希望しない利用者、自己負担額のない利用者等は除く）」と回答し、明細書発行にかかる費用徴収の有無で「徴収している」と回答した事業所

①全利用者に明細書の無料発行を行っていない理由

全利用者に明細書の無料発行を行っていない理由をみると、「領収証で訪問看護の内容が十分わかるため」が 57.2%で最も多く、次いで「利用者の要望がないため」が 46.2%であった。

図表 135 全利用者に明細書の無料発行を行っていない理由
(全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所、複数回答、n=145)



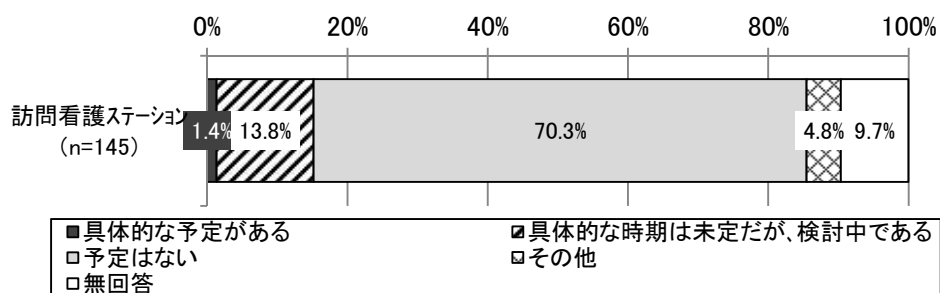
(注)「その他」の内容として、「定額（月 1 回の訪問）のため」、「請求のない利用者の明細書は発行できない」、「事務量削減」、「領収証兼明細書として発行」、「紙が多くて管理できない利用者が多く、困らせることになる」等が挙げられた。

②全利用者への明細書無料発行体制の整備予定

全利用者への明細書無料発行体制の整備予定をみると、「予定はない」が70.3%で最も多かった。

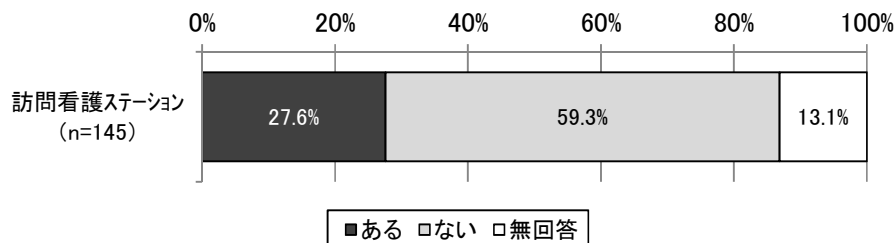
全利用者への明細書を無料発行する場合に困ることの有無をみると、「ある」が27.6%、「ない」が59.3%であった。

図表 136 全利用者への明細書無料発行体制の整備予定
(全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所)



(注)・「具体的な予定がある」と回答した事業所に無料発行予定時期を尋ねたところ、「平成29年7月頃」(1件)、「平成29年9月頃」(1件)であった。
・「その他」の内容として、「希望があれば無料発行する」、「義務化されたらシステム変更する」、「わからない」等が挙げられた。

図表 137 全利用者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無
(全利用者に明細書の無料発行を行っていない事業所)



図表 138 全利用者に明細書を無料発行する場合に困ることの内容 (自由記述式)
(全利用者に明細書を無料発行する場合に困る事業所)

- ・ システムが明細書発行に非対応であり、プリンターも別途購入等が必要となる。
- ・ システムの更新で対応可能かがわからない。
- ・ ランニングコストがかかる。請求書と領収証に同じ内容が載っているため、利用者に「いらない」と言われる可能性の方が高い。
- ・ 請求書と領収証に明細があり、手間や用紙代が負担に感じる。利用者には複数の事業所から様々な書類が送付されており、管理できていないのが現実。 / 等

4. 患者調査

【調査対象等】

○病院（入院）患者調査

調査対象：調査期間中に「病院調査」の対象施設を退院し、会計窓口に立ち寄った入院患者（1施設につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：435人

○病院（外来）患者調査

調査対象：調査期間中に「病院調査」の対象施設の会計窓口に立ち寄った外来患者（1施設につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：561人

○一般診療所患者調査

調査対象：調査期間中に「一般診療所調査」の対象施設の会計窓口に立ち寄った患者（1施設につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：486人

○歯科診療所患者調査

調査対象：調査期間中に「歯科診療所調査」の対象施設の会計窓口に立ち寄った患者（1施設につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：452人

○保険薬局患者調査

調査対象：調査期間中に「保険薬局調査」の対象施設に院外処方せんを持って来局し、会計窓口に立ち寄った患者（1施設につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：321人

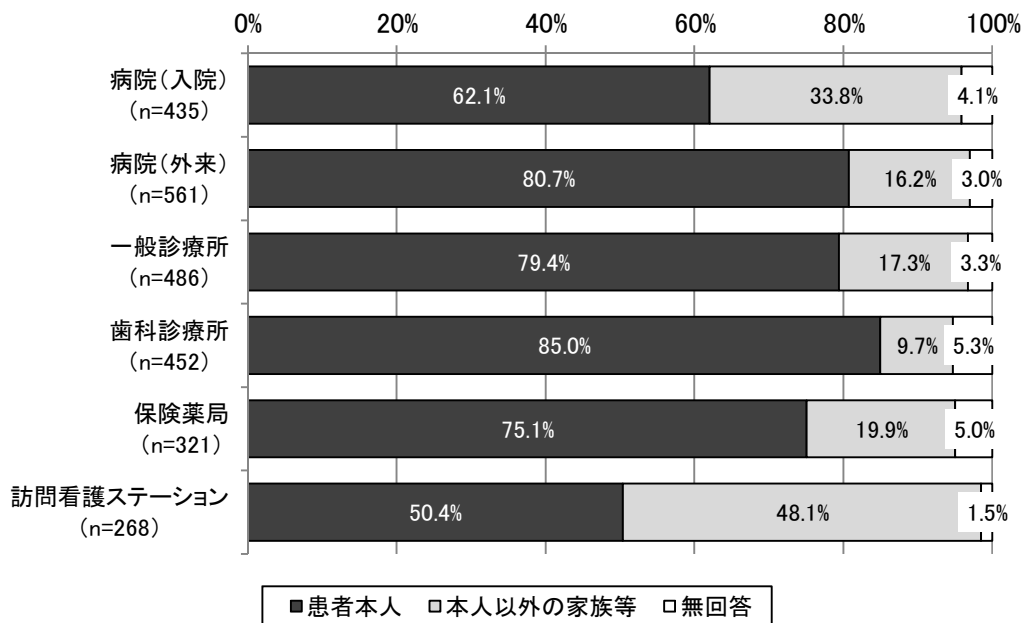
○訪問看護ステーション利用者調査

調査対象：「訪問看護ステーション調査」の対象事業所の訪問看護（医療保険）を1か月以上利用し、かつ調査期間中も利用のあった利用者（1事業所につき、自己負担額の有無別に1名ずつの最大2名）

回答数：268人

(O) 記入者の属性

図表 139 記入者



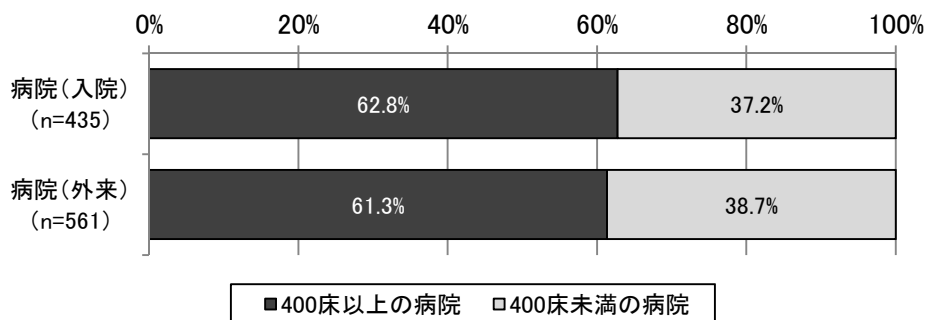
(注) 訪問看護ステーションでは「利用者本人」。

(1) 患者・利用者の属性等

①入院・外来受診した病院の規模（病院（入院）患者、病院（外来）患者）

患者が入院・外来受診した病院の規模をみると、病院（入院）では「400 床以上の病院」が 62.8%、「400 床未満の病院」が 37.2%であった。病院（外来）では「400 床以上の病院」が 61.3%、「400 床未満の病院」が 38.7%であった。

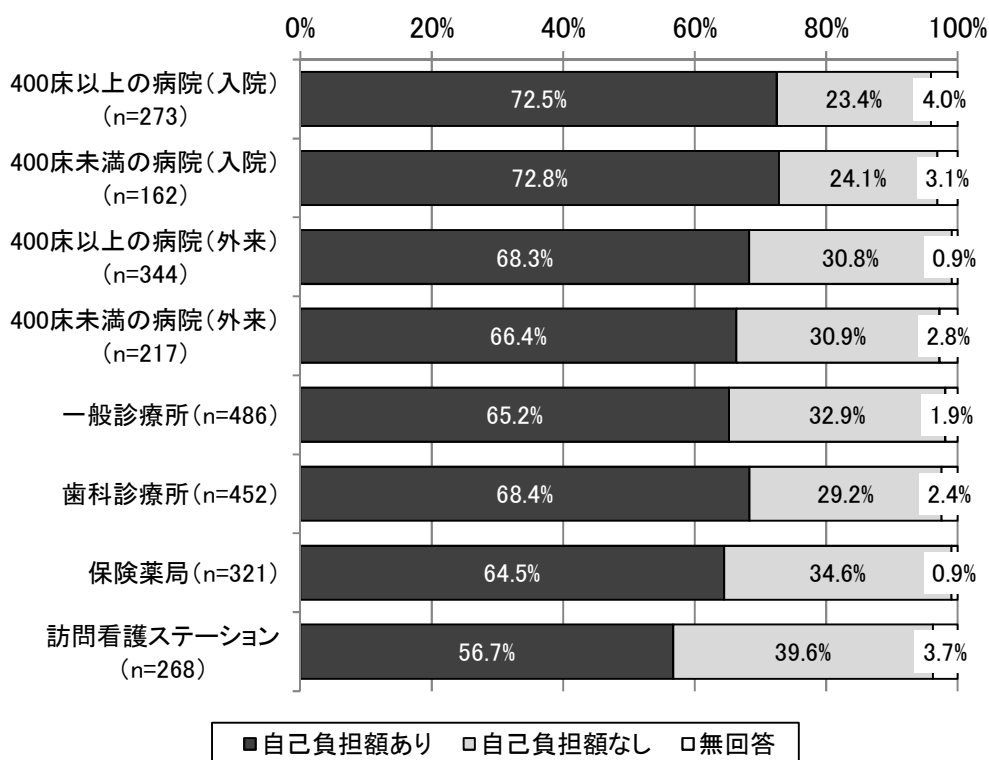
図表 140 入院・外来受診した病院の規模
（病院（入院）患者、病院（外来）患者）



②自己負担額の有無

自己負担額の有無をみると、訪問看護ステーション以外の施設では「自己負担額あり」が6割を超えていた。訪問看護ステーションでは「自己負担額あり」が56.7%であった。

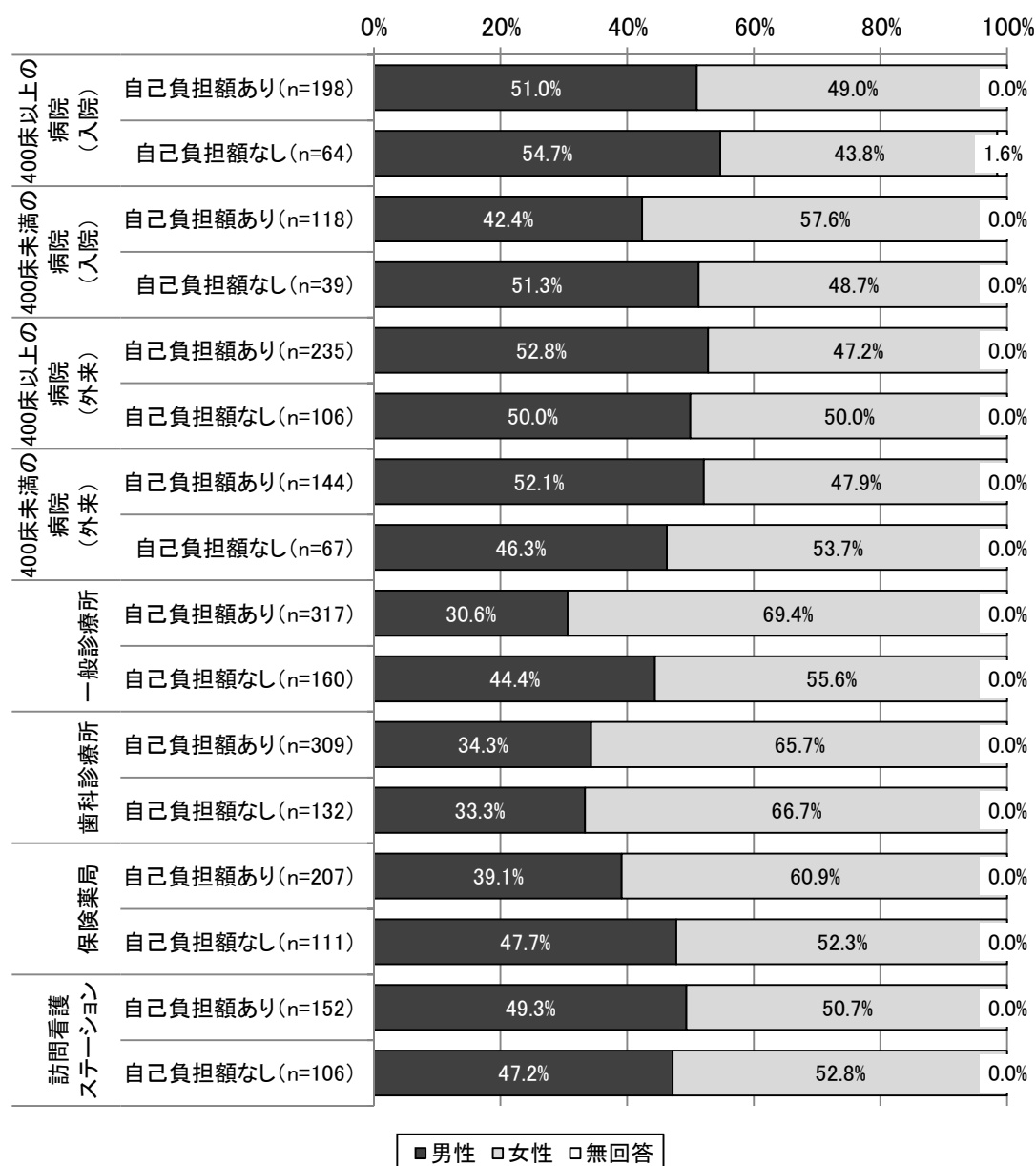
図表 141 自己負担額の有無



以下、患者調査については、自己負担額の有無別に分析を行った。なお、病院（入院）患者調査と病院（外来）患者調査の結果については、400床以上の病院と400床未満の病院別に分析を行った。

③患者・利用者の性別

図表 142 患者・利用者の性別



④患者・利用者の年齢

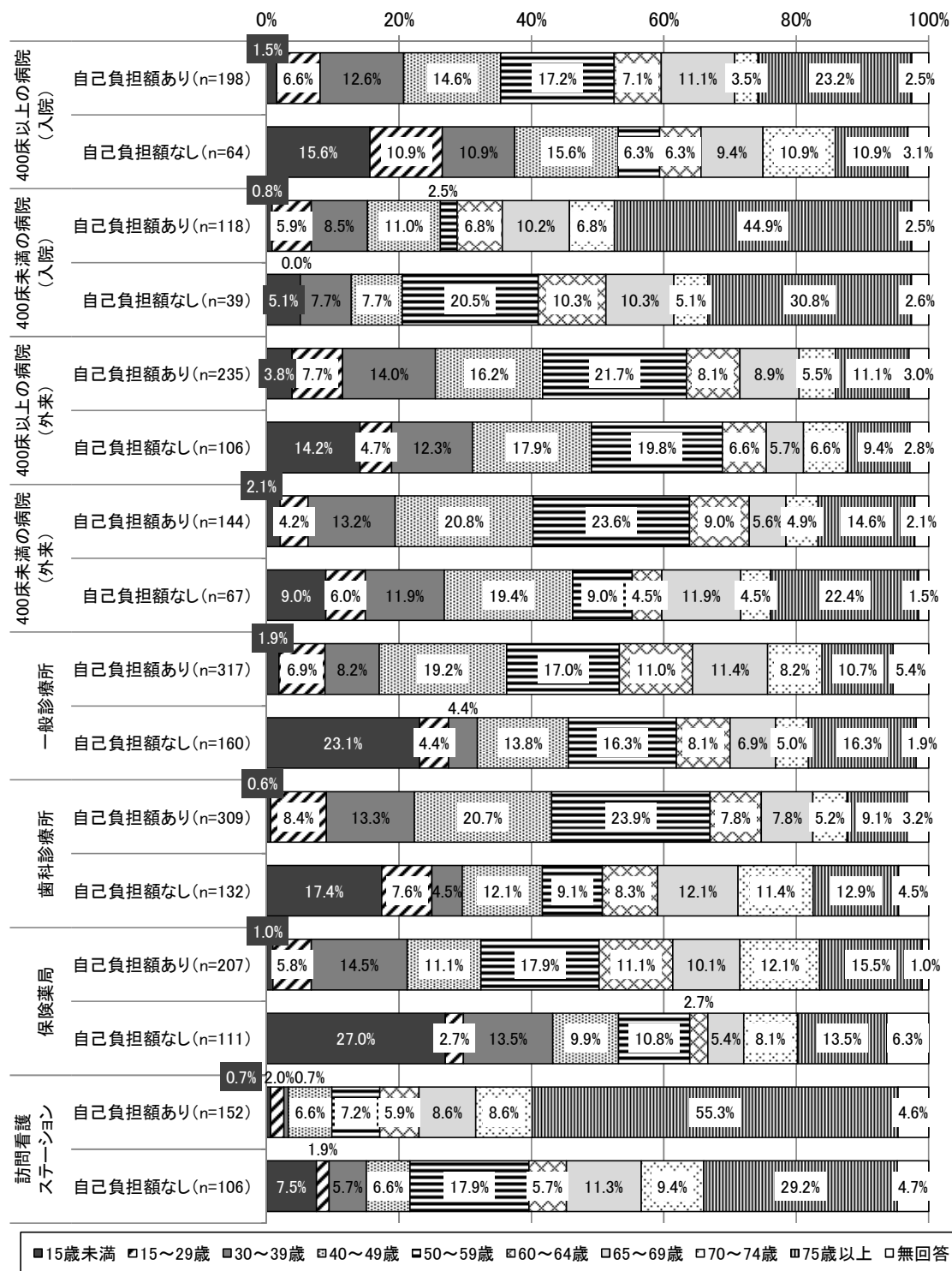
図表 143 患者・利用者の年齢

(単位：歳)

		人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
400 床以上の病院(入院)	自己負担額あり	193	56.4	20.3	57.0
	自己負担額なし	62	45.0	24.9	47.5
400 床未満の病院(入院)	自己負担額あり	115	65.9	20.7	73.0
	自己負担額なし	38	62.4	21.9	64.0
400 床以上の病院(外来)	自己負担額あり	228	51.4	18.5	52.5
	自己負担額なし	103	46.2	23.0	49.0
400 床未満の病院(外来)	自己負担額あり	141	53.5	17.1	53.0
	自己負担額なし	66	52.0	23.8	52.5
一般診療所	自己負担額あり	300	54.4	17.7	55.5
	自己負担額なし	157	46.6	26.9	50.0
歯科診療所	自己負担額あり	299	51.1	16.0	51.0
	自己負担額なし	126	48.9	25.6	55.5
保険薬局	自己負担額あり	205	56.6	17.5	59.0
	自己負担額なし	104	41.7	27.5	42.0
訪問看護ステーション	自己負担額あり	145	72.4	15.8	76.0
	自己負担額なし	101	60.5	23.8	67.0

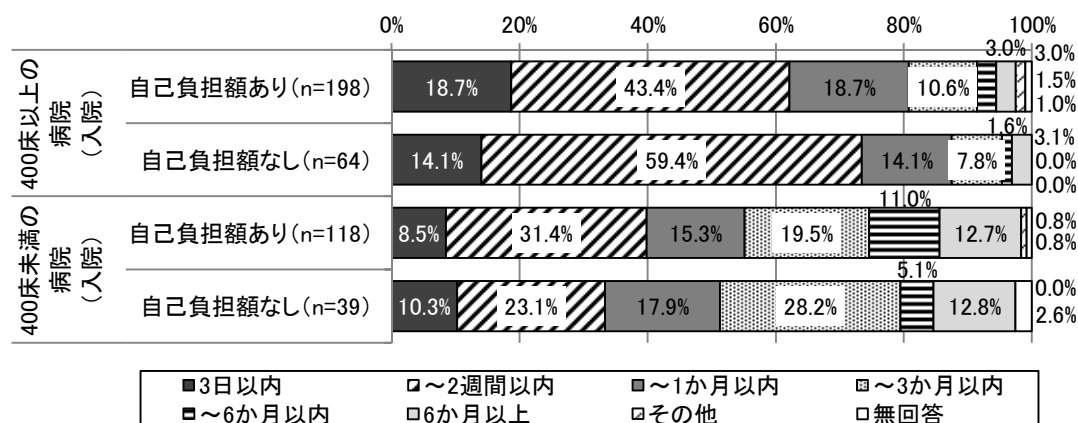
(注) 記入のあった患者・利用者を集計対象とした。

図表 144 患者・利用者の年齢分布



⑤受療期間等

図表 145 入院期間（病院（入院）患者）



図表 146 1 か月あたりの受診・利用頻度

（病院（外来）・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者、訪問看護ステーションの利用者）

（単位：回）

		人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
400 床以上の病院(外来)	自己負担額あり	231	2.3	3.0	1.0
	自己負担額なし	106	3.2	3.8	2.0
400 床未満の病院(外来)	自己負担額あり	143	2.2	3.4	1.0
	自己負担額なし	64	2.7	3.4	1.0
一般診療所	自己負担額あり	314	2.1	2.6	1.0
	自己負担額なし	156	2.6	3.4	1.0
歯科診療所	自己負担額あり	302	2.3	1.3	2.0
	自己負担額なし	127	2.2	1.2	2.0
保険薬局	自己負担額あり	202	1.3	0.6	1.0
	自己負担額なし	109	1.5	0.9	1.0
訪問看護ステーション	自己負担額あり	143	8.5	7.1	8.0
	自己負担額なし	104	10.2	8.1	8.0

（注）記入のあった患者・利用者を集計対象とした。

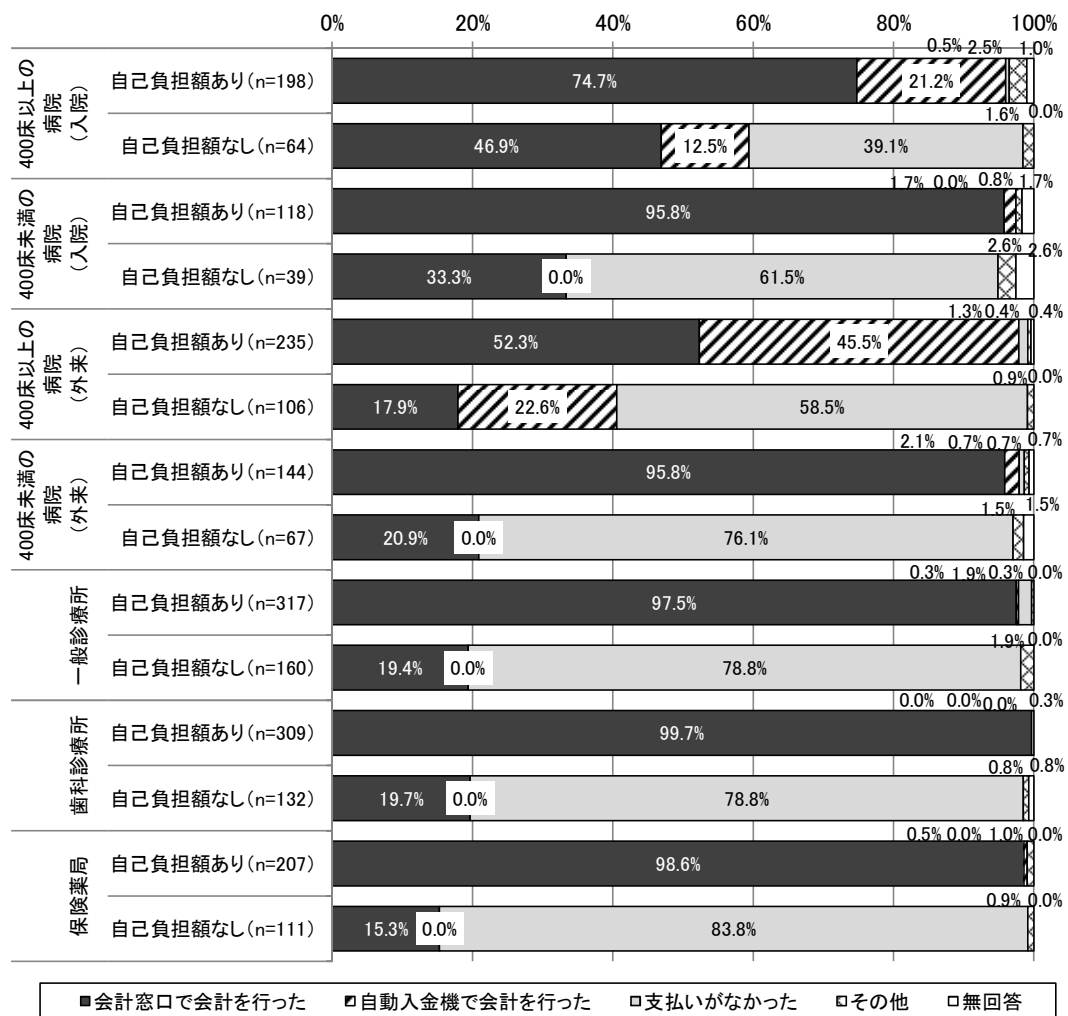
(2) 調査日における明細書の受取状況等

①調査日における会計の方法

調査日における会計の方法をみると、自己負担額ありの患者では、いずれの施設でも「会計窓口で会計を行った」が最も多かった。400床以上の病院（入院）、400床以上の病院（外来）では「自動入金機で会計を行った」がそれぞれ21.2%、45.5%であった。

自己負担額なしの患者では、400床以上の病院（入院）では「会計窓口で会計を行った」が46.9%で最も多く、次いで「支払いがなかった」（39.1%）であった。それ以外の施設では「支払いがなかった」が最も多かった。

図表 147 調査日における会計の方法
(病院（入院）・病院（外来）・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者)



(注)・訪問看護ステーションの利用者には本設問は尋ねていない。

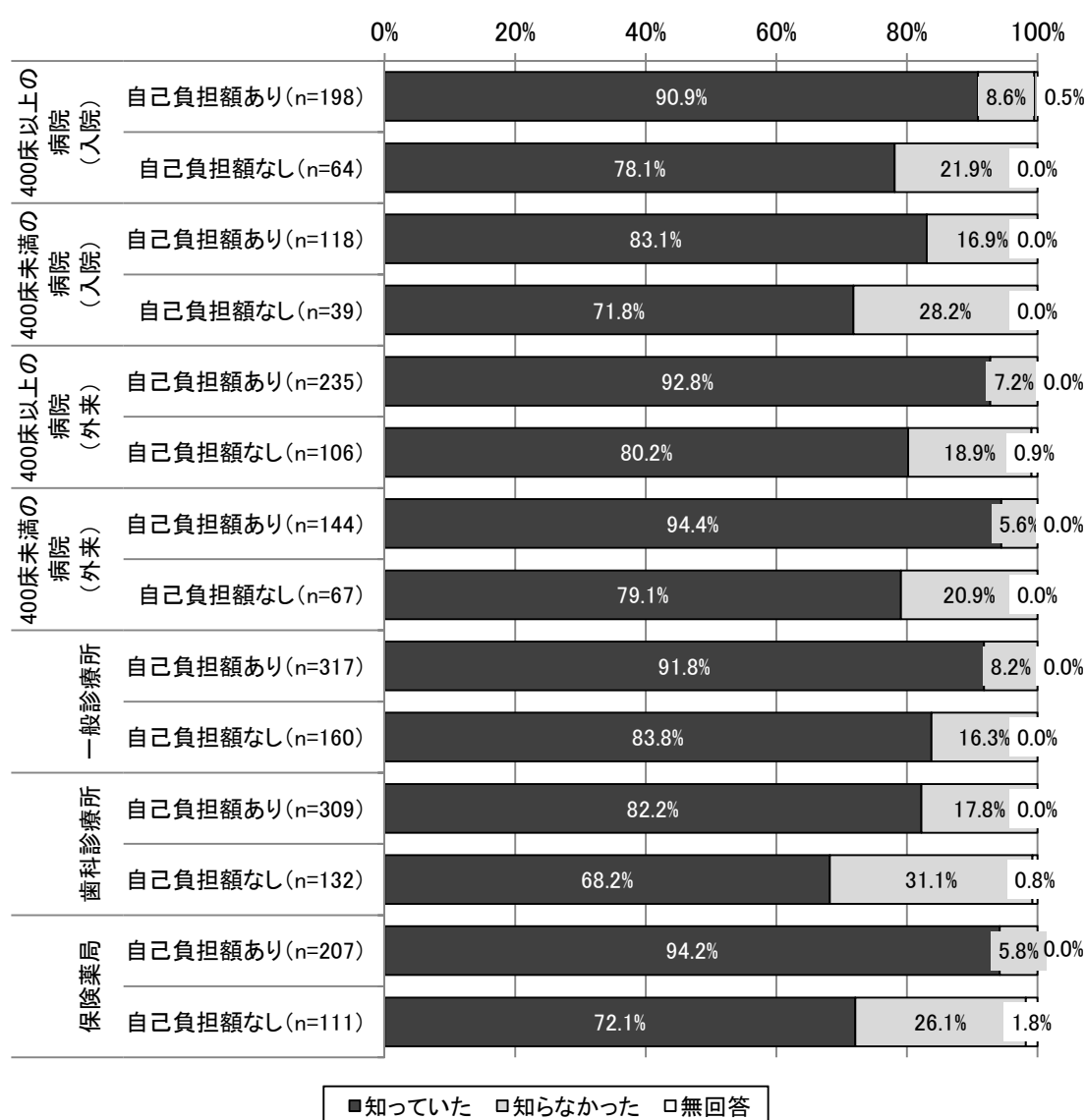
- ・病院（入院）では「本日退院した病院ではどのように会計を行いましたか」、病院（外来）では「本日受診した病院ではどのように会計を行いましたか」、一般診療所では「本日受診した一般診療所ではどのように会計を行いましたか」、歯科診療所では「本日受診した歯科診療所ではどのように会計を行いましたか」、保険薬局では「本日来局した保険薬局ではどのように会計を行いましたか」と尋ねた。

②会計時に明細書を受け取れることの認知状況

会計時に明細書を受け取れることの認知状況をみると、自己負担額ありの患者では、いずれの施設でも「知っていた」が8割を超えていた。

自己負担額なしの患者では、歯科診療所以外の施設では「知っていた」が7割を超えていた。歯科診療所では「知っていた」が68.2%であった。

図表 148 会計時に明細書を受け取れることの認知状況
(病院(入院)・病院(外来)・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者)



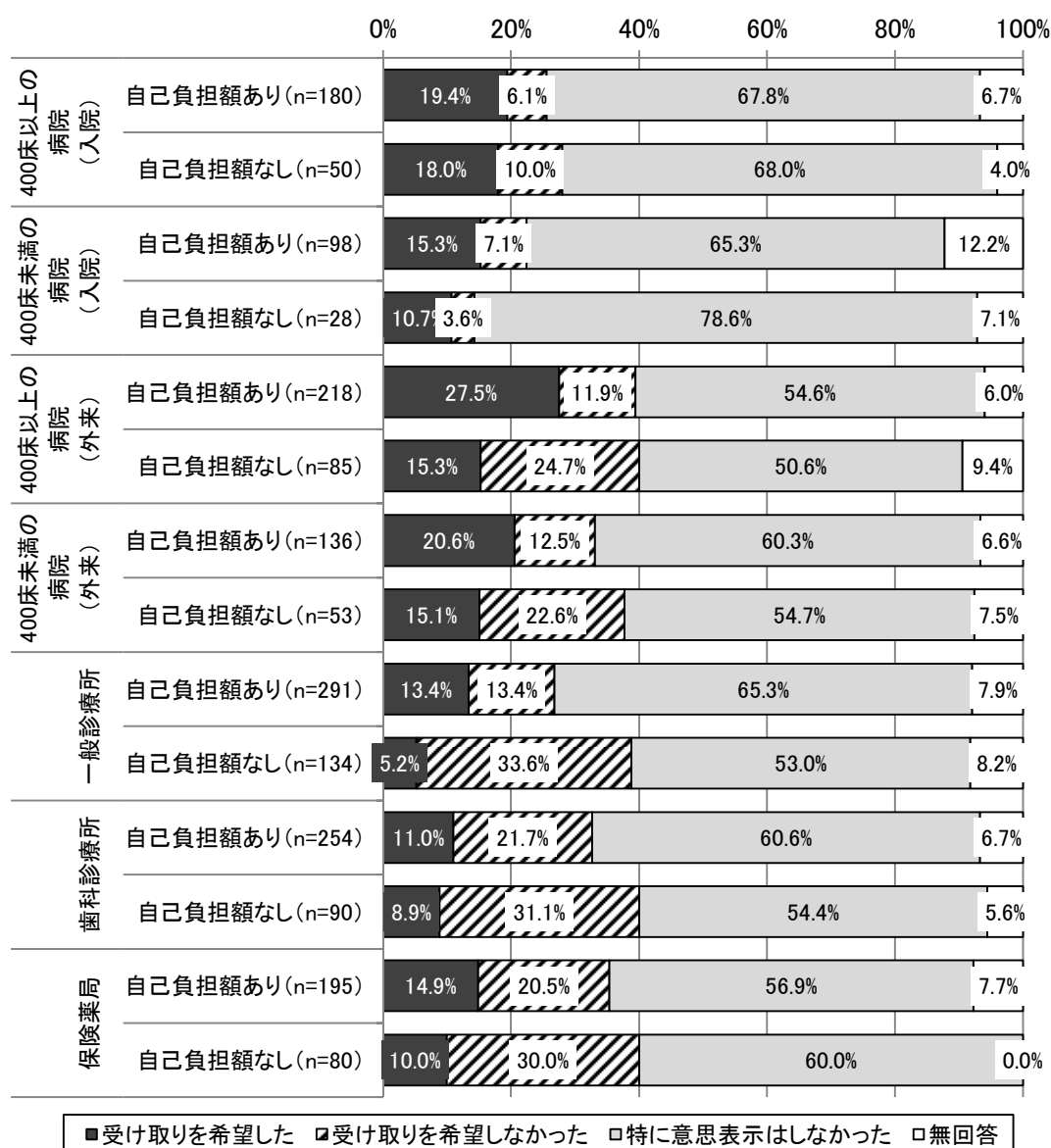
(注) 訪問看護ステーションの利用者には本設問は尋ねていない。

③明細書受け取りの希望状況

会計時に明細書を受け取れることを知っていた患者に、明細書の受け取りを希望したか尋ねたところ、自己負担額の有無に関わらず、いずれの施設でも「特に意思表示はしなかった」が最も多かった。

図表 149 明細書受け取りの希望状況

(病院(入院)・病院(外来)・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者で、
会計時に明細書を受け取れることを知っていた患者)



(注) 訪問看護ステーションの利用者には本設問は尋ねていない。

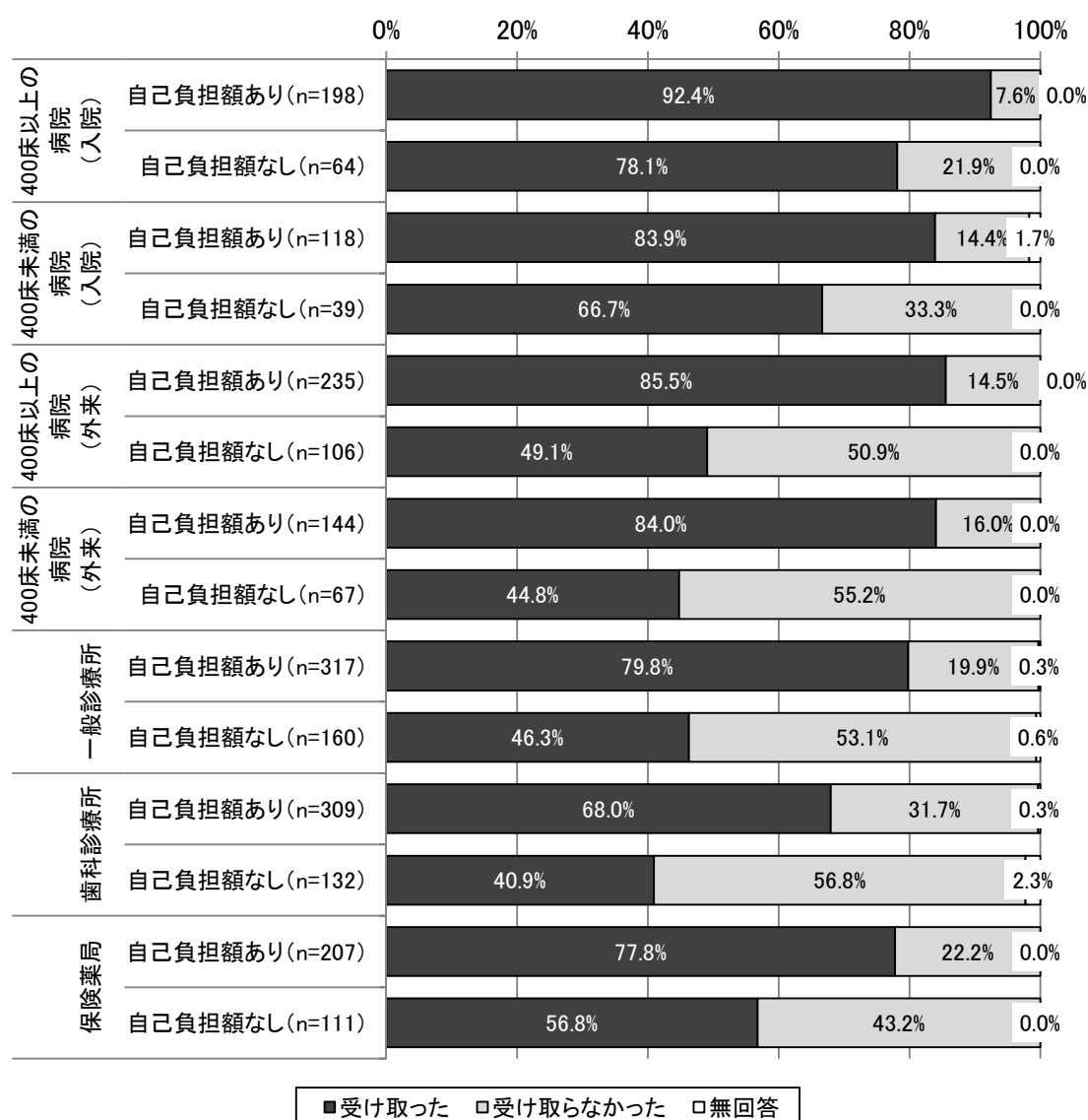
④明細書の受け取り状況

1) 病院（入院）・病院（外来）・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者

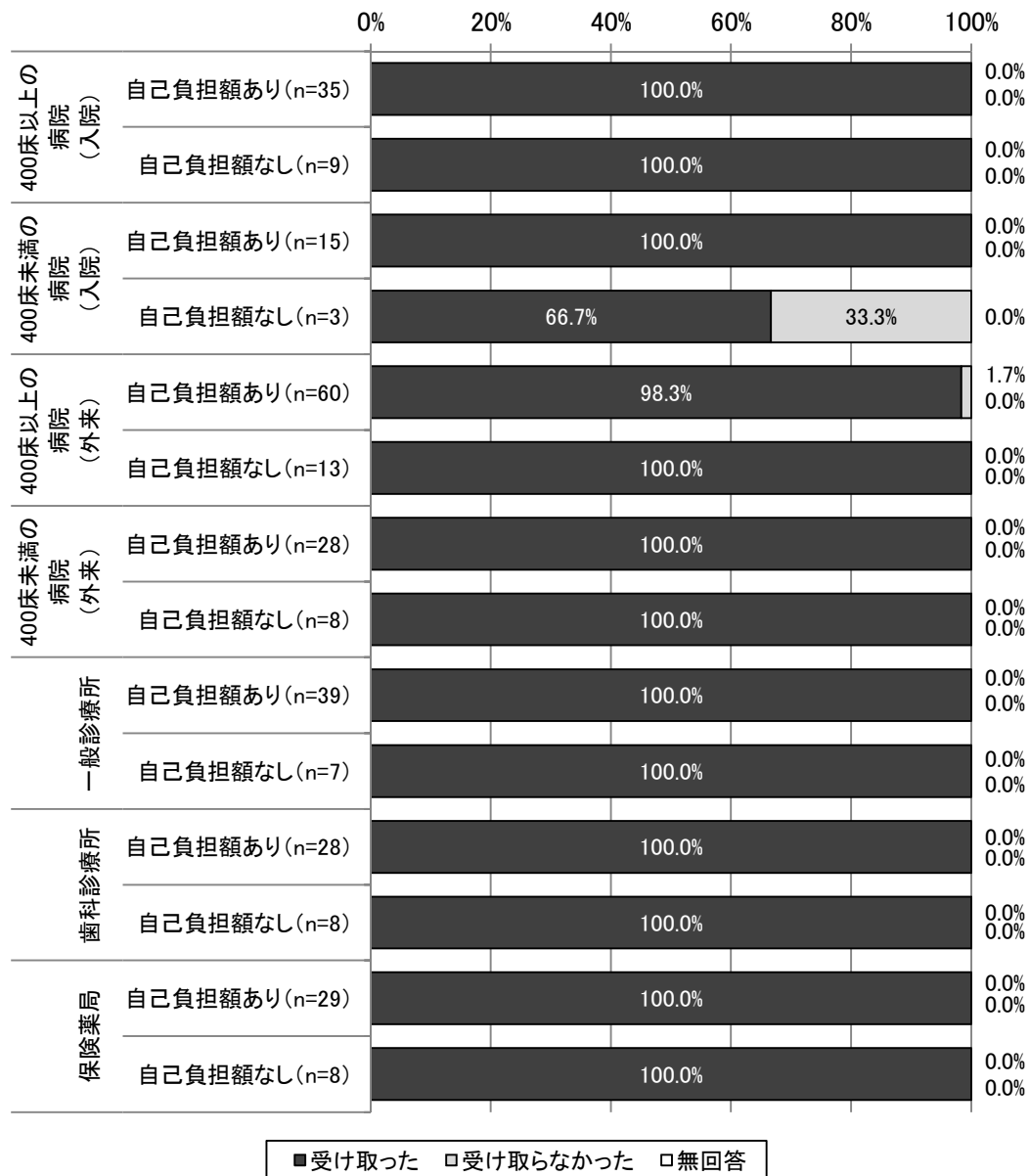
調査日における明細書の受け取り状況をみると、自己負担額ありの患者では、歯科診療所以外の施設では「受け取った」が7割を超えていた。歯科診療所では「受け取った」が68.0%であった。

自己負担額なしの患者では、400床以上の病院（入院）、400床未満の病院（入院）、保険薬局では「受け取った」（それぞれ78.1%、66.7%、56.8%）が「受け取らなかった」よりも多かった。400床以上の病院（外来）、400床未満の病院（外来）、一般診療所、歯科診療所では「受け取らなかった」が5割を超えていた。

図表 150 調査日における明細書の受け取り状況
(病院（入院）・病院（外来）・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者)



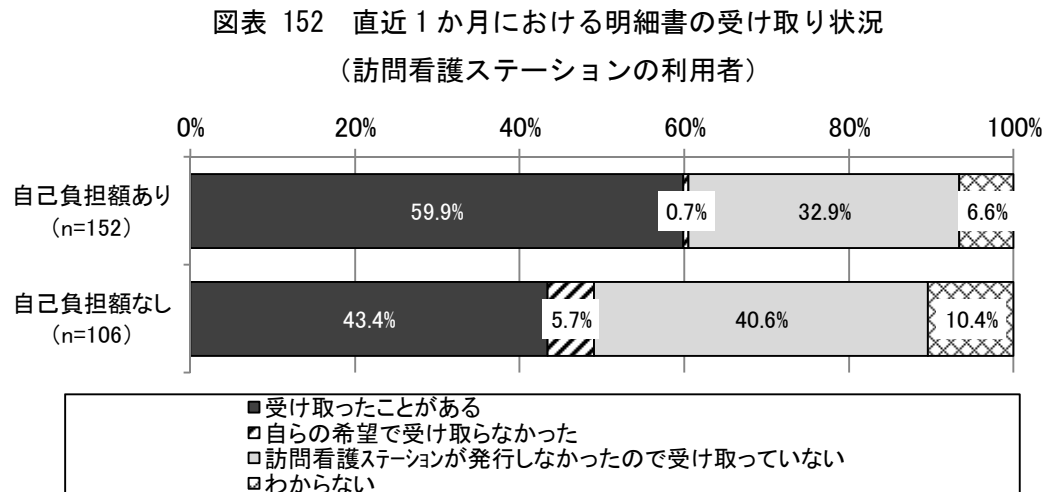
図表 151 調査日における明細書の受け取り状況
(病院 (入院)・病院 (外来)・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者)
(明細書の受け取りを希望した患者)



2) 訪問看護ステーションの利用者

直近 1 か月における明細書の受け取り状況をみると、自己負担額ありの利用者では「受け取ったことがある」が 59.9%であった。

自己負担額なしの利用者では「受け取ったことがある」が 43.4%であった。

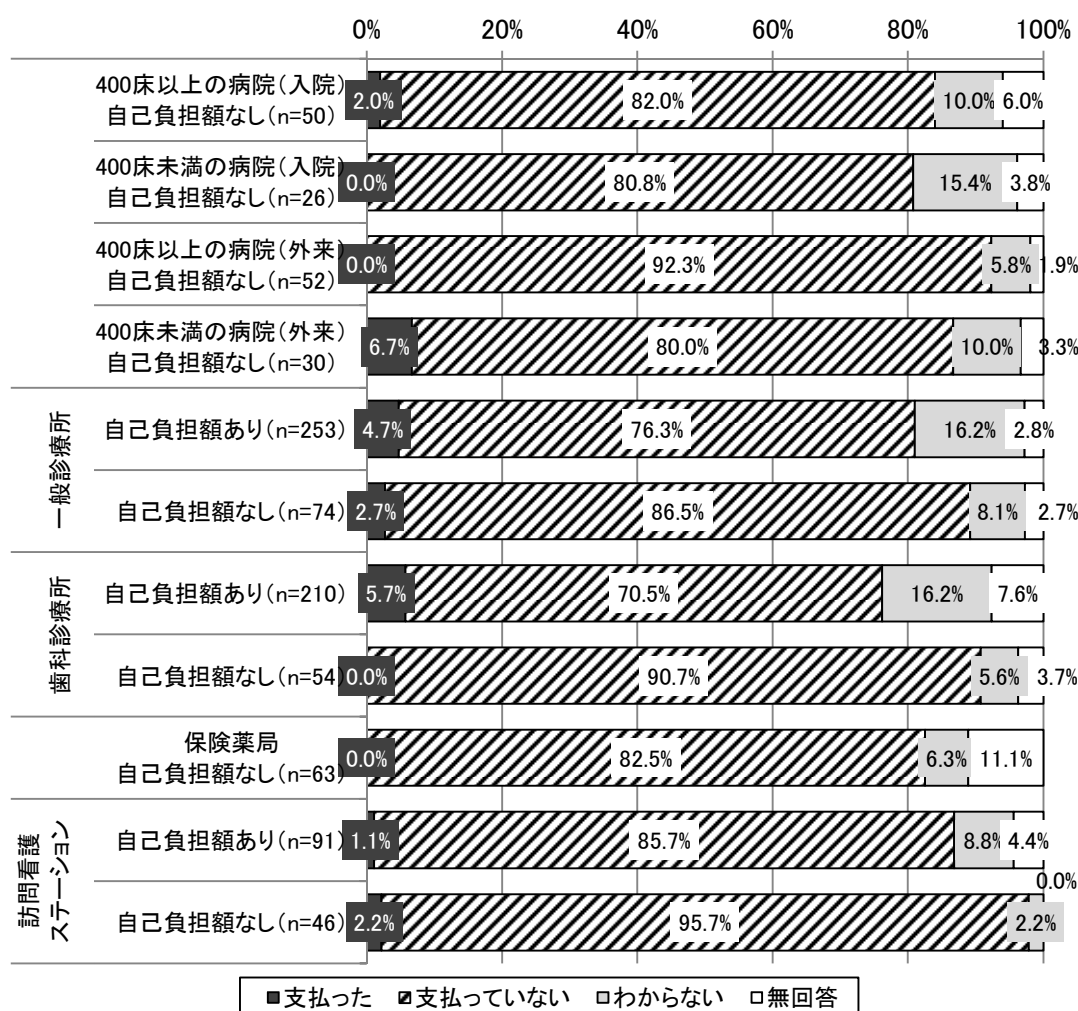


⑤明細書を受け取るための手数料の有無

明細書を受け取った患者・利用者に明細書を受け取るための手数料の有無を尋ねたところ、自己負担額ありの患者・利用者で「支払った」と回答した人は、一般診療所では4.7%、歯科診療所では5.7%、訪問看護ステーションでは1.1%であった。

自己負担額なしの患者・利用者で「支払った」と回答した人は、400床以上の病院（入院）では2.0%、400床未満の病院（入院）では0.0%、400床以上の病院（外来）では0.0%、400床未満の病院（外来）では6.7%、一般診療所では2.7%、歯科診療所では0.0%、保険薬局では0.0%、訪問看護ステーションでは2.2%であった。

図表 153 明細書を受け取るための手数料の有無
(明細書を受け取った患者・利用者)



明細書を受け取るための手数料の金額をみると、400 床以上の病院（入院）では自己負担額なしの患者について 500.0 円、400 床未満の病院（外来）では自己負担額なしの患者について 470.0 円、一般診療所では自己負担額ありの患者について平均 662.0 円、歯科診療所では自己負担額ありの患者について平均 754.3 円であった。

図表 154 明細書を受け取るための手数料の金額（支払いがあった患者・利用者）

（単位：円）

		人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
400 床以上の病院(入院)	自己負担額なし	1	500.0	–	500.0
400 床未満の病院(外来)	自己負担額なし	1	470.0	–	470.0
一般診療所	自己負担額あり	5	662.0	301.6	840.0
歯科診療所	自己負担額あり	7	754.3	320.0	740.0

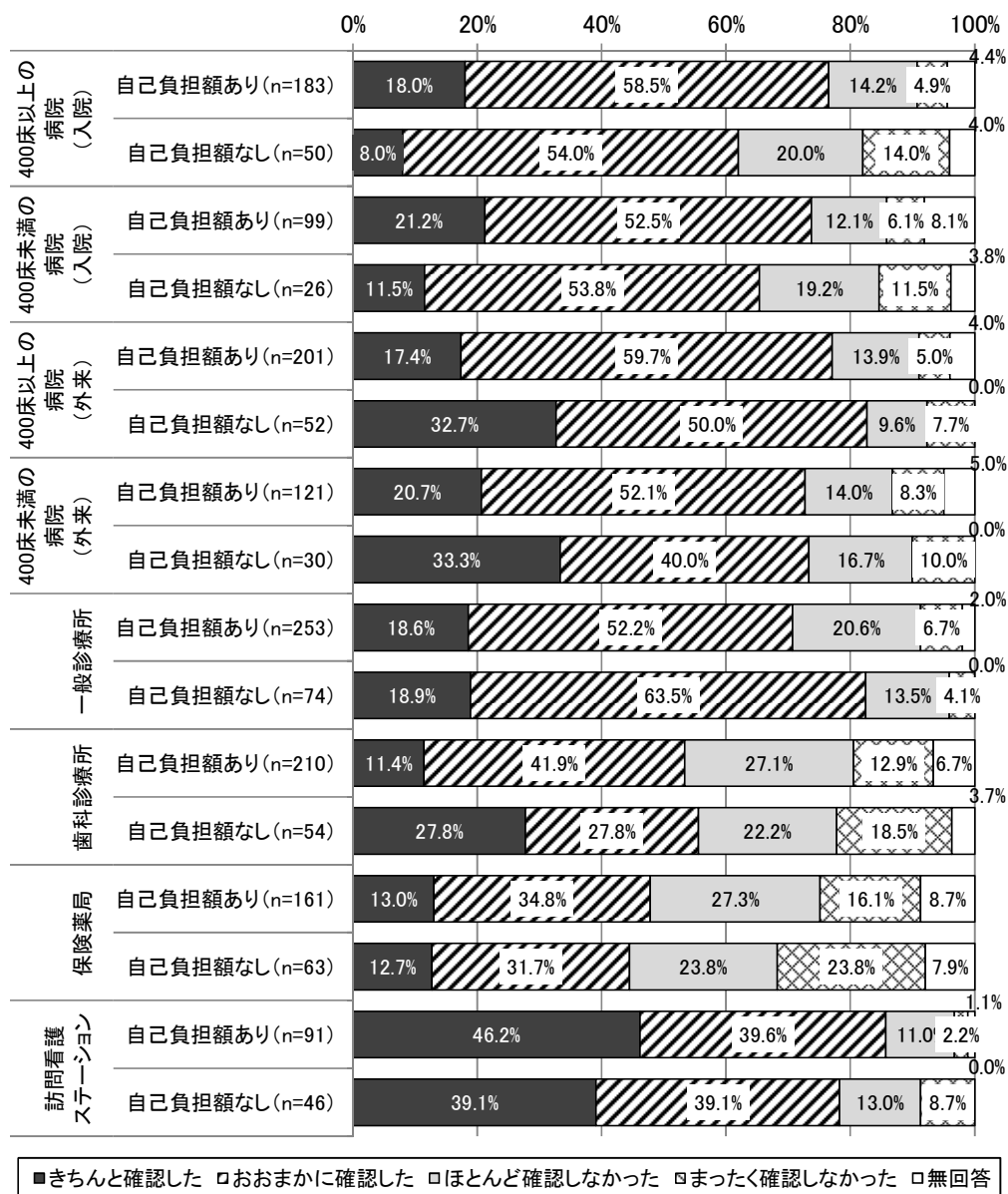
（注）記入のあった患者・利用者を集計対象とした。

⑥明細書の内容の確認状況

明細書を受け取った患者・利用者に明細書の内容の確認状況について尋ねたところ、自己負担額ありの患者・利用者では、訪問看護ステーション以外のいずれの施設でも「おおまかに確認した」が最も多かった。訪問看護ステーションでは「きちんと確認した」が46.2%で最も多く、他施設と比べると「きちんと確認した」割合が高かった。

自己負担額なしの患者・利用者では、歯科診療所と訪問看護ステーション以外の施設では「おおまかに確認した」が最も多かった。歯科診療所と訪問看護ステーションでは「きちんと確認した」と「おおまかに確認した」が最も多かった。

図表 155 明細書の内容の確認状況（明細書を受け取った患者・利用者）



⑦明細書を受け取って良かったこと

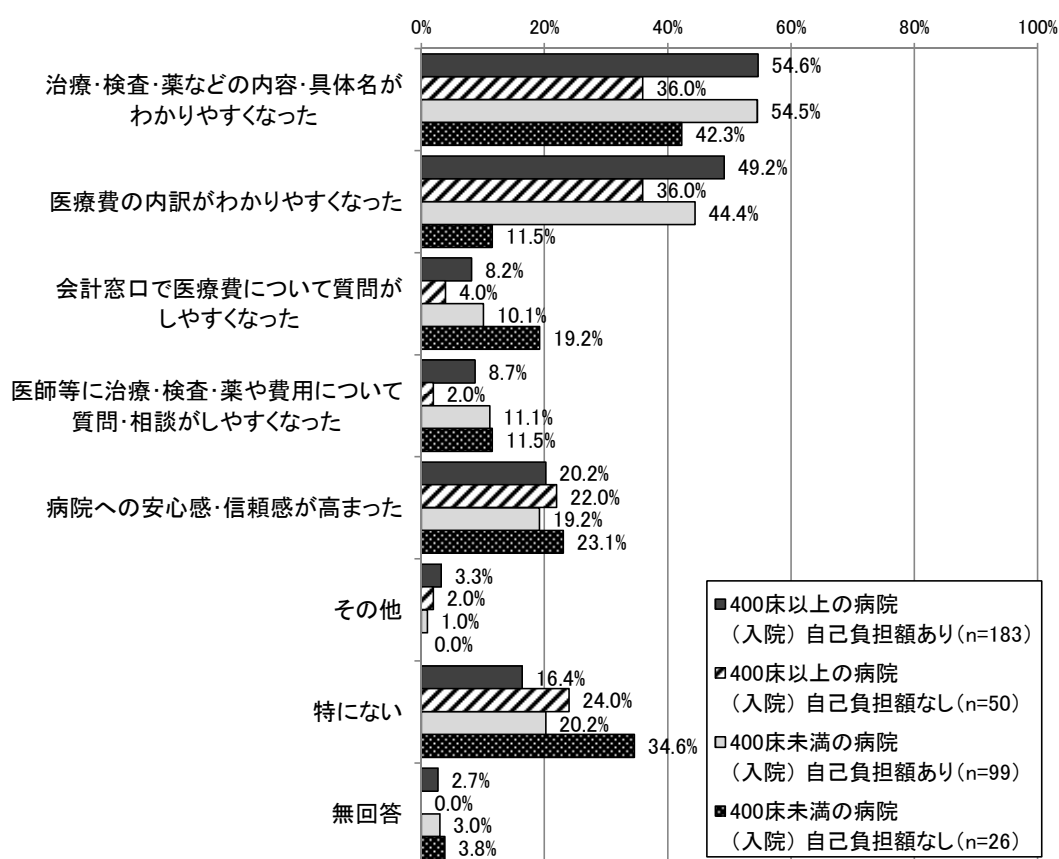
1) 病院（入院）の患者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの患者については、400床以上の病院、400床未満の病院いずれも「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」であった。

自己負担額なしの患者については、400床以上の病院では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」と「医療費の内訳がわかりやすくなった」が最も多かった。400床未満の病院では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多かった。

また、400床未満の病院の自己負担額なしの患者では、「会計窓口で医療費について質問がしやすくなった」が19.2%であった

図表 156 明細書を受け取って良かったこと（病院（入院）患者）
（明細書を受け取った患者、複数回答）



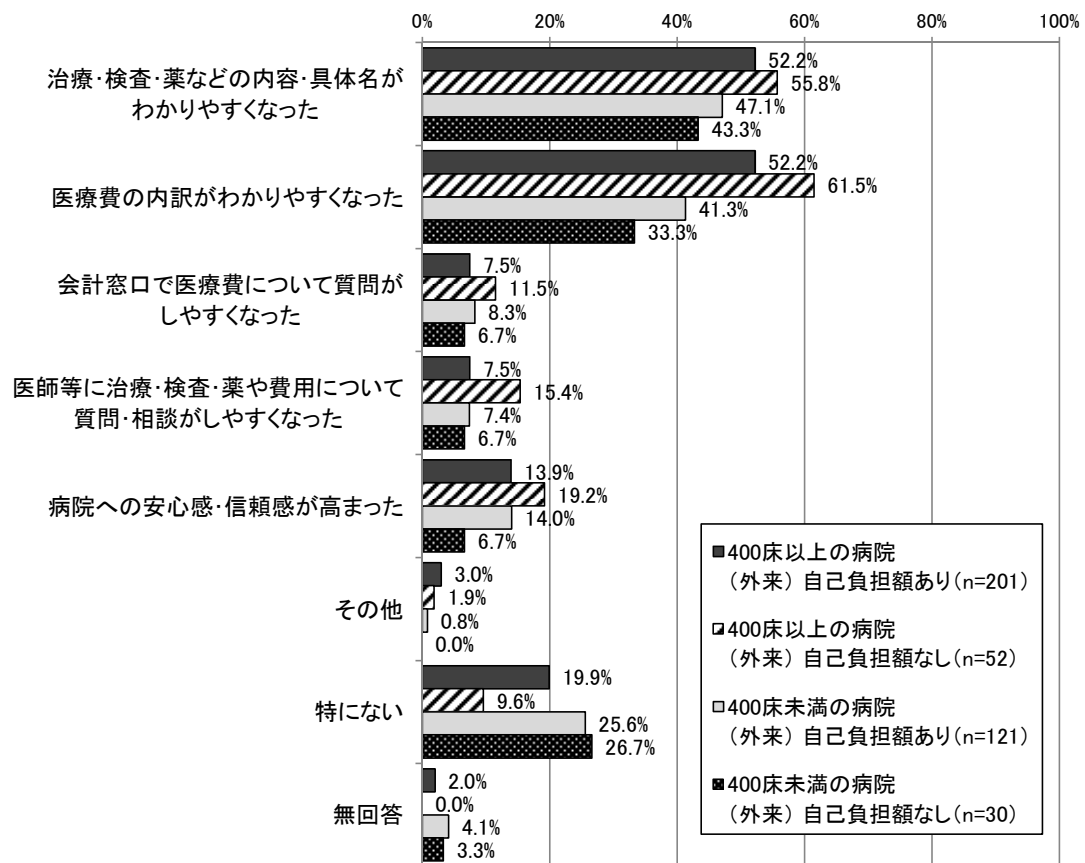
（注）「その他」の内容として、「保険金請求のため」、「家族や主治医に行った治療内容を見せることができる」等が挙げられた。

2) 病院（外来）の患者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの患者については、400床以上の病院では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」と「医療費の内訳がわかりやすくなった」が最も多かった。400床未満の病院では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」であった。

自己負担額なしの患者については、400床以上の病院では「医療費の内訳がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」であった。400床未満の病院では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」であった。

図表 157 明細書を受け取って良かったこと（病院（外来）患者）
（明細書を受け取った患者、複数回答）

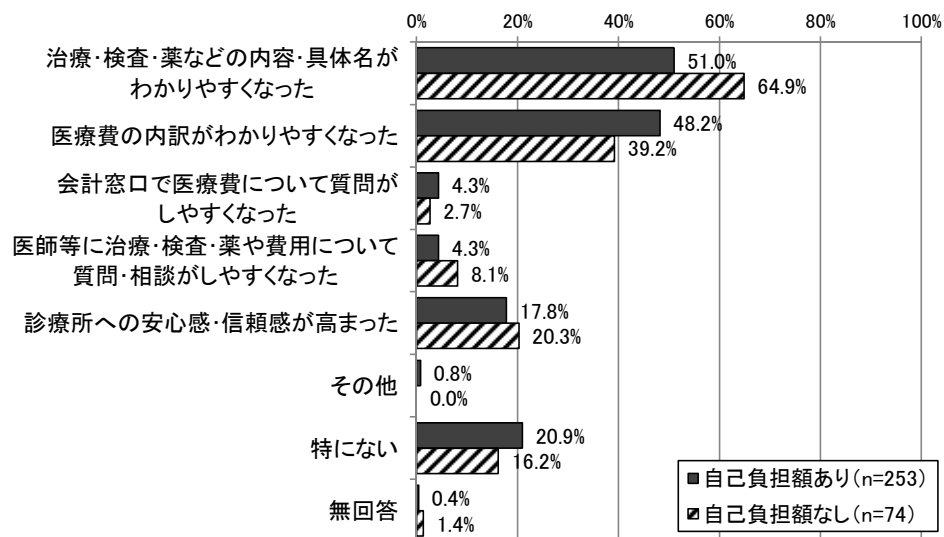


（注）「その他」の内容として、「保険金請求のため」、「他の病院と比較できた」等が挙げられた。

3) 一般診療所の患者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの患者、自己負担額なしの患者のいずれも「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」であった。

図表 158 明細書を受け取って良かったこと（一般診療所の患者）
（明細書を受け取った患者、複数回答）

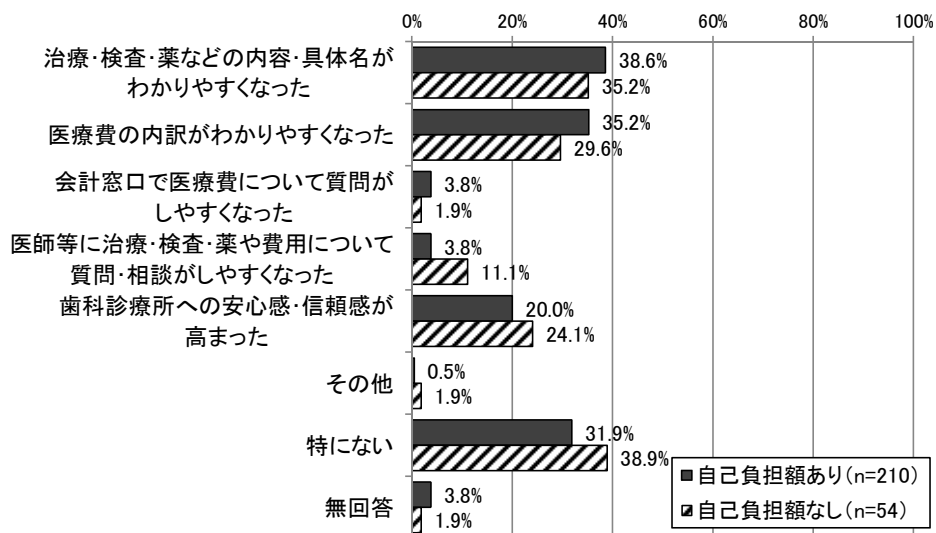


(注)「その他」の内容として、「他の病院等を受診する際に検査内容を提示できる」等が挙げられた。

4) 歯科診療所の患者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの患者では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」であった。

図表 159 明細書を受け取って良かったこと（歯科診療所の患者）
（明細書を受け取った患者、複数回答）

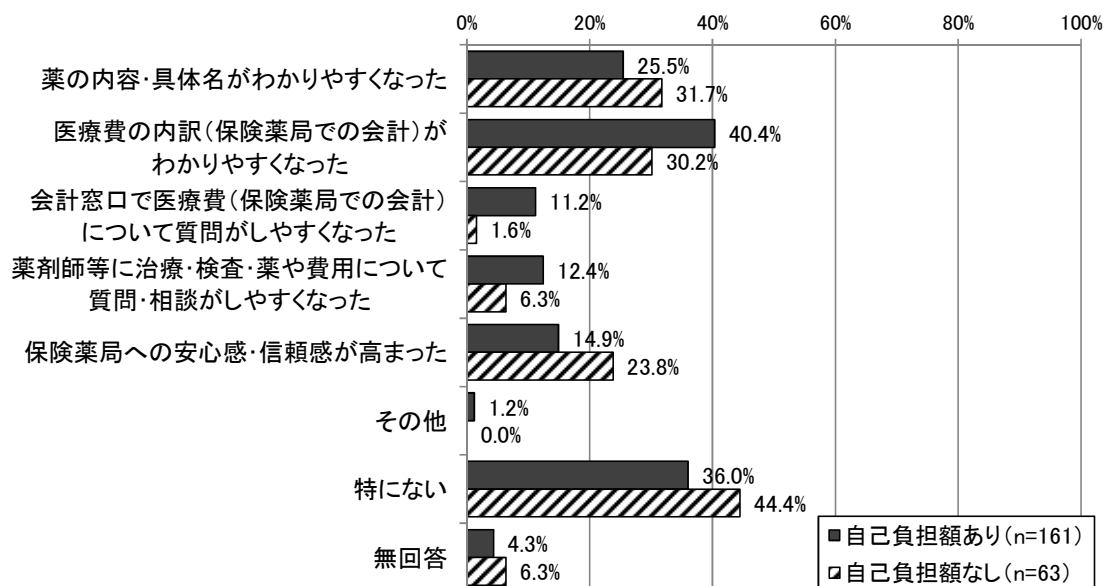


（注）「その他」の内容として、「処置内容について記録しやすい」等が挙げられた。

5) 保険薬局の患者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの患者では「医療費の内訳（保険薬局での会計）がわかりやすくなった」が最も多かった。

図表 160 明細書を受け取って良かったこと（保険薬局の患者）
（明細書を受け取った患者、複数回答）

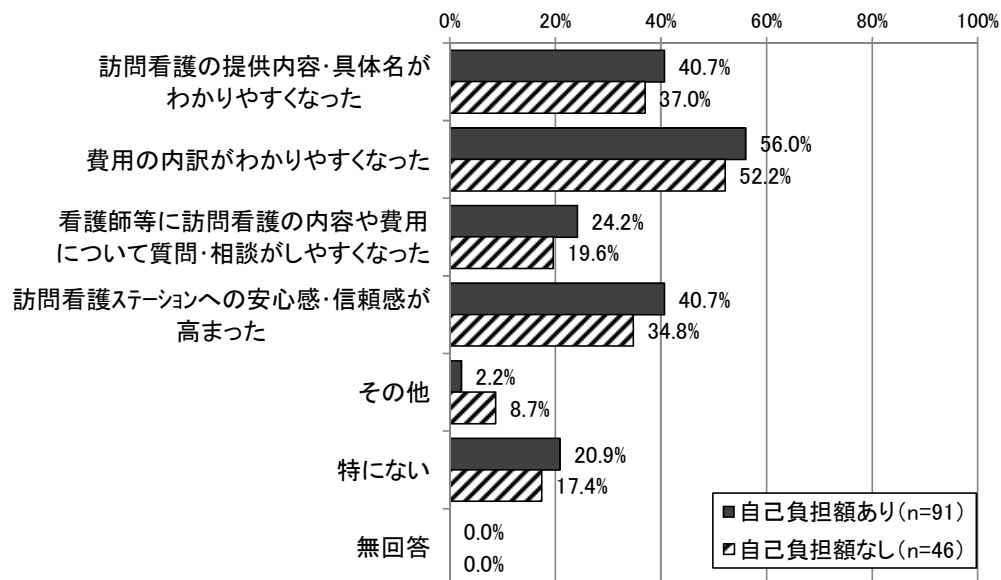


(注) 「その他」の内容として、「内容・日数が同じの場合に比較して確認できる」が挙げられた。

6) 訪問看護ステーションの利用者

明細書を受け取って良かったことをみると、自己負担額ありの利用者、自己負担額なしの利用者いずれも「費用の内訳がわかりやすくなった」が最も多かった。

図表 161 明細書を受け取って良かったこと（訪問看護ステーションの利用者）
（明細書を受け取った利用者、複数回答）

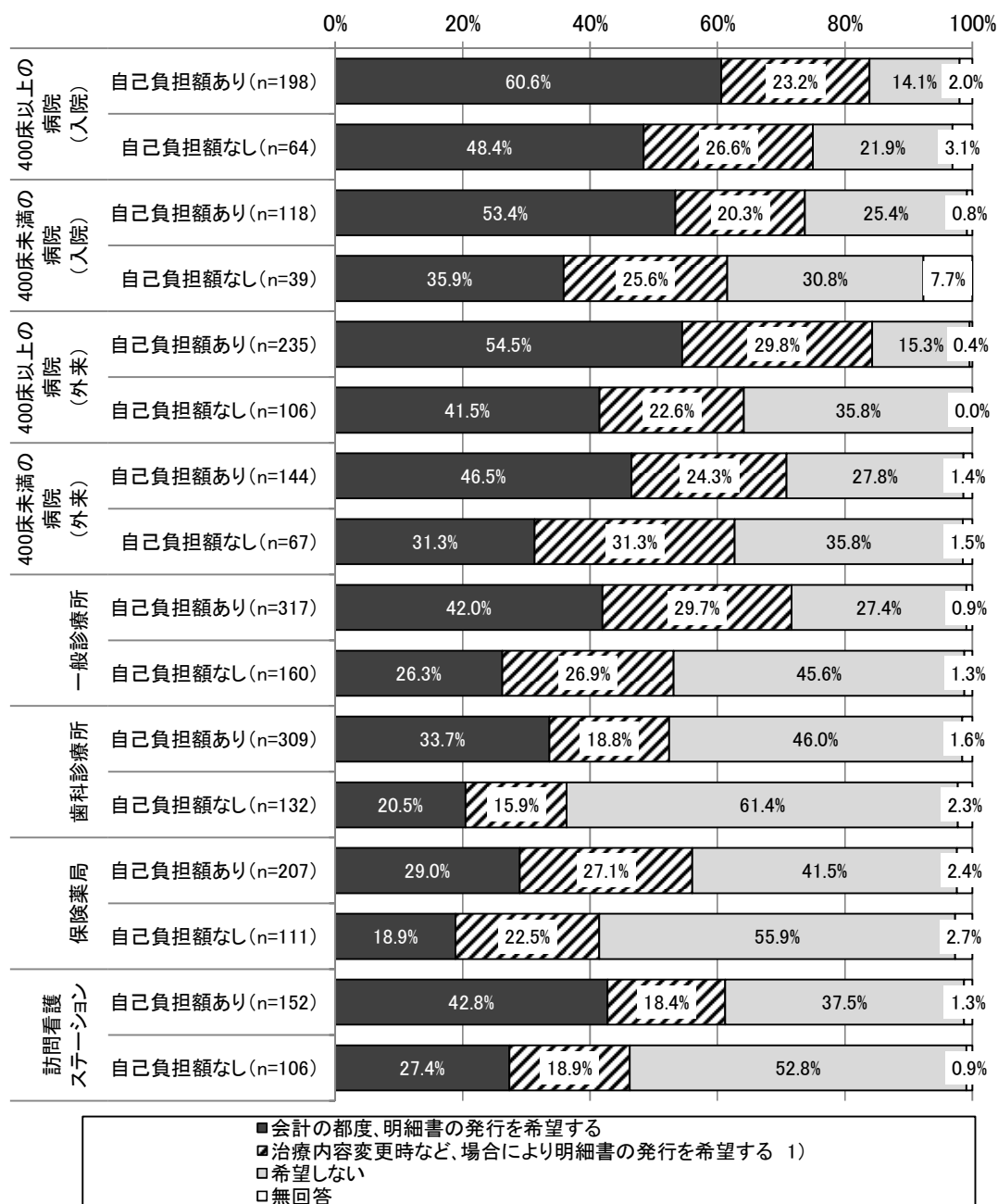


(3) 明細書発行に関する今後の希望等

①明細書発行に関する今後の希望

明細書発行に関する今後の希望についてみると、自己負担額ありの患者・利用者では、400床以上の病院（入院）、400床未満の病院（入院）、400床以上の病院（外来）、400床未満の病院（外来）、一般診療所、訪問看護ステーションでは「会計の都度、明細書の発行を希望する」が最も多かった。歯科診療所、保険薬局では「希望しない」が最も多かった。

図表 162 明細書発行に関する今後の希望



(注) 1) 訪問看護ステーションでは「訪問看護の内容に変更があった時など、場合により発行を希望する」。

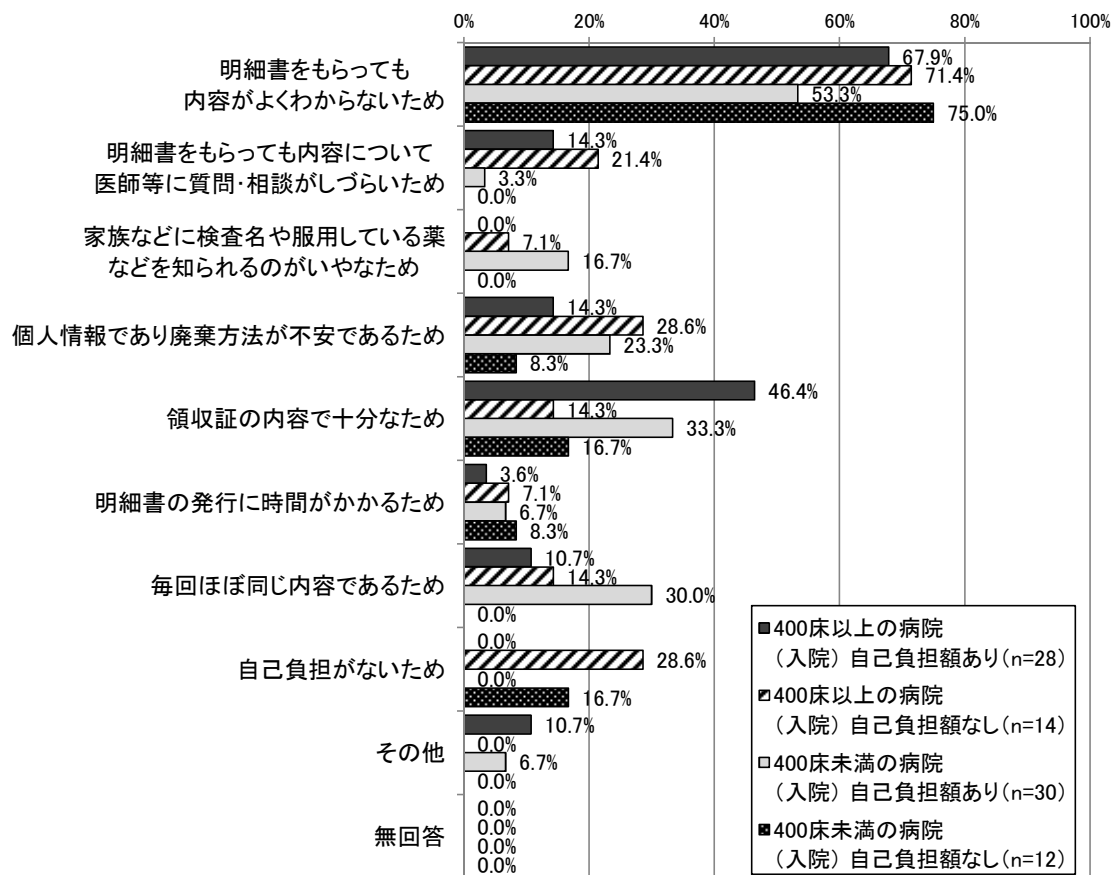
②明細書発行を希望しない理由

1) 病院（入院）の患者

明細書発行を希望しない患者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの患者については、400床以上の病院、400床未満の病院いずれも「明細書をもらっても内容がよくわからないため」がそれぞれ67.9%、53.3%で最も多く、次いで「領収証の内容で十分なため」（それぞれ46.4%、33.3%）であった。

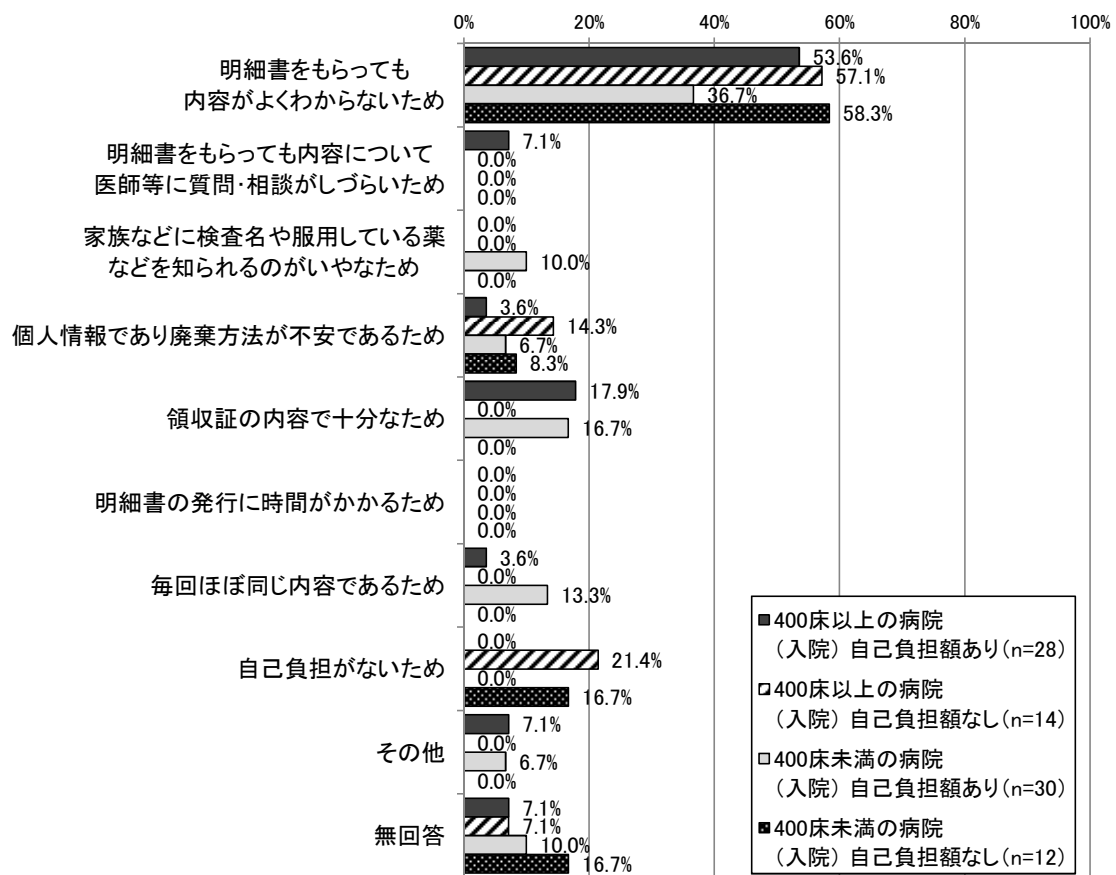
自己負担額なしの患者についても、400床以上の病院、400床未満の病院いずれも「明細書をもらっても内容がよくわからないため」がそれぞれ71.4%、75.0%で最も多かった。

図表 163 明細書発行を希望しない理由（病院（入院）患者）
（明細書発行を希望しない患者、複数回答）



（注）「その他」の内容として、「特に必要と感じない」、「用紙の無駄」、「書類が多過ぎる」等が挙げられた。

図表 164 明細書発行を希望しない最大の理由（病院（入院）患者）
（明細書発行を希望しない患者、単数回答）



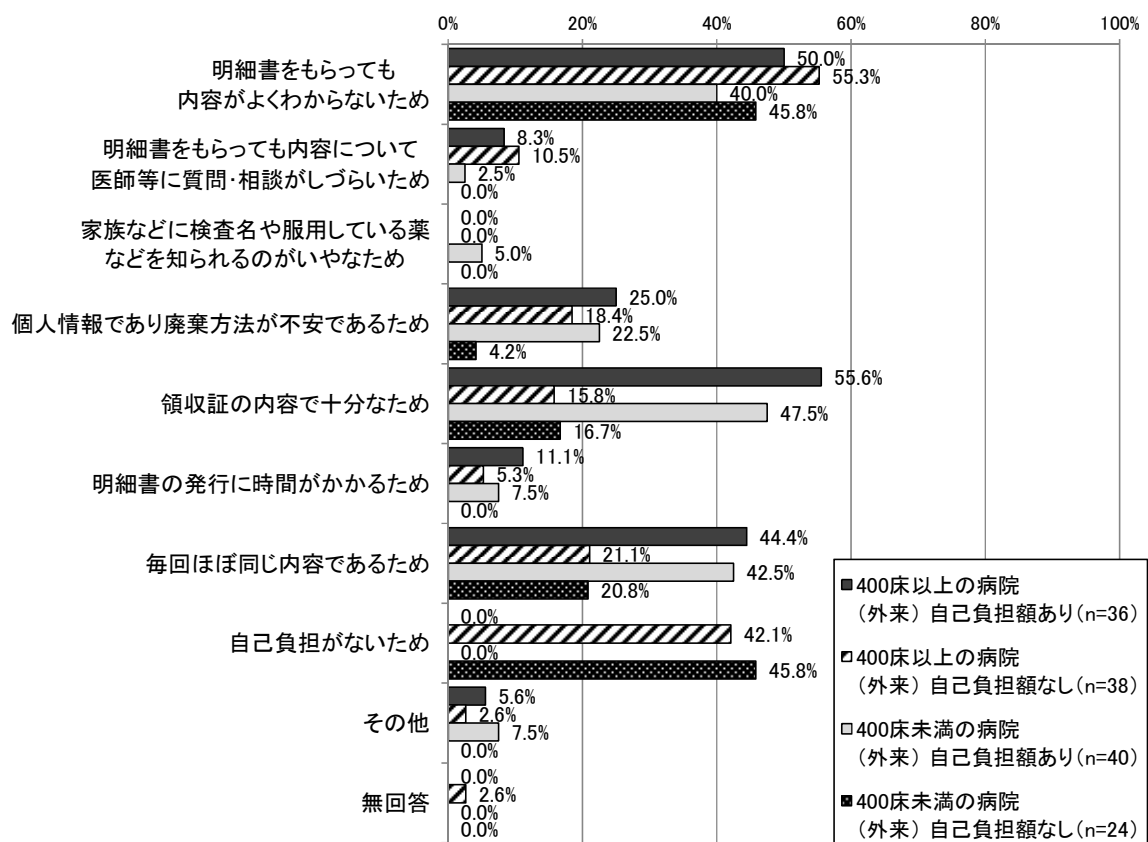
2) 病院（外来）の患者

明細書発行を希望しない患者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの患者については、400床以上の病院、400床未満の病院いずれも「領収証の内容で十分なため」がそれぞれ55.6%、47.5%で最も多かった。

自己負担額なしの患者については、400床以上の病院では「明細書をもらっても内容がよくわからないため」が55.3%で最も多く、400床未満の病院では「明細書をもらっても内容がよくわからないため」と「自己負担がないため」がそれぞれ45.8%で最も多かった。

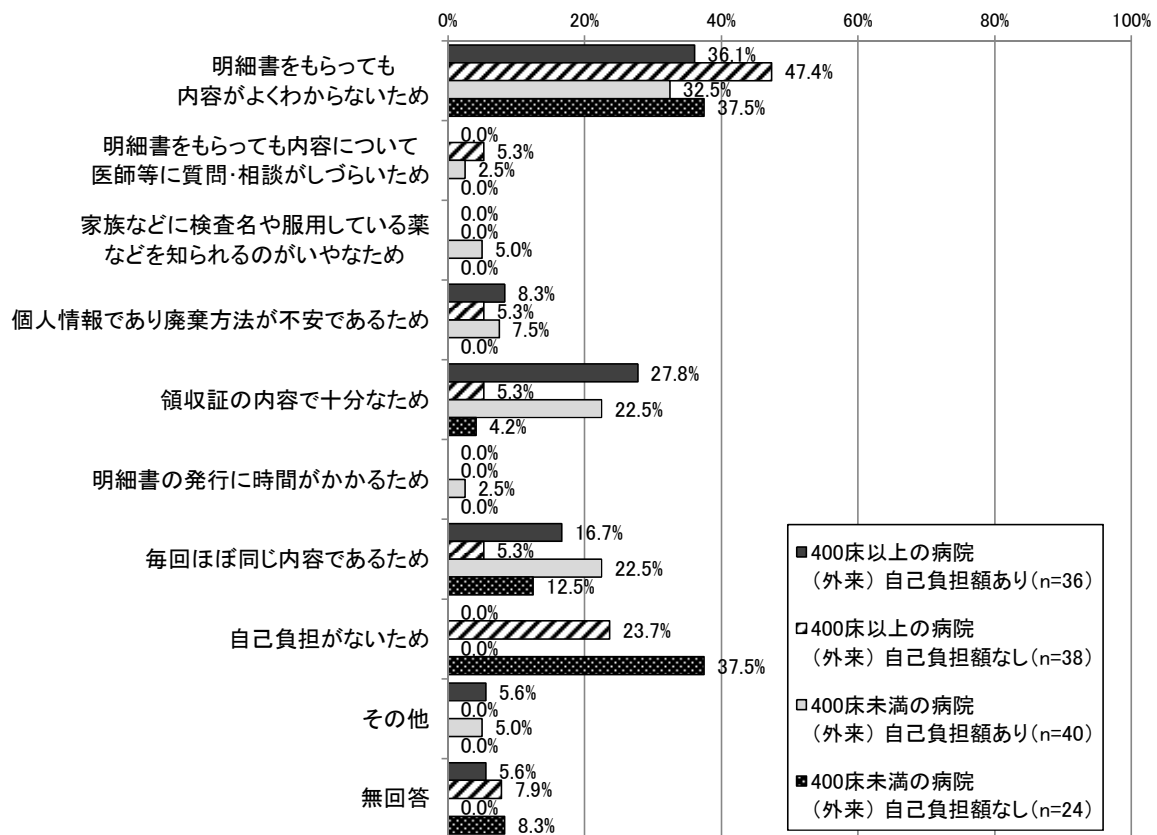
図表 165 明細書発行を希望しない理由（病院（外来）患者）

（明細書発行を希望しない患者、複数回答）



（注）「その他」の内容として、「必要ない」、「病名・診察内容等を十分に理解している」、「紙の無駄」、「どう見るか等わからない」等が挙げられた。

図表 166 明細書発行を希望しない最大の理由（病院（外来）患者）
（明細書発行を希望しない患者、単数回答）



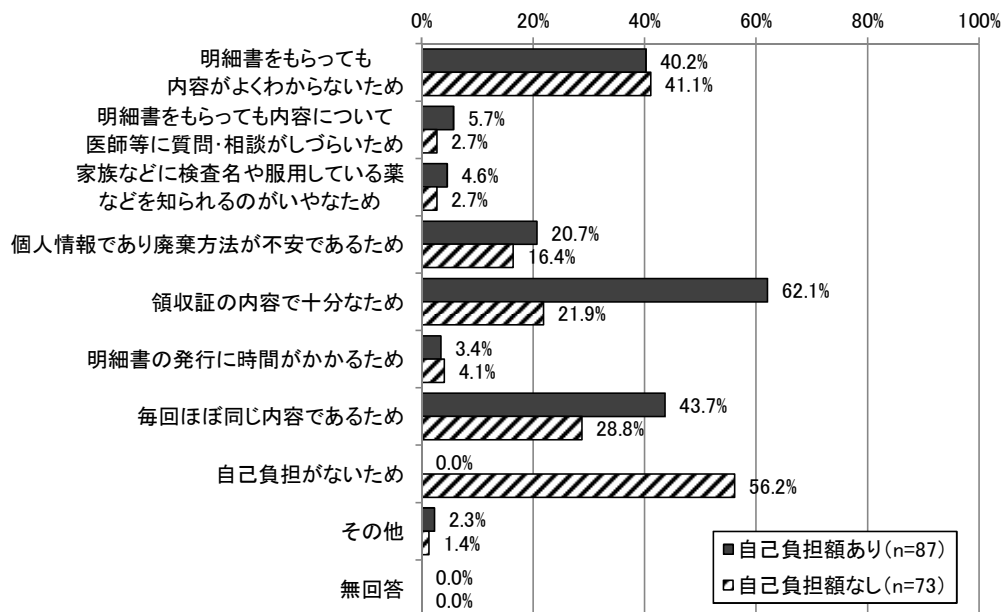
3) 一般診療所の患者

明細書発行を希望しない患者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの患者では「領収証の内容で十分なため」が 62.1% で最も多かった。

自己負担額なしの患者では「自己負担がないため」が 56.2% で最も多かった。

図表 167 明細書発行を希望しない理由（一般診療所の患者）

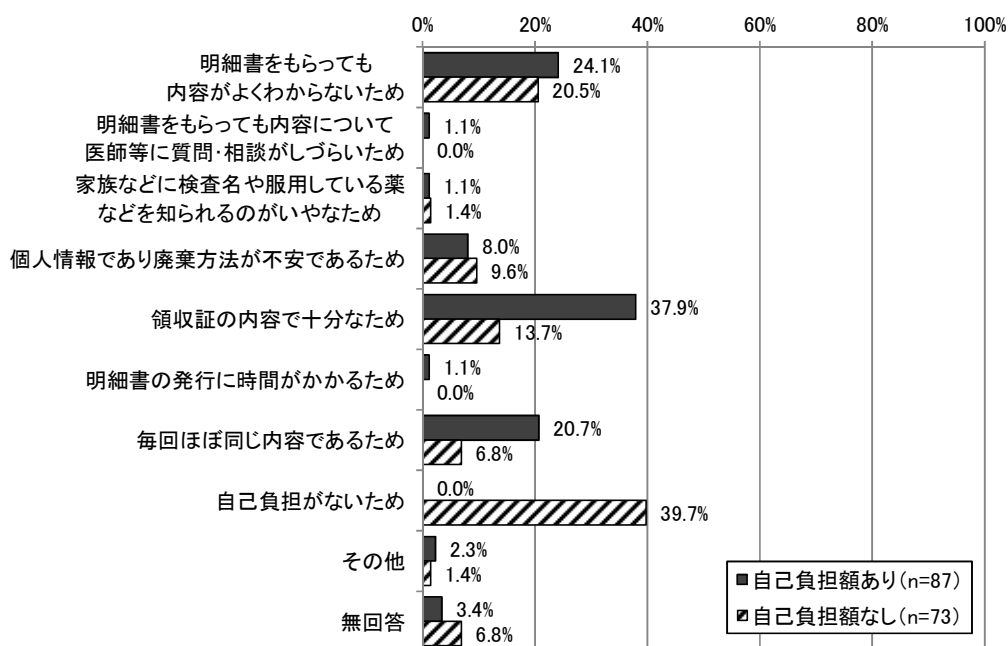
（明細書発行を希望しない患者、複数回答）



（注）「その他」の内容として、「年にまとめて明細書を受領している」等が挙げられた。

図表 168 明細書発行を希望しない最大の理由（一般診療所の患者）

（明細書発行を希望しない患者、単数回答）



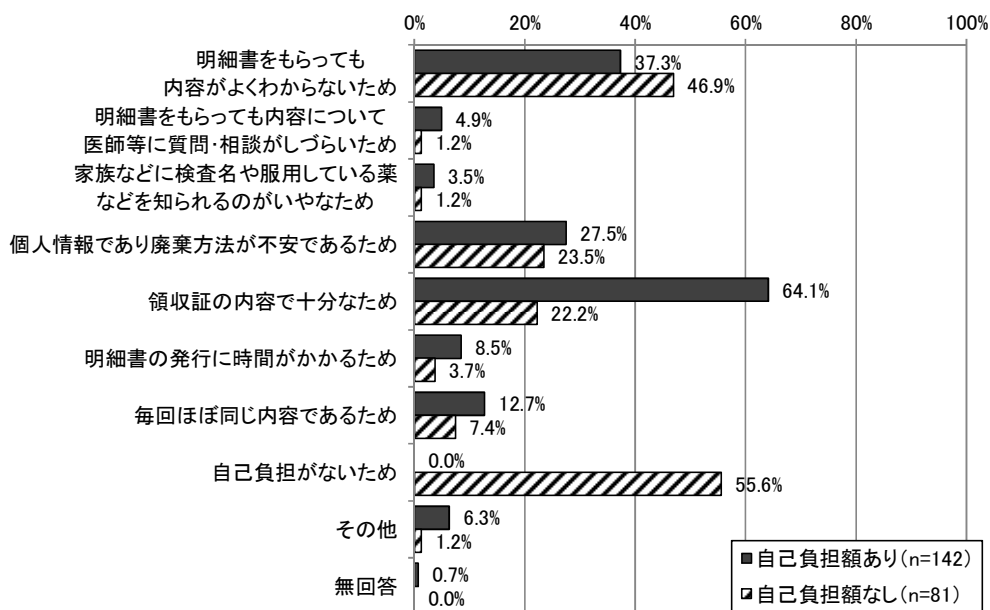
4) 歯科診療所の患者

明細書発行を希望しない患者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの患者では「領収証の内容で十分なため」が64.1%で最も多かった。

自己負担額なしの患者では「自己負担がないため」が55.6%で最も多かった。

図表 169 明細書発行を希望しない理由（歯科診療所の患者）

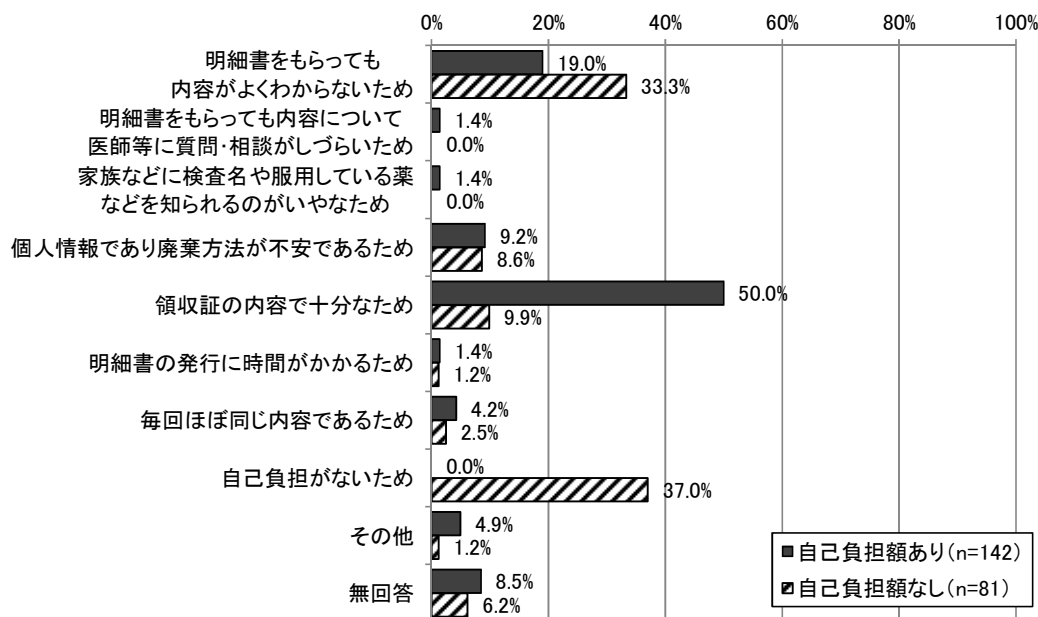
（明細書発行を希望しない患者、複数回答）



（注）「その他」の内容として、「治療の内容を丁寧に説明してもらっている」、「特に見ない」等が挙げられた。

図表 170 明細書発行を希望しない最大の理由（歯科診療所の患者）

（明細書発行を希望しない患者、単数回答）



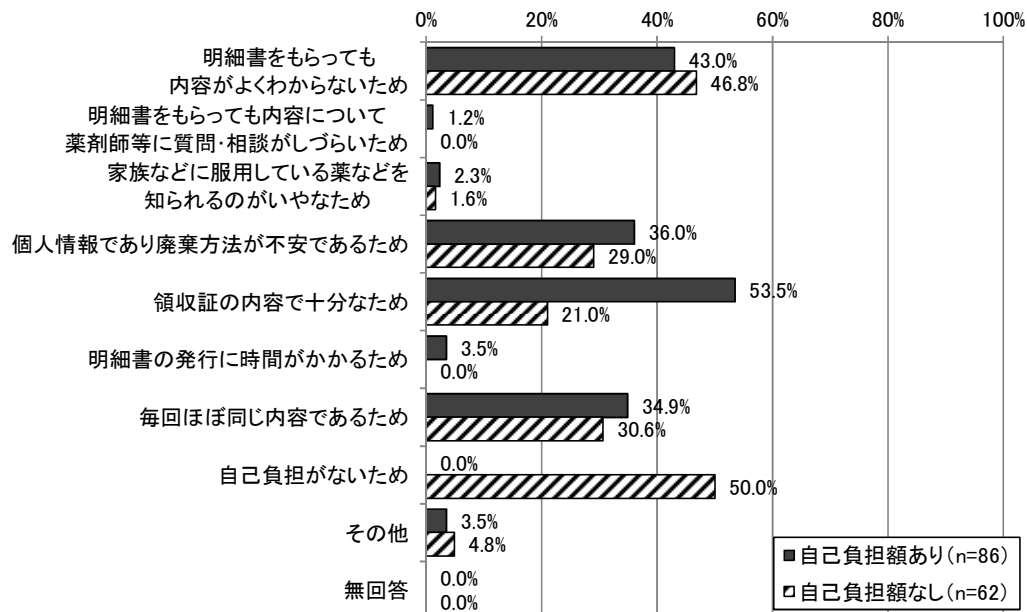
5) 保険薬局の患者

明細書発行を希望しない患者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの患者では「領収証の内容で十分なため」が53.5%で最も多かった。

自己負担額なしの患者では「自己負担がないため」が50.0%で最も多かった。

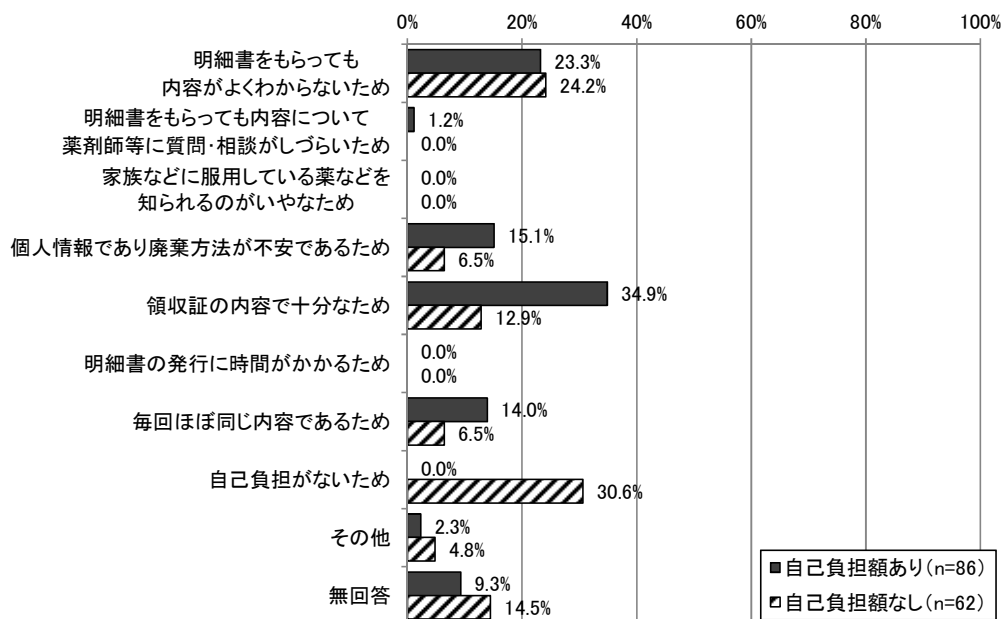
図表 171 明細書発行を希望しない理由（保険薬局の患者）

（明細書発行を希望しない患者、複数回答）



図表 172 明細書発行を希望しない最大の理由（保険薬局の患者）

（明細書発行を希望しない患者、単数回答）

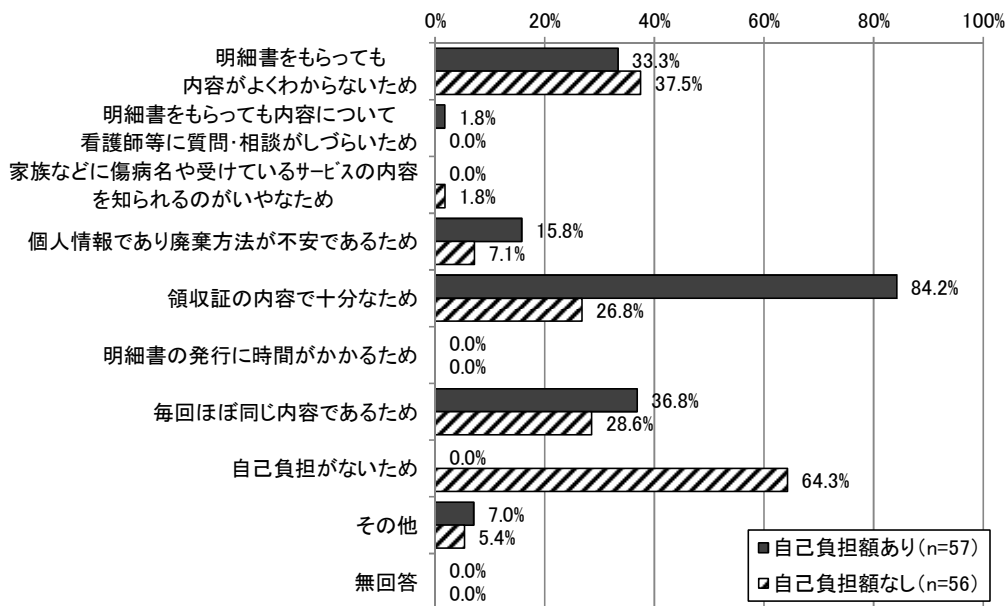


6) 訪問看護ステーションの利用者

明細書発行を希望しない利用者に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、自己負担額ありの利用者では「領収証の内容で十分なため」が84.2%で最も多かった。

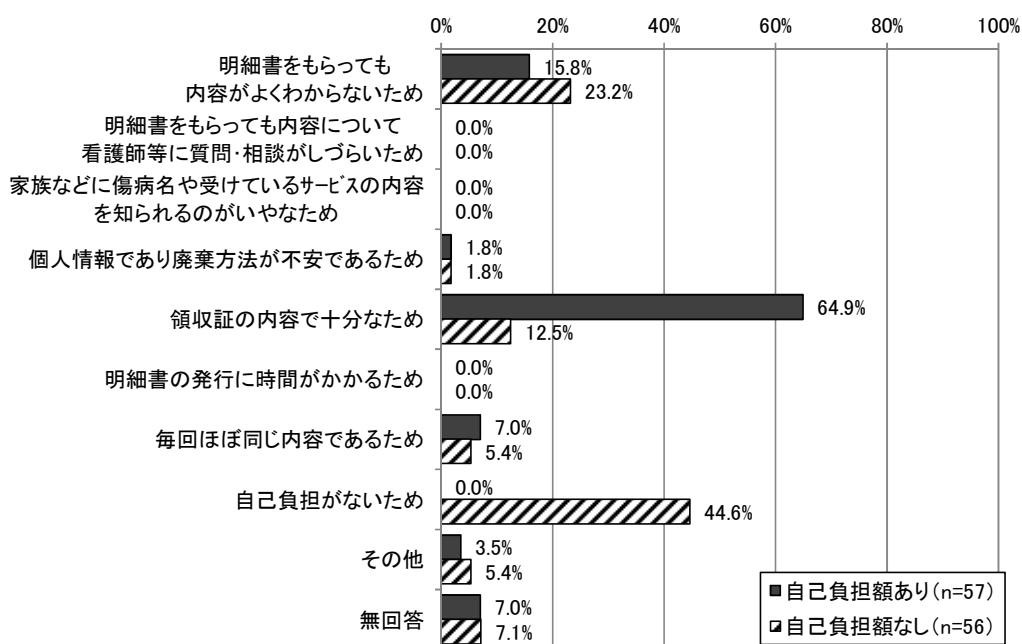
自己負担額なしの利用者では「自己負担がないため」が64.3%で最も多かった。

図表 173 明細書発行を希望しない理由（訪問看護ステーションの利用者）
（明細書発行を希望しない利用者、複数回答）



(注)「その他」の内容として、「明細書をもらう必要がない」、「老眼のためもらっても見られない」等が挙げられた。

図表 174 明細書発行を希望しない最大の理由（訪問看護ステーションの利用者）
（明細書発行を希望しない利用者、単数回答）

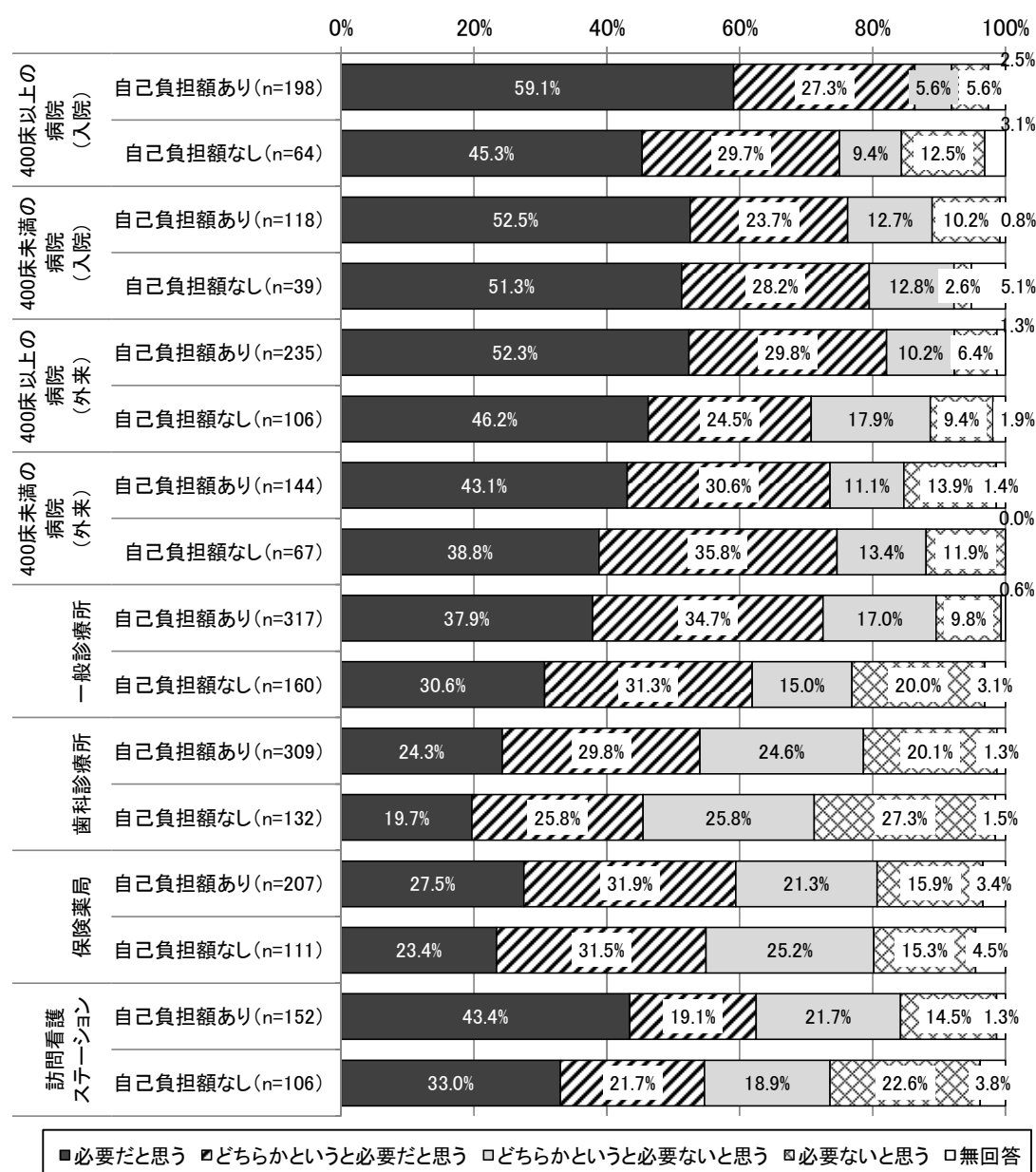


③明細書が無料発行される制度の必要性

明細書が無料発行される制度の必要性をみると、自己負担額ありの患者・利用者では、いずれの施設・事業所でも「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」を合わせた割合が5割を超えていた。

自己負担額なしの患者・利用者も、歯科診療所以外の施設では「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」を合わせた割合が5割を超えていた。

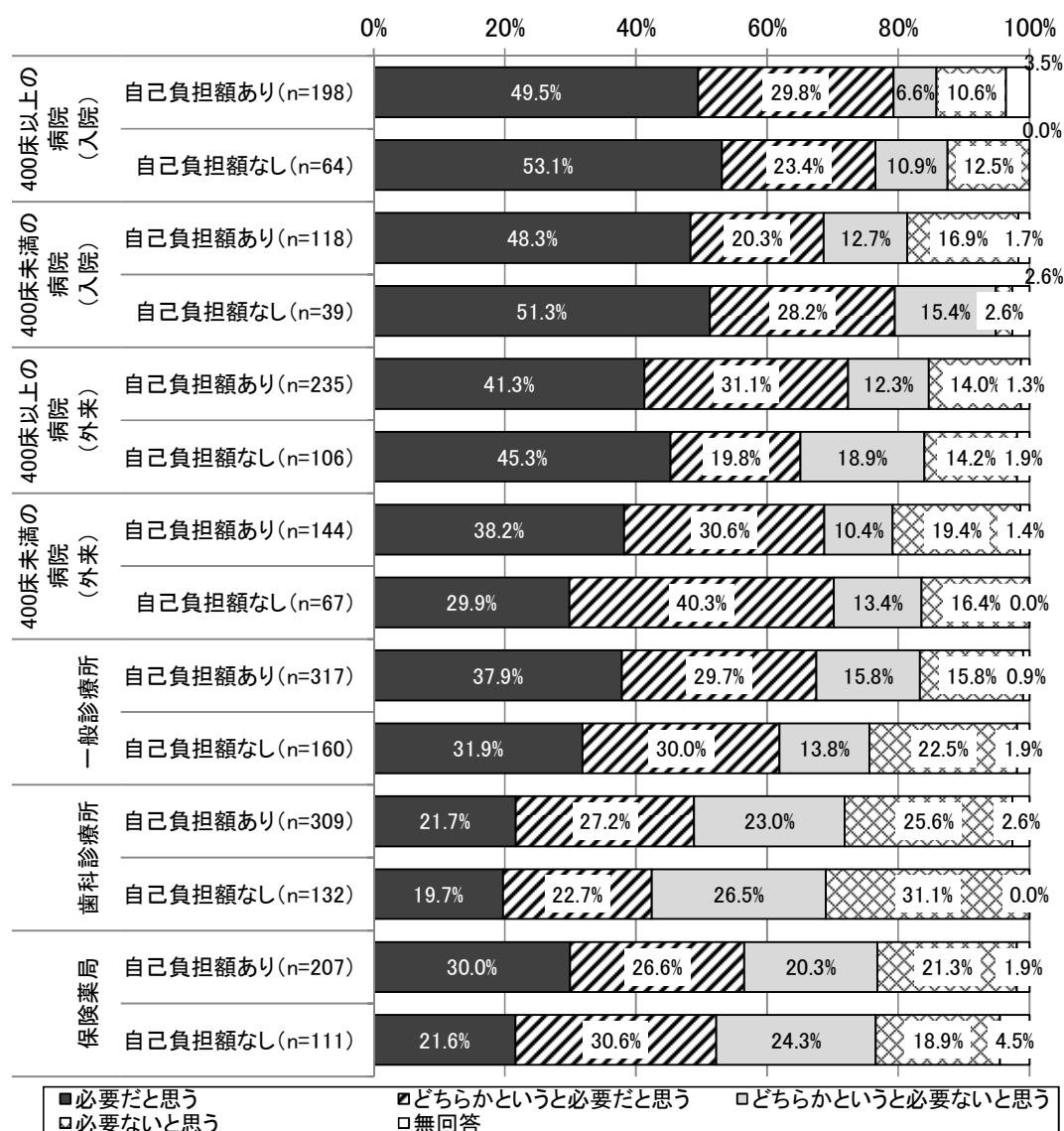
図表 175 明細書が無料発行される制度の必要性



④自己負担額がない患者に対して明細書が無料発行される制度の必要性

自己負担額がない患者に対して明細書が無料発行される制度の必要性をみると、歯科診療所以外の施設では、自己負担額ありの患者、自己負担額なしの患者のいずれも「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」を合わせた割合が5割を超えていた。

図表 176 自己負担額がない患者に対して明細書が無料発行される制度の必要性
(病院(入院)・病院(外来)・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者)



(注) 訪問看護ステーションの利用者には本設問は尋ねていない。

明細書発行体制等加算等に係るNDB集計
(平成 28 年 12 月診療分)

各項目の算定回数

【医科（診療所）】

項目	算定回数
明細書発行体制等加算	71,182,212
（参考）再診料	75,675,393

【歯科（診療所）】

項目	算定回数
明細書発行体制等加算	16,169,817
（参考）再診料	23,340,645

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)
明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療に係るものを含む)
歯科診療所票

- ※ この「歯科診療所票」は歯科診療所の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 29 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。ただし、一部平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間についてお答えいただく設問がございますのでご注意ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①所在地	() 都・道・府・県			
②開設者 ※○は1つだけ	1. 個人 2. 法人 3. その他 ()			
③標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 歯科 2. 矯正歯科 3. 小児歯科 4. 歯科口腔外科 5. その他			
④全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※平成 29 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	歯科医師	歯科衛生士	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人
* 非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)				
⑤ 1 か月間の延べ外来患者数 ※平成 29 年 6 月 1 か月間	初診	() 人		
	再診	() 人		
⑥レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^{注1} の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない			
⑦レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. オンライン請求 2. 電子媒体（CD など）による提出 3. 紙レセプトによる提出（レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用） 4. 紙レセプトによる提出（手書き） 5. 代行請求			

注 1：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 自己負担額のある患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況（自己負担額のある患者について）】

①「明細書発行体制等加算」の届出をしていますか。※○は1つだけ	
1. 届出している	→1) 施設基準届出時期：平成 () 年 () 月 →2) 算定回数：() 回 ※平成 29 年 6 月 1 か月間
2. 届出していない	

②貴施設における明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。なお、明細書発行体制等加算を算定し、それ以外の費用を徴収していない場合は「無料で発行している」とお答えください（以下、同様）。
自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ

1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問③へ
2. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、無料で発行している
3. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、有料で発行している
→1件当たりの徴収金額：()円 その金額の算出根拠：()
4. 明細書の発行は行っていない（具体的な理由 ()）

→4ページの質問③へ

【「正当な理由」の届出を行っている施設の方】

②-1 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※○は1つだけ

1. レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため
2. 明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため

②-2 貴施設では、今後、原則として全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。※○は1つだけ

1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成()年()月頃
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
3. 予定はない
4. その他（具体的に ()）

②-3 貴施設では、全患者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。※○は1つだけ

1. ある（具体的に ()）
2. ない

③貴施設において、平成29年6月1か月間に明細書を発行した延べ患者数をお書きください。ただし、該当する患者がいない場合は「0」、不明の場合は「-」とご記入ください。自己負担額のない患者は除きます。

1) 無料で発行した患者数 ()人 2) 有料で発行した患者数 ()人

④貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で明細書を発行していますか。※○はいくつでも

1. 精算の都度発行
2. 次回来院時に発行
3. 月に1回まとめて発行
4. 患者・家族の要望に応じて発行
5. その他（具体的に ()）

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のある患者について）】

⑤貴施設では、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。

自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

1. レセプトコンピュータで作成している
2. パソコン等で作成している
3. 手書きで作成している
4. その他（具体的に ()）

⑥貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。

自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している
2. 歯科医師が対応している
3. 照会の内容によって対応する人を変えている
4. その他（具体的に ()）
5. 特に対応する体制をとっていない

⑦貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ

1. 平成22年3月以前 →質問⑧へ
2. 平成22年4月～平成24年3月 →質問⑧へ
3. 平成24年4月～平成26年3月 →質問⑧へ
4. 平成26年4月～平成28年3月 →質問⑧へ
5. 平成28年4月以降

【平成 28 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑦-1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。※〇はいくつでも

0. 特に行ったことはない →質問⑧へ
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：() 人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に)

⑦-2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用

約 () 万円

2) 設備投資のための費用

約 () 万円

⑧平成 29 年 6 月 1 か月間で、明細書発行にかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

自己負担額のない患者は除きます。

約 () 万円

⑨明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。

自己負担額のない患者は除きます。※〇はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用
2. 人員体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加
5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に)
7. 特に負担に感じることはない

【患者の反応等（自己負担額のある患者について）】

⑩貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、患者から明細書の内容について問合せはありましたか。

自己負担額のない患者は除きます。※〇は１つだけ

1. あった
2. なかった →4 ページの質問 3 へ

【内容について問合せがあった施設の方】

⑩-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

1. 診療月日
2. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む）
3. 診療報酬点数の個別点数や価格
4. 診療報酬点数の算定回数
5. 使用医薬品の名称・投与回数・日数
6. その他（具体的に)

⑩-2 上記⑩-1 で最も多いものの番号 1 つをお答えください。

3 **自己負担額のない患者**への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等について伺います。

【明細書の発行状況（自己負担額のない患者について）】

①貴施設では、**自己負担額のない患者**に明細書を発行していますか。なお、明細書発行体制等加算を算定し、それ以外の費用を徴収していない場合は「無料で発行している」とお答えください（以下、同様）。※○は1つだけ

1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問②へ
2. 希望した患者のみ、無料で発行している →質問②へ
3. 「正当な理由」の届出をし、希望した患者のみ、有料で発行している
→1件当たりの徴収金額：（ ）円 その金額の算出根拠：（ ）
4. 「正当な理由」の届出をし、発行を行っていない
5. 「正当な理由」の届出をしておらず、発行も行っていない
（具体的な理由 ） →6ページの質問④へ

【自己負担額のない患者に対して明細書の発行を行っていない施設の方】

①ー1 **自己負担額のない患者**に明細書を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
2. 明細書の発行に負担を感じるため
3. 明細書の発行を希望する患者がいないため
4. その他（具体的に ）

【「正当な理由」の届出を行っている施設の方（以下、同様）】

①ー2 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※○は1つだけ

1. レセプトコンピュータに自己負担額のない患者への明細書発行機能が付与されていないため
2. 明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため

①ー3 貴施設では、**自己負担額のない患者**に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。※○は1つだけ

1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
3. 予定はない
4. その他（具体的に ）

①ー4 **自己負担額のない患者**に明細書を無料で発行する場合にお困りになることはありますか。※○は1つだけ

1. ある（具体的に ）
2. ない

→自己負担額のない患者に対して明細書を発行していない施設の方は6ページの質問④へ

【自己負担額のない患者に対して無料または有料で明細書の発行を行っている施設の方（以下、同様）】

②貴施設では、**自己負担額のない患者**に対して、明細書の発行をどのように周知していますか。※○は1つだけ

1. 院内掲示に加えて受付窓口等で案内している
2. 院内掲示で案内している
3. その他（具体的に ）

③平成29年7月24日（月）～8月6日（日）の期間において、貴施設を受診した**自己負担額のない患者**は何人いましたか。また、そのうち明細書を発行した患者は何人いましたか。それぞれ延べ患者数をお答えください。ただし、該当する患者がいない場合は「0」、不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 自己負担額のない患者数	（ ）人
2) うち無料で発行した患者数 ^{注2}	（ ）人
3) うち有料で発行した患者数 ^{注2}	（ ）人

注2：ご確認できる範囲でお答えください。

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のない患者について）】

④貴施設では、自己負担額のない患者に対して、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。

※○はいくつでも

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. レセプトコンピュータで作成している | 2. パソコン等で作成している |
| 3. 手書きで作成している | 4. その他（具体的に |

⑤貴施設では、自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。

※○はいくつでも

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 会計窓口の職員が対応している | 2. 歯科医師が対応している |
| 3. 照会の内容によって対応する人を変えている | |
| 4. その他（具体的に | 5. 特に対応する体制をとっていない |

⑥貴施設では、自己負担額のない患者に対して、いつから明細書の発行を行っていますか。※○は1つだけ

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 →質問⑦へ | 2. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 →質問⑦へ |
| 3. 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 →質問⑦へ | 4. 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 →質問⑦へ |
| 5. 平成 28 年 4 月以降 | |

【平成 28 年 4 月以降に自己負担額のない患者に対して明細書の発行を始めた施設の方】

⑥ー1 自己負担額のない患者への明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。

※○はいくつでも

0. 特に行ったことはない →質問⑦へ
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：() 人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に

⑥ー2 自己負担額のない患者に対して明細書を発行するために、初期費用としてかかった額をご記入ください。
費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑦平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者に対する明細書発行でかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

約 () 万円

⑧自己負担額のない患者に対する明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。※○はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用
2. 人員体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加
5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に
7. 特に負担に感じることはない

【患者の反応等（自己負担額のない患者について）】

⑨貴施設において、平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間で、自己負担額のない患者から明細書の発行（発行の可否や手数料等）について問合せはありましたか。※○は1つだけ

1. あった →問合せを受けた延べ患者数：（ ）人 2. なかった

⑩貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者から明細書の内容について問合せはありましたか。※○は1つだけ

1. あった 2. なかった →質問 4 へ

【内容について問合せがあった施設の方】

⑩－1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※○はいくつでも

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） |
| 3. 診療報酬点数の個別点数や価格 | 4. 診療報酬点数の算定回数 |
| 5. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 | |
| 6. その他（具体的に | ） |

⑩－2 上記⑩－1 で最も多いものの番号 1 つをお答えください。

4 ＜全施設の方＞

自己負担額のない患者に対する明細書の発行も含めて、明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額(歯科診療所の窓口で支払う金額)がありましたか。ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)歯科診療所に行った回数			約()回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した歯科診療所ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他(具体的に)
② 歯科診療所での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日受診した歯科診療所で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った	2. 受け取らなかった

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。ただし、「明細書発行体制等加算」は手数料に含まれません。※○は1つだけ		
1. 支払った(お支払い金額: 円)	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 歯科医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 歯科診療所への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____）
7. 特になし

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、歯科診療所での明細書の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____）

①-2 上記①-1の選択肢 1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 歯科診療所を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療に係るものを含む)

一般診療所票

- ※ この「一般診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 29 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。ただし、一部平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間についてお答えいただく設問がございますのでご注意ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()					
②所在地	() 都・道・府・県					
③開設者 ※○は1つだけ	1. 個人 2. 法人 3. その他 ()					
④施設種別 ※○は1つだけ	1. 有床診療所 →許可病床数: () 床 2. 無床診療所					
⑤標榜診療科 ※○はいくつでも *「産婦人科」には、婦人科・産科を含める	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 脳神経外科 5. 小児科 6. 産婦人科* 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. その他					
⑥全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※平成 29 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	医師	看護職員	薬剤師	事務職員	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合: (非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合: (非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)						
⑦ 1 か月間の延べ患者数 ※平成 29 年 6 月 1 か月間	1) 外来	初診	() 人	再診	() 人	2) 入院 () 人
⑧レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^{注1} の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない					
⑨レセプト請求方法 ※最も多いもの 1 つに○	1. オンライン請求 2. 電子媒体 (CD など) による提出 3. 紙レセプトによる提出 (レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用) 4. 紙レセプトによる提出 (手書き) 5. 代行請求					

注 1 : 「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 自己負担額のある患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況（自己負担額のある患者について）】

①「明細書発行体制等加算」の届出をしていますか。※〇は1つだけ

1. 届出している →1) 施設基準届出時期：平成（ ）年（ ）月
→2) 算定回数：（ ）回 ※平成29年6月1か月間
2. 届出していない

②貴施設における明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。なお、明細書発行体制等加算を算定し、それ以外の費用を徴収していない場合は「無料で発行している」とお答えください（以下、同様）。自己負担額のない患者は除きます。※〇は1つだけ

1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問③へ
2. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、無料で発行している
3. 「正当な理由」の届出をし、希望する患者のみ、有料で発行している
→1件当たりの徴収金額：（ ）円 その金額の算出根拠：（ ）
4. 明細書の発行は行っていない（具体的な理由（ ））

→4ページの質問③へ

▶【「正当な理由」の届出を行っている施設の方】

②-1 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※〇は1つだけ

1. レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため
2. 明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため

②-2 貴施設では、今後、原則として全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。※〇は1つだけ

1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
3. 予定はない
4. その他（具体的に（ ））

②-3 貴施設では、全患者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。※〇は1つだけ

1. ある（具体的に（ ））
2. ない

③貴施設において、平成29年6月1か月間に明細書を発行した延べ患者数を外来／入院別にお書きください。ただし、該当する患者がいらない場合は「0」、不明の場合は「-」とご記入ください。自己負担額のない患者は除きます。

	外 来	入 院（有床診療所の方のみ）
1) 無料で発行した患者数	人	人
2) 有料で発行した患者数	人	人

④貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で外来患者に対して明細書を発行していますか。※〇はいくつでも

1. 精算の都度発行 2. 次回来院時に発行 3. 月に1回まとめて発行
4. 患者・家族の要望に応じて発行 5. その他（具体的に（ ））

【有床診療所の方】

⑤貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で入院患者に対して明細書を発行していますか。※〇はいくつでも

1. 精算の都度発行（定期請求を含む） 2. 月に1回まとめて発行（1.以外）
3. 退院時にまとめて発行 4. 患者・家族の要望に応じて発行
5. その他（具体的に（ ））

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のある患者について）】

⑥貴施設では、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。

自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. レセプトコンピュータで作成している | 2. パソコン等で作成している |
| 3. 手書きで作成している | 4. その他（具体的に |

⑦貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。

自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 会計窓口の職員が対応している | 2. 医師が対応している |
| 3. 照会の内容によって対応する人を変えている | |
| 4. その他（具体的に | 5. 特に対応する体制をとっていない |

⑧貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 →質問⑨へ | 2. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 →質問⑨へ |
| 3. 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 →質問⑨へ | 4. 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 →質問⑨へ |
| 5. 平成 28 年 4 月以降 | |

【平成 28 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑧ー1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。※○はいくつでも

- | |
|--|
| 0. 特に行ったことはない →質問⑨へ |
| 1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：()人 |
| 2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った |
| 3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した |
| 4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した |
| 5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した |
| 6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた |
| 7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した |
| 8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した |
| 9. その他（具体的に |

⑧ー2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑨平成 29 年 6 月 1 か月間で、明細書発行にかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

自己負担額のない患者は除きます。

約 () 万円

⑩明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。

自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 | 2. 人員体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） | |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 | 5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること |
| 6. その他（具体的に | |
| 7. 特に負担に感じることはない | |

【患者の反応等（自己負担額のある患者について）】

⑪貴施設において、平成29年6月1か月間で、患者から明細書の内容について問合せはありましたか。
自己負担額のない患者は除きます。※〇は1つだけ

1. あった

2. なかった →質問3へ

【内容について問合せがあった施設の方】

⑪-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に | ） |

⑪-2 上記⑪-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

3 自己負担額のない患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況（自己負担額のない患者について）】

①貴施設では、自己負担額のない患者に明細書を発行していますか。なお、明細書発行体制等加算を算定し、それ以外の費用を徴収していない場合は「無料で発行している」とお答えください（以下、同様）。※〇は1つだけ

- 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問②へ
- 希望した患者のみ、無料で発行している →質問②へ
- 「正当な理由」の届出をし、希望した患者のみ、有料で発行している
→1件当たりの徴収金額：（ ）円 その金額の算出根拠：（ ）
- 「正当な理由」の届出をし、発行を行っていない
- 「正当な理由」の届出をしておらず、発行も行っていない
（具体的な理由 ） →6ページの質問4へ

【自己負担額のない患者に対して明細書の発行を行っていない施設の方】

①-1 自己負担額のない患者に明細書を発行していない理由は何ですか。※〇はいくつでも

- 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
- 明細書の発行に負担を感じるため
- 明細書の発行を希望する患者がいらないため
- その他（具体的に

【「正当な理由」の届出を行っている施設の方（以下、同様）】

①-2 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※〇は1つだけ

- レセプトコンピュータに自己負担額のない患者への明細書発行機能が付与されていないため
- 明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため

①-3 貴施設では、自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。※〇は1つだけ

- 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
- 具体的な時期は未定だが、検討中である
- 予定はない
- その他（具体的に

①-4 自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する場合にお困りになることはありますか。※〇は1つだけ

- ある（具体的に
- ない

→自己負担額のない患者に対して明細書を発行していない施設の方は6ページの質問4へ

【自己負担額のない患者に対して無料または有料で明細書の発行を行っている施設の方（以下、同様）】

②貴施設では、自己負担額のない患者に対して、明細書の発行をどのように周知していますか。※○は1つだけ

1. 院内掲示に加えて受付窓口等で案内している 2. 院内掲示で案内している
3. その他（具体的に _____）

③平成29年7月24日（月）～8月6日（日）の期間において、貴施設を受診した自己負担額のない患者は何人いましたか。また、そのうち明細書を発行した患者は何人いましたか。それぞれ外来／入院別に延べ患者数をお答えください。ただし、該当する患者がいない場合は「0」、不明の場合は「－」とご記入ください。

	外 来	入 院（有床診療所の方のみ） ^{注2}
1) 自己負担額のない患者数	人	人
2) うち無料で発行した患者数 ^{注3}	人	人
3) うち有料で発行した患者数 ^{注3}	人	人

注2：平成29年7月24日～8月6日に退院した入院患者についてお答えください。

注3：ご確認できる範囲でお答えください。

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のない患者について）】

④貴施設では、自己負担額のない患者に対して、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。
※○はいくつでも

1. レセプトコンピュータで作成している 2. パソコン等で作成している
3. 手書きで作成している 4. その他（具体的に _____）

⑤貴施設では、自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。
※○はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している 2. 医師が対応している
3. 照会の内容によって対応する人を変えている
4. その他（具体的に _____） 5. 特に対応する体制をとっていない

⑥貴施設では、自己負担額のない患者に対して、いつから明細書の発行を行っていますか。※○は1つだけ

1. 平成22年3月以前 →質問⑦へ 2. 平成22年4月～平成24年3月 →質問⑦へ
3. 平成24年4月～平成26年3月 →質問⑦へ 4. 平成26年4月～平成28年3月 →質問⑦へ
5. 平成28年4月以降

【平成28年4月以降に自己負担額のない患者に対して明細書の発行を始めた施設の方】

⑥－1 自己負担額のない患者への明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。
※○はいくつでも

0. 特に行ったことはない →質問⑦へ
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：（ ）人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に _____）

⑥－2 自己負担額のない患者に対して明細書を発行するために、初期費用としてかかった額をご記入ください。
費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約（ ）万円
2) 設備投資のための費用	約（ ）万円

⑦平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者に対する明細書発行でかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約（ ）万円

⑧自己負担額のない患者に対する明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 | 2. 人員体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） | |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 | 5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること |
| 6. その他（具体的に | ） |
| 7. 特に負担に感じることはない | |

【患者の反応等（自己負担額のない患者について）】

⑨貴施設において、平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間で、自己負担額のない患者から明細書の発行（発行の可否や手数料等）について問合せはありましたか。※〇は1つだけ

1. あった →問合せを受けた延べ患者数：（ ）人 2. なかった

⑩貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者から明細書の内容について問合せはありましたか。※〇は1つだけ

1. あった 2. なかった →質問 4 へ

【内容について問合せがあった施設の方】

⑩-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に | ） |

⑩-2 上記⑩-1 で最も多いものの番号 1 つをお答えください。

4 <全施設の方>

自己負担額のない患者に対する明細書の発行も含めて、明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額(診療所の窓口で支払う金額)がありましたか。 <u>ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。※○は1つだけ</u>			1. あった 2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)診療所に行った回数			約() 回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力をお願い」の裏面に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した診療所ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他(具体的に)
② 診療所での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた → 【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日受診した診療所で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った	2. 受け取らなかった

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。ただし、「明細書発行体制等加算」は手数料に含まれません。※○は1つだけ		
1. 支払った(お支払い金額: 円)	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 診療所への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____）
7. 特になし

3. くみなさんにおうかがいします

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、診療所での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____）

①-2 上記①-1の選択肢 1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 診療所を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療に係るものを含む)

病院票

- ※ この「病院票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 29 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。ただし、一部平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間についてお答えいただく設問がございますのでご注意ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()							
②所在地	() 都・道・府・県							
③開設者 ^{注1} ※○は1つだけ	1. 国	2. 公立	3. 公的	4. 社会保険関係団体	5. 医療法人	6. 個人	7. 学校法人	8. その他の法人
④標榜診療科 ※○はいくつでも *「産婦人科」には、婦人科・産科を含める	1. 内科	2. 外科	3. 整形外科	4. 脳神経外科	5. 小児科	6. 産婦人科*	7. 呼吸器科	8. 消化器科
	9. 循環器科	10. 精神科	11. 眼科	12. 耳鼻咽喉科	13. 泌尿器科	14. 皮膚科	15. 歯科	16. その他
⑤DPC 対応 ※○は1つだけ	1. DPC 対象病院			2. DPC 準備病院		3. 対応していない		
⑥許可病床数	一般病床	医療療養病床	介護療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	
	床	床	床	床	床	床	床	
⑦1 日平均在院患者数 ※平成 29 年 6 月 1 か月間	一般病床	医療療養病床	介護療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	病院全体	
	人	人	人	人	人	人	人	
⑧外来患者数 ※平成 29 年 6 月 1 か月間	1) 初診患者数		人		2) 再診延べ患者数		人	
⑨全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※小数点以下第 1 位まで ※委託職員・派遣職員を含む	医師・ 歯科医師	看護職員	薬剤師	事務職員	その他職員	計		
	人	人	人	人	人	人		
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)								
⑩レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^{注2} の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している		2. 導入の具体的な予定がある		3. 導入を検討中			
			4. 導入する予定はない					
⑪レセプト請求方法 ※最も多いもの 1 つに○	1. オンライン請求		2. 電子媒体 (CD など) による提出		3. 紙レセプトによる提出 (手書き)			
			4. 代行請求					

注 1：開設者による分類は下記の通り。

- 国**：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他（国）
- 公立**：都道府県、市町村、地方独立行政法人
- 公 的**：日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会
- 社会保険関係団体**：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合
- その他の法人**：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

注 2：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 自己負担額のある患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況（自己負担額のある患者について）】

①貴施設における、明細書の発行状況として、あてはまるものを選んでください。 自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ				
1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している				
2. 無料発行は行っていない（具体的な理由 _____） →無料発行を行っていない施設の方は4ページの質問3へ				
②貴施設が明細書を発行していない患者として、あてはまるものを選んでください。 自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも				
0. 発行していない患者はいない				
1. 明細書の発行を希望しない患者				
2. 診療情報の提供が第三者の利益を害するおそれがある、又は患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあると医療従事者等が認めた患者				
3. その他（具体的に _____）				
③平成29年6月1か月間に貴施設を受診して精算を行った患者のうち、明細書を発行しなかった患者はどの程度いましたか。外来／入院別に最もあてはまるものを選んでください。自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ				
1) 外来	1. 10%未満 5. 70～90%未満	2. 10～30%未満 6. 90%以上	3. 30～50%未満 7. わからない	4. 50～70%未満
2) 入院	1. 10%未満 5. 70～90%未満	2. 10～30%未満 6. 90%以上	3. 30～50%未満 7. わからない	4. 50～70%未満
④貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で外来患者に対して明細書を発行していますか。※○はいくつでも				
1. 精算の都度発行 3. 月に1回まとめて発行 5. その他（具体的に _____）				
2. 次回来院時に発行 4. 患者・家族の要望に応じて発行				
⑤貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で入院患者に対して明細書を発行していますか。※○はいくつでも				
1. 精算の都度発行（定期請求を含む） 3. 退院時にまとめて発行 5. その他（具体的に _____）				
2. 月に1回まとめて発行（1.以外） 4. 患者・家族の要望に応じて発行				

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のある患者について）】

⑥貴施設では、明細書の作成・発行について、どのような体制で対応していますか。 自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも	
1. 会計窓口の職員が対応している 3. その他（具体的に _____）	2. 自動入金機で対応している 4. 特に対応する体制をとっていない
⑦貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。 自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも	
1. 会計窓口の職員が対応している 3. 照会の内容によって対応する人を変えている 5. その他（具体的に _____）	2. 医師・歯科医師が対応している 4. 患者相談窓口で対応している 6. 特に対応する体制をとっていない
⑧貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ	
1. 平成22年3月以前 →質問⑨へ 3. 平成24年4月～平成26年3月 →質問⑨へ 5. 平成28年4月以降	2. 平成22年4月～平成24年3月 →質問⑨へ 4. 平成26年4月～平成28年3月 →質問⑨へ

【平成 28 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑧ー 1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。※○はいくつでも

0. 特に行ったことはない →質問⑨へ

1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：() 人

2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った

3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した

4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した

5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した

6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた

7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した

8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した

9. その他（具体的に)

⑧ー 2 明細書発行体制の整備のためにかった初期費用の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」をご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑨平成 29 年 6 月 1 か月間で、明細書発行にかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」をご記入ください。
自己負担額のない患者は除きます。

約 () 万円

⑩明細書発行体制の整備にあたって、負担となったことは何ですか。
自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用	2. 人員体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）	
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加	5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に)	7. 特に負担に感じることはない

【患者の反応（自己負担額のある患者について）】

⑪貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、患者から明細書の内容について問合せはありましたか。 自己負担額のない患者は除きます。※○は 1 つだけ	
1. あった	2. なかった → 4 ページの質問 3 へ
▶【内容について問合せがあった施設の方】	
⑪－１ 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※○はいくつでも	
1. 診療月日	2. 入院期間
3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む）	4. 診療報酬点数の個別点数や価格
5. 診療報酬点数の算定回数	6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数
7. その他（具体的に	)
⑪－２ 上記⑪－１で最も多いものの番号 1 つをお答えください。	

3 自己負担額のない患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況（自己負担額のない患者について）】

①貴施設における、自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況として、あてはまるものを選んでください。
※〇は1つだけ

1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問②へ
2. 希望した患者のみ、無料で発行している →質問②へ
3. 「正当な理由」の届出をし、希望した患者のみ、有料で発行している
→1件当たりの徴収金額（ ）円 徴収金額の算出根拠（ ）
4. 「正当な理由」の届出をし、発行を行っていない
5. 「正当な理由」の届出をしておらず、発行も行っていない
（具体的な理由 ） →6ページの質問④へ

【自己負担額のない患者に対して明細書の発行を行っていない施設の方】

①-1 明細書を発行していない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
2. 明細書の発行に負担を感じるため
3. 明細書の発行を希望する患者がいないため
4. その他（具体的に ）

【「正当な理由」の届出を行っている施設の方（以下、同様）】

①-2 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※〇は1つだけ

1. レセプトコンピュータに自己負担額のない患者への明細書発行機能が付与されていないため
2. 自己負担額のない患者への明細書発行を行うためには自動入金機の改修が必要であるため

①-3 貴施設では、自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定はありますか。
※〇は1つだけ

1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
3. 予定はない
4. その他（具体的に ）

①-4 自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する場合、お困りになることがありますか。※〇は1つだけ

1. ある（具体的に ）
2. ない

→自己負担額のない患者に対して明細書を発行していない施設の方は6ページの質問④へ

【自己負担額のない患者に対して明細書を無料または有料で発行している施設の方（以下、同様）】

②貴施設では、自己負担額のない患者に対して、明細書の発行をどのように周知していますか。※〇は1つだけ

1. 院内掲示に加えて受付窓口等で案内している
2. 院内掲示で案内している
3. その他（具体的に ）

③平成29年7月24日（月）～8月6日（日）の期間において、貴施設を受診した自己負担額のない患者は何人いましたか。また、そのうち明細書を発行した患者は何人いましたか。それぞれ外来／入院別に延べ患者数をお答えください。ただし、該当する患者がいない場合は「0」、不明の場合は「-」とご記入ください。

	外 来	入 院 ^{注3}
1) 自己負担額のない患者数	人	人
2) うち無料で発行した患者数 ^{注4}	人	人
3) うち有料で発行した患者数 ^{注4}	人	人

注3：平成29年7月24日～8月6日に退院した入院患者についてお答えください。

注4：ご確認できる範囲でお答えください。

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のない患者について）】

④貴施設では、自己負担額のない患者への明細書の発行について、どのような体制で対応していますか。

※〇はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している
2. 自動入金機で対応している
3. その他（具体的に _____ ）
4. 特に対応する体制をとっていない

⑤貴施設では、自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。

※〇はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している
2. 医師・歯科医師が対応している
3. 照会の内容によって対応する人を変えている
4. 患者相談窓口で対応している
5. その他（具体的に _____ ）
6. 特に対応する体制をとっていない

⑥貴施設では、自己負担額のない患者に対して、いつから明細書の発行を行っていますか。※〇は1つだけ

1. 平成 22 年 3 月以前 →質問⑦へ
2. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 →質問⑦へ
3. 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 →質問⑦へ
4. 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 →質問⑦へ
5. 平成 28 年 4 月以降

【平成 28 年 4 月以降に自己負担額のない患者に対する明細書の発行を始めた施設の方】

⑥ー 1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。※〇はいくつでも

0. 特に行ったことはない →質問⑦へ
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：(_____) 人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に _____ ）

⑥ー 2 自己負担額のない患者に対する明細書発行体制の整備のためにかかった初期費用の額をご記入ください。
費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約 (_____) 万円
2) 設備投資のための費用	約 (_____) 万円

⑦平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者に対する明細書発行にかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

約 (_____) 万円

⑧自己負担額のない患者に対する明細書発行体制の整備にあたって、負担となったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用
2. 人員体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加
5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に _____ ）
7. 特に負担に感じることはない

【患者の反応（自己負担額のない患者について）】

⑨貴施設において、平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間で、自己負担額のない患者から明細書の発行（発行の可否や手数料等）について問合せはありましたか。※〇は 1 つだけ

1. あった → 問合せを受けた延べ患者数：（ ）人 2. なかった

⑩貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者から明細書の内容について問合せはありましたか。※〇は 1 つだけ

1. あった 2. なかった → 質問 4 へ

▶【内容について問合せがあった施設の方】

⑩－1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に | ） |

⑩－2 上記⑩－1 で最も多いものの番号 1 つをお答えください。

4 <全施設の方>

自己負担額のない患者に対する明細書の発行も含めて、明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 患者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額（病院の窓口で支払う金額）がありましたか。ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ 本日退院した（この調査票を受け取った）病院に、どのくらい入院していましたか。※○は1つだけ			
1. 3 日以内	2. ～ 2 週間以内	3. ～ 1 か月以内	4. ～ 3 か月以内
5. ～ 6 か月以内	6. 6 か月以上	7. その他（具体的に	）

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日退院した病院ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他（具体的に
② 病院での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか（本日の会計時等に知った場合も含みます）。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日退院した病院で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った 2. 受け取らなかった	

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ		
1. 支払った（お支払い金額： 円）	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 病院への安心感・信頼感が高まった
6. その他(具体的に)
7. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他(具体的に)

①-2 上記①-1の選択肢 1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 病院を退院して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に

1. 患者さんご本人のことにについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額（病院の窓口で支払う金額）がありましたか。ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ 本日退院した（この調査票を受け取った）病院に、どのくらい入院していましたか。※○は1つだけ			
1. 3 日以内	2. ～ 2 週間以内	3. ～ 1 か月以内	4. ～ 3 か月以内
5. ～ 6 か月以内	6. 6 か月以上	7. その他（具体的に	)

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力をお願い」の裏面に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日退院した病院ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他（具体的に
② 病院での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか（本日の会計時等に知った場合も含みます）。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日退院した病院で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った 2. 受け取らなかった	

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ		
1. 支払った（お支払い金額： 円）	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 病院への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____ ）
7. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____ ）

①-2 上記①-1の選択肢 1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 病院を退院して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額(病院の窓口で支払う金額)がありましたか。 <u>ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。</u> ※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)病院に行った回数			約()回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した病院ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他(具体的に)
② 病院での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日受診した病院で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った	2. 受け取らなかった

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ		
1. 支払った(お支払い金額: 円)	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 病院への安心感・信頼感が高まった
6. その他(具体的に)
7. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他(具体的に)

①-2 上記①-1の選択肢 1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 病院を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 患者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額（病院の窓口で支払う金額）がありましたか。 <u>ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。</u> ※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した（この調査票を受け取った）病院に行った回数			約 () 回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した病院ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他（具体的に ）
② 病院での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか（本日の受付や会計時に知った場合も含みます）。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた → 【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日受診した病院で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った	2. 受け取らなかった

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ		
1. 支払った（お支払い金額： 円）	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 病院への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____）
7. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①－1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____）

①－2 上記①－1の選択肢 1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 病院を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、診療の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療に係るものを含む)

保険薬局票

- ※ この「保険薬局票」は保険薬局の開設者・管理者の方に、貴施設における調剤の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 29 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。ただし、一部平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間についてお答えいただく設問がございますのでご注意ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()							
②所在地	() 都・道・府・県	③開局年	西暦 () 年					
④組織形態 ※○は1つだけ ※個人以外の場合は、会社の形態等にも○をつけてください	1. 個人 2. 個人以外→ <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td>1. 株式会社 2. 有限会社 3. 合資会社 4. 合名会社</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. その他（具体的に)</td> </tr> </table>				{	1. 株式会社 2. 有限会社 3. 合資会社 4. 合名会社		5. その他（具体的に)
{	1. 株式会社 2. 有限会社 3. 合資会社 4. 合名会社							
	5. その他（具体的に)							
⑤全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※小数点以下第1位まで	薬剤師	事務職員	登録販売者	その他職員				
	. 人	. 人	. 人	. 人				
※非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)								
⑥調剤基本料 ※○は1つだけ	1. 調剤基本料 1 (41 点、50/100 減算を含む) 2. 調剤基本料 2 (25 点、50/100 減算を含む) 3. 調剤基本料 3 (20 点、50/100 減算を含む) 4. 調剤基本料 4 (31 点、50/100 減算を含む) 5. 調剤基本料 5 (19 点、50/100 減算を含む) 6. 特別調剤基本料 (15 点、50/100 減算を含む)							
⑦基準調剤加算の届出状況 ※○は1つだけ	1. 届出あり 2. 届出なし							
⑧1 か月間の処方せん受付回数	() 回 ※平成 29 年 6 月 1 か月間							
⑨レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^{注1} の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない							
⑩レセプト請求方法 ※最も多いもの1つに○	1. オンライン請求 2. 電子媒体 (CD など) による提出 3. 紙レセプトによる提出 (レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用) 4. 紙レセプトによる提出 (手書き) 5. 代行請求							

注 1：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。**【明細書の発行状況等（自己負担額のある患者について）】**

①平成 29 年 6 月 1 か月間に貴施設で処方せんを受け付けた患者のうち、明細書を発行しなかった患者はどの程度いましたか。自己負担額のない患者は除きます。※○は1つだけ			
1. 10%未満	2. 10～30%未満	3. 30～50%未満	4. 50～70%未満
5. 70～90%未満	6. 90%以上	7. わからない	
②貴施設が明細書を発行していない患者として、あてはまるものを選んでください。 自己負担額のない患者は除きます。※○はいくつでも			
0. 発行していない患者はいない			
1. 明細書の発行を希望しない患者			
2. 診療情報の提供が第三者の利益を害するおそれがある、又は患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあると医療従事者等が認めた患者			
3. その他（具体的に_____）			
③貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で明細書を発行していますか。※○はいくつでも			
1. 精算の都度発行		2. 次回来局時に発行	
3. 月に1回まとめて発行		4. 患者・家族の要望に応じて発行	
5. その他（具体的に_____）			

【明細書の発行状況等（自己負担額のない患者について）】

④貴施設では、自己負担額のない患者に対して明細書を発行していますか。※○は1つだけ	
1. 希望しない患者等を除き、原則として全患者に無料で発行している →質問⑤へ	
2. 希望した患者のみ、無料で発行している →質問⑤へ	
3. 「正当な理由」の届出をし、希望した患者のみ、有料で発行している	
4. 「正当な理由」の届出をし、発行を行っていない	
5. 「正当な理由」の届出をしておらず、発行も行っていない (具体的な理由_____) →4 ページの質問 3 へ	
【上記④で「4. 発行を行っていない」と回答した施設の方】	
④-1 自己負担額のない患者に対して明細書を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも	
1. 明細書の発行に負担を感じるため	
2. 明細書の発行を希望する患者がいないため	
3. その他（具体的に_____）	
【上記④で「3. 『正当な理由』の届出をしている」と回答した施設の方（以下、同様）】	
④-2 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。※○は1つだけ	
1. レセプトコンピュータに自己負担額のない患者への明細書発行機能が付与されていないため	
2. 自己負担額のない患者への明細書発行を行うためには自動入金機の改修が必要であるため	
④-3 貴施設では、自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する予定はありますか。※○は1つだけ	
1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成（_____）年（_____）月頃	
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である	
3. 予定はない	
4. その他（具体的に_____）	
④-4 自己負担額のない患者に明細書を無料で発行する場合、お困りになることがありますか。※○は1つだけ	
1. ある（具体的に_____）	
2. ない	

→自己負担額のない患者に対して明細書を発行していない施設の方は4ページの質問 3 へ

【自己負担額のない患者に対して無料または有料で明細書を発行している施設の方（以下、同様）】

⑤貴施設では、自己負担額のない患者に対して、明細書の発行をどのように周知していますか。※〇は1つだけ

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 院内掲示に加えて受付窓口等で案内している | 2. 院内掲示で案内している |
| 3. その他（具体的に | ） |

⑥平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間において、貴施設に来局した自己負担額のない患者は何人いましたか。また、そのうち明細書を発行した患者は何人いましたか。それぞれ延べ患者数をお答えください。ただし、該当する患者がいない場合は「0」、不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 自己負担額のない患者数	() 人
2) うち無料で発行した患者数 ^{注2}	() 人
3) うち有料で発行した患者数 ^{注2}	() 人

注2：ご確認できる範囲でお答えください。

【明細書の発行体制・体制整備等（自己負担額のない患者について）】

⑦貴施設では、自己負担額のない患者への明細書の発行について、どのような体制で対応していますか。
※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している | 2. 会計窓口の薬剤師が対応している |
| 3. 薬を交付した薬剤師が対応している | 4. その他（具体的に |
| 5. 特に対応する体制をとっていない | ） |

⑧貴施設では、自己負担額のない患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。
※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している | 2. 会計窓口の薬剤師が対応している |
| 3. 薬を交付した薬剤師が対応している | 4. 問合せを受けた薬剤師が対応している |
| 5. その他（具体的に | 6. 特に対応する体制をとっていない |
| ） | |

⑨貴施設では、自己負担額のない患者に対して、いつから明細書の発行を行っていますか。※〇は1つだけ

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 →質問⑩へ | 2. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 →質問⑩へ |
| 3. 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 →質問⑩へ | 4. 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 →質問⑩へ |
| 5. 平成 28 年 4 月以降 | |

【平成 28 年 4 月以降に自己負担額のない患者に対して明細書の発行を始めた施設の方】

⑨－1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。※〇はいくつでも

- | |
|---|
| 0. 特に行ったことはない →質問⑩へ |
| 1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：() 人 |
| 2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った |
| 3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した |
| 4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した |
| 5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した |
| 6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた |
| 7. その他（具体的に |
| ） |

⑨－2 自己負担額のない患者に対して明細書を発行するために、初期費用としてかかった額をご記入ください。
費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 人員体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑩平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者に対する明細書発行でかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約（ ）万円

⑪自己負担額のない患者に対する明細書発行体制の整備にあたって、負担となったことは何ですか。※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 | 2. 人員体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） | |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 | 5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること |
| 6. その他（具体的に | ） 7. 特に負担に感じることはない |

【患者の反応（自己負担額のない患者について）】

⑫貴施設において、平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間で、自己負担額のない患者から明細書の発行（発行の可否や手数料等）について問合せはありましたか。※〇は 1 つだけ

1. あった →問合せを受けた延べ患者数：（ ）人 2. なかった

⑬貴施設において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、自己負担額のない患者から明細書の内容について問合せはありましたか。※〇は 1 つだけ

1. あった 2. なかった →質問 3 へ

▶【内容について問合せがあった施設の方】

⑬-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 調剤日 | 2. 調剤基本料（加算含む） |
| 3. 調剤料（加算含む） | 4. 薬学管理料（加算含む） |
| 5. 薬剤料 | 6. その他（具体的に |
| | ） |

⑬-2 上記⑬-1 で最も多いものの番号 1 つをお答えください。

3 <全施設の方>

自己負担額のない患者に対する明細書の発行も含めて、明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額(保険薬局の窓口で支払う金額)がありましたか。 ただし、お薬の容器代等、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。※○は1つだけ			1. あった 2. なかった
④ 本日処方せんを出した(この調査票を受け取った)保険薬局に、この1か月で訪れた回数			約() 回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の調剤の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。
※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、調剤の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日来局した保険薬局ではどのように会計を行いましたか。※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他(具体的に)
② 保険薬局での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日来局した保険薬局で「明細書」を受け取りましたか。※○は1つだけ	
1. 受け取った 2. 受け取らなかった	

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の質問3. ①へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ	
1. 支払った(お支払い金額: 円)	2. 支払っていない 3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ	
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※○はいくつでも

1. 薬の内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費（保険薬局での会計）の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費（保険薬局での会計）について質問がしやすくなった
4. 薬剤師等に薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 保険薬局への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____ ）
7. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、保険薬局での「明細書」の発行を希望しますか。※○は1つだけ

1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

▶ ①-1 希望しない理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について薬剤師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____ ）

①-2 上記①-1の選択肢 1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 保険薬局で会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※○は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

③ 自己負担額がない患者さんにも、調剤の内容やご自身の医療費等を知ってもらうため、患者さんが希望する場合には「明細書」を原則無料で受け取れるようになりました。この制度について、どのように思いますか。※○は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかという必要だと思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療に係るものを含む)

訪問看護ステーション票

- ※ この「訪問看護ステーション票」は訪問看護ステーションの開設者・管理者の方に、貴事業所における訪問看護療養費の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 29 年 6 月末時点の医療保険の訪問看護の状況についてご記入ください。ただし、一部平成 29 年 7 月 24 日（月）～8 月 6 日（日）の期間についてお答えいただく設問がございますのでご注意ください。

1 貴事業所の基本情報についてお伺いします。

①事業所名	()			
②所在地	() 都・道・府・県			
③開設者 ※○は1つだけ	1. 国 2. 都道府県・市区町村・地方独立行政法人・広域連合・一部事務組合 3. 日本赤十字社・社会保険関係団体 4. 医療法人 5. 医師会 6. 看護協会 7. 社団・財団法人（医師会と看護協会は含まない） 8. 社会福祉法人（社会福祉協議会含む） 9. 農業協同組合及び連合会 10. 消費生活協同組合及び連合会 11. 営利法人（株式・合名・合資・有限会社） 12. 特定非営利活動法人（NPO） 13. その他（具体的に)			
④貴事業所の病院または診療所への併設状況※○は1つだけ		1. 併設している 2. 併設していない		
⑤保険種別の訪問看護の実利用者数 ※平成 29 年 6 月 1 か月間	医療保険	() 人	介護保険	() 人
⑥全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※平成 29 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	看護職員	事務職員	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴事業所が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴事業所が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)				
⑦レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^{注1} の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない			
⑧レセプト請求方法 ※最も多いもの1つに○	1. 紙レセプトによる提出（レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用） 2. 紙レセプトによる提出（手書き） 3. その他（具体的に)			

注 1：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

<ここから先の質問は、医療保険の利用者についてのみお答えください>

2 貴事業所における明細書（訪問看護療養費の内容がわかる明細書）の発行状況、発行体制、利用者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

[illegible]

【上記⑤で「3. 発行していない」と回答した事業所の方】

➡ ⑤-1 自己負担額のない利用者に対して明細書を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 領収証を渡すときなど、訪問看護療養費について話す機会がないため
2. 明細書の発行に負担を感じるため
3. 発行を希望する利用者がいないため
4. その他（具体的に）

⑥平成29年7月24日（月）～8月6日（日）の期間において、自己負担額のない利用者は何人いましたか。また、そのうち明細書を発行した利用者は何人いましたか。それぞれ延べ利用者数をお書きください。ただし、該当する利用者がいない場合は「0」、不明の場合は「－」とご記入ください。

1) 自己負担額のない利用者数	() 人
2) うち無料で発行した利用者数 ^{注2}	() 人
3) うち有料で発行した利用者数 ^{注2}	() 人

注2：ご確認できる範囲でお答えください。

⑦自己負担額のない利用者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制等】

⑧貴事業所では、明細書の作成・発行について、どのような体制で対応していますか。※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 事務職員が対応している | 2. 管理者が対応している |
| 3. 看護職員が対応している | 4. その他（具体的に |
| 5. 特に対応する体制をとっていない | |

⑨貴事業所では、明細書をどのような方法で作成・発行していますか。※〇は1つだけ

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. レセプトコンピュータで作成・出力している | 2. パソコン等で作成・出力している |
| 3. 手書きで作成・発行している | 4. その他（具体的に |

⑩貴事業所では、利用者からの明細書の内容等の問合せにどのような体制で対応していますか。※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 事務職員が対応している | 2. 管理者が対応している |
| 3. 看護職員が対応している | 4. その他（具体的に |
| 5. 特に対応する体制をとっていない | |

⑪貴事業所では、いつから明細書の発行を行っていますか。※〇は1つだけ

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 →質問⑫へ | 2. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 →質問⑫へ |
| 3. 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 →質問⑫へ | 4. 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 →質問⑫へ |
| 5. 平成 28 年 4 月以降 | |

【平成 28 年 4 月以降に明細書の発行を始めた事業所の方】

▶ ⑪-1 明細書の作成及び利用者からの照会のために、貴事業所が行ったことは何ですか。※〇はいくつでも

- | |
|---|
| 0. 特に行ったことはない →質問⑫へ |
| 1. 明細書発行や利用者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：()人 |
| 2. 利用者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った |
| 3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した |
| 4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した |
| 5. 明細書発行に対応するためにパソコン等のソフトウェアを新規に購入した |
| 6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた |
| 7. その他（具体的に |

⑪-2 明細書を発行するためにかった初期費用の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1) 人員体制整備のための費用 | 約 () 万円 |
| 2) 設備投資のための費用 | 約 () 万円 |

⑫平成 29 年 6 月 1 か月間で、明細書発行にかかった運用経費（インク・紙などの消耗品代）の額をご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 () 万円

⑬明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。※〇はいくつでも

- | |
|--------------------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 |
| 2. 人員体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 |
| 5. その他（具体的に |
| 6. 特に負担に感じることはない |

【利用者の反応】

⑭貴事業所において、平成 29 年 6 月 1 か月間で、利用者から明細書の内容について問合せはありましたか。
※○は1つだけ

1. あった 2. なかった → 質問**3**へ

【利用者から問合せがあった施設の方】

⑭-1 明細書についての利用者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※○はいくつでも

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 請求期間 | 2. 提供日 |
| 3. 訪問看護療養費の個別項目名 | 4. 訪問看護療養費の個別単価 |
| 5. 訪問看護療養費の個別回数 | 6. 保険外負担分の項目・単価・回数 |
| 7. 保険負担額 | 8. 保険外負担額 |
| 9. その他（具体的に | |

⑭-2 上記⑭-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

3 ＜発行を希望する利用者に対してのみ明細書を発行している、または発行を行っていない事業所の方＞（原則として全利用者に無料発行を行っている施設の方は質問**4**へ）
全利用者に明細書を無料発行していない理由等についてお伺いします。

①全利用者に明細書を無料発行していないのはなぜですか。※〇はいくつでも

1. 訪問看護ステーションでは、明細書の無料発行が義務化されていないため
2. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため
3. レセプトコンピュータを使用していないため
4. 領収証で訪問看護の内容が十分わかるため
5. 利用者の要望がないため
6. その他（具体的に

②貴事業所では、今後、全利用者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。※○は1つだけ

1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：平成()年()月頃
2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
3. 予定はない
4. その他(具体的に)

③今後、全利用者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。※○は1つだけ

1. ある（具体的に）
2. ない

4 <全事業所の方>

明細書の無料発行について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

--

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

明細書の発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、利用者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. ご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 利用者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 療養費の自己負担額（医療保険一部負担金）はありますか。 <u>ただし、「交通費」や、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。</u> ※○は1つだけ			1. ある 2. ない
④ この1か月間で、本日利用した（この調査票を受け取った）訪問看護ステーションを利用した回数			約 () 回

2. 本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「療養費の詳細な内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。
 ※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力をお願い」の裏面に、訪問看護の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日利用した訪問看護ステーションから、最近1か月くらいの間に「明細書」を受け取ったことがありますか。※○は1つだけ

1. 受け取ったことがある
 2. 自らの希望で受け取らなかった
 3. 訪問看護ステーションが発行しなかったので受け取っていない
 4. わからない

裏面の質問3. へ

①-1 「明細書」を受け取るための手数料（訪問看護療養費ではありません）をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。※○は1つだけ

1. 支払った → (お支払い金額: 円)
 2. 支払っていない
 3. わからない

①-2 「明細書」の内容を確認しましたか。※○は1つだけ

1. きちんと確認した 2. おおまかに確認した
 3. ほとんど確認しなかった 4. まったく確認しなかった

①-3 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった
2. 費用の内訳がわかりやすくなった
3. 看護師等に訪問看護の内容や費用について質問・相談がしやすくなった
4. 訪問看護ステーションへの安心感・信頼感が高まった
5. その他（具体的に _____）
6. 特にない

3. くみなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、訪問看護ステーションでの「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、発行を希望する →質問②へ
2. 訪問看護の内容に変更があったときなど、場合により、発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

→ ①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について看護師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに傷病名や受けているサービスの内容を知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____）

①-2 上記①-1の選択肢1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 訪問看護ステーションを利用した際に、「明細書」を無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要だと思う
2. どちらかというが必要だと思う
3. どちらかというに必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

明細書無料発行の推進について

明細書無料発行の推進

- 現行、電子レセプト請求が義務付けられている病院、診療所及び薬局については、原則として明細書を無償で発行しなければならないこととされているが、自己負担のない患者については、対象外となっていることから、以下の対応を行う。

(※) 400床未満の病院・診療所は経過措置あり(400床未満の病院は平成28年4月から完全義務化)

- ① 公費負担医療に係る給付により自己負担がない患者(全額公費負担の患者を除く。)についても、患者に対する情報提供の観点から、電子レセプト請求を行っている保険医療機関及び保険薬局については、患者から求めがあった場合の無料発行を原則義務とする。

※ 「保険医療機関及び保険医療養担当規則」及び「保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則」を改正

- ② ただし、自己負担がない患者に対応した明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピューターを使用している、又は自動入金機の改修が必要な医療機関及び薬局に対しては、2年間(診療所については、当面の間)の猶予措置を設ける。

後発医薬品の使用促進策の 影響及び実施状況調査 報告書(案)＜結果概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 平成28年度診療報酬改定で実施された後発医薬品の使用促進策により、保険薬局における一般名処方の記載された処方せんの受付状況、後発医薬品の調剤状況や備蓄状況、保険医療機関における一般名処方の実施状況、後発医薬品の使用状況や医師の処方がどのように変化したかを調査するとともに、医師、薬剤師及び患者の後発医薬品に対する意識について調査を行い、診療報酬改定の結果検証を行うことを目的とする。

2 調査の対象及び調査方法

(1) 施設調査

全国の施設の中から無作為に抽出した保険薬局1,500施設、診療所1,500施設、病院1,000施設に対し、平成29年7月に調査票を配布。

(2) 医師調査

調査対象となった病院に勤務し、外来診療を担当する、診療科の異なる2名の医師を調査対象とし、病院を通じて調査票を配布。

(3) 患者調査

① 郵送調査

調査対象となった保険薬局において、調査期間中に来局した患者(1施設につき最大2名)を調査対象とし、平成29年7月に対象施設を通じて調査票を配布し、患者から郵送により直接回収。

② インターネット調査

直近1か月間に、保険薬局に処方せんを持って来局した患者1,000人程度を調査対象とし、インターネットを用いた調査を実施。

調査の概要②

3 回収の状況

- 保険薬局調査の有効回答数は666件、有効回答率は44.4%であった。
- 診療所調査の有効回答数(施設数)は610件、有効回答率は40.7%であった。
- 病院調査の有効回答数(施設数)は321件、有効回答率は32.1%であった。また、医師調査の有効回答数は504人であった。
- 患者調査の有効回答数は、郵送調査は939件、WEB調査が1,040件であった。

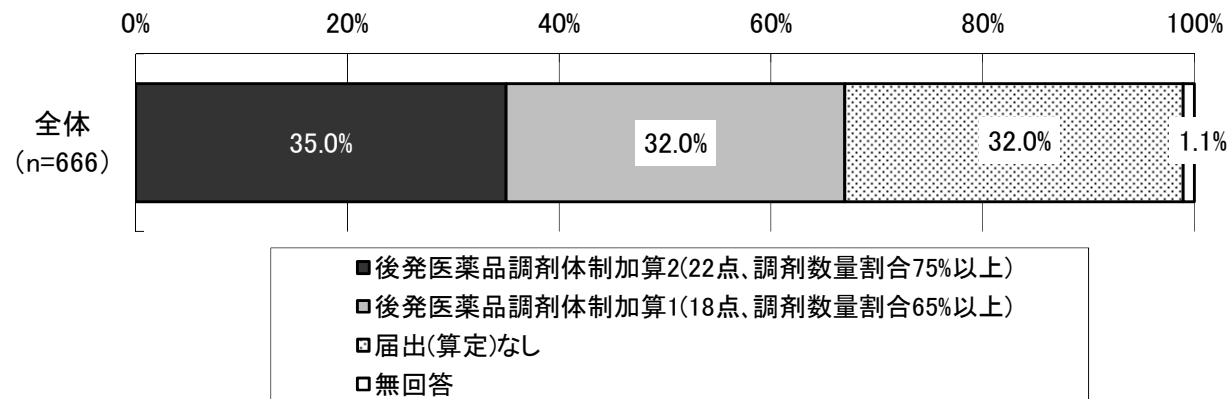
調査対象	施設数	有効回答数	有効回答率 (前年比)
保険薬局	1,500	666(施設)	44.4%(-2.5%)
診療所	1,500	610(施設)	40.7%(+0.4%)
病院	1,000	321(施設)	32.1%(+1.5%)
医師	—	504(人)	—
患者(郵送調査)	—	939(人)	—
患者(WEB調査)	—	1,040(人)	—

施設調査(保険薬局)の結果①

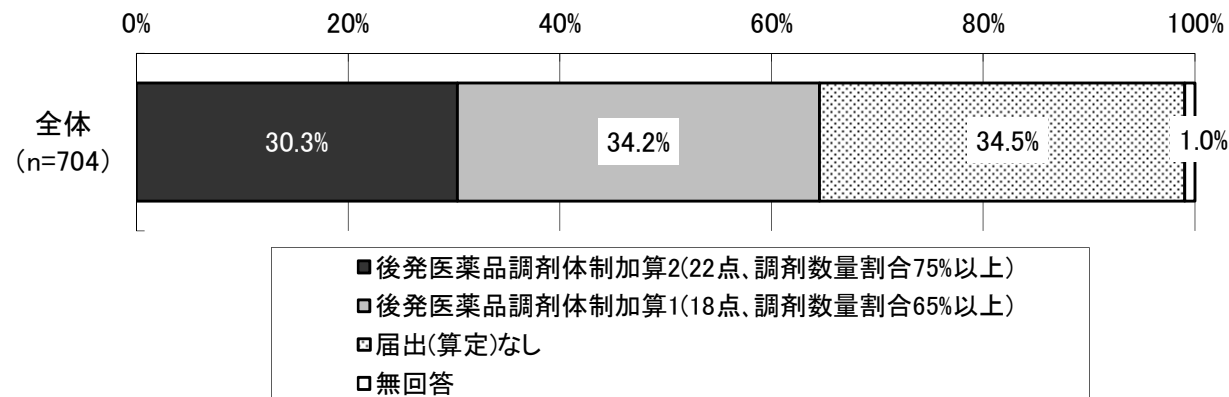
＜後発医薬品調剤体制加算の算定状況＞(報告書p23)

後発医薬品調剤体制加算の算定状況についてみると、「後発医薬品調剤体制加算2(22点)」が35.0%、「後発医薬品調剤体制加算1(18点)」が32.0%、「届出(算定)なし」が32.0%であった。

図表 25 平成29年6月時点の後発医薬品調剤体制加算の算定状況



(参考) 平成28年度調査



施設調査(保険薬局)の結果②

＜取り扱い処方せんの品目数＞（報告書p27）

1週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品418,522品目のうち、一般名で処方された医薬品の割合は34.9%であり、昨年度の31.1 %より増加した。また、後発医薬品名で処方され、変更不可となっている医薬品の割合は1.0%であり、昨年度と同数であった。

図表 30 1週間の取り扱い処方せんに記載された医薬品の品目数と対応状況別品目数
(514施設、総処方せん160,931枚に記載された418,522品目数)

	(今回調査)		(参考) 前回調査
	品目数	割合	
①一般名で処方された医薬品の品目数	146,004	34.9%	31.1%
②後発医薬品を選択した医薬品の品目数	111,238	26.6%	24.1%
③先発医薬品(準先発品を含む)を選択した医薬品の品目数	34,766	8.3%	7.0%
④先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数	206,869	49.4%	50.8%
⑤「変更不可」となっていない医薬品の品目数	172,883	41.3%	40.9%
⑥先発医薬品を後発医薬品に変更した医薬品の品目数	41,887	10.0%	9.4%
⑦先発医薬品を調剤した医薬品の品目数	130,996	31.3%	31.5%
⑧後発医薬品が薬価収載されていないため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数	66,823	16.0%	15.2%
⑨外用剤が処方され、同一剤形の後発医薬品がなかったため変更できなかった医薬品の品目数	4,582	1.1%	1.5%
⑩患者が希望しなかったため、後発医薬品に変更できなかった医薬品の品目数(過去に確認済みの場合を含む)	36,162	8.6%	8.0%
⑪後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	46,791	11.2%	14.0%
⑫「変更不可」となっている医薬品の品目数	4,363	1.0%	1.0%
⑬その他(漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品)の品目名で処方された医薬品の品目数	18,858	4.5%	4.1%
⑭処方せんに記載された医薬品の品目数の合計	418,522	100.0%	100.0%

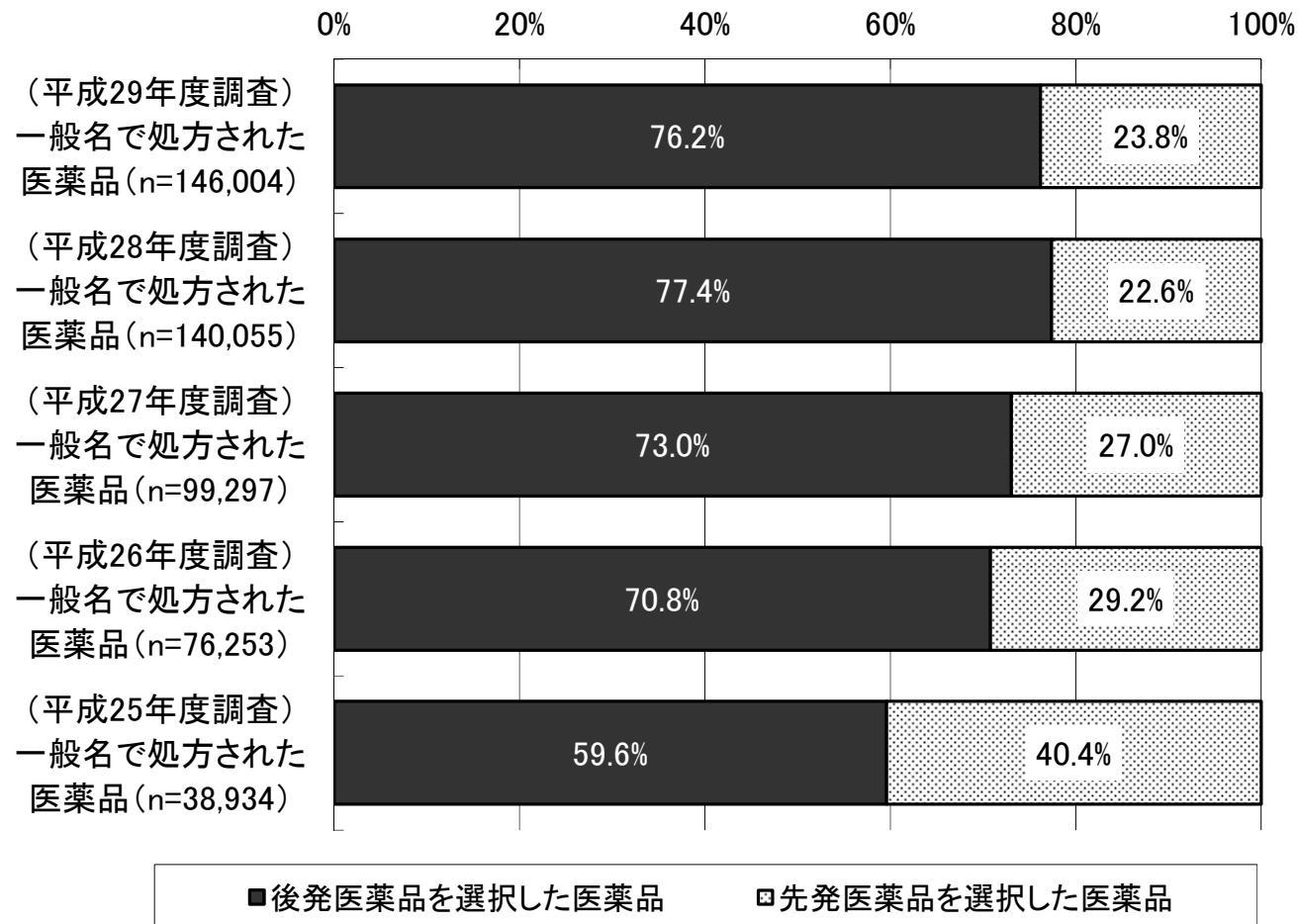
(注)・平成29年7月18日(火)～7月24日(月)に取り扱った処方せん枚数及び品目数内訳について回答があった514施設を集計対象とした。
・前回調査分は平成28年10月16日(日)～10月22日(土)を調査期間とし、591施設、総処方せん175,274枚に記載された450,469品目数の内訳。

施設調査(保険薬局)の結果③

＜一般名で処方された医薬品における後発医薬品の調剤状況＞(報告書p29)

一般名で処方された医薬品において後発医薬品を調剤した割合は76.2%であった。

図表 32 一般名で処方された医薬品における、後発医薬品の調剤状況



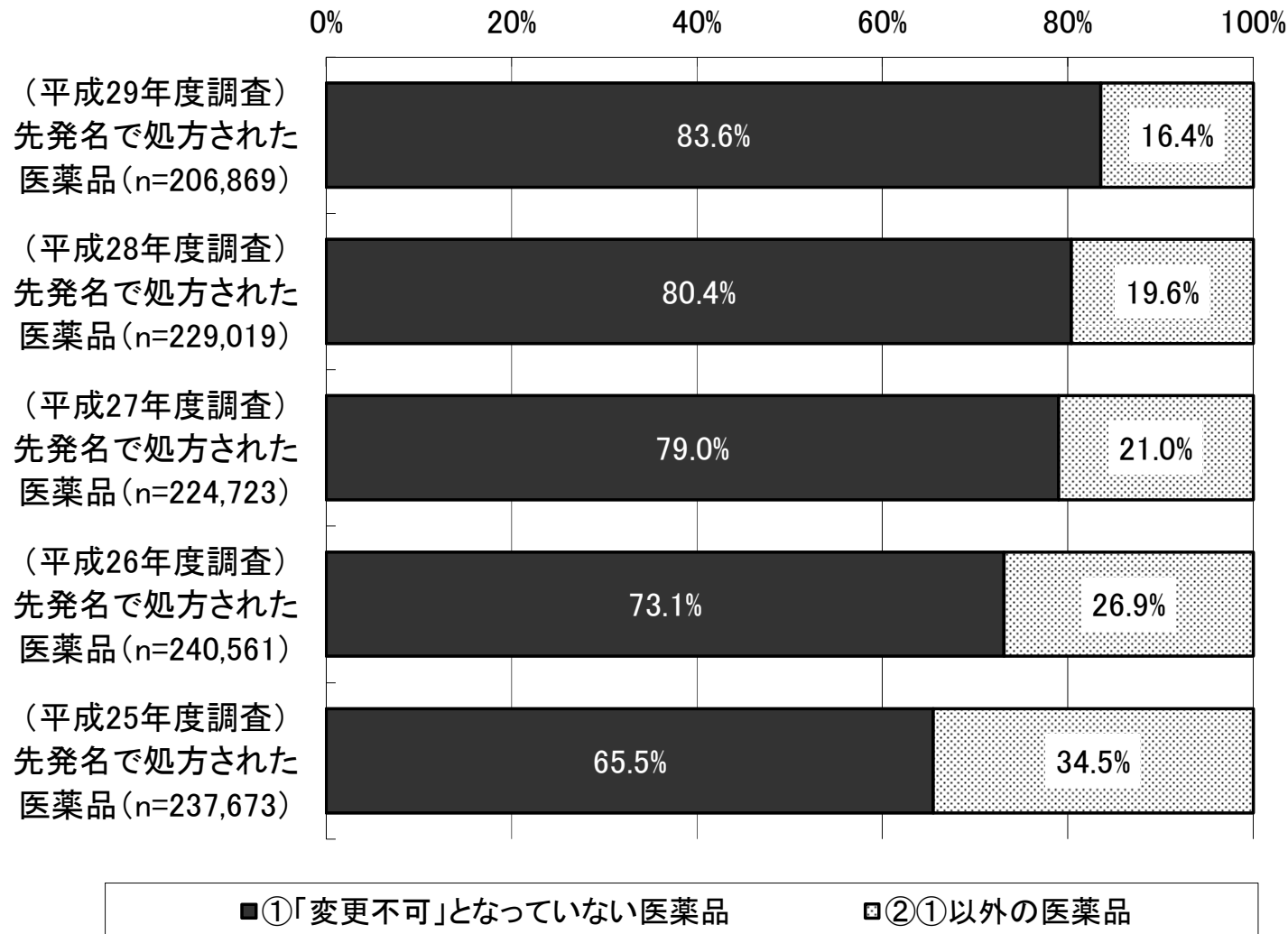
(注)「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

施設調査(保険薬局)の結果④

＜先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞(報告書p30)

先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の割合は16.4%であった。

図表 33 先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況

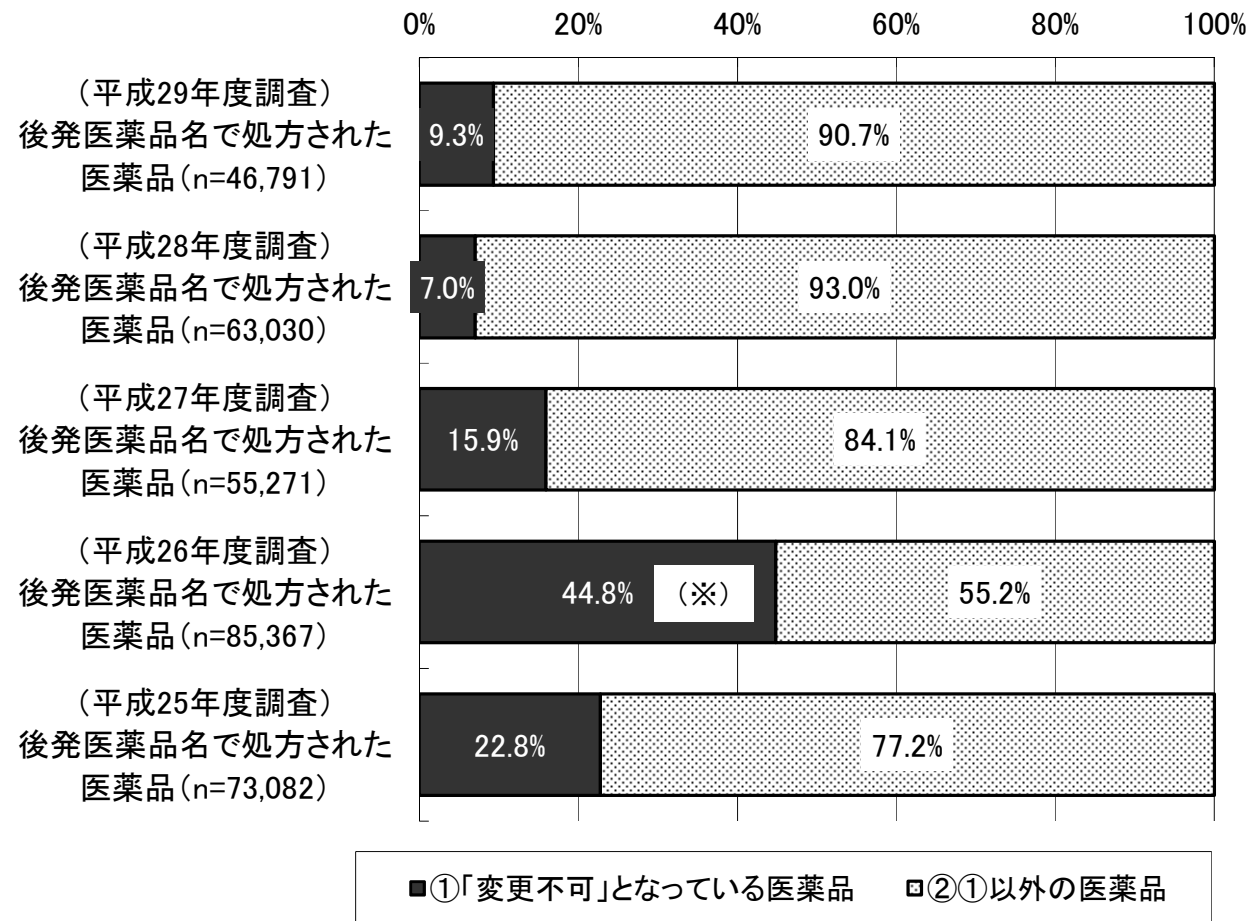


施設調査(保険薬局)の結果⑤

＜後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞（報告書p34）

後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の割合は9.3%であった。

図表 38 後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況



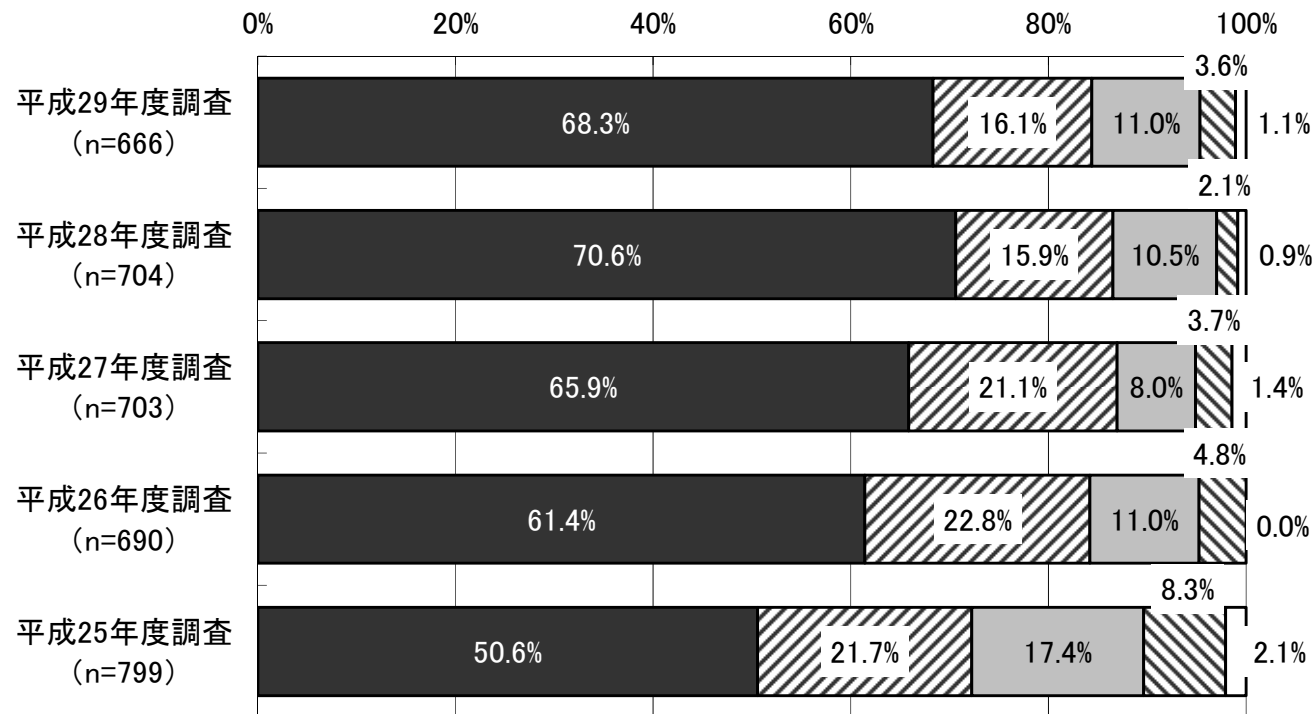
(※) 平成26年度調査については、「変更不可」の割合が90%を超える薬局が36施設あり、施設数は26年度調査と27年度調査でほぼ変わらないものの、26年度調査は一部の薬局において取り扱う品目数が過度に多かったことにより、結果として銘柄指定の割合が多くなったもの。

施設調査(保険薬局)の結果⑥

＜後発医薬品の調剤に関する考え①＞（報告書p45）

後発医薬品の調剤に関する考えとして、「全般的に積極的に取り組んでいる」が68.3%であった。また、「積極的に取り組んでいない」が3.6%であった。

図表 51 後発医薬品の調剤に関する考え



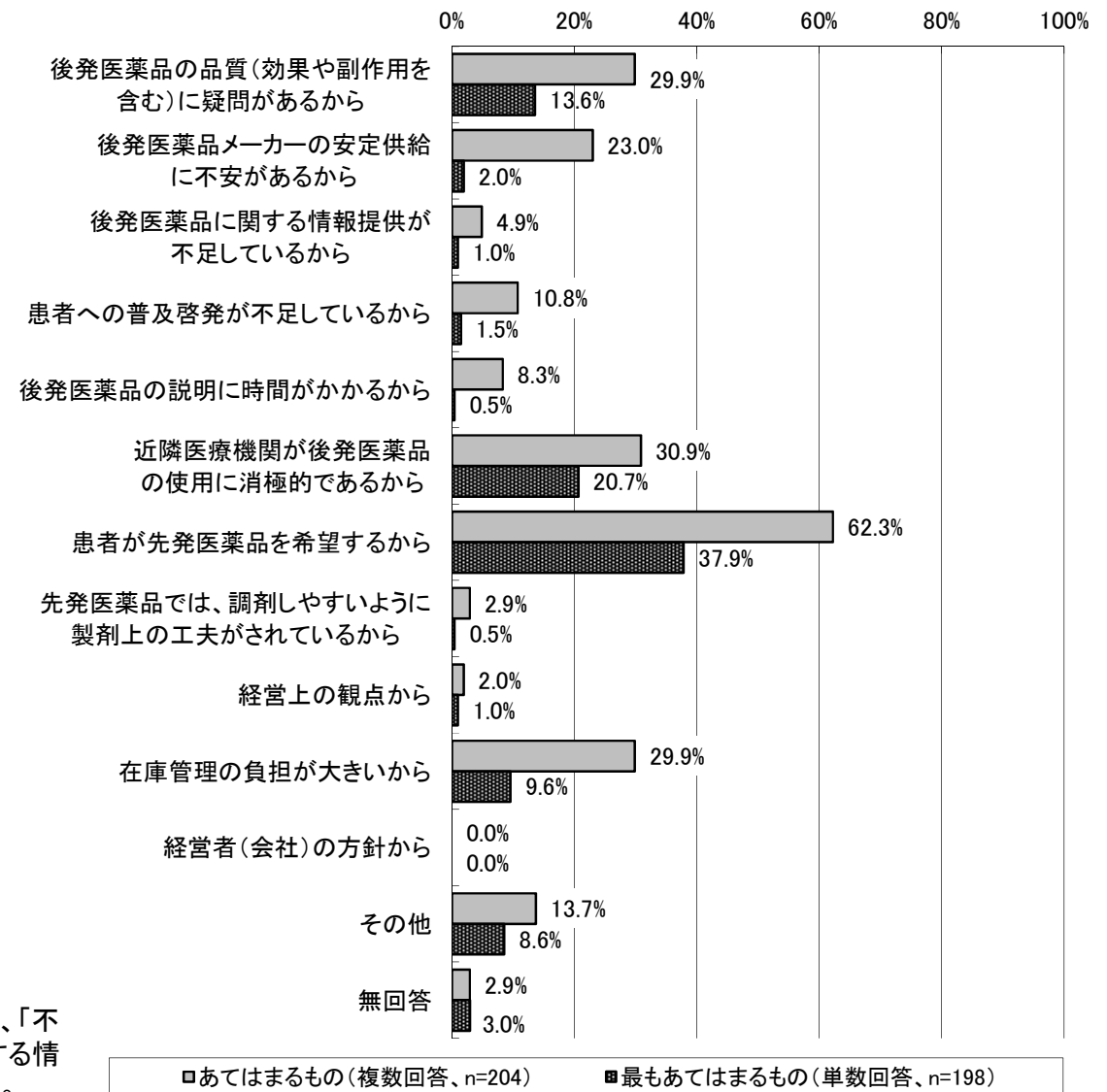
- 全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- ▨薬の種類によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- ▤患者によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- 後発医薬品の説明・調剤に積極的には取り組んでいない
- 無回答

施設調査(保険薬局)の結果⑦

＜後発医薬品の調剤に関する考え②＞（報告書p47）

後発医薬品をあまり積極的には調剤しない場合の理由として、「患者が先発医薬品を希望する」が62.3%で最も多く、次いで「近隣医療機関が後発医薬品の使用に消極的」(30.9%)、「後発医薬品の品質(効果や副作用を含む)に疑問」、「在庫管理の負担」(ともに29.9%)であった。

図表 54 あまり積極的には調剤しない場合の理由(「全般的に、後発医薬品の説明をして、調剤するように取り組んでいる」と回答した薬局以外の薬局)



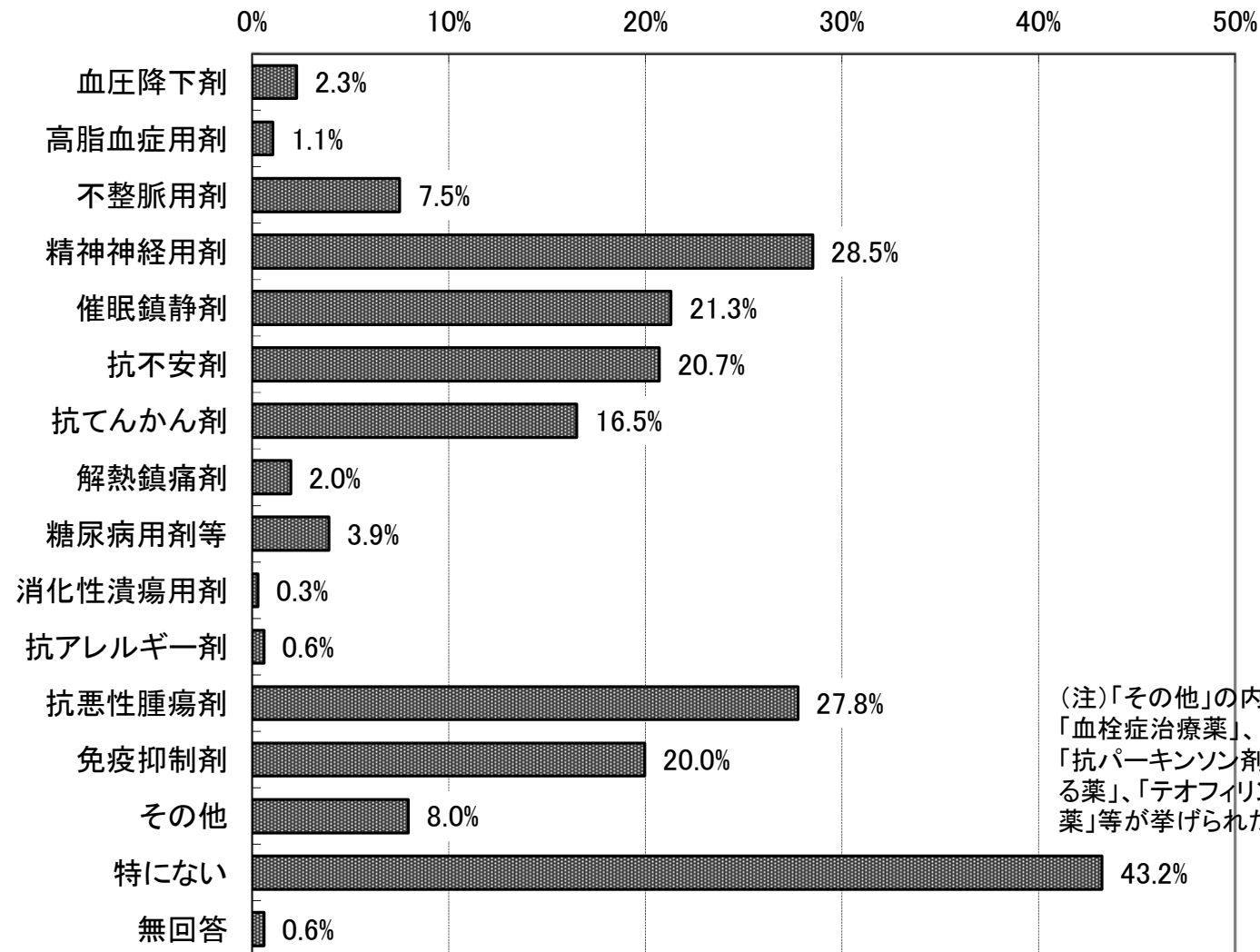
(注)・「後発医薬品に関する情報提供が不足している」と回答した施設における、「不足している情報」の内容として、「生物学的同等性」、「外用薬の基剤に関する情報」、「効果、副作用のデータ」、「血中濃度の変化の情報」等が挙げられた。

施設調査(保険薬局)の結果⑧

＜後発医薬品の調剤に関する考え③＞（報告書p50）

後発医薬品を積極的に調剤していない医薬品の種類として、「精神神経用剤」が28.5%で最も多く、次いで「抗悪性腫瘍剤」が27.8%であった。

図表 57 後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の種類(剤形を除く、複数回答、n=666)



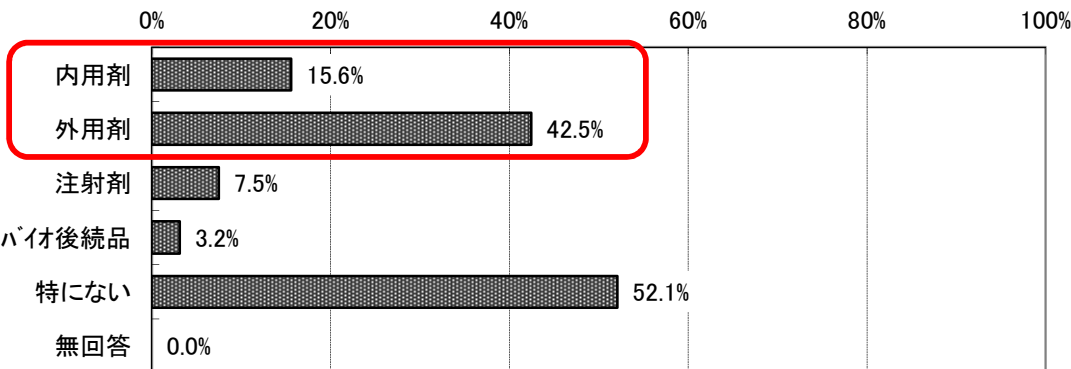
(注)「その他」の内容として、「ステロイド」、「消炎鎮痛剤」、「血栓症治療薬」、「尿毒症治療薬」、「抗生物質・抗菌剤」、「抗パーキンソン剤」、「小児用薬」、「精神疾患の患者に対する薬」、「テオフィリン製剤」、「ホルモン系の薬」、「リウマチ薬」等が挙げられた。

施設調査(保険薬局)の結果⑨

＜後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形等＞（報告書p52～54）

後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形を尋ねたところ、最も多かったのは、「外用剤」42.5%、次いで「内用剤」15.6%であった。内用剤では「シロップ」が、外用剤では「貼付薬」が最も多かった。

図表 61 後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形（複数回答、n=666）



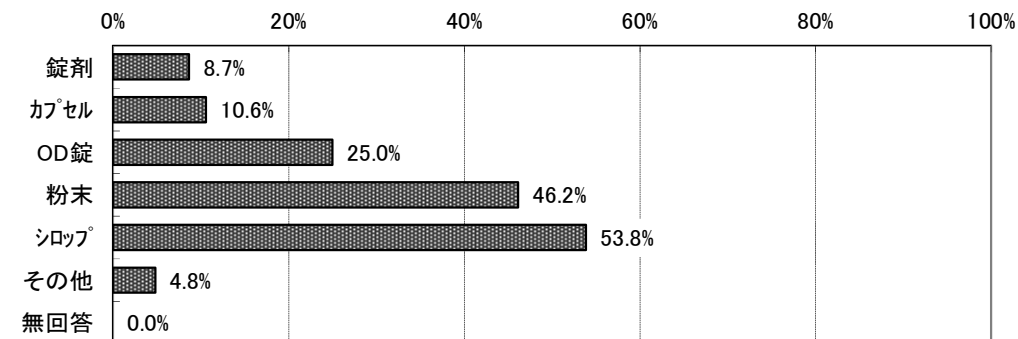
図表 65 後発医薬品が調剤しにくい剤形があるため先発医薬品を調剤したケースの割合

	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値
後発医薬品が調剤しにくい剤形があるため 先発医薬品を調剤したケースの割合 (%)	115	7.5	8.3	5.0

(注)・調剤していない・調剤しにくい剤形のある、後発医薬品のある先発医薬品／(後発医薬品のある先発医薬品＋後発医薬品)

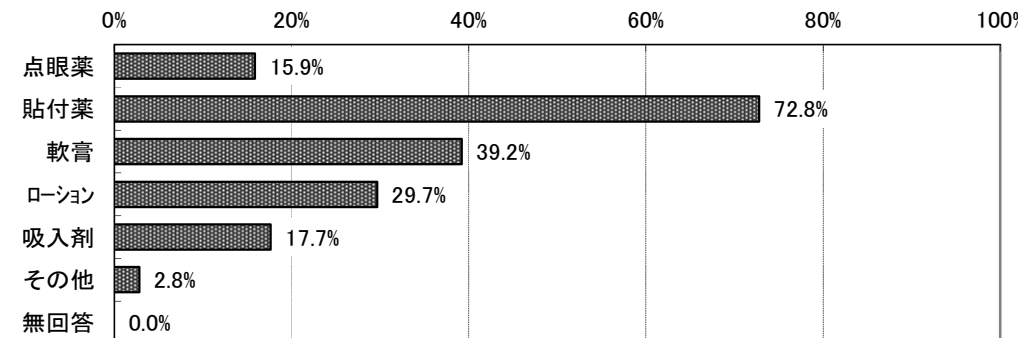
・調剤していない・調剤しにくい後発医薬品のある319薬局のうち、無回答、及び後発医薬品数量シェアを上回る数値の記入があった薬局(計204薬局)を除外して集計対象とした。

図表 62 内用剤の内訳
(複数回答、「内用剤」を回答した施設、n=104)



(注)「内用剤」の具体的な剤形として、「徐放製剤」が挙げられた。

図表 63 外用剤の内訳
(複数回答、「外用剤」を回答した施設、n=283)



(注)「外用剤」の具体的な剤形として、「経皮吸収型製剤」等が挙げられた。

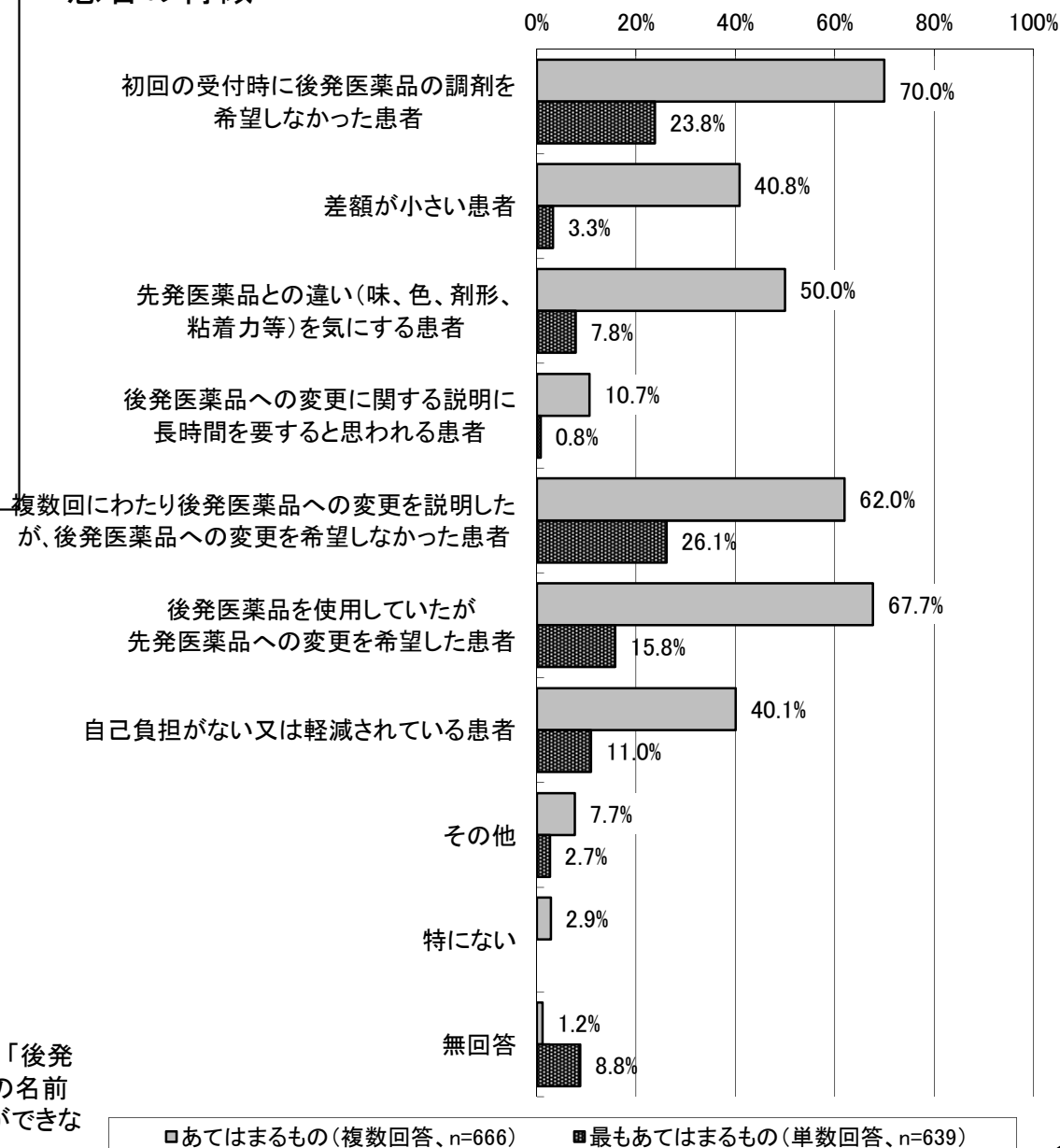
施設調査(保険薬局)の結果⑩

<後発医薬品の調剤に関する考え④> (報告書p55)

後発医薬品を積極的に調剤していない患者の特徴としてあてはまるもの(複数回答)を尋ねたところ、「初回の受付時に後発医薬品を希望しなかった」が70.0%で最も多く、次いで「後発医薬品を使用していたが先発医薬品への変更を希望した」が67.7%であった。

最もあてはまるもの(単数回答)を尋ねたところ、「複数回にわたり後発医薬品への変更を説明したが、後発医薬品への変更を希望しなかった患者」が26.1%で最も多かった。

図表 67 後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい患者の特徴



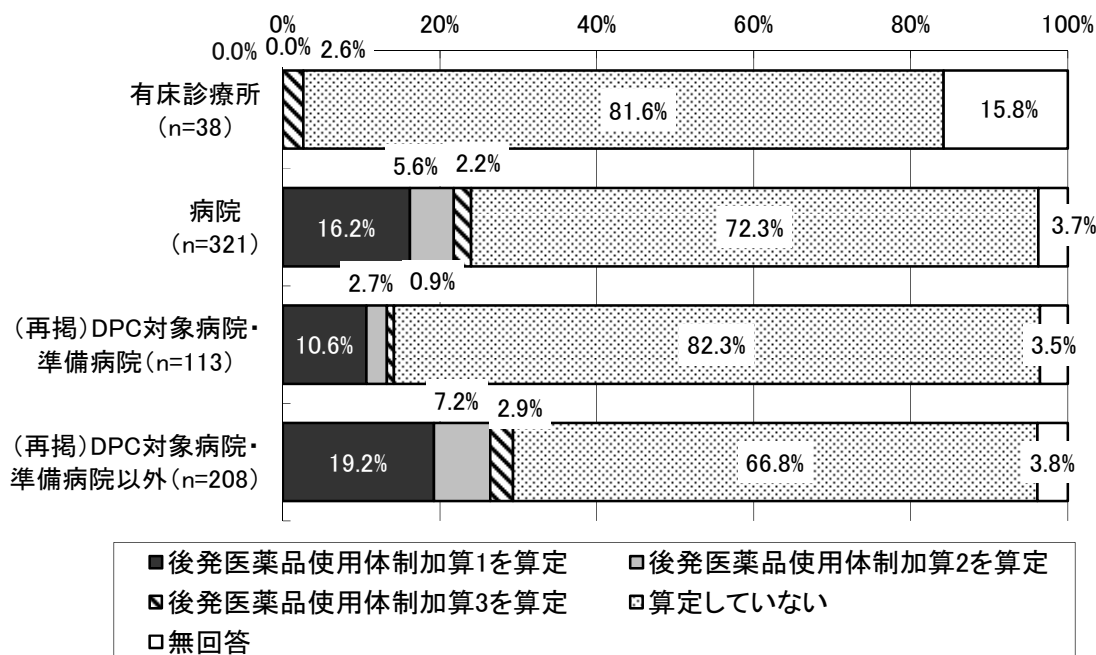
(注)「その他」の内容として、「精神疾患の患者」、「アレルギーを複数持っている患者」、「後発医薬品に不信感を持っている患者」、「薬を変更することに不安を持つ患者」、「薬の名前が変わると混乱する患者」、「認知症、または疑いのある患者」、「説明しても理解ができない患者」、「負担金の少ない生活保護、公費、小児の患者」等が挙げられた。

施設調査(医療機関)の結果①

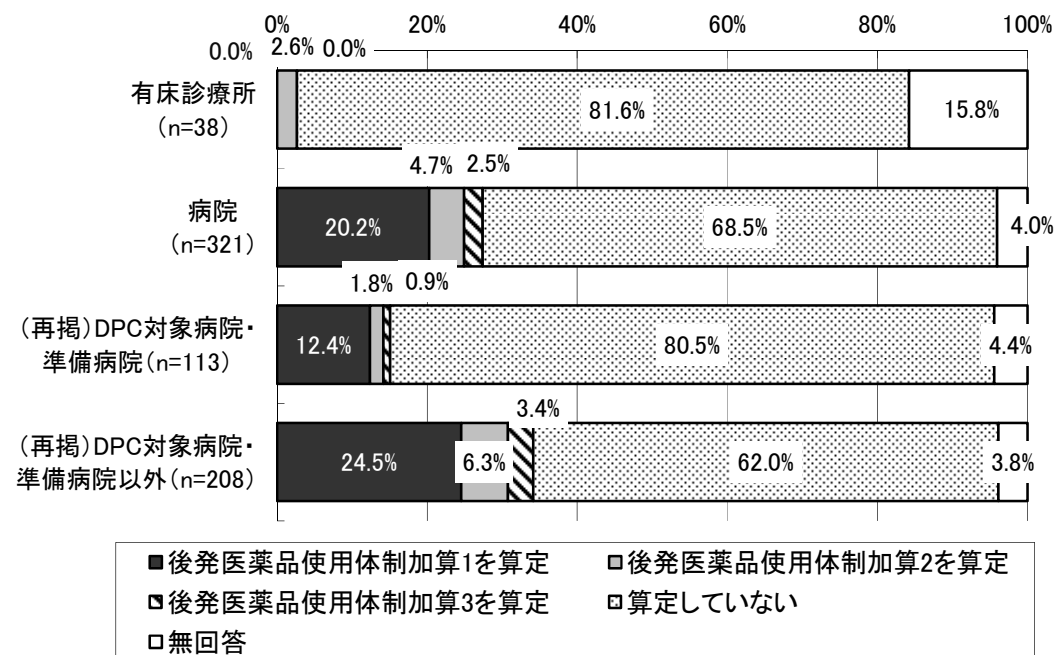
＜後発医薬品使用体制加算の状況＞（報告書p98）

後発医薬品使用体制加算の算定状況をみると、平成28年6月末では有床診療所で2.6%（加算1:0%、加算2:0%、加算3:2.6%）、病院で24.0%（加算1:16.2%、加算2:5.6%、加算3:2.2%）であった。
平成29年6月末では有床診療所で2.6%（加算1:0%、加算2:2.6%、加算3:0%）、病院で27.4%（加算1:20.2%、加算2:4.7%、加算3:2.5%）であった。

図表 127 後発医薬品使用体制加算の算定状況
（平成28年6月末）



図表 128 後発医薬品使用体制加算の算定状況
（平成29年6月末）

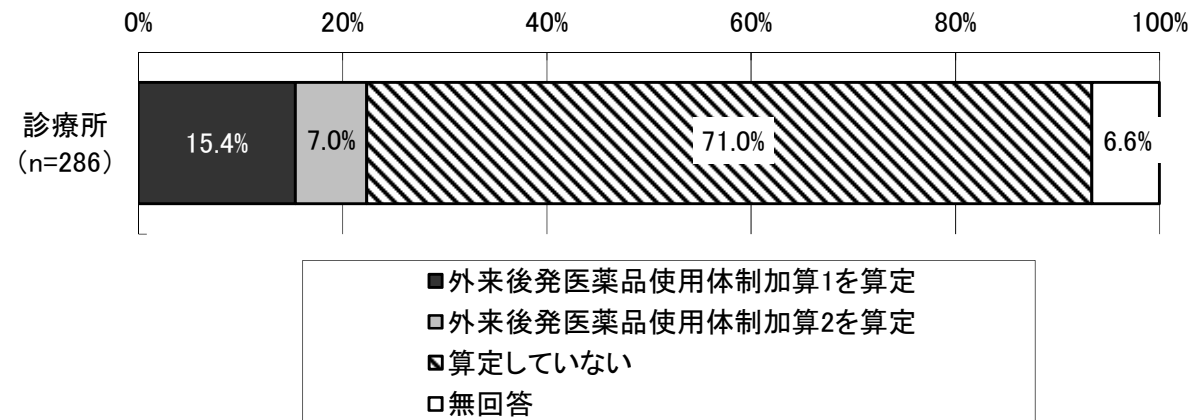


施設調査(医療機関)の結果②

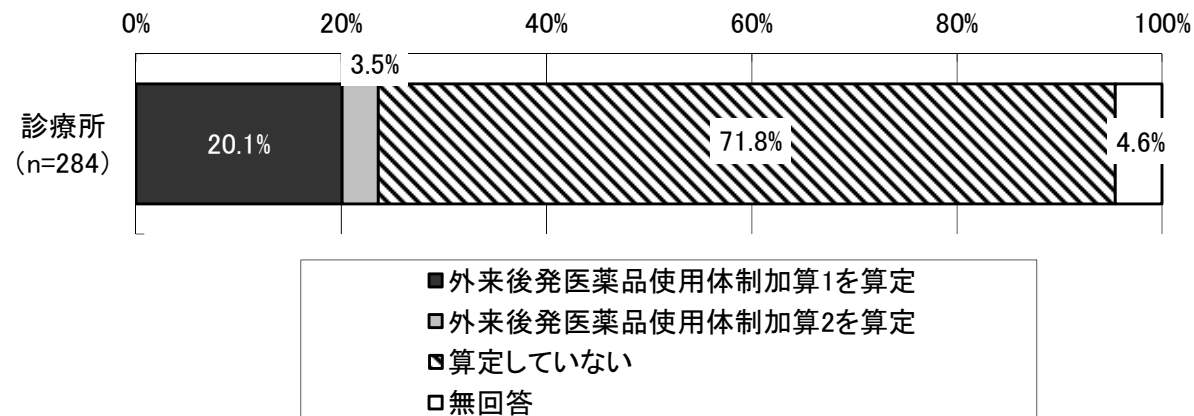
＜外来後発医薬品使用体制加算の状況＞（報告書p97）

院内処方を行っている診療所における「外来後発医薬品使用体制加算」の算定状況は、「外来後発医薬品使用体制加算1」が15.4%、「外来後発医薬品使用体制加算2」が7.0%、「算定していない」が71.0%であった。

図表 125 外来後発医薬品使用体制加算の算定状況（院内処方を行っている診療所、平成29年6月）



(参考) 平成28年度調査

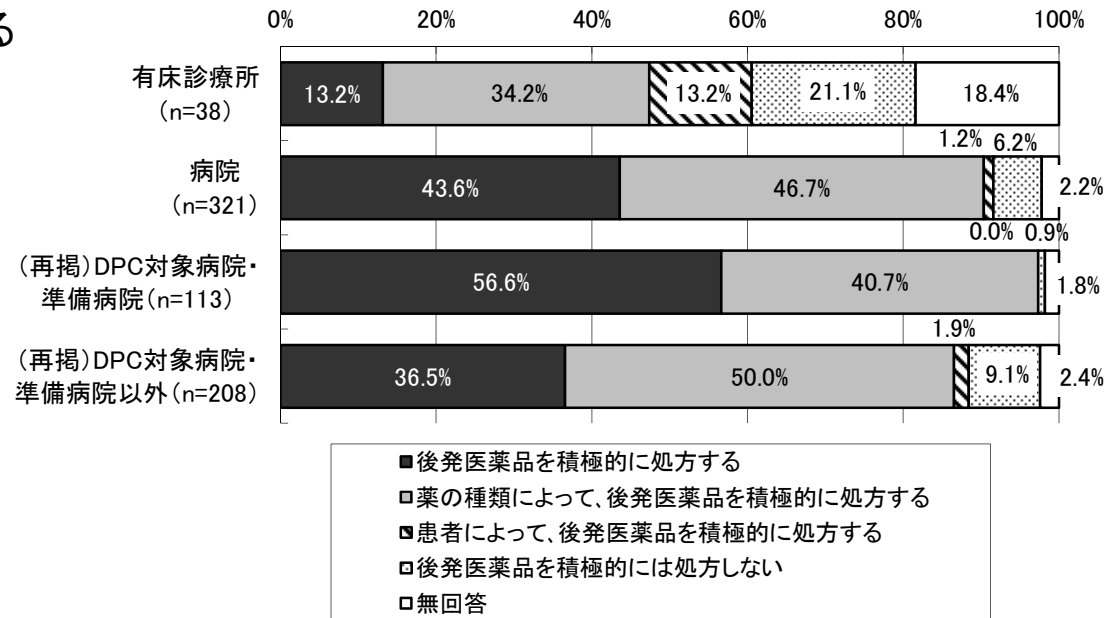


施設調査(医療機関)の結果③

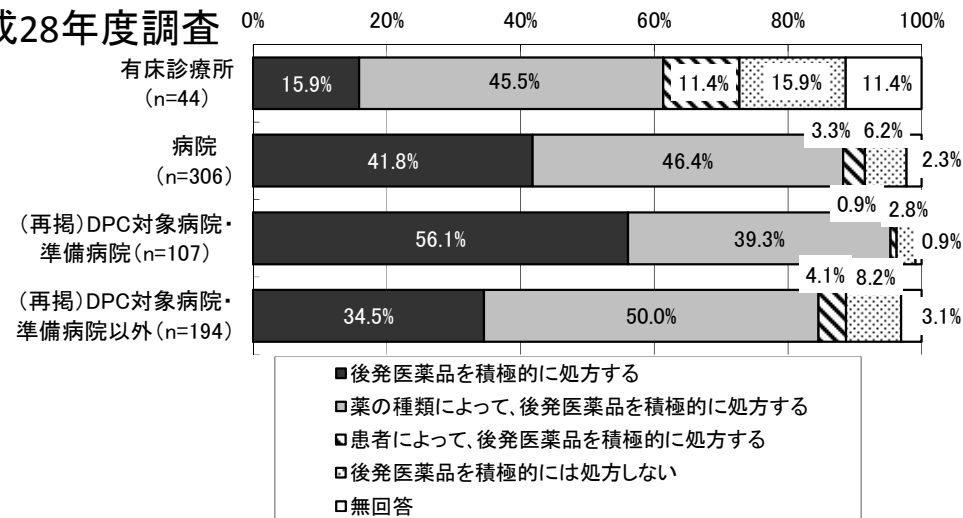
＜入院患者に対する後発医薬品の使用状況＞（報告書p100）

入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、「後発医薬品を積極的に処方する」が有床診療所で13.2%、病院で43.6%であった。

図表 131 入院患者に対する
後発医薬品の使用状況



(参考) 平成28年度調査



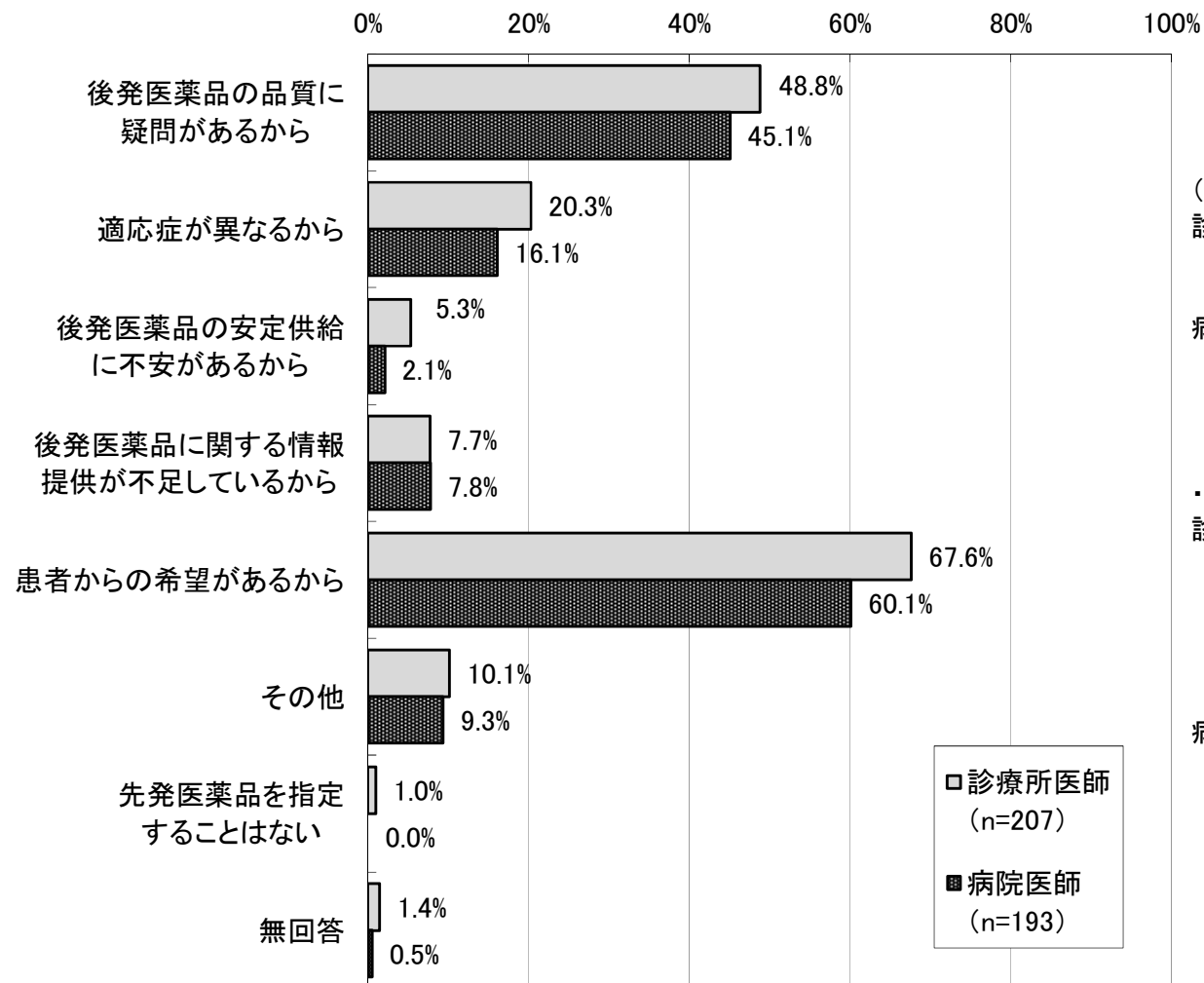
施設調査(医療機関)の結果④

＜先発医薬品を指定する場合＞（報告書p120）

先発医薬品を指定する場合の理由についてみると、診療所・病院医師ともに「患者からの希望があるから」が最も多く、次いで「後発医薬品の品質に疑問があるから」であった。

図表 155 先発医薬品を指定する場合の理由

（平成29年4月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答）



（注）・「不足している情報」の内容として、以下が挙げられた。
診療所医師：「副作用」、「薬剤の臨床試験データ」、「服用後・塗布後の先発医薬品との血中濃度の比較」、「安全性、効果」、「国内製造かどうか」等。

病院医師：「安全性」、「原薬の生産国」、「副作用について」、「全て」、「患者説明用資材」、「MRが不足」、「有効性」、「生物学的利用能の詳細データがない（指定するのは抗てんかん薬のみ）」等。

・「その他」の内容として、以下が挙げられた。
診療所医師：「アレルギーのため」、「外用剤の場合、基剤が異なるから」、「外用剤を混和すると後発医薬品だと分離してしまうから」、「後発医薬品に変更後、効果の減弱があったから」、「後発医薬品に変更後、副作用があったから」、「先発医薬品の味が優れているから」等。

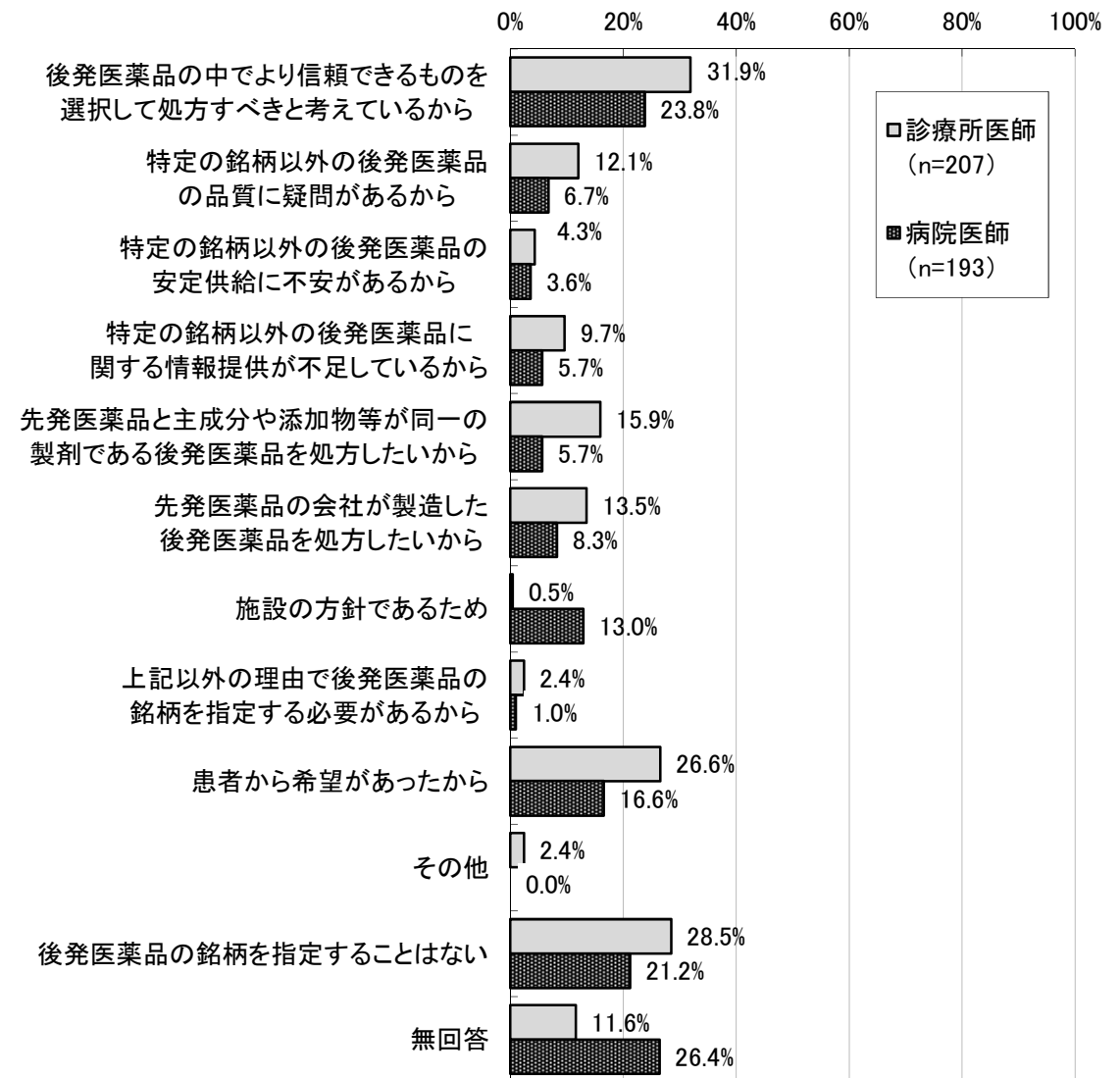
病院医師：「アレルギー症状が起きたため」、「副作用が生じたため」、「症状が悪化し、先発医薬品に戻すと改善したから」、「市販後調査を行わず、効果が不十分等の検証を行っていないと思われるから」、「体内動態の違い、薬効持続時間の違い、皮膚炎の起こりやすさ等違いがあったから」、「施設の方針」等。

施設調査(医療機関)の結果⑤

＜後発医薬品の銘柄指定をする場合＞（報告書p122）

後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由についてみると、診療所・病院医師ともに「後発医薬品の中でより信頼できるものを選択して処方すべきと考えているから」が最も多く、次いで「患者から希望があったから」であった。

図表 159 後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由
(平成29年4月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答)



(注)・「上記以外の理由」の内容として、以下が挙げられた。

診療所医師:「後発医薬品の一部のみ添加物について満足できるから。この場合、先発医薬品は不可」、「PF(防腐剤無添加)製剤は特定のメーカーのみ」、「剤形」、「適応の問題」等。

病院医師:「安価だから」。

・「その他」の内容として、以下が挙げられた。

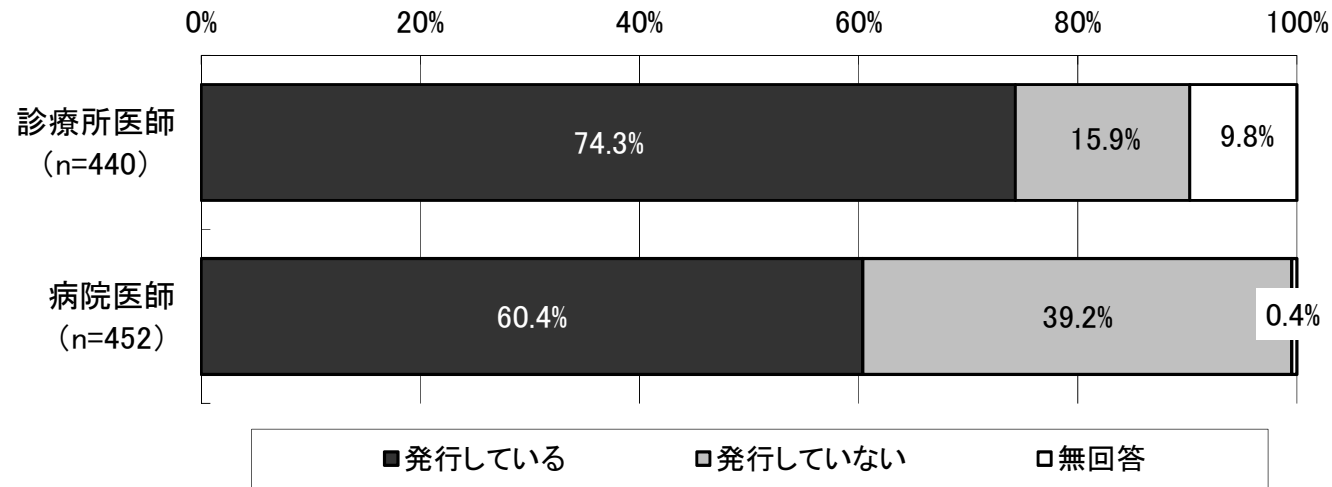
診療所医師:「院内処方のときから処方」、「他社にはないmg数の錠剤がある」、「飲みやすさ(味)」、「他の後発医薬品より薬価が安い」、「オーソライズドジェネリック」等。

施設調査(医療機関)の結果⑥

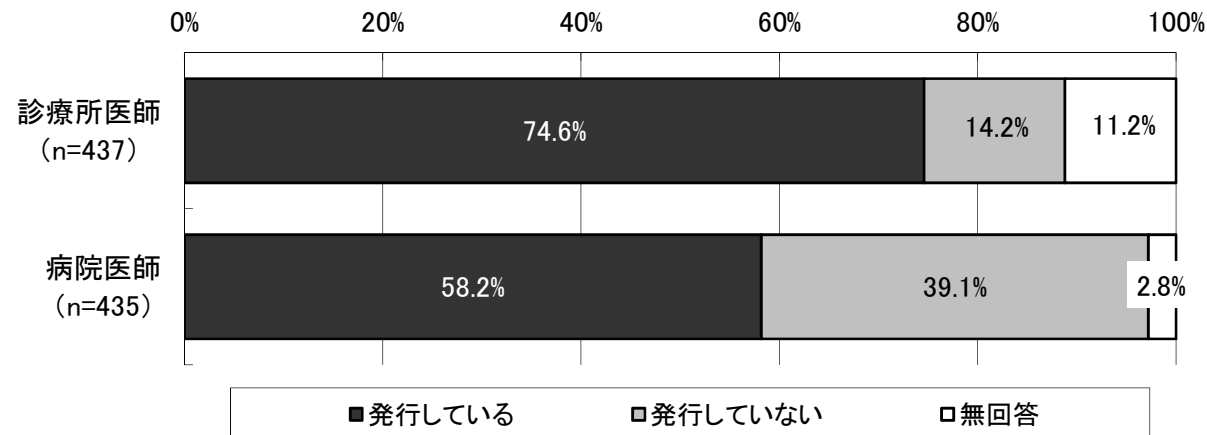
＜一般名処方による処方せん発行の有無＞（報告書p124）

一般名処方による処方せんを発行している医師は、診療所で74.3%、病院で60.4%であった。

図表 163 一般名処方による処方せん発行の有無（平成29年4月以降、医師ベース）



(参考) 平成28年度調査

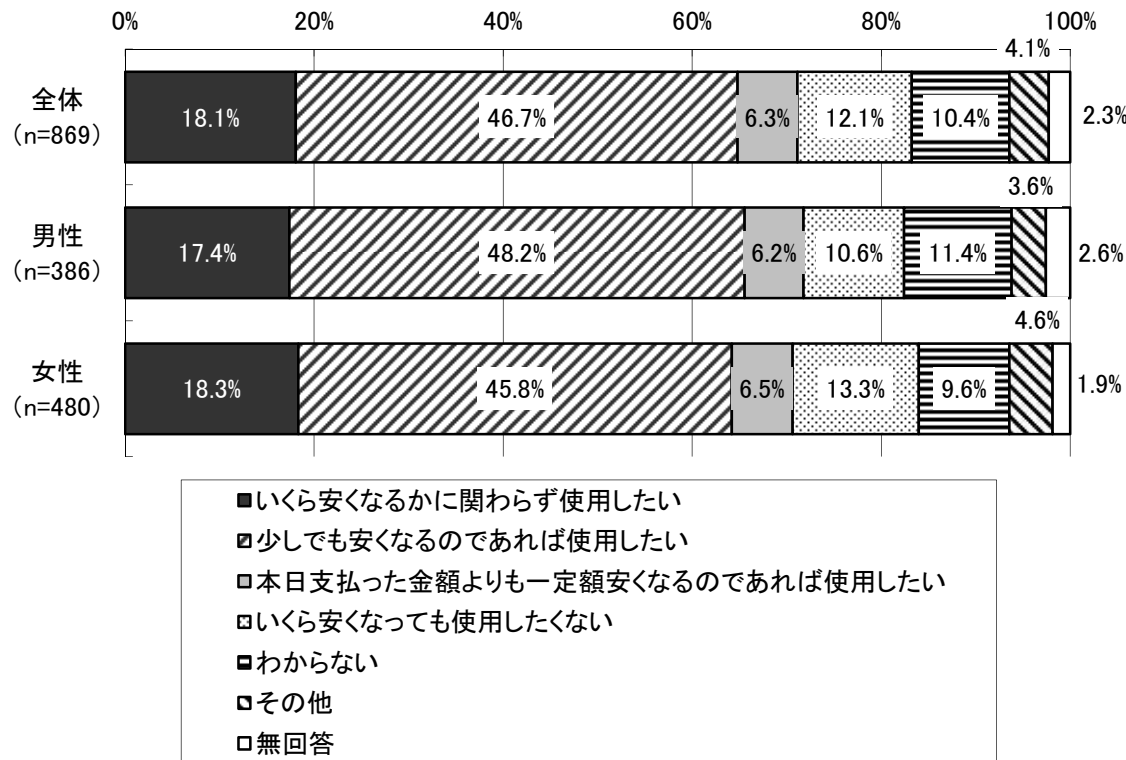


患者調査の結果①

＜ジェネリック医薬品に関する使用意向＞（報告書p157）

医療費の自己負担額があった患者に対してジェネリック医薬品に関する使用意向について尋ねたところ、「少しでも安くなるのであれば使用したい」が46.7%で最も多かった。
一方、「いくら安くなっても使用したくない」は、12.1%であった。

図表 206 ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）
（医療費の自己負担があった人、男女別）

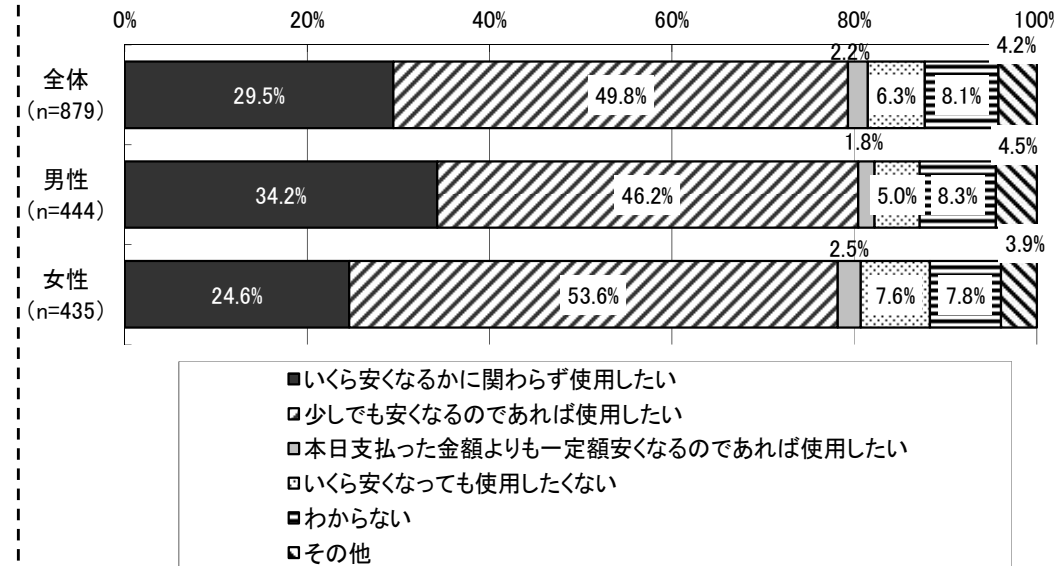


（注）・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・「その他」の内容として、「既に（後発医薬品を）使用している」、「病気や薬によって判断したい」、「使用感がよくなれば後発医薬品を使用したい」、「金額は関係ない」等が挙げられた。

＜参考＞

（報告書p206）図表 274 【同WEB調査】

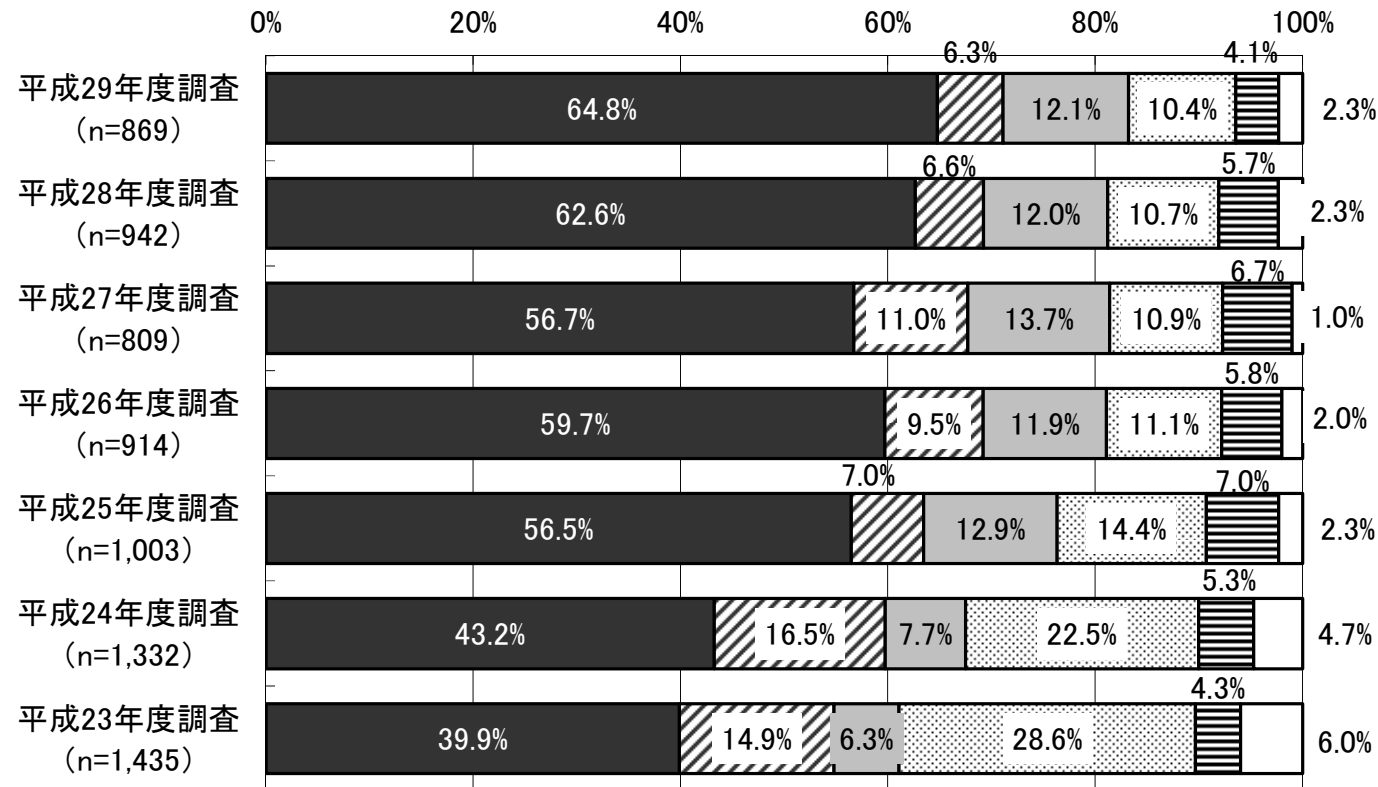


（注）「その他」の内容として、「既にジェネリック医薬品を使用している」、「症状に応じて、その都度考える」、「気にしない」等が挙げられた。

患者調査の結果①(続き)

＜ジェネリック医薬品に関する使用意向＞（報告書p161）

＜参考＞ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）



- 少しでも安くなるのであれば使用したい
- ▣ 本日支払った金額よりも一定額安くなるのであれば使用したい
- いくら安くなっても使用したくない
- ▤ わからない
- ▥ その他
- 無回答

(注)・平成28年度以降の調査では、新たに選択肢「いくら安くなるかに関わらず、使用したい」を設けた。この選択肢の回答については、上記の図表では「少しでも安くなるのであれば使用したい」に含めている。

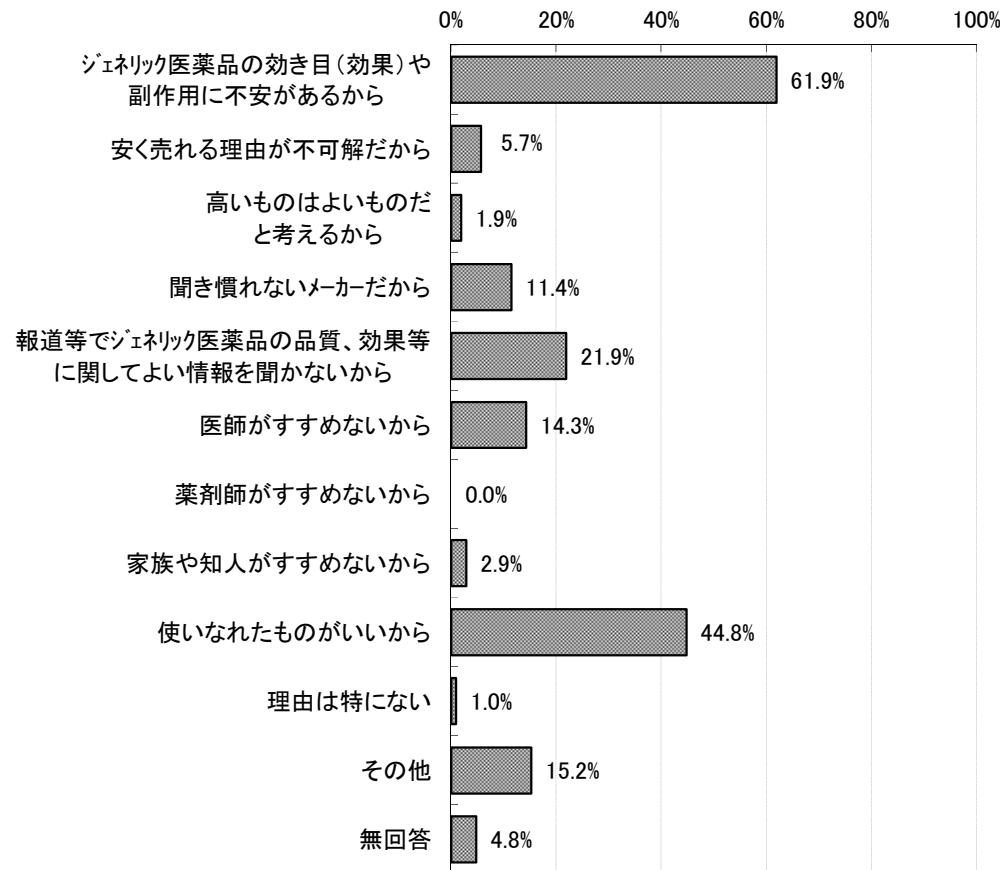
・平成26年度以降の調査では自己負担のあった患者のみを対象としている。

患者調査の結果②

＜いくら安くなっても使用したくない理由＞（報告書p160）

「ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない」と回答した患者に、その理由について尋ねたところ、「ジェネリック医薬品の効き目や副作用に不安があるから」が61.9%で最も多く、次いで「使い慣れたものがないから」が44.8%であった。

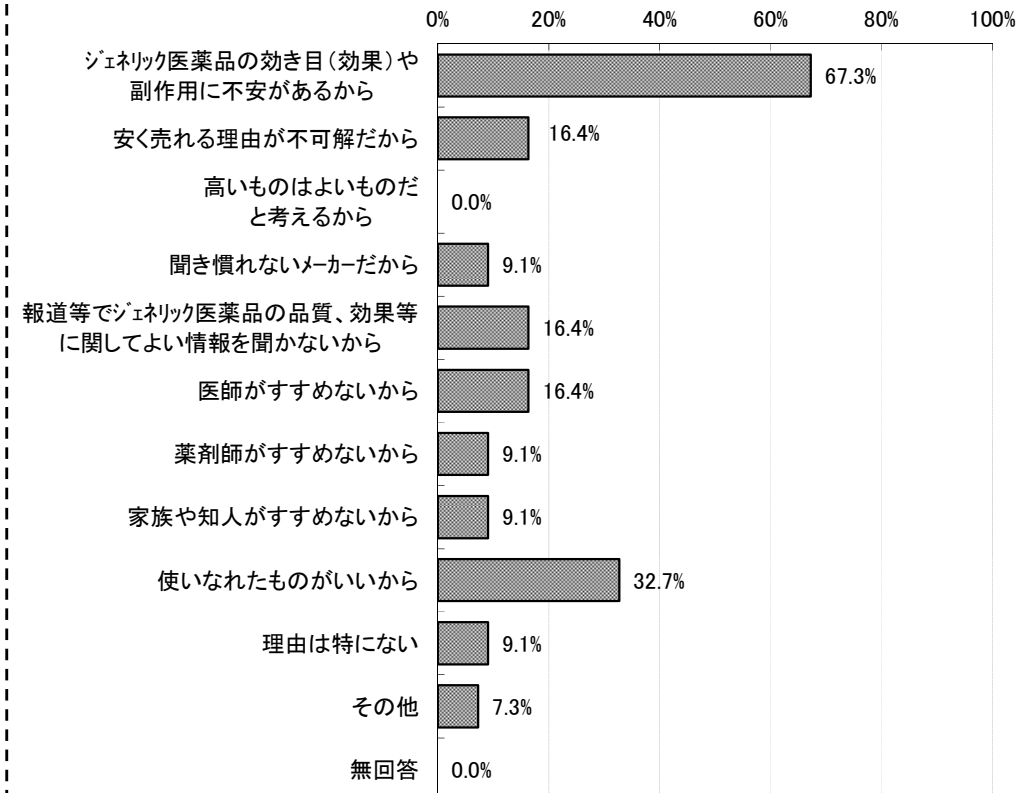
図表 210 ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由
（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答、n=105）



（注）「その他」の内容として、「抗がん剤なのでジェネリックは使いたくない」、「アレルギーを持っているから不安」、「名前が大幅に変更となるため慣れるまでが不安」等が挙げられた。

＜参考＞

（報告書p208）図表 278 【同WEB調査】（n=55）



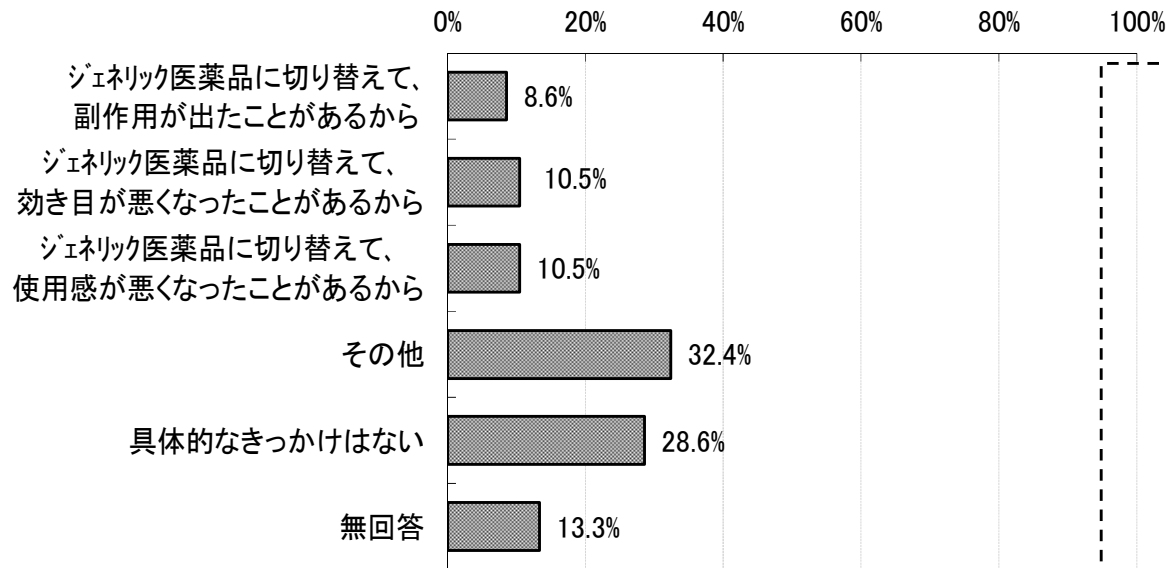
（注）「その他」の内容として、「ジェネリックのことについて不安になる報道があったから」、「効果が異なるから」等が挙げられた。

患者調査の結果③

＜効き目や副作用に不安を感じたきっかけ＞（報告書p160）

「ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない」と回答した患者に、そのきっかけについて尋ねたところ、「具体的なきっかけはない」が28.6%、「効き目が悪くなったことがある」「使用感が悪くなったことがある」がともに10.5%であった。

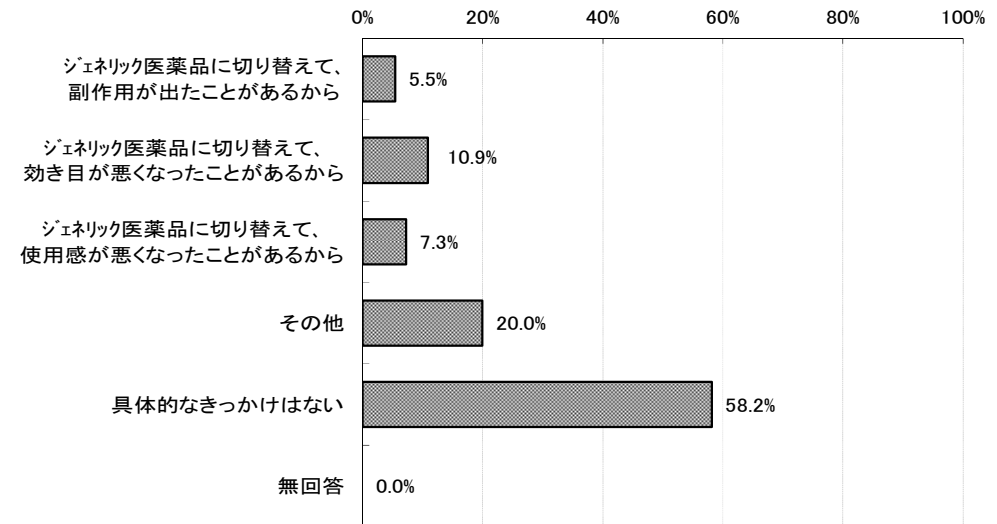
図表 211 ジェネリック医薬品を使用したくないと思った具体的なきっかけ
（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答、n=105）



- （注）・「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、「湿疹が出た」、「湿布がかぶれた」等が挙げられた。
- ・「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の具体的な内容として、「痛みがまた出てきた」、「痛み止めが効いてくるまでに時間がかかった」等が挙げられた。
 - ・「ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が悪くなったことがあるから」の具体的な内容として、「湿布薬をはがれやすい」、「OD錠の溶け方が悪い」、「服用しにくかった」等が挙げられた。
 - ・「その他」の内容として、「すべてが同じものではないと聞いたから」、「信用できないから」、「効果が違う気がする」等が挙げられた。

＜参考＞

（報告書p209）図表 279 【同WEB調査】（n=55）



- （注）・「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、「湿疹が出た」、「体調が悪くなった」等が挙げられた。
- ・「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の具体的な内容として、「効果が弱い」、「ステロイドの軟膏が効かなかった」等が挙げられた。
 - ・「ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が悪くなったことがあるから」の具体的な内容として、「ジェネリックの湿布薬に変えたら粘着度合いが強くて、痛かった」等が挙げられた。
 - ・「その他」の内容として、「ジェネリック薬品と元々の薬の効果は 全く同じではないと思っているから」、「コーティングに問題ありと知り合いの薬剤師に聞いたから」、「医師の考え方で、それに納得して」等が挙げられた。